2025年度
教育要項

大阪医科薬科大学
大学院看護学研究科

目　　次

大阪医科薬科大学　建学の精神、学是…… 1
大阪医科薬科大学の理念・目的…… 2
大学院の目的…… 2
看護学研究科の教育目的・教育目標・ポリシー…… 2
教育研究環境…… 8
生成 AI の取り扱い …… 9
学事予定表…… 10
時間割…… 13
成績評価、研究業績調査…… 17

〈博士前期課程〉

教育課程について…… 19
カリキュラム表…… 20

〈シラバス〉

共通科目

看護倫理…… 25
看護学研究方法論…… 28
看護現任教育論…… 30
看護理論…… 32
看護管理学…… 35
コンサルテーション論…… 38
看護政策論…… 41
フィジカルアセスメント論…… 43
臨床薬理学…… 46
病態生理学…… 49
看護哲学…… 52
英語論文講読…… 54

実践支援看護学領域

看護教育学特論Ⅰ…… 55
看護教育学特論Ⅱ…… 57
看護教育学演習…… 59
看護技術開発学特論Ⅰ…… 61
看護技術開発学特論Ⅱ…… 63
看護技術開発学演習Ⅰ…… 65
看護技術開発学演習Ⅱ…… 67

療養生活支援看護学領域

移植・再生医療看護学特論Ⅰ…… 69
移植・再生医療看護学特論Ⅱ…… 71
移植・再生医療看護学演習…… 73
がん看護学特論Ⅰ…… 74
がん看護学特論Ⅱ…… 77
がん病態治療論…… 80
がん看護学援助論Ⅰ…… 82
がん看護学援助論Ⅱ…… 85
がん看護学演習Ⅰ…… 87
がん看護学演習Ⅱ…… 90
がん看護学実習Ⅰ…… 93
がん看護学実習Ⅱ…… 96
がん看護学実習Ⅲ…… 98

がん看護学実習Ⅳ…… 101
慢性看護学特論Ⅰ…… 104
慢性看護学特論Ⅱ…… 106
慢性看護アセスメント論…… 108
慢性看護援助論Ⅰ…… 110
慢性看護援助論Ⅱ…… 112
慢性看護学演習Ⅰ…… 115
慢性看護学演習Ⅱ…… 118
慢性看護学実習Ⅰ…… 121
慢性看護学実習Ⅱ…… 123
慢性看護学実習Ⅲ…… 125
精神看護学特論Ⅰ…… 127
精神看護学特論Ⅱ…… 129
精神看護学特論Ⅲ…… 132
精神看護アセスメント論…… 136
精神看護学援助論Ⅰ…… 138
精神看護学援助論Ⅱ…… 141
精神看護学治療論…… 145
精神看護学演習…… 147
精神看護学実習Ⅰ…… 150
精神看護学実習Ⅱ…… 152
精神看護学実習Ⅲ…… 154
老年看護学特論…… 157
老年看護アセスメント論…… 159
老年期病態治療論…… 161
老年看護援助論…… 163
老年看護サポートシステム論…… 165
老年看護学演習Ⅰ…… 167
老年看護学演習Ⅱ…… 169
老年看護学実習Ⅰ…… 172
老年看護学実習Ⅱ…… 175
老年看護学実習Ⅲ…… 178

地域家族支援看護学領域

家族看護学特論…… 180
周産期看護論…… 182
母性看護学特論…… 185
ウィメンズヘルス看護論…… 188
周産期看護援助論Ⅰ…… 191
周産期看護援助論Ⅱ…… 194
周産期看護演習Ⅰ…… 196
周産期看護演習Ⅱ…… 199
小児看護学特論…… 202
小児と病気…… 205
発達障害看護論…… 208
小児看護アセスメント論…… 211
小児看護学演習…… 214
小児看護学実習Ⅰ…… 218
小児看護学実習Ⅱ…… 220
小児看護学実習Ⅲ…… 222
地域母子保健論…… 224
地域看護学特論…… 227
地域ケアシステム特論…… 229
地域看護学演習…… 231

在宅看護学特論Ⅰ…… 233
在宅看護学特論Ⅱ…… 235
在宅看護学演習…… 237
ヘルスプロモーション論…… 240
医療の質保証と安全管理…… 243
プライマリケア看護学特論Ⅰ…… 246
プライマリケア看護学特論Ⅱ…… 250
プライマリケア看護学特論Ⅲ…… 254
プライマリケア看護学特論Ⅳ（小児）…… 258
プライマリケア看護学特論Ⅴ（成人）…… 261
プライマリケア看護学特論Ⅵ（老年）…… 263
プライマリケア看護学特論Ⅶ（メンタルヘルス）…… 267
プライマリケア看護学演習Ⅰ…… 270
プライマリケア看護学演習Ⅱ…… 274
プライマリケア看護学実習Ⅰ…… 278
プライマリケア看護学実習Ⅱ…… 280
プライマリケア看護学実習Ⅲ…… 283
プライマリケア看護学実習Ⅳ…… 285

特別研究

特別研究…… 288
課題研究…… 289

博士前期課程学位論文（研究計画書）作成要領…… 290

〈博士後期課程〉

教育課程について…… 303
カリキュラム表…… 304

〈シラバス〉

基盤科目

看護科学研究論…… 305
看護学研究法応用論（保健統計）…… 307
看護学研究法応用論（実験法）…… 309
看護学教育開発論…… 310
英語論文演習…… 312
異文化看護論…… 314

専門科目

実践支援看護学特論…… 316
実践支援看護学演習…… 317
療養生活支援看護学特論…… 318
療養生活支援看護学演習…… 320
地域家族支援看護学特論…… 322
地域家族支援看護学演習…… 324

特別研究

特別研究…… 326

博士後期課程学位論文（研究計画書）作成要領…… 328

〈共通事項〉

看護学研究科教員一覧…… 345
キャンパスマップ・各階平面図…… 346

オフィスアワー一覧表…… 349
SDGs との関連 …… 351
文部科学省「職業実践力育成プログラム」(BP) における実践的な方法による授業一覧 …… 353
文部科学省「職業実践力育成プログラム」(BP) における実務経験のある教員による授業科目一覧
…… 355
長期履修制度…… 358
大学院研究費支出基準表…… 359

大阪医科薬科大学　建学の精神

国際的視野に立った良質の教育、研究および医療の実践を通して至誠仁術を体現する医療人を育成する

大阪医科薬科大学　学是

『至誠仁術』

2．大阪医科薬科大学の理念・目的

1）理念（学則第 1 条）

本学は、建学の精神及び学是（至誠仁術）に基づき、国際的視野に立った教育、研究或いは良質な医療の実践をとおして、人間性豊かで創造性に富み人類の福祉と文化の発展に貢献する医療人を育成する。

2）目的（学則第 2 条）

本学は、前条の理念に基づき、豊かな人間性と国際的視野を備えた次の人材を育成することを目的とする。

(1) 人類共通の課題である健康の維持増進並びに疾病の予防と克服及び苦痛の軽減に努める人材

(2) 変化する社会に対応し最新の知識と最良の技術を生涯学び続ける人材

(3) 地域医療から世界に通じる研究開発にわたる領域で探究心を持って活躍する人材

3．大学院の目的

（大学院学則第 1 条）

本大学院は、医学、薬学及び看護学の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の発展に寄与することを目的とする。

2　本大学院は、第 3 条に規定する研究科において研究者、教育者或いは医療人として自立して活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うものとする。

4．看護学研究科の教育目的・教育目標・ポリシー

〈博士前期課程〉

1）教育目的（大学院看護学研究科規程第 2 条）

大学院学則に定める大阪医科薬科大学大学院の目的に基づき、本研究科の目的は、次の各号のとおりとする。

(1) 博士前期課程は、豊かな学識とグローバルな視点を基盤に、看護学の深奥を窮めることができる教育研究者及び高度実践看護専門職者を育成することを目的とする。

2）教育目標

以下の能力を持つ教育研究者及び高度実践看護専門職の養成を目指す。

①人間性豊かでグローバルな視点と多様な文化に対する見識をもち、教育研究者として良質な看護学教育を行うに必要な高度な教育実践能力を育成する。

②人間性豊かでグローバルな視点と多様な文化に対する見識をもち、高度実践看護専門職として良質な看護を行うに必要な卓越した看護実践能力を育成する。

③学識、社会性のある知的素養の涵養を図り、討論力、課題解決能力、指導力を育成する。

3）ディプロマポリシー（学位授与の方針）

大阪医科薬科大学大学院看護学研究科博士前期課程では、大学院学則に定める期間看護学研究科に在学し、所定の単位を修得し、教育要項に定める学位授与のために修得すべき内容を修得し、学位論文の審査を経た者に学位「修士（看護学）」を授与する。

学位授与基準

2年以上在学して所定の単位を修得するとともに必要な研究指導を受け、下記の能力を修得して学位論文を提出し、学位論文の審査を経て、最終試験に合格した者には、「修士（看護学）」の学位を授与する。

コース共通

①豊かな人間性と高い倫理観を基盤に教育研究・看護実践の場で倫理的に行動できる。

②教育研究者や看護職者の教育指導ができる高度な知識・技術を有し、論理的・批判的に思考できる。

③グローバルな視点と多様な文化に対する見識をもち、看護学の発展に積極的に貢献できる。

教育研究コース

①専攻分野に関する広く深い知識をもち、教育・研究指導力を身につけている。

②看護現象を論理的かつ科学的に探究するための研究遂行能力を身につけている。

③看護学教育及び看護実践の質改善に貢献できる。

高度実践コース

①専攻分野において優れた臨床判断能力と看護実践能力を身につけている。

②多職種・組織と連携・協働し、より良いケアを行うために必要な高いコミュニケーション能力と調整能力、指導力を身につけている。

③看護実践上の課題を明確にし、研究的かつ組織的に課題解決ができる基礎的能力を身につけている。

学位論文審査基準

学位論文の審査及び最終試験は、以下の項目について行われる。

1. 研究目的の合理性
2. 研究の独創性
3. 研究計画、研究方法の妥当性
4. 結果の分析の緻密性、精度
5. 得られたデータに基づく論理的展開
6. 結果の発展性
7. 研究成果の学術上及び応用面での意義
8. 研究課題の背景、意義についての十分な知識
9. 研究遂行における対象者への倫理的配慮
10. 研究結果についての質疑への明晰な応答

4）カリキュラムポリシー（教育課程編成の方針）

①学位授与の方針に掲げる高度な知識・技能などをあわせもつ教育研究者と高度実践看護専門職者を育成するために、教育研究コースと高度実践コースを設置する。

②医療の場及び看護の対象を取り巻く社会状況の変化を鑑み、「実践支援看護学領域」「療養生活支援看護学領域」「地域家族支援看護学領域」の3領域で構成する。

③カリキュラムを構成する科目区分として「共通科目」「領域専門科目」「特別研究」をおく。「共通科目」では、哲学、教育学など多岐にわたる科目を配置するとともに、国際的かつグローバルな視点を養うための科目を配置する。「領域専門科目」では、専門領域の専門性を高めるための科目を体系的に編成する。

④教育研究コースの「実践支援看護学領域」では看護教育学、看護技術開発看護学、人文社会学、「療養生活支援看護学領域」では移植・再生医療看護学、がん看護学、慢性看護学、精神看護学、老年看護学、臨床医学、「地域家族支援看護学領域」では母性看護学、小児看護学、地域看護学、在宅看護学、社会医学の全14分野を設け、各分野で必要な講義・演習・研究を含む専門科目を配置する。

⑤高度実践コース（CNS）の「療養生活支援看護学領域」ではがん看護学、慢性看護学、精神看護学、老年看護学、「地域家族支援看護学領域」では、小児看護学の全5分野を設け、各分野で必要な講義･演習･実習・課題研究を含む専門看護師認定試験受験に必要な科目を配置する。

⑥高度実践コース（NP）の「地域家族支援看護学領域」ではプライマリケア看護学を設け、分野で必要な講義・演習・実習・課題研究を含むナースプラクティショナー認定試験受験に必要な科目を配置する。

⑦研究指導は、多角的、効果的に行うため、主指導教員と副指導教員によるグループ指導体制をとる。

⑧社会人等のニーズに応えるため長期履修制度を設け、修業年限の弾力化を図る。

上記のように編成した教育課程では、講義、演習、実習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、オンライン教育なども活用した教育を実践する。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した上で厳格な成績評価を行う。また、学位審査の実施に際しては、研究科の定める基準により評価する。

5）アドミッションポリシー（入学者受入の方針）

本学の理念を理解し、課題に対する柔軟な思考力と深い洞察力、及び倫理的判断力を自らが培う意欲をもち、多様な場でリーダーシップを発揮し、グローバルな視点及び知的学識をもって教育研究及び看護実践の向上を担うことへの高い志をもった人を求める。

①入学後の修学の基盤となる専門知識、技術をもつ。

②多様な場でリーダーシップをとり看護の発展に貢献したいという意欲をもつ。

③課題を探求し、解決できる専門職、教育者、研究者を志している。

④看護の分野で国際的な貢献をしたいという意欲をもつ。

入学者選抜の基本方針

入学者選抜は、外国語（英語）試験、専門科目試験、面接試験の結果及び提出書類内容を総合的に判断し、合格者を決定する。

6）アセスメントポリシー（学修成果の把握に関する方針）

	入学時	在学中	修了時
課程レベル （研究科レベル）	入学試験 入試制度評価	・修得単位数 ・学生調査（カリキュラム評価・学修行動・DP 到達度調査・学会発表数・論文投稿数） ・教員によるカリキュラム評価 ・休学率、退学率、在学年限延長率 ・高度実践コース希望者数 ・学位論文進捗状況 ・学位論文審査 ・研究助成金の獲得状況 ・在籍学生数（全体・領域） ・在籍年数 ・入試制度別成績	・修了要件：修得単位数、研究指導を受け、学位論文提出、最終試験 ・休学率、退学率、在学年限延長率 ・就職率、進学率 ・学生調査（カリキュラム評価・学修行動・DP 到達度調査・学会発表数・論文投稿数） ・修了時調査 ・在籍年数 ・入試制度別成績 ・就職先調査 ・資格取得：高度実践看護師の教育課程修了者、合格率
科目レベル		・成績評価 ・授業評価（学生）	・成績評価

〈博士後期課程〉

1）教育目的（大学院看護学研究科規程第２条）

大学院学則に定める大阪医科薬科大学大学院の目的に基づき、本研究科の目的は、次の各号のとおりとする。

(2) 博士後期課程は、豊かな学識とグローバルな視点を基盤に看護学の深奥を窮めることができ、国際社会に貢献できる自立した教育研究者を育成することを目的とする。

2）教育目標

以下の能力を持つ教育研究者の養成を目指す。

①研究者として自立して研究活動を行うために必要な高度の研究能力を培う。

②知的な素養とグローバルな視点を兼ね備えた高度な研究能力をもち、教育研究者として看護学教育を行うのに必要な教育開発力を育成する。

③課題探求能力、企画力、管理運営能力を高め、豊かな学識を持った指導能力を育成する。

3）ディプロマポリシー（学位授与の方針）

大阪医科薬科大学大学院看護学研究科博士後期課程では、大学院学則に定める期間看護学研究科に在学し、所定の単位を修得し、教育要項に定める学位授与のために修得すべき内容を修得し、学位論文の審査を経た者に学位「博士（看護学）」を授与する。

学位授与基準

3 年以上在学して所定の単位を修得するとともに必要な研究指導を受け、下記の能力を修得して学位論文を提出し、学位論文の審査を経て、最終試験に合格した者には、「博士（看護学）」の学位を授与する。

①体系的に活動できる教育能力と高度な研究能力をもち、教育研究の開発に貢献できる。

②教育や看護実践の場において科学的根拠や研究的視点をもって提言ができる中枢的指導力や統率力を身につけている。

③学際的、グローバルな視点から専門的課題を探究し、看護学の知識体系の発展に貢献できる。

学位論文審査基準

学位論文の審査及び最終試験は、以下の項目について行われる。

1. 研究目的の合理性
2. 研究の独創性、新規性
3. 研究計画、研究方法の妥当性
4. 結果の分析の緻密性、精度
5. 得られたデータに基づく論理的展開
6. 結果の発展性
7. 研究成果の学術上及び応用面での意義
8. 研究課題の背景、意義についての十分な知識
9. 研究遂行における対象者への倫理的配慮
10. 研究結果についての質疑への明晰な応答

4）カリキュラムポリシー（教育課程編成の方針）

①国際化と研究の深化を促進する研究能力を培うために、教育研究の柱として、「実践支援看護学領域」「療養生活支援看護学領域」「地域家族支援看護学領域」の３領域で構成する。

②カリキュラムを構成する科目区分として、「基盤科目」「専門科目」「特別研究」をおく。

③学問分野の諸理論及び研究方法論を修め、高度な研究能力を養うために「看護科学研究論」「看護学研究法応用論（保健統計）」「看護学研究法応用論（実験法）」を配置する。

④教育能力を持った教育研究者の育成のために「看護学教育開発論」を配置する。

⑤主指導教員と副指導教員によるグループ指導体制のもとで、看護実践及び看護学の体系化に貢献できる博士論文の研究指導を行う。

上記のように編成した教育課程では、講義、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、オンライン教育なども活用した教育を実践する。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した上で厳格な成績評価を行う。また、学位審査の実施に際しては、研究科の定める基準により評価する。

5）アドミッションポリシー（入学者受入の方針）

本学の理念を理解し、深い探求心と倫理観をもった高度な研究能力を自らが培う意欲をもち、多様な場で自立して教育研究開発ができ、グローバルな視点及び知的学識をもって社会に貢献することへの高い志を持った人を求める。

入学者選抜の基本方針

入学者選抜は、外国語（英語）試験、専門科目試験、口述試験の結果及び提出書類内容を総合的に判断し、合格者を決定する。

6）アセスメントポリシー（学修成果の把握に関する方針）

	入学時	在学中	修了時
課程レベル （研究科レベル）	入学試験 入試制度評価	・修得単位数 ・学生調査（カリキュラム評価・学修行動・DP 到達度調査・学会発表数・論文投稿数） ・教員によるカリキュラム評価 ・休学率、退学率、在学年限延長率 ・学位論文進捗状況 ・学位論文審査 ・研究助成金の獲得状況 ・在籍学生数（全体・領域） ・在籍年数 ・入試制度別成績	・修了要件：修得単位数、研究指導を受け、学位論文提出、最終試験 ・休学率、退学率、在学年限延長率 ・就職率、進学率 ・学生調査（カリキュラム評価・学修行動・DP 到達度調査・学会発表数・論文投稿数） ・修了時調査 ・在籍年数 ・入試制度別成績 ・就職先調査
科目レベル		・成績評価 ・授業評価（学生）	・成績評価

5．教育研究環境等について

看護学研究科では、教育目的・目標・カリキュラムポリシー等を踏まえ、自立した教育研究者及び高度実践看護専門職者の育成をめざして、学生の充実した学修を促進するための教育研究環境を整備しています。授業でのプレゼンテーションの準備や研究等の自己学習を促進するために研究室を設置し、IT 機器を活用できる環境を整えています。そして、研究室で文献検索をしたり、統計解析ソフトを用いたデータ解析ができる環境を備えています。また、課題解決のための議論を促進する電子黒板等を全演習室に設置しています。豊富な蔵書を有する図書館は、休日でも学習できる環境を整備しています。さらに、質の高い研究や実践実習を可能とするために個人研究費を支給し、経済面における支援も行っています。

大学院の授業で使用する教室

博士前期課程　土曜日

授業科目		教室
前期	看護学研究方法論	講義室 1
	看護理論	
	看護政策論	
	フィジカルアセスメント論	
	病態生理学	
	看護教育学特論Ⅰ	
後期	看護倫理	講義室 1
	看護現任教育論	
	看護教育学特論Ⅱ	演習室 3
	看護管理学	講義室 1
	コンサルテーション論	
	臨床薬理学	
	看護哲学	

博士後期課程　土曜日

授業科目		教室
前期	看護科学研究論	講義室 2
	英語論文演習	
	看護学教育開発論	
	異文化看護論	
後期	看護学研究法応用論（保健統計）	講義室 3
	看護学研究法応用論（実験法）	講義室 2
	実践支援看護学特論	
	療養生活支援看護学特論	
	地域家族支援看護学特論	講義室 4

6. 教育における生成 AI の取り扱いについて

本学の成績評価に係る試験や成果物作成過程における生成系人工知能（以下、生成 AI という）の利用については、下記の方針といたします。

本学は、生成 AI のきわめて高い有用性を尊重し、授業担当教員から使用許可がある場合などは、その指示の範囲内で利用することを認めます。

ただし、生成 AI の利用が大学における教育・研究に与える影響も大きいことから、成績評価に係る試験や成果物作成過程において、生成 AI を用いることは禁止します。本人が作成したものではないと発覚した場合には不正行為とみなします。

また、学位論文の作成にあたっては、生成 AI のみを用いた学位論文は許可しません。

遵守できない場合は、大阪医科薬科大学 学生等懲戒規程第 4 条 1 項 7 号に基づき、処分の対象となります。

【背景・理由】

生成 AI は近年急速に発達し容易に利用することができる状況です。生成 AI はインターネット上に公開されている情報に加えて、利用者が入力した情報を学習し、日々成長し続けるもので、その功罪はそれぞれ極めて大きいものと考えられます。

本学での利用については、教育機構、研究機構、学生生活支援機構およびセンター等にて、それぞれの利用目的を明確にして、利用基準を定め、生成 AI の成長に従って利用基準を見直すこととします。

学生の皆さんも新しい技術に基づいて開発された様々な製品や有用なサービスを今後利用する機会が増えることになるでしょう。しかしながら、同時に

・生成 AI に入力した情報が AI の学習データとして使用される可能性があること
・生成 AI やインターネット上の情報には個人情報や機密情報の漏洩など様々な課題を有していること、情報も必ずしも正しいものばかりではないこと
・生成 AI に入力した情報及び出力した情報が著作権に抵触する恐れがあること

などを心にとめておかなくてはなりません。

インターネットや生成 AI 等を利用して知識や回答を得るだけでは、真の学びとは言えず、学力向上にもつながりません。

大学における学びでは、課題発見・設定、仮説の構築・検証、実験や調査結果の分析と言ったプロセスが重要であり、その過程では人と人との対話や交流が欠かせません。そのような一つ一つのプロセスも大切にしてほしいと考えます。このことから、教育機構では上記の方針を示すこととします。

【参考】大阪医科薬科大学 学生等懲戒規程第 4 条

（対象行為）
第 4 条 懲戒の対象となる行為は、次の各号に掲げるものとする。
⑴ 社会的諸秩序に対する侵犯行為（犯罪行為）
⑵ 重大な交通法規違反
⑶ ハラスメント行為
⑷ 情報倫理に反する行為
⑸ 学問的倫理、研究倫理に反する行為
⑹ 学生等の学習、研究及び教職員の教育研究活動等の正当な活動を妨害する行為
⑺ 授業、試験等における不正行為
⑻ その他、公序良俗に反する行為
2 前項に掲げる対象行為の詳細及び該当する懲戒の種類は、別表 1 及び 2 に定める。

2025年度 看護学研究科学事予定表

4 月				5 月				6 月				7 月				8 月				9 月			
日	曜	内 容		日	曜	内 容		日	曜	内 容		日	曜	内 容		日	曜	内 容		日	曜	内 容	
1	火			1	木	(院)木④		1	日	創立記念日		1	火	(院)火⑪		1	金	【秋季】口頭試問【最終試験】	口頭試問期間	1	月		
2	水	臨時学部・研究科教授会		2	金	(院)金④		2	月	(院)月⑧		2	水	(院)水⑬		2	土			2	火		
3	木	入学宣誓式(学部・大学院)	履修登録期間	3	土	憲法記念日		3	火	(院)火⑦		3	木	(院)木⑬		3	日			3	水		
4	金	新入生オリエンテーション		4	日	みどりの日		4	水	(院)水⑨		4	金	(院)金⑬		4	月			4	木		
5	土	(院)土①		5	月			5	木	(院)木⑨		5	土	(院)土⑫		5	火			5	金		
6	日			6	火	振替休日		6	金	(院)金⑨ 【秋季】論文タイトル締切		6	日			6	水			6	土		
7	月	(院)月①		7	水	(院)水⑤		7	土	(院)土⑧ 入試説明会・個別相談会		7	月	(院)月⑬		7	木			7	日		
8	火	(院)火①		8	木	(院)木⑤		8	日			8	火	(院)火⑫		8	金			8	月		
9	水	(院)水① 学部・研究科教授会15:00		9	金	(院)金⑤		9	月	(院)月⑨		9	水	(院)水⑭ 学部・研究科教授会15:00		9	土			9	火		
10	木	(院)木①		10	土	(院)土④		10	火	(院)火⑧		10	木	(院)木⑭		10	日			10	水	学部・研究科教授会15:00	
11	金	(院)金①		11	日			11	水	(院)水⑩ 学部・研究科教授会15:00		11	金	(院)金⑭		11	月	山の日		11	木		
12	土	研究計画、中間発表会 大学院生の交流会		12	月	(院)月⑤		12	木	(院)木⑩		12	土	(院)土⑬		12	火	夏季閉鎖期間 （予定）		12	金		
13	日			13	火	(院)火④		13	金	(院)金⑩		13	日			13	水			13	土	看護学研究科入学試験	
14	月	(院)月②		14	水	(院)水⑥ 学部・研究科教授会15:00		14	土	(院)土⑨		14	月	(院)月⑭		14	木			14	日		
15	火	(院)火②		15	木	(院)木⑥		15	日			15	火	(院)火⑬		15	金	【秋季】論文発表会		15	月	敬老の日	
16	水	(院)水②		16	金	(院)金⑥		16	月	(院)月⑩		16	水	(院)水⑮ 高度実践コース実習報告会		16	土			16	火		
17	木	(院)木②		17	土	(院)土⑤		17	火	(院)火⑨		17	木	(院)木⑮		17	日			17	水	臨時学部・研究科教授会15:00 (【秋季】学位授与可否審議)	
18	金	(院)金②		18	日			18	水	(院)水⑪		18	金	(院)金⑮		18	月			18	木	成績開示	履修登録変更期間
19	土	(院)土②		19	月	(院)月⑥		19	木	(院)木⑪		19	土	(院)土⑭		19	火			19	金	入試合格者発表16:00	
20	日			20	火	(院)火⑤		20	金	(院)金⑪		20	日			20	水			20	土		
21	月	(院)月③		21	水	(院)水⑦		21	土	(院)土⑩		21	月	海の日		21	木			21	日		
22	火	(院)火③		22	木	(院)木⑦		22	日			22	火	(院)火⑭		22	金			22	月		
23	水	(院)水③ 臨時研究科教授会15:00		23	金	(院)金⑦		23	月	(院)月⑪		23	水	臨時 研究科教授会15:00 (【秋季】主査・副査の決定)		23	土			23	火	看護学研究科入学試験（予備日） 秋分の日	
24	木	(院)木③		24	土	(院)土⑥		24	火	(院)火⑩		24	木			24	日			24	水		
25	金	(院)金③		25	日			25	水	(院)水⑫ 臨時研究科教授会15:00		25	金	【秋季】修士・博士論文提出（正午迄）		25	月	【秋季】(修正版) 論文提出締切 16:50迄		25	木		
26	土	(院)土③		26	月	(院)月⑦		26	木	(院)木⑫		26	土	(院)土⑮		26	火			26	金		
27	日			27	火	(院)火⑥		27	金	(院)金⑫		27	日			27	水	臨時研究科教授会 15:00		27	土	(院)土①	
28	月	(院)月④		28	水	(院)水⑧ 臨時研究科教授会15:00		28	土	(院)土⑪		28	月	(院)月⑮		28	木			28	日		
29	火	昭和の日		29	木	(院)木⑧		29	日			29	火	(院)火⑮		29	金			29	月		
30	水	(院)水④		30	金	(院)金⑧		30	月	(院)月⑫		30	水	臨時学部教授会 15:00		30	土			30	火		
				31	土	(院)土⑦						31	木			31	日						

授業日程表の見方

・〇数字は、各曜日授業の回数を示します。

※各授業、特別研究・課題研究については、指導教員と大学院生との調整により、日時を変更することがあります。

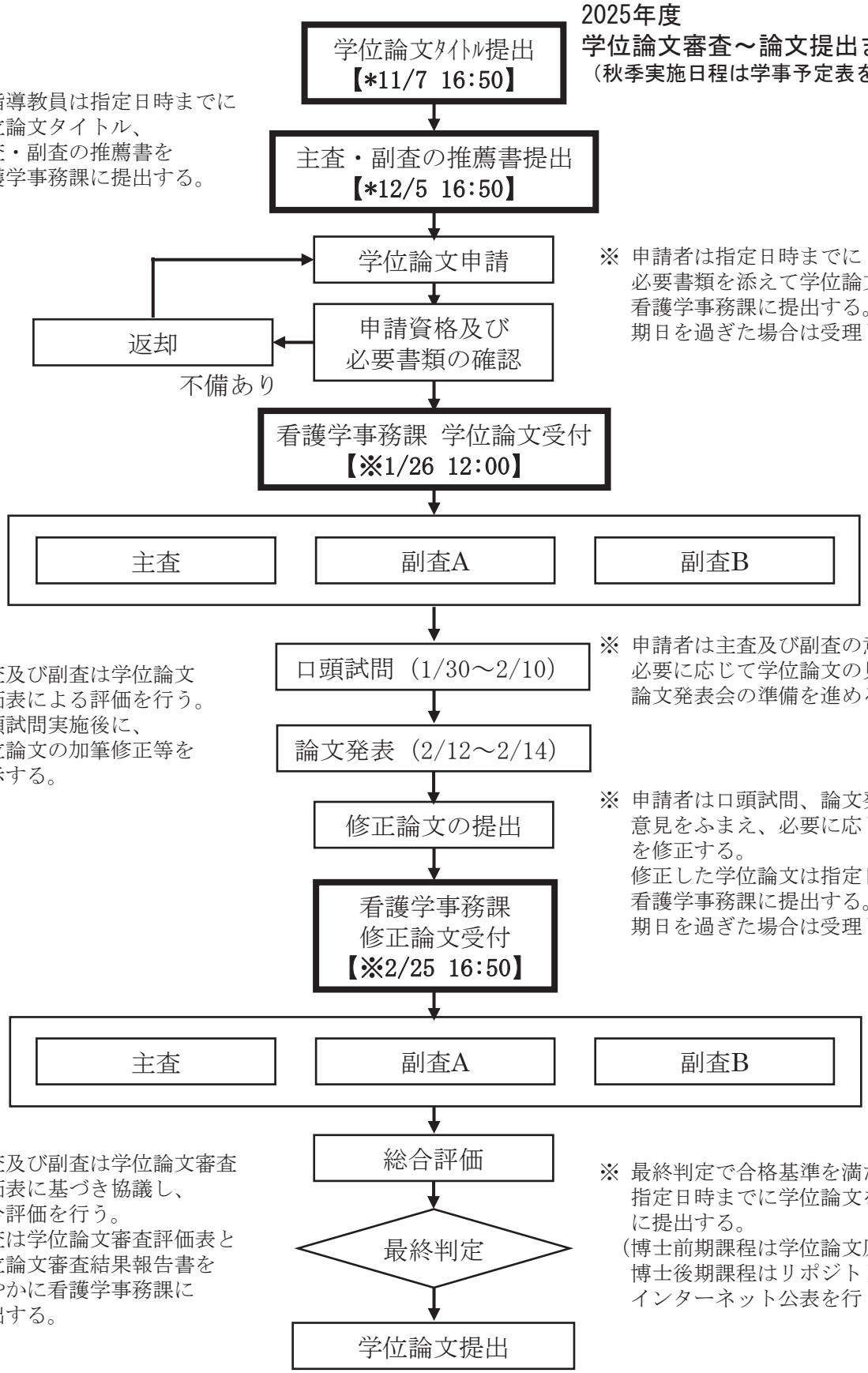
※授業科目については、時間割表を参照してください。

2025年度 看護学研究科学事予定表

10月			11月			12月			1月			2月			3月		
日	曜	内容	日	曜	内容	日	曜	内容	日	曜	内容	日	曜	内容	日	曜	内容
1	水	(院)水①	1	土	周年記念式典	1	月	(院)月⑥ 臨時学部教授会15:00	1	木	冬季閉鎖期間	1	日		1	日	
2	木	(院)木①	2	日		2	火	(院)火⑨	2	金	冬季閉鎖期間	2	月		2	月	
3	金	(院)金①	3	月	文化の日	3	水	(院)水⑩	3	土	冬季閉鎖期間	3	火		3	火	
4	土	(院)土②	4	火	(院)火⑤	4	木	(院)木⑩	4	日		4	水		4	水	
5	日		5	水	(院)水⑥	5	金	(院)金⑩ 主査・副査推薦締切	5	月	(院)月⑩	5	木	研究計画発表会	5	木	
6	月	(院)月①	6	木	(院)木⑥	6	土	(院)土⑩	6	火	(院)火⑬	6	金	研究計画発表会	6	金	
7	火	(院)火①	7	金	(院)金⑥ 論文タイトル締切	7	日		7	水	(院)水⑭	7	土	研究計画発表会	7	土	入試説明会・個別相談会
8	水	(院)水② 学部・研究科教授会15:00	8	土	(院)土⑥	8	月	(院)月⑦	8	木	(院)木⑭	8	日		8	日	
9	木	(院)木②	9	日		9	火	(院)火⑩	9	金	(院)金⑭	9	月		9	月	
10	金	(院)金②	10	月	(院)月④	10	水	(院)水⑪学部・研究科教授会15:00 （主査・副査の決定）	10	土	(院)土⑭	10	火		10	火	
11	土	(院)土③	11	火	(院)火⑥	11	木	(院)木⑪	11	日		11	水	建国記念の日	11	水	学部・研究科教授会15:00 (学位授与可否審議)
12	日		12	水	(院)水⑦ 学部・研究科教授会15:00	12	金	(院)金⑪	12	月	成人の日	12	木	学部・研究科教授会15:00 論文発表会	12	木	
13	月	スポーツの日	13	木	(院)木⑦	13	土	(院)土⑪	13	火	(院)火⑭	13	金	論文発表会	13	金	
14	火	(院)火②	14	金	(院)金⑦	14	日		14	水	(院)水⑮ 学部・研究科教授会15:00	14	土	論文発表会	14	土	
15	水	(院)水③	15	土	(院)土⑦	15	月	(院)月⑧	15	木	(院)木⑮	15	日		15	日	
16	木	(院)木③	16	日		16	火	(院)火⑪	16	金	(院)金⑮	16	月		16	月	
17	金	(院)金③	17	月	(院)月⑤	17	水	(院)水⑫	17	土		17	火		17	火	
18	土	(院)土④解剖慰霊祭	18	火	(院)火⑦	18	木	(院)木⑫	18	日		18	水		18	水	
19	日		19	水	(院)水⑧	19	金	(院)金⑫	19	月	(院)月⑪	19	木		19	木	成績開示　学位記授与式
20	月	(院)月②	20	木	(院)木⑧	20	土	(院)土⑫	20	火	(院)火⑮	20	金		20	金	春分の日
21	火	(院)火③	21	金	(院)金⑧	21	日		21	水	(院)月⑫	21	土		21	土	
22	水	(院)水④ 臨時研究科教授会15:00	22	土	(院)土⑧	22	月	(院)月⑨	22	木	(院)月⑬	22	日		22	日	
23	木	(院)木④	23	日	勤労感謝の日	23	火	(院)火⑫	23	金	(院)月⑭	23	月	天皇誕生日	23	月	
24	金	(院)金④	24	月	振替休日	24	水	(院)水⑬ 臨時研究科教授会15:00	24	土	(院)土⑮	24	火		24	火	
25	土	(院)土⑤	25	火	(院)火⑧	25	木	(院)木⑬	25	日		25	水	臨時研究科教授会15:00 （修正版）論文提出締切 16:50迄	25	水	臨時研究科教授会15:00
26	日		26	水	(院)水⑨ 研究計画発表会 臨時研究科教授会15:00	26	金	(院)金⑬	26	月	(院)月⑮ 修士・博士論文提出(正午迄)	26	木		26	木	
27	月	(院) 月③	27	木	(院)木⑨	27	土	(院)土⑬	27	火		27	金		27	金	
28	火	(院)火④	28	金	(院)金⑨	28	日		28	水	臨時学部・研究科教授会15:00	28	土		28	土	
29	水	(院)水⑤	29	土	(院)土⑨	29	月	冬季閉鎖期間	29	木					29	日	
30	木	(院)木⑤	30	日		30	火	冬季閉鎖期間	30	金	口頭試問【最終試験】				30	月	
31	金	(院)金⑤				31	水	冬季閉鎖期間	31	土					31	火	

口頭試問期間

2025年度
学位論文審査～論文提出までのマニュアル
（秋季実施日程は学事予定表を確認してください）



＊ 主指導教員は指定日時までに
学位論文タイトル、
主査・副査の推薦書を
看護学事務課に提出する。

※ 申請者は指定日時までに
必要書類を添えて学位論文を
看護学事務課に提出する。
期日を過ぎた場合は受理しない。

＊ 主査及び副査は学位論文
評価表による評価を行う。
口頭試問実施後に、
学位論文の加筆修正等を
指示する。

※ 申請者は主査及び副査の意見をもとに
必要に応じて学位論文の見直しを行い、
論文発表会の準備を進める。

※ 申請者は口頭試問、論文発表会での
意見をふまえ、必要に応じて学位論文
を修正する。
修正した学位論文は指定日時までに
看護学事務課に提出する。
期日を過ぎた場合は受理しない。

＊ 主査及び副査は学位論文審査
評価表に基づき協議し、
総合評価を行う。
＊ 主査は学位論文審査評価表と
学位論文審査結果報告書を
速やかに看護学事務課に
提出する。

※ 最終判定で合格基準を満たしたものは、
指定日時までに学位論文を看護学事務課
に提出する。
（博士前期課程は学位論文原本を提出し、
博士後期課程はリポジトリを利用し、
インターネット公表を行う）

注：※は学位論文審査申請者、*は主指導、主査及び副査に関する内容である。太枠の内容は提出期限付である。

2025年度　博士前期課程　時間割（平日・前期セメスター）

注）本年度は開講しない科目

			月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1年前期	1	9:00～10:30					
	2	10:40～12:10					
	3	13:00～14:30					
	4	14:40～16:10					
	5	16:20～17:50	特別研究	特別研究 小児と病気			
	6 7	18:00～19:30 19:40～21:10	がん看護学特論Ⅰ（隔週） 老年期病態治療論（隔週） 母性看護学特論（6時間目） 発達障害看護論（隔週）【偶数年度開講】 地域看護学特論（隔週） 地域母子保健論（隔週）【奇数年度開講】 ヘルスプロモーション論/プライマリケア看護学特論Ⅰ（隔週交替）	がん看護学援助論Ⅰ（隔週） 老年看護アセスメント論（隔週） 家族看護学特論（隔週） 小児看護学特論（隔週） 在宅看護学特論Ⅰ（隔週） プライマリケア看護学特論Ⅳ（小児）/プライマリケア看護学特論Ⅶ（メンタルヘルス）（隔週交替）	ウィメンズヘルス看護論（6時間目） プライマリケア看護学特論Ⅱ（6時間目） 英語論文講読（6時間目）（隔週）	看護技術開発学特論Ⅰ/看護技術開発学特論Ⅱ（前半、後半） 看護技術開発学演習Ⅰ（前半） 移植・再生医療看護学特論Ⅰ（隔週） がん看護学演習Ⅰ（隔週） 慢性看護学特論Ⅰ/慢性看護学特論Ⅱ（隔週交替） 精神看護学特論Ⅰ/精神看護アセスメント論（隔週交替） 老年看護学特論（隔週） 周産期看護援助論Ⅰ（6時間目） 医療の質保証と安全管理/プライマリケア看護学特論Ⅴ（成人）（隔週交替）	慢性看護援助論Ⅰ（隔週） 精神看護学特論Ⅱ（隔週） 周産期看護論（6時間目） プライマリケア看護学演習Ⅰ
2年前期	1	9:00～10:30			高度実践コース 実習	高度実践コース 実習	高度実践コース 実習
	2	10:40～12:10			高度実践コース 実習	高度実践コース 実習	高度実践コース 実習
	3	13:00～14:30			高度実践コース 実習	高度実践コース 実習	高度実践コース 実習
	4	14:40～16:10			高度実践コース 実習	高度実践コース 実習	高度実践コース 実習
	5	16:20～17:50	特別研究・課題研究				
	6 7	18:00～19:30 19:40～21:10	精神看護学演習 周産期看護演習Ⅰ 発達障害看護論（隔週）【偶数年度開講】 小児看護学演習（隔週） 地域母子保健論（隔週）【奇数年度開講】	看護技術開発学演習Ⅱ（隔週） 慢性看護学演習Ⅱ 周産期看護演習Ⅱ（隔週） 地域看護学演習（隔週）		がん看護学演習Ⅱ（隔週）	

【集中（1年後期～2年前期）】移植・再生医療看護学演習、在宅看護学演習

【集中（1年通年）】老年看護学演習Ⅰ、老年看護学演習Ⅱ

2025 年度　博士前期課程　時間割（平日・後期セメスター）

注）本年度は開講しない科目

			月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1年後期	1	9:00～10:30			高度実践コース	高度実践コース	高度実践コース
					高度実践コース	高度実践コース	高度実践コース
	2	10:40～12:10			高度実践コース	高度実践コース	高度実践コース
	3	13:00～14:30			高度実践コース	高度実践コース	高度実践コース
	4	14:40～16:10			高度実践コース	高度実践コース	高度実践コース
	5	16:20～17:50	特別研究・課題研究	特別研究			
	6 7	18:00～19:30 19:40～21:10	看護技術開発学演習Ⅰ/看護技術開発学演習Ⅱ（前半、後半） がん看護学特論Ⅱ（隔週） 慢性看護学演習Ⅰ 精神看護学治療論（隔週） 老年看護援助論（隔週） 周産期看護演習Ⅰ（隔週） 小児看護アセスメント論/小児看護学演習（隔週交替） 地域ケアシステム特論（隔週） プライマリケア看護学特論Ⅲ（6時間目）	がん看護学援助論Ⅱ）（隔週） 慢性看護アセスメント論/慢性看護援助論Ⅱ（隔週交替） 精神看護学援助論Ⅱ 老年看護サポートシステム論（隔週） 周産期看護援助論Ⅱ（6時間目） 周産期看護演習Ⅱ（隔週） 地域看護学演習（隔週） 在宅看護学特論Ⅱ（隔週） プライマリケア看護学特論Ⅳ（小児）/プライマリケア看護学特論Ⅶ（メンタルヘルス）（隔週交替）	英語論文講読（6時間目）（隔週）	移植・再生医療看護学特論Ⅱ（隔週） がん看護学演習Ⅰ/がん看護学演習Ⅱ（隔週交替） 医療の質保証と安全管理/プライマリケア看護学特論Ⅵ（老年）（隔週交替）	精神看護学特論Ⅲ（隔週交替）/精神看護学援助論Ⅰ プライマリケア看護学演習Ⅱ
2年後期	1	9:00～10:30			高度実践コース 実習	高度実践コース 実習	高度実践コース 実習
	2	10:40～12:10			高度実践コース 実習	高度実践コース 実習	高度実践コース 実習
	3	13:00～14:30			高度実践コース 実習	高度実践コース 実習	高度実践コース 実習
	4	14:40～16:10			高度実践コース 実習	高度実践コース 実習	高度実践コース 実習
	5	16:20～17:50	特別研究・課題研究	特別研究・課題研究			
	6	18:00～19:30					
	7	19:40～21:10					

【集中（1年後期）】看護教育学演習、がん病態治療論
【集中（1年後期～2年前期）】移植・再生医療看護学演習、在宅看護学演習
【集中（1年通年）】老年看護学演習Ⅰ、老年看護学演習Ⅱ

2025年度 大学院 前期セメスター（土曜日分）時間割

■使用教室　本部北キャンパス　看護学部棟
博士前期課程（修士）課程：講義室1（2階）※4/26はP715（新講義実習棟7階）、5/24は講義室4（3階）
博士後期課程（博士）課程：講義室2（2階）※5/24は講義室5（3階）

博士前期（修士）課程									博士後期（博士）課程					
回	月日	学年	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50	6限 18:00～19:30	学年	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
1	4/5	1	看護教育学特論Ⅰ	看護教育学特論Ⅰ	フィジカル	フィジカル			1			英語論文演習	英語論文演習	
		2							2					
2	4/19	1	看護理論	看護理論	看護学研究方法論	看護学研究方法論	フィジカル	フィジカル	1	看護学教育開発論	看護学教育開発論	看護科学研究論	看護科学研究論	
		2							2					
3	※4/26	1	看護教育学特論Ⅰ	看護教育学特論Ⅰ	フィジカル	フィジカル			1			英語論文演習	英語論文演習	
		2							2					
4	5/10	1	看護理論	看護理論	看護学研究方法論	看護学研究方法論	フィジカル	フィジカル	1	看護学教育開発論	看護学教育開発論	看護科学研究論	看護科学研究論	
		2							2					
5	5/17	1	看護教育学特論Ⅰ	看護教育学特論Ⅰ	フィジカル	フィジカル			1			英語論文演習	英語論文演習	
		2							2					
6	※5/24	1	看護理論	看護理論	看護学研究方法論	看護学研究方法論	フィジカル	フィジカル	1	看護学教育開発論	看護学教育開発論	看護科学研究論	看護科学研究論	
		2							2					
7	5/31	1	看護教育学特論Ⅰ	看護教育学特論Ⅰ	フィジカル	フィジカル			1	英語論文演習	英語論文演習	英語論文演習		
		2							2					
8	6/7	1	看護学研究方法論	看護学研究方法論	看護理論	看護理論	フィジカル	病態生理学	1	看護学教育開発論	看護学教育開発論	英語論文演習	英語論文演習	英語論文演習
		2							2					
			入試説明会・個別相談会							入試説明会・個別相談会				
9	6/14	1	看護教育学特論Ⅰ	看護教育学特論Ⅰ	看護政策論	看護政策論	病態生理学	病態生理学	1	看護科学研究論	看護科学研究論			
		2							2					
10	6/21	1	看護理論	看護理論	看護学研究方法論	看護学研究方法論	病態生理学	病態生理学	1	看護学教育開発論	看護学教育開発論	看護科学研究論	看護科学研究論	
		2							2					
11	6/28	1	看護教育学特論Ⅰ	看護教育学特論Ⅰ	看護政策論	看護政策論	病態生理学	病態生理学	1					
		2							2					
12	7/5	1	看護理論	看護理論	看護学研究方法論	看護学研究方法論	病態生理学	病態生理学	1	看護学教育開発論	看護学教育開発論	看護科学研究論		
		2							2					
13	7/12	1	看護教育学特論Ⅰ	看護教育学特論Ⅰ	看護政策論	看護政策論	病態生理学	病態生理学	1			英語論文演習	英語論文演習	英語論文演習
		2							2					
14	7/19	1	看護学研究方法論	看護学研究方法論	看護学研究方法論	看護教育学特論Ⅰ	病態生理学	病態生理学	1	看護学教育開発論	看護学教育開発論	看護学教育開発論	看護科学研究論	看護科学研究論
		2							2					
15	7/26	1	看護理論	看護理論	看護理論	看護政策論	看護政策論		1				看護科学研究論	看護科学研究論
		2							2					
16	8/2	1				病態生理学	病態生理学		1					
		2							2					

※異文化看護論は偶数年度開講、2025年度は開講しません

	必修
	選択（コースによっては必修）

	必修
	選択必修

2025年度 大学院 後期セメスター（土曜日分）時間割

■使用教室　本部北キャンパス　看護学部棟
博士前期課程（修士）課程：講義室1（2階）※看護教育学特論Ⅱ：演習室3（3階）
博士後期課程（博士）課程：講義室2（2階）※地域家族支援看護学特論：講義室4（3階）、看護学研究法応用論（保健統計）：講義室3（3階）

博士前期（修士）課程									博士後期（博士）課程					
回	月日	学年	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50	6限 18:00～19:30	学年	領域	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10
1	9/27	1	看護現任教育論	看護現任教育論	臨床薬理学 看護教育学特論Ⅱ	臨床薬理学 看護教育学特論Ⅱ	看護哲学	看護哲学	1	実践			実践支援看護学特論	
										療養生活	療養生活支援看護学特論			
										地域家族	地域家族支援看護学特論			
		2							2					
2	10/4	1	看護管理学	看護管理学	看護倫理	看護倫理	コンサルテーション論	コンサルテーション論	1	実践 療養生活 地域家族	看護学研究法応用論（保健統計）		看護学研究法応用論（実験法）	
		2							2					
3	10/11	1	看護現任教育論	看護現任教育論	臨床薬理学 看護教育学特論Ⅱ	臨床薬理学 看護教育学特論Ⅱ	看護哲学	看護哲学	1	実践			実践支援看護学特論	
										療養生活	療養生活支援看護学特論			
										地域家族	地域家族支援看護学特論			
		2							2					
4	10/18	1	看護管理学	看護管理学	看護倫理	看護倫理	コンサルテーション論	コンサルテーション論	1	実践支援 療養生活 地域家族	看護学研究法応用論（保健統計）		看護学研究法応用論（実験法）	
		2							2					
5	10/25	1	看護現任教育論	看護現任教育論	臨床薬理学 看護教育学特論Ⅱ	臨床薬理学 看護教育学特論Ⅱ	看護哲学	看護哲学	1	実践			実践支援看護学特論	
										療養生活	療養生活支援看護学特論			
										地域家族	地域家族支援看護学特論			
		2							2					
6	11/8	1	看護管理学	看護管理学	看護倫理	看護倫理	コンサルテーション論	コンサルテーション論	1	実践 療養生活 地域家族	看護学研究法応用論（保健統計）		看護学研究法応用論（実験法）	
		2							2					
7	11/15	1	看護現任教育論	看護現任教育論	臨床薬理学 看護教育学特論Ⅱ	臨床薬理学 看護教育学特論Ⅱ	看護哲学	看護哲学	1	実践			実践支援看護学特論	
										療養生活	療養生活支援看護学特論			
										地域家族	地域家族支援看護学特論			
		2							2					
8	11/22	1	看護管理学	看護管理学	看護倫理	看護倫理	コンサルテーション論	コンサルテーション論	1	実践 療養生活 地域家族	看護学研究法応用論（保健統計）		看護学研究法応用論（実験法）	
		2							2					
9	11/29	1	看護現任教育論	看護現任教育論	臨床薬理学 看護教育学特論Ⅱ	臨床薬理学 看護教育学特論Ⅱ	看護哲学	看護哲学	1	実践			実践支援看護学特論	
										療養生活	療養生活支援看護学特論			
										地域家族	地域家族支援看護学特論			
		2							2					
10	12/6	1	看護管理学	看護管理学	看護倫理	看護倫理			1	実践 療養生活 地域家族				
		2							2					
11	12/13	1	看護現任教育論	看護現任教育論	臨床薬理学 看護教育学特論Ⅱ	臨床薬理学 看護教育学特論Ⅱ	看護哲学	看護哲学	1	実践			実践支援看護学特論	
										療養生活	療養生活支援看護学特論			
										地域家族	地域家族支援看護学特論			
		2							2					
12	12/20	1	看護管理学	看護管理学	看護倫理	看護倫理	コンサルテーション論	コンサルテーション論	1	実践 療養生活 地域家族				
		2							2					
13	12/27	1	看護現任教育論	看護現任教育論	臨床薬理学 看護教育学特論Ⅱ	臨床薬理学 看護教育学特論Ⅱ	看護哲学	看護哲学	1	実践			実践支援看護学特論	
										療養生活				
										地域家族				
		2							2					
14	1/10	1	看護管理学	看護管理学	看護倫理	看護倫理	コンサルテーション論	コンサルテーション論	1	実践 療養生活 地域家族	療養生活支援看護学特論 地域家族支援看護学特論			
		2							2					
15	1/24	1	看護現任教育論	看護管理学	臨床薬理学 看護教育学特論Ⅱ	看護倫理	コンサルテーション論	看護哲学	1	実践			実践支援看護学特論	
										療養生活	療養生活支援看護学特論			
										地域家族	地域家族支援看護学特論			
		2							2					

※コンサルテーション論について、第1回は10/1（水）6限、 第10回は12/3（水）6限に実施

	必修
	選択（コースによっては必修）

	必修（領域ごと）
	選択必修

成績評価について

成績評価は、各授業科目の担当教員が下記の本学の定めた成績評価基準に則り、試験（レポート等を含む）の得点、平常点、授業での状況等を総合的に評価して決定しています。合格した授業科目については、授業科目所定の単位が与えられます。

評価名称	合否	評点（100 点満点）	成績評価基準
秀	合格	90 ～ 100	到達目標を充分に達成し、極めて優秀である
優	合格	80 ～ 89	到達目標を充分に達成している
良	合格	70 ～ 79	到達目標を概ね達成している
可	合格	60 ～ 69	到達目標を最低限達成している
不可	不可	0 ～ 59	到達目標を達成していない
認定	認定	－	

※入学前に他の大学院等で修得した単位を所定の手続きにより本研究科の単位として認められた場合は「認定」となります

研究業績調査について

本大学院では教育研究水準の向上や活性化に努めるべく、教育研究活動の自己点検・評価の一環として大学院生・大学院修了生の皆さまの研究業績調査を実施しています（年度末実施）。

博士前期課程

教育課程について

博士前期課程には、教育研究者を目指す教育研究コースと高度実践看護職者を目指す高度実践コースの２コースを設置し、教育研究コースは「実践支援看護学領域」と「療養生活支援看護学領域」と「地域家族支援看護学領域」の３つの領域で構成する。高度実践コースは「療養生活支援看護学領域」と「地域家族支援看護学領域」の２つの領域で構成する。

教育研究コースでは、教育者に求められる実践的教育能力を有する人材を養成する。

高度実践コースでは、専門看護師（CNS）・ナースプラクティショナー（NP）に求められる「卓越した実践能力」「教育能力」「コンサルテーション能力」「コーディネーション能力」「研究能力」「高邁な倫理観」の６つの能力を有する人材を養成する。

コース	領　域	概　要
教育研究	実践支援看護学	実践支援看護学領域では、看護学各分野における実践の基盤となる看護実践能力の開発をめざして、看護専門職者の発達や育成、看護の教育的機能の開発、さらに看護技術のエビデンスの開発に関わる課題について探究する。この領域は、看護教育学、看護技術開発看護学、人文社会学で構成される。具体的には、教育実践に埋め込まれた知の理解を深め、看護学教育に関する理論や関連分野の知見を活用した教育実践ができる能力を培う。さらに、看護技術開発にむけた多様な手法を学び、看護技術や看護実践の評価ができる能力を培う。
教育研究・高度実践	療養生活支援看護学	療養生活支援看護学領域では、病院および外来の医療を中心として、療養生活を営む大人を中心とする個人とその家族の健康問題・課題と援助方法について探究する。この領域は、移植・再生医療看護学、がん看護学、慢性看護学、精神看護学、老年看護学、臨床医学で構成される。主に個人と家族、集団を中心とした療養生活支援に必要な専門的な看護技術、看護援助・教育方法や、支援のためのアプローチに向けた手法を学び、看とり、疾病回復、リハビリテーション、疾病予防の健康レベルの視点を重視した看護実践能力及び教育研究能力を培う。なお、がん看護学専攻は次世代のがんプロフェッショナル養成プランに選定されている。
	地域家族支援看護学	地域家族支援看護学領域では、病院および外来から在宅、地域へと移行して生活をする人々や組織活動等集団を対象として、特にヘルスプロモーションの視点から課題と支援方法について探究する。この領域は、母性看護学、小児看護学、地域看護学、在宅看護学、社会医学、プライマリケア看護学で構成される。具体的には、発達段階を踏まえて個人・家族、あるいは、家族が居住する地域や組織等における個人あるいは家族のセルフケア能力向上を目指した看護実践能力及び教育研究能力を培う。個人・家族の健康の回復、さらに多職種との連携協働や地域ケアシステムおよび、社会資源の活用と開発等多様な手法を学び、あらゆる健康レベルにおける予防的視点を重視した実践能力を培う。

博士前期課程 カリキュラム表

（1）教育研究コース

2025 年度入学生用

区分	授業科目	配当年次	実践支援看護学領域						療養生活支援看護学領域			
			看護教育学		看護技術開発看護学		人文社会学		移植・再生医療看護学		がん看護学	
			単位数		単位数		単位数		単位数		単位数	
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択
共通科目	看護倫理	1後	2		2		2		2		2	
	看護学研究方法論	1前	2		2		2		2		2	
	看護現任教育論	1後		2		2		2		2		2
	看護理論	1前	2		2		2		2		2	
	看護管理学	1後		2		2	2			2		2
	コンサルテーション論	1後		2		2		2		2		2
	看護政策論	1前		1		1	1			1		1
	フィジカルアセスメント論	1前		2		2		2		2		2
	臨床薬理学	1後		2		2		2		2		2
	病態生理学	1前		2		2		2		2		2
	看護哲学	1後		2		2	2			2		2
	英語論文講読	1通		1		1	1			1		1
実践支援看護学領域	看護教育学特論Ⅰ	1前	2			2		2		2		2
	看護教育学特論Ⅱ	1後	2			2		2		2		2
	看護教育学演習	1後	2			2		2		2		2
	看護技術開発学特論Ⅰ	1前		2	2			2		2		2
	看護技術開発学特論Ⅱ	1前		2	2			2		2		2
	看護技術開発学演習Ⅰ	1通		2	2			2		2		2
	看護技術開発学演習Ⅱ	1後～2前		2	2			2		2		2
療養生活支援看護学領域	移植･再生医療看護学特論Ⅰ	1前		2		2		2	2			2
	移植･再生医療看護学特論Ⅱ	1後		2		2		2	2			2
	移植･再生医療看護学演習	1後～2前		2		2		2	2			2
	がん看護学特論Ⅰ	1前		2		2		2		2	2	
	がん看護学特論Ⅱ	1後		2		2		2		2	2	
	がん看護学援助論Ⅰ	1前		2		2		2		2		2
	がん看護学援助論Ⅱ	1後		2		2		2		2		2
	がん看護学演習Ⅰ	1通		2		2		2		2	2	
	がん看護学演習Ⅱ	1後～2前		2		2		2		2		2
	慢性看護学特論Ⅰ	1前		2		2		2		2		2
	慢性看護学特論Ⅱ	1前		2		2		2		2		2
	慢性看護援助論Ⅰ	1前		2		2		2		2		2
	慢性看護援助論Ⅱ	1後		2		2		2		2		2
	慢性看護学演習Ⅰ	1後		2		2		2		2		2
	慢性看護学演習Ⅱ	2前		2		2		2		2		2
	精神看護学特論Ⅰ	1前		2		2		2		2		2
	精神看護学特論Ⅱ	1前		2		2		2		2		2
	精神看護学特論Ⅲ	1後		2		2		2		2		2
	精神看護アセスメント論	1前		2		2		2		2		2
	精神看護学援助論Ⅰ	1後		2		2		2		2		2
	精神看護学援助論Ⅱ	1後		2		2		2		2		2
	精神看護学治療論	1後		2		2		2		2		2
	精神看護学演習	2前		2		2		2		2		2
	老年看護学特論	1前		2		2		2		2		2
	老年看護アセスメント論	1前		2		2		2		2		2
	老年期病態治療論	1前		2		2		2		2		2
	老年看護援助論	1後		2		2		2		2		2
	老年看護サポートシステム論	1後		2		2		2		2		2
	老年看護学演習Ⅰ	1通		2		2		2		2		2
	老年看護学演習Ⅱ	1通		2		2		2		2		2
地域家族支援看護学領域	家族看護学特論	1前		2		2		2		2		2
	周産期看護論	1前		2		2		2		2		2
	母性看護学特論	1前		2		2		2		2		2
	ウィメンズヘルス看護論	1前		2		2		2		2		2
	周産期看護援助論Ⅰ	1前		2		2		2		2		2
	周産期看護援助論Ⅱ	1後		2		2		2		2		2
	周産期看護演習Ⅰ	1後～2前		2		2		2		2		2
	周産期看護演習Ⅱ	1後～2前		2		2		2		2		2
	小児看護学特論	1前		2		2		2		2		2
	小児と病気	1前		2		2		2		2		2
	発達障害看護論	前(隔･偶数年度)		2		2		2		2		2
	小児看護アセスメント論	1後		2		2		2		2		2
	小児看護学演習	1後～2前		2		2		2		2		2
	地域看護学特論	1前		2		2		2		2		2
	地域ケアシステム特論	1後		2		2		2		2		2
	地域母子保健論	前(隔･奇数年度)		2		2		2		2		2
	地域看護学演習	1後～2前		2		2		2		2		2
	在宅看護学特論Ⅰ	1前		2		2		2		2		2
	在宅看護学特論Ⅱ	1後		2		2		2		2		2
	在宅看護学演習	1後～2前		2		2		2		2		2
特別研究	特別研究	1～2通	8		8		8		8		8	
合計数			20	124	22	122	20	124	20	124	20	124

〈修了要件〉2 年以上在学して所定の単位（32 単位以上）を修得するとともに必要な研究指導を受け、学位論文を提出し、かつ最終試験に合格すること。
〈履修方法〉指導教員の指導のもと履修科目を選択し履修すること。必修科目をすべて履修し、専攻分野専門科目（人文社会学、臨床医学、社会医学は共通科目）から 3 科目 6 単位以上（必修科目を含む）を履修する。ただし実践支援看護学領域科目の「看護教育学特論Ⅰ」を受講することを推奨する。

区分	授業科目	配当年次	療養生活支援看護学領域							
			慢性看護学		精神看護学		老年看護学		臨床医学	
			単位数		単位数		単位数		単位数	
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択
共通科目	看護倫理	1後	2		2		2		2	
	看護学研究方法論	1前	2		2		2		2	
	看護現任教育論	1後		2		2		2		2
	看護理論	1前	2		2		2		2	
	看護管理学	1後		2		2		2		2
	コンサルテーション論	1後		2		2		2		2
	看護政策論	1前		1		1		1		1
	フィジカルアセスメント論	1前		2		2		2	2	
	臨床薬理学	1後		2		2		2	2	
	病態生理学	1前		2		2		2	2	
	看護哲学	1後		2		2		2		2
	英語論文講読	1通		1		1		1		1
実践支援看護学領域	看護教育学特論Ⅰ	1前		2		2		2		2
	看護教育学特論Ⅱ	1後		2		2		2		2
	看護教育学演習	1後		2		2		2		2
	看護技術開発学特論Ⅰ	1前		2		2		2		2
	看護技術開発学特論Ⅱ	1前		2		2		2		2
	看護技術開発学演習Ⅰ	1通		2		2		2		2
	看護技術開発学演習Ⅱ	1後～2前		2		2		2		2
療養生活支援看護学領域	移植・再生医療看護学特論Ⅰ	1前		2		2		2		2
	移植・再生医療看護学特論Ⅱ	1後		2		2		2		2
	移植・再生医療看護学演習	1後～2前		2		2		2		2
	がん看護学特論Ⅰ	1前		2		2		2		2
	がん看護学特論Ⅱ	1後		2		2		2		2
	がん看護学援助論Ⅰ	1前		2		2		2		2
	がん看護学援助論Ⅱ	1後		2		2		2		2
	がん看護学演習Ⅰ	1通		2		2		2		2
	がん看護学演習Ⅱ	1後～2前		2		2		2		2
	慢性看護学特論Ⅰ	1前	2			2		2		2
	慢性看護学特論Ⅱ	1前	2			2		2		2
	慢性看護援助論Ⅰ	1前		2		2		2		2
	慢性看護援助論Ⅱ	1後		2		2		2		2
	慢性看護学演習Ⅰ	1後		2		2		2		2
	慢性看護学演習Ⅱ	2前		2		2		2		2
	精神看護学特論Ⅰ	1前		2	2			2		2
	精神看護学特論Ⅱ	1前		2		2		2		2
	精神看護学特論Ⅲ	1後		2		2		2		2
	精神看護アセスメント論	1前		2	2			2		2
	精神看護学援助論Ⅰ	1後		2		2		2		2
	精神看護学援助論Ⅱ	1後		2		2		2		2
	精神看護学治療論	1後		2	2			2		2
	精神看護学演習	2前		2		2		2		2
	老年看護学特論	1前		2		2	2			2
	老年看護アセスメント論	1前		2		2		2		2
	老年期病態治療論	1前		2		2		2		2
	老年看護援助論	1後		2		2		2		2
	老年看護サポートシステム論	1後		2		2		2		2
	老年看護学演習Ⅰ	1通		2		2		2		2
	老年看護学演習Ⅱ	1通		2		2	2			2
地域家族支援看護学領域	家族看護学特論	1前		2		2		2		2
	周産期看護論	1前		2		2		2		2
	母性看護学特論	1前		2		2		2		2
	ウィメンズヘルス看護論	1前		2		2		2		2
	周産期看護援助論Ⅰ	1前		2		2		2		2
	周産期看護援助論Ⅱ	1後		2		2		2		2
	周産期看護演習Ⅰ	1後～2前		2		2		2		2
	周産期看護演習Ⅱ	1後～2前		2		2		2		2
	小児看護学特論	1前		2		2		2		2
	小児と病気	1前		2		2		2		2
	発達障害看護論	前(隔・偶数年度)		2		2		2		2
	小児看護アセスメント論	1後		2		2		2		2
	小児看護学演習	1後～2前		2		2		2		2
	地域看護学特論	1前		2		2		2		2
	地域ケアシステム特論	1後		2		2		2		2
	地域母子保健論	前(隔・奇数年度)		2		2		2		2
	地域看護学演習	1後～2前		2		2		2		2
	在宅看護学特論Ⅰ	1前		2		2		2		2
	在宅看護学特論Ⅱ	1後		2		2		2		2
	在宅看護学演習	1後～2前		2		2		2		2
特別研究	特別研究	1～2通	8		8		8		8	
合計数			18	126	20	124	18	126	20	124

〈修了要件〉2年以上在学して所定の単位（32単位以上）を修得するとともに必要な研究指導を受け、学位論文を提出し、かつ最終試験に合格すること。
〈履修方法〉指導教員の指導のもと履修科目を選択し履修すること。必修科目をすべて履修し、専攻分野専門科目(人文社会学、臨床医学、社会医学は共通科目)から3科目6単位以上(必修科目を含む)を履修する。ただし実践支援看護学領域科目の「看護教育学特論Ⅰ」を受講することを推奨する。

区分	授業科目	配当年次	地域家族支援看護学領域									
			母性看護学		小児看護学		地域看護学		在宅看護学		社会医学	
			単位数		単位数		単位数		単位数		単位数	
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択
共通科目	看護倫理	1後	2		2		2		2		2	
	看護学研究方法論	1前	2		2		2		2		2	
	看護現任教育論	1後		2		2		2		2		2
	看護理論	1前	2		2		2		2		2	
	看護管理学	1後		2		2		2		2		2
	コンサルテーション論	1後		2		2		2		2		2
	看護政策論	1前		1		1		1		1	1	
	フィジカルアセスメント論	1前		2		2		2		2	2	
	臨床薬理学	1後		2		2		2		2		2
	病態生理学	1前		2		2		2		2	2	
	看護哲学	1後		2		2		2		2		2
	英語論文講読	1通		1		1		1		1	1	
実践支援看護学領域	看護教育学特論Ⅰ	1前		2		2		2		2		2
	看護教育学特論Ⅱ	1後		2		2		2		2		2
	看護教育学演習	1後		2		2		2		2		2
	看護技術開発学特論Ⅰ	1前		2		2		2		2		2
	看護技術開発学特論Ⅱ	1前		2		2		2		2		2
	看護技術開発学演習Ⅰ	1通		2		2		2		2		2
	看護技術開発学演習Ⅱ	1後～2前		2		2		2		2		2
療養生活支援看護学領域	移植・再生医療看護学特論Ⅰ	1前		2		2		2		2		2
	移植・再生医療看護学特論Ⅱ	1後		2		2		2		2		2
	移植・再生医療看護学演習	1後～2前		2		2		2		2		2
	がん看護学特論Ⅰ	1前		2		2		2		2		2
	がん看護学特論Ⅱ	1後		2		2		2		2		2
	がん看護学援助論Ⅰ	1前		2		2		2		2		2
	がん看護学援助論Ⅱ	1後		2		2		2		2		2
	がん看護学演習Ⅰ	1通		2		2		2		2		2
	がん看護学演習Ⅱ	1後～2前		2		2		2		2		2
	慢性看護学特論Ⅰ	1前		2		2		2		2		2
	慢性看護学特論Ⅱ	1前		2		2		2		2		2
	慢性看護援助論Ⅰ	1前		2		2		2		2		2
	慢性看護援助論Ⅱ	1後		2		2		2		2		2
	慢性看護学演習Ⅰ	1後		2		2		2		2		2
	慢性看護学演習Ⅱ	2前		2		2		2		2		2
	精神看護学特論Ⅰ	1前		2		2		2		2		2
	精神看護学特論Ⅱ	1前		2		2		2		2		2
	精神看護学特論Ⅲ	1後		2		2		2		2		2
	精神看護アセスメント論	1前		2		2		2		2		2
	精神看護学援助論Ⅰ	1後		2		2		2		2		2
	精神看護学援助論Ⅱ	1後		2		2		2		2		2
	精神看護学治療論	1後		2		2		2		2		2
	精神看護学演習	2前		2		2		2		2		2
	老年看護学特論	1前		2		2		2		2		2
	老年看護アセスメント論	1前		2		2		2		2		2
	老年期病態治療論	1前		2		2		2		2		2
	老年看護援助論	1後		2		2		2		2		2
	老年看護サポートシステム論	1後		2		2		2		2		2
	老年看護学演習Ⅰ	1通		2		2		2		2		2
	老年看護学演習Ⅱ	1通		2		2		2		2		2
地域家族支援看護学領域	家族看護学特論	1前	2		2		2		2			2
	周産期看護論	1前	2			2		2		2		2
	母性看護学特論	1前	2			2		2		2		2
	ウィメンズヘルス看護論	1前	2			2		2		2		2
	周産期看護援助論Ⅰ	1前	2			2		2		2		2
	周産期看護援助論Ⅱ	1後	2			2		2		2		2
	周産期看護演習Ⅰ	1後～2前		2		2		2		2		2
	周産期看護演習Ⅱ	1後～2前		2		2		2		2		2
	小児看護学特論	1前		2	2			2		2		2
	小児と病気	1前		2		2		2		2		2
	発達障害看護論	前(隔・偶数年度)		2		2		2		2		2
	小児看護アセスメント論	1後		2	2			2		2		2
	小児看護学演習	1後～2前		2	2			2		2		2
	地域看護学特論	1前		2		2	2			2		2
	地域ケアシステム特論	1後		2		2	2			2		2
	地域母子保健論	前(隔・奇数年度)		2		2		2		2		2
	地域看護学演習	1後～2前		2		2	2			2		2
	在宅看護学特論Ⅰ	1前		2		2		2	2			2
	在宅看護学特論Ⅱ	1後		2		2		2	2			2
	在宅看護学演習	1後～2前		2		2		2	2			2
特別研究	特別研究	1～2通	8		8		8		8		8	
合計数			26	118	22	122	22	122	22	122	20	124

〈修了要件〉2年以上在学して所定の単位（32単位以上）を修得するとともに必要な研究指導を受け、学位論文を提出し、かつ最終試験に合格すること。
〈履修方法〉指導教員の指導のもと履修科目を選択し履修すること。必修科目をすべて履修し、専攻分野専門科目（人文社会学、臨床医学、社会医学は共通科目）から3科目6単位以上（必修科目を含む）を履修する。ただし実践支援看護学領域科目の「看護教育学特論Ⅰ」を受講することを推奨する。

(2) 高度実践コース

2025 年度入学生用

区分	授業科目	配当年次	療養生活支援看護学領域												地域家族支援看護学領域					
			がん看護学			慢性看護学			精神看護学			老年看護学			小児看護学			プライマリケア看護学		
			単位数			単位数			単位数			単位数			単位数			単位数		
			必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択
共通科目	看護倫理	1後	2			2			2			2			2			2		
	看護学研究方法論	1前	2			2			2			2			2			2		
	看護現任教育論	1後		2			2			2			2			2			2	
	看護理論	1前	2			2			2			2			2			2		
	看護教育学特論Ⅰ	1前			2			2			2			2			2			2
	看護教育学特論Ⅱ	1後			2			2			2			2			2			2
	看護管理学	1後		2			2			2			2			2			2	
	コンサルテーション論	1後		2			2			2			2			2			2	
	看護政策論	1前		1			1			1			1			1		1		
	フィジカルアセスメント論	1前	2			2			2			2			2			2		
	臨床薬理学	1後	2			2			2			2			2			2		
	病態生理学	1前	2			2			2			2			2			2		
	看護哲学	1後			2			2			2			2			2			2
	英語論文講読	1通			1			1			1			1			1			1
療養生活支援看護学領域	がん看護学特論Ⅰ	1前	2					2			2			2			2			2
	がん看護学特論Ⅱ	1後	2					2			2			2			2			2
	がん病態治療論	1後	2					2			2			2			2			2
	がん看護学援助論Ⅰ	1前	2					2			2			2			2			2
	がん看護学援助論Ⅱ	1後	2					2			2			2			2			2
	がん看護学演習Ⅰ	1通	2					2			2			2			2			2
	がん看護学演習Ⅱ	1後～2前	2					2			2			2			2			2
	がん看護学実習Ⅰ	1後	2																	
	がん看護学実習Ⅱ	1後	2																	
	がん看護学実習Ⅲ	2前	3																	
	がん看護学実習Ⅳ	2前	3																	
	慢性看護学特論Ⅰ	1前			2	2					2			2			2			2
	慢性看護学特論Ⅱ	1前			2	2					2			2			2			2
	慢性看護アセスメント論	1後			2	2					2			2			2			2
	慢性看護援助論Ⅰ	1前			2	2					2			2			2			2
	慢性看護援助論Ⅱ	1後			2	2					2			2			2			2
	慢性看護学演習Ⅰ	1後			2	2					2			2			2			2
	慢性看護学演習Ⅱ	2前			2	2					2			2			2			2
	慢性看護学実習Ⅰ	1後				2														
	慢性看護学実習Ⅱ	2通				4														
	慢性看護学実習Ⅲ	2通				4														
	精神看護学特論Ⅰ	1前			2			2	2					2			2			2
	精神看護学特論Ⅱ	1前			2			2	2					2			2			2
	精神看護学特論Ⅲ	1後			2			2			2			2			2			2
	精神看護アセスメント論	1前			2			2	2					2			2			2
	精神看護学援助論Ⅰ	1後			2			2	2					2			2			2
	精神看護学援助論Ⅱ	1後			2			2	2					2			2			2
	精神看護学治療論	1後			2			2	2					2			2			2
	精神看護学演習	2前			2			2	2					2			2			2
	精神看護学実習Ⅰ	1後							2											
	精神看護学実習Ⅱ	1年後～2前							6											
	精神看護学実習Ⅲ	2通							2											
	老年看護学特論	1前			2			2			2	2					2			2
	老年看護アセスメント論	1前			2			2			2	2					2			2
	老年期病態治療論	1前			2			2			2	2					2			2
	老年看護援助論	1後			2			2			2	2					2			2
	老年看護サポートシステム論	1後			2			2			2	2					2			2
	老年看護学演習Ⅰ	1通			2			2			2	2					2			2
	老年看護学演習Ⅱ	1通			2			2			2	2					2			2
	老年看護学実習Ⅰ	1後										4								
	老年看護学実習Ⅱ	2前										4								
	老年看護学実習Ⅲ	2前										2								

区分	授業科目	配当年次	療養生活支援看護学領域												地域家族支援看護学領域					
			がん看護学			慢性看護学			精神看護学			老年看護学			小児看護学			プライマリケア看護学		
			単位数			単位数			単位数			単位数			単位数			単位数		
			必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択
地域家族支援看護学領域	家族看護学特論	1前			2			2			2			2	2					2
	周産期看護論	1前			2			2			2			2			2			2
	小児看護学特論	1前			2			2			2			2	2					2
	小児と病気	1前			2			2			2			2	2					2
	発達障害看護論	前(隔・偶数年度)			2			2			2			2	2					2
	小児看護アセスメント論	1後			2			2			2			2	2					2
	小児看護学演習	1後～2前			2			2			2			2	2					2
	小児看護学実習Ⅰ	1後													2					
	小児看護学実習Ⅱ	1後～2前													6					
	小児看護学実習Ⅲ	2通													2					
	地域母子保健論	前(隔・奇数年度)			2			2			2			2	2					2
	ヘルスプロモーション論	1前			2			2			2			2			2	2		
	医療の質保証と安全管理	1通			2			2			2			2			2	2		
	プライマリケア看護学特論Ⅰ	1前			2			2			2			2			2	2		
	プライマリケア看護学特論Ⅱ	1前			2			2			2			2			2	2		
	プライマリケア看護学特論Ⅲ	1後			2			2			2			2			2	2		
	プライマリケア看護学特論Ⅳ(小児)	1通			2			2			2			2			2	2		
	プライマリケア看護学特論Ⅴ(成人)	1前			2			2			2			2			2	2		
	プライマリケア看護学特論Ⅵ(老年)	1後			2			2			2			2			2	2		
	プライマリケア看護学特論Ⅶ(メンタルヘルス)	1通			2			2			2			2			2	2		
	プライマリケア看護学演習Ⅰ	1前			2			2			2			2			2	2		
	プライマリケア看護学演習Ⅱ	1後			2			2			2			2			2	2		
	プライマリケア看護学実習Ⅰ	1後																2		
	プライマリケア看護学実習Ⅱ	1後																2		
	プライマリケア看護学実習Ⅲ	2前																4		
	プライマリケア看護学実習Ⅳ	2前																2		
特別研究	課題研究	1後～2後	4			4			4			4			4			4		
合計			40	7	89	40	7	89	40	7	89	40	7	89	40	7	89	49	6	81

■がん看護学、慢性看護学、精神看護学、老年看護学、小児看護学専攻
〈修了要件〉2年以上在学して所定の単位（42単位以上）を修得するとともに必要な研究指導を受け、学位論文を提出し、かつ最終試験に合格すること。

〈履修方法〉指導教員の指導のもと履修科目を選択し履修すること。
専攻分野の必修科目をすべて履修し、かつ選択必修科目から1科目2単位以上を履修する。

■プライマリケア看護学専攻
〈修了要件〉2年以上在学して所定の単位（50単位以上）を修得するとともに必要な研究指導を受け、学位論文を提出し、かつ最終試験に合格すること。

〈履修方法〉指導教員の指導のもと履修科目を選択し履修すること。
専攻分野の必修科目をすべて履修し、かつ選択必修科目から1科目2単位以上を履修する。

博士前期課程
シラバス

授業科目名	看護倫理				
授業科目（英）	Nursing Ethics				
教員名	真継　和子、小林　道太郎、南口　陽子				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	後期	開講曜日	土曜 3 限、土曜 4 限		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	倫理学、看護倫理学の歴史的発展について概説し、看護実践の場で遭遇する倫理的諸問題を解決するための基盤となる倫理理論や倫理原則、諸概念について学修する。また、それらを活用し倫理的諸問題に関係する人びとの立場や背景を考慮した問題の分析、解決策の検討を通して倫理的判断ができる実践能力と倫理的調整能力を養う。さらに、より質の高い看護を行うために欠かせない看護研究ならびに看護教育における倫理的問題の分析をとおして、看護者が研究、教育を行う上での倫理観を養う。				
行動目標	①倫理的問題を分析するための倫理原則、概念について説明できる。 ②看護実践の場で遭遇する倫理的諸問題の概要と倫理的意思決定のための方法論について説明できる。 ③看護実践の場における倫理的問題を含む現象について分析し、倫理的問題の明確化および解決策の提案ができる。 ④看護研究活動における研究倫理の必要性と研究を行う上での基本的責務について説明できる。 ⑤看護教育活動における教育倫理の必要性と教育を行う上での基本的責務について説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、高度な実践力、教育・調整力				
評価並びにフィードバック法	プレゼンテーション、クラス討議への参加および貢献度、レポートなどにより総合的に評価する。フィードバックは、最終講義のなかで行う。				
教科書	サラ T. フライ＆メガン－ジェーン・ジョンストン著：看護実践の倫理 第 3 版 Ethics in Nursing Practice, International Council of Nurses, 2010（翻訳版、日本看護協会出版会） 神里彩子、武藤香織著：医学・生命科学の研究倫理ハンドブック，東京大学出版会，2015.				
参考書	ドローレス・ドゥーリー・ジョーン・マッカーシー（著），坂川雅子（訳）『看護倫理 1』『看護倫理 2』『看護倫理 3』みすず書房 グラディス L. ハステッド・ジェームス H. ハステッド（著），藤村龍子・樽井正義（訳）『臨床実践のための看護倫理』ほか、適時紹介する。				
事前準備受講要件等	予習、復習時間は 60 分以上とする。全講義において、プレゼンテーション、ディスカッションを実施するため、事前に配布するプレゼン資料を読んでおくこと。				
オフィスアワー	随時（事前にメールで連絡のこと）				
SDGs との関連	3，16，17				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	倫理学の基礎	倫理学一般について基本的な事項を論じ、規範倫理学の代表的な考え方を理解する。 予習：教科書第 2 章に目を通しておく。 復習：紹介した関連書籍・論文を読む。	小林
2	現代の倫理学の動向	看護倫理の背景となる現代の倫理学の展開および応用倫理学について、概要を理解する。 予習：第 1 回と同じ。 復習：第 1 回と同じ。	小林

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
3	看護専門職としての法的責任と看護倫理	医療法・保健師助産師看護師法等における看護職の位置づけと法的責任、医療事故や医療過誤における看護職の法的責任を理解する。また、看護倫理とは何かについて議論し、倫理的問題、倫理的ジレンマが生み出される状況について検討する。 予習：医療法、保健師助産師看護師法における看護職の位置づけと役割について整理する。『看護実践の倫理』第１章を読み、自分の経験から倫理的ジレンマを感じた状況を整理する。 復習：看護倫理の必要性について整理する。	真継
4	看護実践上の倫理的概念	看護実践上の倫理的概念である責務、アドボカシー、協力、ケアリングについて議論する。 予習：『看護実践の倫理』第３章、『ケアの本質』『アクト・オブ・ケアリング』を読む。 復習：看護実践上の倫理的概念を整理する。	真継
5	看護実践における倫理原則	看護実践における倫理原則に関する文献をまとめ、発表し、議論により理解を深める。 予習：『看護実践の倫理』第２章、第6～11章を読む。ICN倫理綱領、倫理原則（自律・善行・無危害・公平）について整理する。 復習：倫理原則について理解を深め、倫理原則を踏まえ提示事例を分析する。	真継
6	看護実践における倫理的意思決定	複雑化、多様化する臨床における倫理的問題にどのように対応するのか、倫理的意思決定モデルをもとに思考プロセスとアプローチ方法について理解し、その活用について議論する。 予習：倫理的意思決定モデルについて整理する。 復習：倫理的問題を解決するためのモデルやアプローチ方法について整理する。	真継
7	倫理調整（1）	倫理調整とは何かを理解し、事例をもとに倫理的課題の明確化、解決に向けた方策を検討する。 予習：倫理調整とはどのような実践かについて、事例をもとに倫理的課題を整理し、調整の方向性を検討する。 復習：看護実践場面における倫理調整のプロセスについてまとめる。	南口
8	倫理調整（2）	事例をもとに倫理的課題の明確化、解決に向けた方策を検討し、倫理調整のプロセスについて理解を深める。 予習：予習：倫理調整とはどのような実践かについて、事例をもとに倫理的課題を整理し、調整の方向性を検討する。 復習：看護実践場面における倫理調整のプロセスについてまとめる。	南口
9 10	看護研究における倫理	研究倫理の必要性とその背景、科学者の責務、研究の価値と責任について討議し、看護研究を行う上で生じる倫理的問題について倫理原則を適用し分析することで研究者としての行動規範について理解する。 予習：「人を対象とした医学系研究に関する倫理指針」を熟読する。 復習：研究における倫理的配慮について整理する。	真継

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
11	看護管理における倫理	組織のなかで構造的に生み出されるジレンマとその対応について理解する。 予習：看護管理者が感じる倫理的ジレンマについて、自分の経験もふくめ整理する。 復習：組織と個人の看護実践との関係について考察する。	真継
12	看護教育における倫理	教育倫理の必要性とその背景、教育者の責務について議論し、教育者としての行動規範について理解する。 予習：提示資料を熟読し、教育の場における倫理的諸問題について整理する。 復習：教育倫理の必要性と教育者としての基本的責務について整理する。	真継
13	倫理的課題・倫理的ジレンマへの対応（1）	事例を通して、看護実践場面における倫理的問題・課題の明確化、調整・解決への対処について議論する。 予習：提示事例を分析する。 復習：議論内容をもとに事例を再分析する。	真継 小林 南口
14	倫理的問題・倫理的ジレンマへの対応（2）	事例を通して、教育実践場面における倫理的問題・課題の明確化、調整・解決への対処について議論する。 予習：提示事例を分析する。 復習：議論内容をもとに事例を再分析する。	真継 小林 南口
15	まとめ	最終レポートをもとに議論する。 予習：学習内容を振り返り、課題レポートを作成する。 復習：議論内容をもとにレポートを再考する。	真継 小林 南口

授業科目名	看護学研究方法論				
授業科目（英）	Nursing Research Methodology				
教員名	草野　恵美子、小林　道太郎、大橋　尚弘、二宮　早苗、南口　陽子				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期	開講曜日	土曜 3 限、土曜 4 限		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	卓越した看護実践の推進・評価、看護学の発展に寄与するための研究方法とその研究プロセスを学習し、基本的な方法を基盤にして国内外の研究論文を批判的に分析し、研究を実施する能力を修得する。具体的には、看護実践の場で研究を進める上で必要な技法を文献検索方法、研究デザインの選択、研究方法（量的研究および質的研究の理論基盤）の理解、研究計画書の立案方法、論文の執筆方法を教授する。エビデンスとなる科学的根拠について理解し、研究成果を看護実践に活用する方略を創造する。				
行動目標	1. 看護学研究における倫理について理解できる。 2. 看護学研究における研究目的に合わせた方法論について選択できる。 3. 国内外の研究論文を批判的に読む方法について理解できる。 4. 講義を通して自身の研究と関連づけて考察し、疑問点や自身の研究へ活かす点について説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探究・研究遂行能力、高い倫理観、論理的・批判的思考力				
評価並びにフィードバック法	クラス討議への参加度および貢献度、レポートなどにより総合的に評価する。事前課題や疑問等については講義の中でフィードバックする。				
教科書	① D. F. ポーリット／ C. T. ベック，監訳:近藤　潤子（2010）看護研究　原理と方法　第 2 版，医学書院 ②大木秀一（2014）：文献検討レビューのきほん，医歯薬出版				
参考書	適時提示する				
事前準備受講要件等	下記に記載の予習（30 分以上）・復習（60 分以上）を行う。 なお一部、ディスカッションやプレゼンテーションなどのアクティブラーニングを導入する。				
オフィスアワー	木曜 15：00～17：00				
SDGs との関連	3，4，16				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～2	看護研究とは、看護研究過程 研究の問い、研究デザイン 看護研究計画書の立て方	オリエンテーション 看護研究過程　研究の一貫性 研究を進める上での倫理的配慮 研究の問いのたて方 研究計画書の立て方 最終レポートの課題提示 予習：教科書①第Ⅰ部第 1 章、第Ⅲ部 第 7 章 復習：教科書②第 1～3，5，7，11，13 章	草野
3	EBN と EBP	科学的根拠に基づくエビデンスとは 予習：教科書①第Ⅰ部 復習：教科書①第Ⅶ部第 27 章	草野
4	論文の書き方	論文の構成、書き方、用語の定義、適切な表現方法 予習：教科書①第Ⅵ部 復習：教科書②第 6 章	草野

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
5～6	文献検討（1）（2）	文献研究の方法　文献カード 検索したい内容にマッチしたキーワーズ 論文の読み方、文献のクリティーク 予習：教科書③第 1 章～4 章を読む 復習：指定の論文をクリティークする 関心領域のキーワーズで文献検索を行う	二宮
7	質的研究方法（1）	質的研究法の種類と特徴 予習：教科書①第Ⅰ部第 2，3 章 復習：教科書①第Ⅲ部第 11 章	大橋
8	質的研究方法（2）	面接と参加観察法　データ収集の方法 予習：教科書①第Ⅳ部 復習：教科書②第 9 章	大橋
9	文献検討（3）	文献のクリティーク、プレゼンテーション 予習：事前に出された課題 復習：関心領域の論文をクリティークする	二宮
10	質的研究方法（3）	グランデッドセオリーアプローチ 予習：グランデッドセオリーアプローチを用いた原著論文を読んでおく 復習：教科書①第Ⅴ部第 23 章	南口
11	量的研究方法（1）	質問紙の構成、データのフォーマット 予習：量的手法を用いた原著論文を読む 復習：教科書①第Ⅳ部第 18 章 教科書②第 9，10 章	二宮
12	量的研究方法（2）	適切な統計法の選択と結果の解釈 予習：教科書②第 12 章 復習：教科書①第Ⅴ部第 19～21 章	二宮
13～14	質的研究方法（4）（5）	現象学のみかた 現象学的アプローチ 予習：現象学を用いた原著論文を読む 復習：教科書①第Ⅴ部第 23 章	小林
15	看護実践への研究成果の活用	研究成果の実践への活用について討論 予習：事前に出された課題 復習：教科書①第Ⅶ部、教科書②第 13 章	全員

授業科目名	看護現任教育論				
授業科目（英）	Nursing Continuing Education				
教員名	池西　悦子、川北　敬美、日高　朋美、中山　サツキ（兼）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	後期	開講曜日	土曜１限、土曜２限		
科目区分	教育研究：選択 高度実践：選択必修	授業形態	講義		
一般目標	継続教育の一部として現職の看護職の資質向上を目的に教育方法と職場内人材育成体制づくり、職場外教育の位置づけ、人材育成の構築に必要な条件を理解する。看護ケアの質を高めるために必要な看護職への教育的働きかけ、教育環境づくり等継続教育に関する知識や技術を習得する。				
行動目標	1. 看護職を取り巻く社会や医療、教育制度の変遷を概観し、現任教育の現状と課題について考察できる。 2. 現任教育に必要な様々な理論を用いて現任教育の現状と課題を考察できる。 3. 学習理論に基づいた教育計画の立案方法を理解し、教育計画を立案できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	論理的・批判的思考力、教育実践力、高い倫理観				
評価並びにフィードバック法	プレゼンテーション，討議への参加・貢献，課題レポートを総合して評価する。 事前課題や疑問等へのフィードバックは、講義の中で解説を行っていく。				
教科書	適時、紹介する。				
参考書	適時、紹介する。				
事前準備受講要件等	討議に積極的に参加するために、これまでに体験した現任教育について振り返り、学習課題について事前学習した上で参加する。予習・復習は 60 分以上とする。				
オフィスアワー	土曜日　12 時～13 時				
SDGs との関連	3，4				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～2	継続教育とキャリア開発	看護職を取りまく社会、医療、教育制度の変化を概観し、継続教育の今日的意義と課題について討議する。また、キャリア開発の視点から継続教育のあり方について検討する。 予習：看護における継続教育･現任教育の目的､キャリアに関する理論について調べ、資料を作成する。 復習：講義内容をふまえ、看護継続教育の意義と課題をまとめる。	池西
3～4	成人学習理論 コーチング	成人の特性を踏まえた学習支援に関する理論を概観し、学習支援者の役割と学習支援方法について議論する。 コーチングの基本的な考え方とスキルについて理解を深める。 予習：成人学習理論、コーチングについて調べ、資料を作成する。 復習：講義および討議をふまえて、学習支援者の役割と支援方法について考察する。	川北

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
5～6	看護におけるリフレクション	リフレクションの概念、学習支援の方法を概観し、グループ・リフレクションの実際を通して有用性について検討する。 予習：実践における気がかりな経験について、リフレクションシートを作成する。 復習：講義と実際を通して、現任教育に定着させるための課題を考察する。	池西
7～8	現任教育の現状と課題	新人看護職教育、中堅看護職教育の現状と課題について議論する。現任教育におけるリソースナースの存在意義について議論する。 予習：新人看護職、および中堅看護職の継続教育について調べ、現状と課題について資料を作成する。 復習：今までの学習をふまえて、有効な継続教育にするための方策についてまとめる。	川北
9～10	継続教育計画の立案と評価①	看護継続教育の教育計画～評価の立案プロセスを学び、学習理論の活用について検討する。 予習：インストラクショナルデザインについて調べ、資料を作成する 復習：議論の内容を踏まえて、看護継続教育の計画立案プロセスを整理する。	日髙
11～12	継続教育計画の立案と評価②	看護継続教育の計画～評価の実際を学び、看護実践力の向上にむけた現状と課題について議論する。 予習：継続教育の基準 Ver.2 活用のためのガイドを読み、基本的プロセスと担当者の役割について疑問点を明らかにしておく。 復習：教育計画書に基づいて計画立案の続きを行う。	中山 （池西、 川北、 日髙）
13～14	継続教育計画の検討	各自が立案した継続教育計画を共有し、教育の質を高めるための課題・対策について議論する。 予習：各自の立案した継続教育計画についてプレゼンテーションできるように準備する。 復習：討議した内容をふまえて、教育の質を高めるための条件を整理する。	池西 川北 日髙
15	看護継続教育における課題と展望	学習内容を活用し、事例検討から課題の明確化と今後の方向性を提示する。 予習：学習内容から継続教育の課題と展望について資料を作成する。 復習：討議した内容をふまえて、継続教育における担当者の役割を考察する。	池西

授業科目名	看護理論				
授業科目（英）	Nursing Theory				
教員名	鈴木　久美				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期	開講曜日	土曜１限、土曜２限		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	卓越した看護実践の基盤となる看護における諸理論について理解を深めるために必要な知識を教授する。看護理論の発展過程を概観し、看護の現象を記述・説明・予測する理論の基本的構造について学習する。また、看護現象をとらえるために、看護における知を概観する。さらに、大理論や中範囲理論の中から特定の看護理論を分析、評価し、自らの実践事例への看護理論の適用を考察する。				
行動目標	1. 看護理論の発展過程を説明できる。 2. 看護理論の構成要素を説明できる。 3. 大理論や中範囲理論の内容が理解できる 4. 大理論や中範囲理論の分析・評価ができる。 5. 看護実践への看護理論の適用について説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、課題解決力（プレゼンテーション力）				
評価並びにフィードバック法	授業や討議への参加度および貢献度、プレゼンテーション、レポートなどにより総合的に評価する。				
教科書	①筒井真由美（編）(2015)，看護理論家の業績と理論評価，医学書院 ② Jacqueline Fawcett, 太田喜久子他訳（2008）：看護理論の分析と評価，医学書院				
参考書	野川道子（編）(2016)：看護実践に活かす中範囲理論，メヂカルフレンド社 野嶋佐由美（編）(2021)：看護学の概念と理論，日本看護協会出版会				
事前準備受講要件等	適時、紹介する。 予習復習は各 60 分以上とする。				
オフィスアワー	授業日の前後の時間				
SDGs との関連	3，4，9，16，17				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	理論とは（1）	科学における理論構築の方法　看護理論の発展過程について教授する。 予習：教科書①Ⅰ部 1〜4 章を熟読する 復習：用語「理論」「概念」についてまとめる	鈴木
2	理論とは（2）	看護学の学問的特性、代表的な看護理論の分類と構成要素について教授する。 予習：理論の構成要素について調べる 復習：概念の大きさについてまとめる	鈴木
3	看護理論の分析と評価（1）	看護理論の分析と評価の方法について教授する。 予習：教科書②第 2 章を熟読する。 復習：代表的な看護理論の中から理論家を選択する。	鈴木
4	看護理論の分析と評価（2）	看護理論の評価の方法について教授する。 看護理論の選択について討議する。 予習：各自で関心ある理論を考えてくる 復習：理論分析の準備をする	鈴木

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
5	大理論の理解（1）	大理論（セルフケア不足理論、ロイ適応モデル、システムモデル、目標達成理論など）の中から、選択した看護理論の理解を深めるために、理論家の背景、理論の源泉、理論の焦点、前提の内容についてプレゼンテーションを行い、討議する。 予習：プレゼンテーションの準備 復習：授業課題のまとめ	鈴木
6	大理論の理解（2）	大理論（セルフケア不足理論、ロイの適応モデル、システムモデル、目標達成理論など）の中から、選択した看護理論の主要概念と定義、主要概念間の命題、理論の特徴についてプレゼンテーションを行い、討議する。 予習：プレゼンテーションの準備 復習：授業課題のまとめ	鈴木
7	中範囲理論の理解（1）	中範囲理論（人間対人間の看護､ケアリング､ベナー看護論、文化ケアの多様性と普遍性、コンフォート理論など）の中から、選択した看護理論の理解を深めるために、理論家の背景、理論の源泉、理論の焦点、前提の内容についてプレゼンテーションを行い、討議する。 予習：プレゼンテーションの準備 復習：授業課題のまとめ	鈴木
8	中範囲理論の理解（2）	中範囲理論（人間対人間の看護､ケアリング､ベナー看護論、文化ケアの多様性と普遍性、コンフォート理論など）の中から、選択した看護理論の主要概念と定義、主要概念間の命題、理論の特徴についてプレゼンテーションを行い、討議する。 予習：プレゼンテーションの準備 復習：プレゼンテーションを踏まえてレポートを作成する。	鈴木
9	大理論の分析・評価（1）	大理論（セルフケア不足理論、ロイの適応モデル、システムモデル、目標達成理論など）の中から、各自で選択した看護理論を分析（理論の範囲、背景、内容）した内容についてプレゼンテーションを行い、討議する。 予習：プレゼンテーションの準備 復習：授業課題のまとめ	鈴木
10	大理論の分析・評価（2）	大理論（セルフケア不足理論、ロイの適応モデル、システムモデル、目標達成理論など）の中から、各自で選択した看護理論を評価（内容の評価､経験的･実践的適切性の評価）した内容についてプレゼンテーションを行い、討議する。 予習：プレゼンテーションの準備 復習：授業課題のまとめ	鈴木
11	中範囲理論の分析・評価（1）	中範囲理論（人間対人間の看護､ケアリング､ベナー看護論、文化ケアの多様性と普遍性、コンフォート理論など）の中から、各自で選択した看護理論を分析（理論の範囲、背景、内容）した内容についてプレゼンテーションを行い、討議する。 予習：プレゼンテーションの準備 復習：授業課題のまとめ	鈴木

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
12	中範囲理論の分析・評価（2）	中範囲理論（人間対人間の看護、ケアリング、ベナー看護論、文化ケアの多様性と普遍性、コンフォート理論など）の中から、各自で選択した看護理論を評価（内容の評価、経験的・実践的適切性の評価）した内容についてプレゼンテーションを行い、討議する。	鈴木
13	看護実践への看護理論の適用（1）	各自の実践事例をもとに、選択した看護理論に基づいて患者（クライエント）に起こっている現象や看護実践を解釈･分析し、その内容をプレゼンテーションし、看護実践への適用について討議する。 予習：プレゼンテーションの準備 復習：授業課題のまとめ	鈴木
14	看護実践への看護理論の適用（2）	各自の実践事例をもとに、選択した看護理論に基づいて患者（クライエント）に起こっている現象や看護実践を解釈･分析し、その内容をプレゼンテーションし、看護実践への適用について討議する。 予習：プレゼンテーションの準備 復習：授業課題のまとめ	鈴木
15	まとめ	各自の実践事例のプレゼンテーションを踏まえ課題レポートを作成する。 予習：課題レポートのテーマの準備 復習：課題レポートの作成	鈴木

授業科目名	看護管理学				
授業科目（英）	Nursing Administration				
教員名	川北　敬美、池西　悦子、草野　恵美子、杣木　佐知子、寺口　佐與子、中山　サツキ（兼）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	後期	開講曜日	土曜 1 限、土曜 2 限		
科目区分	教育研究：選択 高度実践：選択必修	授業形態	講義		
一般目標	保健・医療・福祉の動向を概観し、看護管理の基本的理論とその応用について学ぶ。効率的・効果的な看護サービスを提供していくための組織管理、多職種との協働・調整、安全管理、高度実践看護師として組織管理への協働、高度実践看護師等の人的活用、情報システムについて理解し、看護の質向上に寄与する看護管理のあり方を考察する。				
行動目標	1. 効率的・効果的な看護サービスを提供していくための組織、多職種との協働・調整、高度実践看護師等の人的活用、情報システムについて説明することができる。 2. 看護実践における課題を分析し、看護の質を高めるための実践計画を立案することができる。 3. 看護における安全管理、災害時の危機管理について、考察することができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探求心、創造力、専門職としての実践力、多職種と連携する力、自己研鑽力				
評価並びにフィードバック法	レポート 60%　講義での参加態度とプレゼンテーション 40% 課題に対して講義中に解説・講評する。				
教科書	適宜紹介する				
参考書	講義内で提示する				
事前準備受講要件等	特になし 予習復習は各 60 分以上とする				
オフィスアワー	別途指示する。				
SDGs との関連	3, 4, 5, 8, 11				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	看護管理の変遷	看護管理の定義、看護制度・看護行政の歴史から看護管理の変遷を概観し、社会構造の変化に伴う看護職の役割について議論する。 予習：管理の定義を調べ、自身の管理に関する経験を内観しまとめる。 復習：講義内容を踏まえ、看護管理上の課題についてまとめる。	川北
2	保健・医療・福祉政策の動向	保健・医療・福祉政策の動向および行政看護領域の役割を理解し、看護職の機能について議論する。 予習：保健・医療・福祉制度および関連法規について調べる。 復習：保健・医療・福祉政策施策と看護実践上の課題の関連についてまとめる。	草野
3	組織マネジメント論	組織に関する諸理論や諸説について概観し、組織における管理者および高度実践看護師の役割、多職種との協働・調整について議論する。 予習：組織論について調べる。 復習：所属組織の組織分析を行う。	川北

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
4	看護サービスマネジメント論	サービスの基本概念および質評価の方法を教授し、安全管理のあり方や看護のアウトカムについて議論する。 予習：医療・看護サービスの特徴について調べる。 復習：所属組織の看護サービスの課題分析を行う。	川北
5	看護管理における理論の応用（1）	リーダーシップ論について概観し、看護管理実践への応用について議論する。 予習：リーダーシップの概念について調べる。 復習：リーダーシップの事例適用をまとめる。	池西
6	看護管理における理論の応用（2）	モチベーション論について概観し、看護管理実践への応用について議論する。 予習：モチベーションの概念について調べる。 復習：モチベーションの事例適用をまとめる。	池西
7	看護管理における理論の応用（3）	変革理論・組織開発について概観し、看護管理実践への応用について議論する。 予習：組織のライフサイクル、組織開発の手法、変革理論について調べる。 復習：組織開発、組織変革の事例適用をまとめる。	川北
8	看護管理における理論の応用（4）	ワーク・ライフ・バランスの定義およびそれに関連した概念について概観し、看護管理実践への応用について議論する。 予習：ワーク・ライフ・バランスの概念について調べる。 復習：ワーク・ライフ・バランスの事例適用をまとめる。	川北
9	人的資源活用と組織マネジメント(1)	キャリア開発、クリニカルラダー、高度実践看護師等の活用および多職種との協働の実際について理解し、効果的な人的資源活用について議論する。 予習：看護師のキャリア開発に関する文献を検討してくる 復習：離職予防対策を整理する	中山
10	人的資源活用と組織マネジメント(2)	組織の労務管理、看護業務管理、医薬品管理、タイムマネジメント、ストレスマネジメントについて教授する。 予習：労務管理に関する文献を検討してくる 復習：離職予防対策を整理する	中山
11	看護管理にいかす情報システム	ICT や AI 技術を用いた実際の活用事例を教授し、身近な看護実践上の課題解決について議論する。 予習：PHR（Personal Health Record 個人健康記録）について調べる。 復習：ICT や AI を活用した看護を取り巻く課題解決を考察する。	杣木
12	健康危機管理	災害等による健康危機に対応するために、平常時から危機発生時、復興期の各フェーズにおいて求められる危機管理について議論する。 予習：災害時における保健医療福祉対策の現状に関する資料等から課題を検討してくる 復習：現状の改善策を考察する	寺口

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
13	看護管理と経営	医療保険制度、介護保険制度、診療報酬、医療経営指標等、医療制度改革と病院経営の概要について学び、経営の視点から看護管理上の課題について議論する。 予習：医療保険制度、介護保険制度、診療報酬制度について調べる。 復習：経営における看護管理上の課題をまとめる。	中山
14～15	看護管理実践計画立案	これまでの実践活動において、改善や改革が必要な管理に関する課題を分析し、目標及びその実践計画を立案する。 各自が立案した看護管理実践計画を共有し、看護の質を高めるための実践計画についてまとめる。 予習：看護実践上の課題とあるべき姿について検討し、組織の現状分析を行い、看護管理実践計画を立案する。 復習：討議した内容を踏まえて、看護管理実践計画を修正する。	川北 池西

授業科目名	コンサルテーション論				
授業科目（英）	Consultation				
教員名	山岡　由実、原田　かおる、八尾　みどり（兼）、新田　和子（非）、 市川　百香里（非）、勝原　裕美子（非）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	後期	開講曜日	土曜 5 限、土曜 6 限		
科目区分	教育研究：選択 高度実践：選択必修	授業形態	講義		
一般目標	看護におけるコンサルテーションの概念、プロセス、実践モデル、技法、また、チーム医療におけるコンサルテーションの役割と機能に関する知識と技能を習得する。また、コンサルテーションの実際を学び、事例を通して、高度実践看護師としてのコンサルテーションの具体的な展開方法を学修する。				
行動目標	1. コンサルテーションの概念、プロセス、役割機能を理解できる。 2. コンサルテーションの対象、タイプ、実践モデルを理解できる。 3. 高度実践看護師が行うコンサルテーションの実際を知り、コンサルタントとしての具体的な展開方法と特徴を理解する。 4. 高度実践看護師が実施するコンサルテーションの今後の課題や方向性について考察できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、看護実践力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	クラス討議への参加度および貢献度、プレゼンテーション、レポートなどにより総合的に評価する。				
教科書	G.Lippitt & R.Lippitt（1994）. The Consulting Process in Action,Second Edition.John Wiley & Sons. 他ガイダンス時に紹介				
参考書	井部俊子編：専門看護師の思考と実践. 医学書院. 2015 日本精神科技術協会監：実践精神科看護テキスト〈改訂版〉第 5 巻 コンサルテーション／リーダーシップ（実践精神科看護テキスト〈基礎・専門基礎編〉改訂版 第 5 巻）. 精神看護出版, 2011. その他、随時紹介				
事前準備受講要件等	提示する教科書及び文献をもとに予習・復習し、主体的に授業に参加すること。予習、復習は 60 分以上。				
オフィスアワー	メールにて適宜対応				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	コンサルテーションの背景	オリエンテーション及びコンサルテーションの歴史 予習：教科書該当部分に目を通し、整理する 復習：講義内容をふまえ、課題について学びを整理・統合する	山岡
2	コンサルテーションの概念とプロセス、役割機能	コンサルテーションの概念 コンサルテーション・プロセス コンサルタントの役割 予習：教科書該当部分に目を通し、整理する 復習：講義内容をふまえ、課題について学びを整理・統合する	山岡

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
3	コンサルテーションのタイプとモデル	コンサルテーションのタイプと実践モデル ・コンサルテーションのタイプ（課題適応型、プロセス適応型） ・4つの実践モデル 予習：教科書該当部分に目を通し、整理する 復習：講義内容をふまえ、課題について学びを整理・統合する	山岡
4	コンサルテーションの実践モデル(1)	事例検討 クライアント中心の事例についてのコンサルテーション 予習：事例を用いてプレゼンテーション資料を作成する 復習：講義内容をふまえて事例の再分析を行い、学びを整理する	山岡
5	コンサルテーションの実践モデル(2)	事例検討 コンサルティ中心の事例についてのコンサルテーション 予習：事例を用いてプレゼンテーション資料を作成する 復習：講義内容をふまえて事例の再分析を行い、学びを整理する	山岡
6	コンサルテーションの実践モデル(3)	事例検討 プログラム中心の管理に関するコンサルテーション 予習：事例を用いてプレゼンテーション資料を作成する 復習：講義内容をふまえて事例の再分析を行い、学びを整理する	山岡
7	コンサルテーションの実践モデル(4)	事例検討 コンサルティ中心の管理に関するコンサルテーション 予習：事例を用いてプレゼンテーション資料を作成する 復習：講義内容をふまえて事例の再分析を行い、学びを整理する	山岡
8	コンサルテーションの演習（1）	コンサルテーションのロールプレイング ・状況分析から問題の明確化まで 予習：各自の事例が提示できるように準備する 復習：事例及び自己の課題を整理する	山岡
9	コンサルテーションの演習（2）	コンサルテーション・プロセスのロールプレイング ・状況分析から問題の明確化まで 予習：各自の事例が提示できるように準備する 復習：事例及び自己の課題を整理する	山岡
10	コンサルテーションの実際（1）	リエゾン精神看護におけるコンサルテーションの実際 予習：提示した資料・文献を整理する 復習：授業をもとに学びを整理する	新田

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
11	コンサルテーションの実際（2）	クリティカル看護領域におけるコンサルテーションの実際 予習：提示された事例を各自検討しまとめる。授業当日にプレゼン、ディスカッションできる準備をしておく 復習：事例検討で議論した内容もふまえて、復習しておく	八尾
12	コンサルテーションの実際（3）	家族支援看護領域におけるコンサルテーションの実際 予習：家族エンパワーメントについて調べてくる 復習：講義内容をふまえ理解を深める	市川
13	コンサルテーションの実際（4）	慢性疾患看護領域におけるコンサルテーションの実際 予習：提示した事例について考えてくる 復習：事例検討から学びをまとめる	原田
14	コンサルテーションの実際（5）	組織への外部コンサルテーション 予習：組織への外部コンサルテーションをイメージしたときの、自身の課題について箇条書きで考えておく 復習：それらの課題についてどのような対応が可能なのかを考える（A4　1枚1200字程度）	勝原
15	まとめ	高度実践看護師によるコンサルテーションの課題と方向性 予習：これまでの授業を振り返り、学びと自己の課題についてまとめる 復習：議論内容を踏まえて事例の再分析を行い、学びと課題を整理してレポートを作成する	山岡

授業科目名	看護政策論				
授業科目（英）	Nursing Policy				
教員名	市村　尚子（非）				
単位数	1	時間数	15	学年	1
開講期	前期	開講曜日	土曜 3 限、土曜 4 限		
科目区分	教育研究：選択 高度実践：選択必修	授業形態	講義		
一般目標	保健医療福祉政策の基本的な枠組み、法律や諸制度の成立過程、看護政策の歴史について理解し、さらにより良い医療・看護のために改革・改善に取り組むための基本的知識と展開能力を修得する。				
行動目標	1. 保健医療福祉政策と看護サービス提供に関する政策の変遷を社会的背景から説明できる。 2. 保健医療福祉政策の決定過程を説明できる。 3. 保健、医療、福祉政策の動きをふまえ、看護職の政策課題を考察する。 4. 身近な看護政策の課題を取り上げ、現状を変えるための方法を考え企画できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、看護実践力、教育・調整力、課題解決力、プレゼンテーション力				
評価並びにフィードバック法	クラス討議への参加度および貢献度（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）により総合的に評価する。				
教科書	なし				
参考書	・見藤隆子　石田昌宏　大串正樹　北浦暁子　伊勢田暁子：看護職者のための政策過程入門 第 2 版、日本看護協会出版会、2017 年 ・福井トシ子　齋藤訓子　小野田舞：令和 4 年度改定対応 診療報酬・介護報酬のしくみと考え方　第 6 版、日本看護協会出版会、2022 年 ・角田由佳：看護サービスの経済・政策論　第 2 版、医学書院、2020 年 ・野村陽子：看護制度と政策、法政大学出版局、2015 年				
事前準備受講要件等	予習、復習への取り組み				
オフィスアワー	授業日の 12〜13 時と授業後				
SDGs との関連	3，4，8				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	保健医療福祉政策の動向と背景	保健医療福祉政策のこれまでの動向とその社会的背景 日本の保健医療福祉政策の体系 医療保険、介護保険の現状と未来 医療政策と看護政策の関連 予習：指定・配布した文献を読む 復習：レポートをまとめる	市村
2	看護政策の意義と策定過程	看護を取り巻く制度・政策の決定プロセスとその影響、意義 保健師助産師看護師法の成立過程，その後の法律 予習：指定・配布した文献を読む 復習：レポートをまとめる	市村
3	医療制度における看護政策の現状と課題（1）	看護職者に関する法令や政策 予習：指定・配布した文献を読む 復習：レポートをまとめる	市村

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
4	医療制度における看護政策の現状と課題（2）	高度実践看護師に必要な医療保険政策と看護政策 高度実践看護師としての制度上の現状と課題整理 予習：指定・配布した文献を読む 復習：レポートをまとめる	市村
5	看護政策策定の能力（1）	保健医療福祉制度に対する課題抽出 課題解決に向けた政策立案 予習：後日、提示する 復習：企画書（案）を提出する	市村
6	看護政策策定の能力（2）	看護政策策定に必要な事業化の企画・評価、プレゼンテーション 予習：後日、提示する 復習：企画書（案）を提出する	市村
7	看護政策の課題と展開シミュレーション	現在看護職において課題となっているものから今後の政策の在り方を検討する 予習：後日、提示する 復習：レポートをまとめる	市村
8	まとめ	各自看護政策について看護の質を高めるための政策を提案する 予習：後日、提示する 復習：レポートをまとめる	市村

授業科目名	フィジカルアセスメント論				
授業科目（英）	Physical Assessment				
教員名	安田　稔人、津田　泰宏、寺口　佐與子、大橋　尚弘、谷水　名美				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期	開講曜日	土曜５限、土曜６限		
科目区分	教育研究：選択 高度実践：必修	授業形態	講義		
一般目標	複雑な健康問題をもった対象の身体状況を診査し、臨床看護判断を行うために必要な知識と技術について教授する。基本的な診察手技を用いて、循環器系、呼吸器系、消化器系、腎泌尿器系、内分泌代謝系、中枢神経系、運動器（筋骨格）系疾患の徴候、身体所見を把握できる知識と技術を教授する。適切な身体診査（フィジカルイグザミネーション）の方法を用い、統合して対象の健康状態／生命・生活過程における複雑な状況を全体的な見地から的確にアセスメントし、看護実践に活用できる能力を養う。				
行動目標	①複雑な健康問題をもつ患者に対する、高度な診察手技（バイタルサイン、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、中枢神経系、運動系）を学習し、高度実践看護師としての的確な臨床判断につなげることができる。 ②高度実践看護師として身体診察（検査結果も含む）を通してより高度に身体状況をアセスメントでき、的確な臨床看護判断を行い医療チームの中心として他職種と連携できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、発信力				
評価並びにフィードバック法	出席・参加状況、発表、レポートによる。				
教科書	特に指定しない。				
参考書	フィジカルアセスメントメント　ナースに必要な診断の知識と技術　第４版　日野原重明編集　医学書院 フィジカルアセスメントガイドブック　目と手と耳でここまで分かる　第２版　山内豊明　医学書院				
事前準備受講要件等	予習と復習（各１時間程度）を行うこと。「病態生理学」の科目を並行して受講していることが望ましい。				
オフィスアワー	木曜日　16：00～17：00（メールで時間予約してください）				
SDGsとの関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	バイタルサインの臨床的意義	意識レベル、呼吸、脈拍、血圧、体温の臨床的意義についてスライドを用いて講義する 予習：バイタルサインを測定するための手技の確認とその意義を調べておく 復習：配布した課題について調べ、発表準備を行う	津田
2	フィジカルアセスメント総論	視診、触診、打診、聴診の各手技の確認とその臨床的意義についてスライドを用いて講義する 予習：基本的なフィジカルイグザミネーションの手技の確認とその意義を調べておく 復習：配布した課題について調べ、発表準備を行う	津田
3	課題学習発表（1）	事例を用いたバイタルサインやフィジカルアセスメントの課題に対して発表を行い、フィードバックを受けることで症状に対応した診察の進め方を学ぶ 予習：事前配布されている課題について調べて、発表準備を行う。 復習：発表した課題について教員のフィードバックもふまえて再度整理してまとめる	安田 津田 寺口 大橋 谷水

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
4	超音波機器の使い方	超音波機器の使い方を実機とシミュレーターを用いて講義する。 予習：基本的な腹部臓器の位置などを事前に調べておく。 復習：配布した課題について調べ、発表準備を行う	津田
5	消化器のフィジカルアセスメント	消化器系疾患の身体所見の取り方の確認とその臨床的意義についてスライドを用いて講義する 予習：基本的な消化器系疾患の身体所見の取り方を確認しその意義を調べておく 復習：配布した課題について調べ、発表準備を行う	津田
6	呼吸器のフィジカルアセスメント	呼吸器系疾患の身体所見の取り方の確認とその臨床的意義についてスライドを用いて講義する 予習：基本的な呼吸器系疾患の身体所見の取り方を確認しその意義を調べておく 復習：配布した課題について調べ、発表準備を行う	谷水
7	課題学習発表（2）	消化器系、呼吸器系疾患の事例を用いた課題に対して発表を行い、フィードバックを受けることで症状に対応した診察の進め方、異常所見と病態を学ぶ 予習：事前配布されている課題について調べて、発表準備を行う。 復習：発表した課題について教員のフィードバックもふまえて再度整理してまとめる	安田 津田 寺口 大橋 谷水
8	中枢神経系のフィジカルアセスメント	中枢神経系疾患の身体所見の取り方の確認とその臨床的意義について講義する 予習：事前配布されている課題について調べて、発表準備を行う。 復習：発表した課題について教員のフィードバックもふまえて再度整理してまとめる	津田
9	循環器のフィジカルアセスメント(1)	循環器系疾患の身体所見の取り方の確認とその臨床的意義について講義する 予習：基本的な循環器系疾患の身体所見の取り方を確認しその意義を調べておく 復習：配布資料を参考に講義の内容を振り返り整理する。もし疑問点があればまとめておく	津田
10	循環器のフィジカルアセスメント(2)	循環器系疾患の身体所見の取り方の確認とその臨床的意義について講義する（その 2） 予習：基本的な循環器系疾患の身体所見の取り方を確認しその意義を調べておく 復習：配布資料を参考に講義の内容を振り返り整理する。もし疑問点があればまとめておく。	津田
11	代謝・内分泌疾患のフィジカルアセスメント	代謝・内分泌疾患の身体所見の取り方の確認とその臨床的意義について講義する。 予習：基本的な循環器系疾患の身体所見の取り方を確認しその意義を調べておく。 復習：配布した課題について調べ、発表準備を行う	津田
12	腎泌尿器、生殖器疾患のフィジカルアセスメント	腎泌尿器系疾患、生殖器系疾患の身体所見の取り方の確認とその臨床的意義について講義する。 予習：基本的な循環器系疾患の身体所見の取り方を確認しその意義を調べておく。 復習：配布した課題について調べ、発表準備を行う	津田

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
13	課題学習発表（3）	循環器、泌尿器、生殖器、代謝・内分泌疾患の事例を用いた課題に対して発表を行い、フィードバックを受けることで症状に対応した診察の進め方、異常所見と病態を学ぶ。 予習：事前配布されている課題について調べて、発表準備を行う。 復習：発表した課題について教員のフィードバックもふまえて再度整理してまとめる	安田 津田 寺口 大橋 谷水
14	運動器（筋骨格）系のフィジカルアセスメント	運動器（筋骨格）系疾患の身体所見の取り方の確認とその臨床的意義について講義する 予習：基本的な運動器疾患の身体所見の取り方を確認し、その意義を調べておく。 復習：配布した課題について調べ、発表準備を行う。	安田
15	課題学習発表（4）	中枢神経、運動器系疾患の事例を用いた課題に対して発表を行い、フィードバックを受けることで症状に対応した診察の進め方、異常所見と病態を学ぶ 予習：事前配布されている課題について調べて、発表準備を行う。 復習：発表した課題について教員のフィードバックもふまえて再度整理してまとめる	安田 津田 寺口 大橋

授業科目名	臨床薬理学				
授業科目（英）	Clinical Pharmacology				
教員名	津田　泰宏、安田　稔人、髙井　真司（兼）、矢野　貴人（兼）、上田　育子（兼）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	後期	開講曜日	土曜３限、土曜４限		
科目区分	教育研究：選択 高度実践：必修	授業形態	講義		
一般目標	薬物の作用機序、代謝、排泄、年齢、遺伝的影響やアレルギーなどの薬物総論と緊急応急処置、症状調整、慢性疾患管理などに必要な薬物及び代表的な循環器系、呼吸器系、消化器系疾患の薬物についての機序や使い方を教授する。服薬指導、投与後のモニタリング、副作用の予防や早期発見、患者の服薬コンプライアンスや回復力の向上を図るといった、看護実践の場におけるさまざまな局面で適切な臨床看護判断をくだすための能力を養う。				
行動目標	①薬物の作用機序、薬効に影響する因子、投与経路、体内分布、代謝、排泄の知識をもつ。 ②病態生理学的知識に基づいた主要な薬剤（緊急応急処置や症状調整、慢性疾患管理に必要な薬剤を含む）の薬理作用や有害作用などを理解し、高度実践看護師として服薬指導や投与後のモニタリング、副作用の予防や早期発見など看護実践の場で適切な判断ができる。 ③処方箋や添付文書、医薬品情報などの知識をもち、臨床の場で高度実践看護師として適切な判断ができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、教育実践力				
評価並びにフィードバック法	出席・参加状況、発表、レポートによる。				
教科書	特に指定しない。				
参考書	ナーシング・グラフィカ　疾病の成り立ち②　臨床薬理学 今日の治療薬 2016　南江堂				
事前準備受講要件等	予習と復習（各１時間程度）を行うこと。				
オフィスアワー	土曜日　12：30～13：00				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	薬理作用	薬物の作用機序について講義する。 予習：どのようにして薬物が創薬されているかに関して事前に調べておく。 復習：授業で得られた知識をケアに応用できるようにまとめる。	髙井
2	薬物動態学	薬物の投与経路、体内分布、代謝、排泄について講義する。 予習：薬物の代謝、排泄に関して事前に調べる。 復習：授業で得られた知識をケアに応用できるようにまとめる。	髙井
3	抗感染症薬	抗生物質、抗ウィルス薬、抗真菌薬について講義する。 予習：主要な感染症に関して事前に調べておく。 復習：授業で得られた知識をケアに応用できるようにまとめる。	矢野
4	抗がん薬	抗がん薬、抗がん作用の機序について講義する。 予習：抗がん薬の種類など関して事前に調べておく。 復習：授業で得られた知識をケアに応用できるようにまとめる	矢野

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
5	薬効に影響する因子	年齢、遺伝的素因、反復投与、薬物アレルギーなどについて講義する。 予習：年齢や遺伝的要因と薬物代謝の関係を調べる。 復習：授業で得られた知識をケアに応用できるようにまとめる。	髙井
6	薬物の有害作用	薬物に関する副作用の発生機序、ハイリスクグループ、ED50 と LD50 などについて講義する。 予習：薬物の副作用に関して調べておく。 復習：授業で得られた知識をケアに応用できるようにまとめる。	髙井
7	呼吸器系治療薬・抗アレルギー薬	気管支喘息治療薬、抗ヒスタミン薬について講義する。 予習：気管支喘息、アレルギー性疾患に関して事前に調べておく。 復習：授業で得られた知識をケアに応用できるようにまとめる。	矢野
8	抗炎症薬	非ステロイド性抗炎症薬、ステロイド薬について講義する。 予習：非ステロイド性炎症薬、ステロイド薬に関して事前に調べておく。 復習：授業で得られた知識をケアに応用できるようにまとめる。	矢野
9	循環器系治療薬	高血圧症治療薬、狭心症治療薬、利尿薬、高脂血症治療薬について講義する。 予習：高血圧、狭心症、脂質異常症に関して事前に調べておく。 復習：授業で得られた知識をケアに応用できるようにまとめる	矢野
10	代謝・内分泌系治療薬	糖尿病治療薬、脂質異常症治療薬、骨粗鬆症治療薬について講義する。 予習：糖尿病、脂質異常症、骨粗鬆症に関して事前に調べておく。 復習：授業で得られた知識をケアに応用できるようにまとめる。	矢野
11	医薬品に関する情報	処方箋、医薬品添付文書、医薬品情報などについて講義する。 予習：処方箋、医薬品添付文書など関して事前に調べておく。 復習：授業で得られた知識をケアに応用できるようにまとめる。	津田
12	臨床における薬物使用の実際 1	主に消化管系疾患（他領域も含む）の薬物の機序や臨床的な使い方、服薬指導や投与後のモニタリングに関して講義する。 予習：主な消化管疾患に関して事前に調べておく。 復習：授業で得られた知識をケアに応用できるようにまとめる。	津田
13	臨床における薬物使用の実際 2	主に肝胆膵系疾患（他領域も含む）の薬物の機序や臨床的な使い方、服薬指導や投与後のモニタリングに関して講義する。 予習：主な肝胆膵疾患に関して事前に調べておく。 復習：授業で得られた知識をケアに応用できるようにまとめる。	津田

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
14	臨床における薬物使用の実際 3	運動器系疾患治療薬に関して、服薬指導や投与後のモニタリングも含めて講義する。 予習：主な運動器系疾患に関して事前に調べておく。 復習：授業で得られた知識をケアに応用できるようにまとめる。	安田
15	臨床における薬物使用の実際 4	鎮痛薬、オピオイドの臨床的な使い方について、服薬指導や投与後のモニタリングも含めて講義する。 予習：がん疼痛に使用する鎮痛薬に関して事前に調べておく。 復習：授業で得られた知識をケアに応用できるようにまとめる。	上田

授業科目名	病態生理学				
授業科目（英）	Pathophysiology				
教員名	津田　泰宏、安田　稔人、寺口　佐與子、大橋　尚弘、谷水　名美				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期	開講曜日	土曜５限、土曜６限		
科目区分	教育研究：選択 高度実践：必修	授業形態	講義		
一般目標	症状・徴候の病態生理学を概説し、次にエビデンスに基づき、症状・徴候から対象の病態生理学的変化を解釈、判断するための必要な知識と技術について教授する。さらに、循環器、呼吸器、消化器、神経、代謝内分泌系の代表的疾患を上げ、その徴候・発症機序・病態生理について専門的に教授する。具体的な事例検討を通じて、高度な看護実践活動につなげるための総合的能力を養う。				
行動目標	①症状・徴候から対象患者の病態生理学的変化を解釈、判断できる。 ②循環器、消化器、運動器、代謝内分泌系、膠原病、血液など各分野の代表的疾患について徴候・発症機序・病態生理の専門的な知識をもち、高度な臨床看護判断、実践活動ができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、発信力				
評価並びにフィードバック法	出席・参加状況、発表、レポートによる。				
教科書	特に指定しない。				
参考書	主要症候からみた鑑別診断学　第２版　金芳堂 看護のための臨床病態学　改訂２版　南山堂 病気がみえるシリーズ　メディック・メディア コアテキスト　疾病の成り立ちと回復の促進　疾病各論［1］［2］　医学書院 知りたいことがすぐわかる病態生理　症候編・疾患編　川崎市立病院　へるす出版				
事前準備受講要件等	予習と復習（各１時間程度）を行うこと。「フィジカルアセスメント論」の科目を並行して受講していることが望ましい。				
オフィスアワー	土曜日　12：30～13：00				
SDGsとの関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	病態生理総論	病態生理総論 予習：病態生理が高度実践看護師としての臨床判断にどのように関わってくるのかを調べておく。 復習：授業内容を振り返る。	大橋
2	消化管疾患の徴候、病態生理	消化管疾患の徴候（嚥下困難、悪心・嘔吐、腹痛、吐下血、便通異常など）や病態生理についてスライドを用いて講義する。 予習：主要な消化管疾患について調べておく。 復習：消化管疾患の病態に応じたケアについてまとめる	津田
3	肝疾患の徴候、病態生理	肝疾患の徴候（黄疸、腹水、浮腫など）や病態生理についてスライドを用いて講義する。 予習：主要な肝疾患について調べておく。 復習：肝疾患の病態に応じたケアについてまとめる。	津田

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
4	課題学習発表（1）	消化管疾患、肝疾患の徴候や病態生理に関する臨床課題に対して事前学習と発表を行い、その疾患に対する理解を深め、臨床看護判断を高めるためにフィードバックとディスカッションを行う。 予習：事前配布されている課題について調べて、発表準備を行う。 復習：発表した課題について教員のフィードバックもふまえて再度整理してまとめる。	津田 安田 寺口 大橋 谷水
5	胆膵疾患の徴候、病態生理	胆膵疾患の徴候（黄疸、腹痛、右季肋部痛など）や病態生理についてスライドを用いて講義する。 予習：主要な胆膵疾患について調べておく。 復習：胆膵疾患の病態に応じたケアについてまとめる。	津田
6	運動器疾患の徴候、病態生理	運動器疾患の徴候や病態生理について講義する。 予習：主要な運動器疾患について調べておく。 復習：講義の内容を振り返り対象疾患のケアについてまとめる。	安田
7	脳神経疾患の徴候、病態生理	脳神経疾患の徴候や病態生理について講義する。 予習：主要な運動器疾患について調べておく。 復習：講義の内容を振り返り対象疾患のケアについてまとめる。	安田
8	課題学習発表（2）	運動器疾患、脳神経疾患の徴候や病態生理に関する臨床課題に対して事前学習と発表を行い、その疾患に対する理解を深め、臨床看護判断を高めるためにフィードバックとディスカッションを行う。 予習：事前配布されている課題について調べて、発表準備を行う。 復習：発表した課題について教員のフィードバックもふまえて再度整理してまとめる。	津田 安田 大橋 谷水
9	代謝・内分泌疾患の徴候・病態生理	内分泌疾患の徴候（口渇、肥満・るいそう、浮腫、多飲・多尿など）や病態生理についてスライドを用いて講義する。 予習：主要な内分泌疾患について調べておく。 復習：内分泌疾患の病態に応じたケアについてまとめる。	津田
10	循環器・呼吸器疾患の徴候、病態生理	胸痛、呼吸困難、動悸、不整脈、高血圧など循環器・呼吸器疾患の徴候や病態生理についてスライドを用いて講義する。 予習：主要な循環器・呼吸器疾患について調べておく。 復習：各疾患の病態に応じたケアについてまとめる。	津田
11	リンパ浮腫の徴候、病態生理	リンパ浮腫の徴候や病態生理について講義する。 予習：リンパ浮腫に関して事前に調べておく。 復習：リンパ浮腫の病態に応じたケアについてまとめる。	寺口

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
12	課題学習発表（3）	循環器や呼吸器疾患における徴候や病態生理に関する臨床課題に対して事前学習と発表を行い、その疾患に対する理解を深め、臨床看護判断を高めるためにフィードバックとディスカッションを行う。 予習：事前配布されている課題について調べて、発表準備を行う。 復習：発表した課題について教員のフィードバックもふまえて再度整理してまとめる。	津田 安田 寺口 大橋 谷水
13	アレルギー・膠原病疾患・感染症の徴候、病態生理	アレルギー・膠原病・感染症など徴候（発熱、関節痛、皮疹、リンパ節腫脹など）や病態生理についてスライドを用いて講義する。 予習：アレルギー・膠原病・感染症の主要な疾患について調べておく。 復習：各疾患の病態に応じたケアについてまとめる。	津田
14	課題学習発表（4）	内分泌・代謝疾患、アレルギー・膠原病・感染症における徴候や病態生理に関する臨床課題に対して事前学習と発表を行い、その疾患に対する理解を深め、臨床看護判断を高めるためにフィードバックとディスカッションを行う。 予習：事前配布されている課題について調べて、発表準備を行う。 復習：発表した課題について教員のフィードバックもふまえて再度整理してまとめる。	津田 安田 寺口 大橋 谷水
15	血液疾患の徴候、病態生理	血液疾患の徴候（貧血、出血傾向、血栓など）や病態生理についてスライドを用いて講義する。 予習：主要な血液疾患について調べておく。 復習：各疾患の病態に応じたケアについてまとめる。	津田

授業科目名	看護哲学				
授業科目（英）	Nursing Philosophy				
教員名	小林　道太郎				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	後期	開講曜日	土曜 5 限、土曜 6 限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	看護学および看護実践の性格と諸要素について、各人がよりよく考え・論じることができるようになることを目的とする。そのため本科目では、科学および科学的研究の基本的な性格を検討した上で、医療・看護・ケアやそこで問題となる生と死について考え、それらに貢献し得る方法としての現象学について論じる。				
行動目標	この授業では、受講者が上記のテーマについて、(1) 必要な概念や考え方を理解するまたは哲学的に捉え返すこと、(2) それらを利用しながら自ら看護について考えること、(3) ディスカッションを通じて互いに考えを深めること、を目指す。				
ディプロマポリシーのキーワード	論理的・批判的思考力、柔軟な発想力				
評価並びにフィードバック法	クラス討議への参加度および貢献度、プレゼンテーション、レポートなどにより総合的に評価する。				
教科書	なし。毎回ハンドアウトを配布する。				
参考書	伊藤邦武『物語 哲学の歴史』中公新書 2012 年。他、授業内で紹介する。				
事前準備受講要件等	予習・復習各 60 分程度。 毎回質疑応答とディスカッションの時間をとるので積極的に発言してください。				
オフィスアワー	月曜 16:00-17:00				
SDGs との関連	3, 5, 10				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	イントロダクションと問い	ソクラテスの探求を例に、哲学的な思考法と態度を考える。この授業全体の問いを示す 予習：ソクラテスについて調べて簡単にまとめておく 復習：授業で示した参考文献を読む	小林
2	理性的であること	誰もが納得し得る主張をするための基礎である論理学について、もっとも基本的な部分を学ぶ。 予習：論理学について調べて簡単にまとめてくる 復習：授業で示した参考文献を読む	小林
3	古代哲学（1）	幸福あるいはよく生きることに関する古代ギリシアの哲学思想について。 予習：プラトンについて調べて簡単にまとめてくる 復習：授業で示した参考文献を読む	小林
4	古代哲学（2）	続き。ヘレニズム期の哲学から。 予習：エピクロスについて調べて簡単にまとめてくる 復習：授業で示した参考文献を読む	小林
5	科学革命と機械論	近代科学の基本的な考え方と機械論について。 予習：17 世紀科学革命について調べて簡単にまとめてくる 復習：授業で示した参考文献を読む	小林

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
6	帰納的方法	経験的・実証的研究であること、データに基づく知識 予習：仮説演繹法について調べて簡単にまとめてくる 復習：授業で示した参考文献を読む	小林
7	二元論と生命	機械としての生命と医学について。 予習：デカルトの二元論について調べて簡単にまとめてくる 復習：授業で示した参考文献を読む	小林
8	心の哲学	脳は AI か。クオリアという問題 予習：心の哲学について調べて簡単にまとめてくる 復習：興味を持った論点についてまとめる	小林
9	価値と自由	価値にかかわる諸概念。自由意志の問題 予習：自由意志論について調べて簡単にまとめてくる 復習：授業で示した参考文献を読む	小林
10	現象学	意識からの出発。生活世界と自然科学的世界 予習：現象学について調べて簡単にまとめてくる 復習：授業で示した参考文献を読む	小林
11	他者論	他者認識の不可能性と可能性。人生の物語 予習：他者論について調べて簡単にまとめてくる 復習：授業で示した参考文献を読む	小林
12	自律	自律の概念と倫理。その困難 予習：自律という概念について調べて簡単にまとめてくる 復習：授業で示した参考文献を読む	小林
13	ケア	ケアの倫理と正義の倫理批判。ケアリング論 予習：ケアの倫理について調べて簡単にまとめてくる 復習：授業で示した参考文献を読む	小林
14	生老病死	苦しみと共感。死について 予習：自分の死生観について考えてくる 復習：授業で示した参考文献を読む	小林
15	まとめ	これまでのまとめとディスカッション 予習：各自話すことを準備してくる 復習：興味を持った論点についてまとめる	小林

授業科目名	英語論文講読				
授業科目（英）	Reading Nursing Research in English				
教員名	小林　道太郎				
単位数	1	時間数	30	学年	1
開講期	通年	開講曜日	水曜 6 限		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	英語の看護学論文を精読することを通じて、専門分野の用語や学術的な言い回しを正確に理解し、論文の構造を把握しながらクリティカルに検討するための基礎的能力を修得する。				
行動目標	1　英語の看護学論文に用いられる文法・表現を正確に理解して、正しい日本語に訳すことができる 2　用いられている研究方法を理解した上で、論文の構造を把握して説明することができる 3　論文をクリティカルに検討・評価し、そのポイントについて自分の考えを述べることができる				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探求・研究遂行能力、論理的・批判的思考力				
評価並びにフィードバック法	授業への参加と貢献をみて評価する。内容把握についてのフィードバックとディスカッションは授業内で随時行う。				
教科書	なし。読む論文は受講者と相談して決定する。				
参考書	授業内で紹介する				
事前準備受講要件等	予習復習は各 60 分以上とする。 英和辞典（語数の多いもの）、英文法のリファレンスを用意しておくこと。				
オフィスアワー	月曜 16:00-17:00				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	イントロダクション	授業の進め方の説明、論文の選定 英語論文を読む際のポイント 予習：読みたい論文を探してくる 復習：授業内容について整理しておく	小林
2〜15	英語論文を読む	学生は論文を一文ずつ訳していき、教員が必要な解説等を行う。内容についてディスカッションする。 予習：毎回読む部分の訳をつくってくる 復習：新しく学んだ語や表現を覚える	小林

授業科目名	看護教育学特論Ⅰ				
授業科目（英）	Theory of Nursing Education Ⅰ				
教員名	池西　悦子、川北　敬美、赤崎　芙美				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期	開講曜日	土曜1限、土曜2限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	看護学教育の教育制度、教育課程、基礎となる諸理論を学び，看護基礎教育および継続教育に応用する基礎的能力を養う。				
行動目標	1. 看護学教育、および看護教育学の意義と特徴が説明できる。 2. 日本の看護教育制度と看護教育課程の変遷と特徴が説明できる。 3. 看護学教育を支える学習理論について説明できる。 4. 教育評価の意義と課題について説明できる。 5. 看護実践の質向上に向けた看護教育学の課題が考察できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	論理的・批判的思考力、高い倫理観、教育実践力				
評価並びにフィードバック法	プレゼンテーション，討議への参加・貢献，課題レポートを総合して評価する。 事前課題や疑問等へのフィードバックは、講義の中で解説を行っていく。				
教科書	特に指定しない				
参考書	・グレッグ美鈴，池西悦子編：看護教育学～看護を学ぶ自分と向き合う～，南江堂，2024. ・看護行政研究会編：令和2年度版 看護六法，新日本法規，2020. ・パトリシア・ベナー他著：ベナー ナースを育てる，医学書院，2011. ・舟島なをみ著：看護学教育における授業展開―質の高い講義・演習・実習の実現に向けて，医学書院，2013.				
事前準備受講要件等	受講要件はない。予習，復習，授業への主体的参加を求める。 予習・復習は60分以上とする。				
オフィスアワー	土曜日 12：00～13：00				
SDGsとの関連	3，4				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～2	看護学教育と看護教育学	看護学教育、看護教育学の意義，特徴（発表･討議） 予習：教育とは何か、大学・大学院の使命、看護学教育の目的、専門職の特質・基準について資料を作成する。 復習：授業前後の見解の変化をまとめ，学習内容の理解を深める。	池西
3～4	看護教育制度の特徴	看護教育制度の特徴と課題（発表・討議） 予習：日本、諸外国の看護教育制度の特徴について資料を作成する。 復習：関連文献を活用し、学習内容の理解を深める。	池西
5～6	看護教育課程の変遷・構造	日本における看護教育課程の変遷、教育課程の構造（発表・討議） 予習：看護教育課程の変遷・構造、教育課程が人材育成に与える影響について資料を作成する。 復習：関連文献を調べ、学習内容の理解を深める。	池西

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
7～8	看護職の役割拡大と人材育成	日本における高度実践看護師（CNS，NP）制度と教育の変遷，特定行為に係る看護師の研修制度，看護学教育者及び看護学研究者の育成教育の現状と課題（発表・討議） 予習：高度実践看護師制度，特定行為に係る看護師の研修制度，看護学教員及び看護学研究者の育成教育について資料を作成する。 復習：関連文献を調べ，学習内容の理解を深める。	川北
9～10	看護学教育におけるケアリング	看護学教育におけるケアリングの意義･課題（発表･討議） 予習：看護学教育におけるケアリングの意義・課題について資料を作成する。 復習：関連文献を調べ、学習内容の理解を深める。	赤崎
11～12	看護学教育における教授と学習	看護学教育を支える学習理論（発表・討議） 予習：学習理論について調べ、資料を作成する。 復習：関連文献を調べ、学習内容の理解を深める。	川北
13～14	看護学教育における教育評価	教育評価の機能、主体的学びにつなげる評価の在り方（発表・討議） 予習：教育評価の機能、方法について調べ，資料を作成する。 復習：関連文献を調べ、学習内容の理解を深める。	川北
15	まとめ	看護実践の質向上に向けた看護教育学の課題と展望（討議） 予習：本科目での学びから看護教育学の課題と展望について資料を作成する。 復習：本科目での学びと今後の活用について課題レポートにまとめる。	池西

授業科目名	看護教育学特論Ⅱ				
授業科目（英）	Theory of Nursing Education Ⅱ				
教員名	池西　悦子、川北　敬美				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	後期	開講曜日	土曜 3 限、土曜 4 限		
科目区分	選択	授業形態	講義・演習		
一般目標	看護教育課程の基礎となる理論を学び、教育課程の編成過程と保健師助産師看護師学校養成所指定規則や大学設置基準などの法的基盤が教育課程に与える影響について考察する。授業設計や教育技術の知識を考慮した授業計画・授業案作成と模擬授業の実践、評価を通して、質の高い看護実践者の育成に向けた教育課程、主体的な学習を促進する授業設計について考察する。				
行動目標	1. 教育課程の地底、意義が説明できる。 2. 看護学士課程の法的基盤について説明できる。 3. 看護教育課程の編成過程を説明できる。 4. 教育技術・教育技法を考慮した授業計画、学習指導案が作成できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、教育実践力、発信力				
評価並びにフィードバック法	プレゼンテーション，討議への参加・貢献，課題レポートを総合して評価する。 事前課題や疑問等へのフィードバックは、講義の中で解説を行っていく。				
教科書	教科書は指定しない				
参考書	参考書 ・グレッグ美鈴，池西悦子編：看護教育学～看護を学ぶ自分と向き合う～ , 南江堂，2024. ・杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学，第 6 版，医学書院，2016. ・G. トレス他：看護教育カリキュラム～その作成過程～ , 医学書院，1998. ・看護行政研究会編：令和 6 年度版 看護六法，新日本法規，2020.				
事前準備受講要件等	看護教育学（前期科目）の基盤知識の修得を前提とする。 事前に提示する課題・資料を自己学習して授業に臨む。 予習・復習は 60 分以上とする。				
オフィスアワー	土曜日 12：00～13：00				
SDGs との関連	3，4				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～2	看護教育課程の意義	看護学士課程における教育課程の意義 看護教育課程の意義、教育課程の編成過程、教育課程の展開と評価 予習：授業テーマについて資料を作成する。 復習：学習内容を振り返り、理解を深める。	池西
3～4	看護教育課程の法的基盤	看護学教育課程の基盤となる法律 予習：看護学教育課程の基盤となる法律について資料を作成する。 復習：学習内容を振り返り、理解を深める。	川北
5～6	教育課程の編成	教育課程の編成､カリキュラムマップの策定(グループワーク) 予習：A 大学のカリキュラムマップ案を考えてくる。 復習：3 つのポリシーと各科目の関係について理解を深める。	池西
7～8	教材研究	教材研究の意義、方法 予習：教材研究の目的、方法について資料を作成する。 復習：学習内容を振り返り、理解を深める。	池西

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
9～10	授業設計と学習指導案作成①	授業計画、指導案の作成 予習：模擬授業で取り組みたい授業テーマ、想定する学習者の特徴、授業で大切にしたい考え方について資料を作成する。 復習：学習内容を振り返り、理解を深める。	池西
11～12	授業設計と学習指導案作成②	授業計画、本時授業案の作成 予習：本時授業でどのような教材を活用して、どのように展開するのかについて資料を作成する。 復習：学習内容を振り返り、理解を深める。	池西
13～14	授業設計と学習指導の実際 （模擬授業）	作成した授業案に基づいた模擬授業の実施、評価 予習：模擬授業の準備。 復習：フィードバックに基づいた授業の振り返り、改善案の検討。	池西 川北
15	まとめ	質の高い看護実践者の育成に向けた教育課程、主体的学習を促進する授業設計についてまとめる。	池西

授業科目名	看護教育学演習				
授業科目（英）	Seminar of Nursing Education				
教員名	池西　悦子、川北　敬美				
単位数	2	時間数	60	学年	1
開講期	後期	開講曜日	集中講義		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	看護教育学の研究課題について、文献検討とフィールドワークを行い探求することで、自らの研究課題を明確化する能力を養う。				
行動目標	1. 看護教育学に関する研究課題が言語化できる。 2. 研究課題に関する文献検索から、重要な文献を抽出できる。 3. 研究課題の中心概念を整理し、説明できる。 4. 研究課題に関する研究論文を整理し、明らかになっている／明らかになっていないことを説明できる。 5. 研究課題に関するフィールドワークを行い、現状を踏まえて課題を設定できる。 6. 自らの研究課題の意義が説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探求・研究遂行力、柔軟な発想力、教育実践力				
評価並びにフィードバック法	資料、プレゼンテーション内容、授業参加度により総合的に評価する。 フィードバックは、授業において随時行う。				
教科書	プレゼンテーションの中心となる文献と資料を準備する				
参考書	舟島なをみ：看護教育学研究　第3版，医学書院，2018. D. F. ポーリット，C. T. ベック，近藤潤子（翻）：看護研究 原理と方法 第2版，医学書院，2010.				
事前準備受講要件等	看護教育学（前期科目）の基盤知識の修得を前提とする。 事前に提示する課題・資料を自己学習して授業に臨む。 予習・復習は60分以上とする。				
オフィスアワー	土曜日 12：00～13：00				
SDGsとの関連	3，4				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～2	ガイダンス 関心のある研究課題の共有・洗練	関心のある研究課題の共有と討議を通して課題を洗練する 予習：既習内容，自身の経験から看護教育学に関する関心がある現象や問題意識について資料を作成する。 復習：学習内容を振り返り，理解を深める。	池西 川北
3～4	関心のある研究課題に関する文献検索・文献検討	関心のある研究課題の文献検索・文献検討の準備 予習：検索式，重要文献リストについて資料を作成する。 復習：学習内容を振り返り，理解を深める。	池西 川北
5～8	関心のある課題に関する文献検索・文献検討への取り組み	関心のある研究課題についで文献検索・文献検討を実施する 予習：3～4回の内容に基づき方法を確認する。 復習：検索した文献を入手し，熟読する。	池西 川北
9～10	関心のある研究課題の検討	研究課題について既に明らかになっている内容と課題の整理 予習：発表資料の作成。 復習：討議内容を踏まえた学びの整理。	池西 川北

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
11～16	関心のある研究課題の中心概念の検討	関心のある研究課題の中心概念の発表・討議 予習：課題に取り組み、発表資料を作成する。 復習：学習内容を振り返り、理解を深める。	池西 川北
17～20	関心のある研究課題についてのフィールドワーク	フィールドワークを通して関心ある現象について探究する 予習：計画立案、調整、実際、結果のまとめを行う。 復習：学びの整理を行う。	池西 川北
21～22	フィールドワークの結果に基づいた研究課題の言語化	フィールドワークから研究課題を言語化する 予習：フィールドドワークの結果を整理し資料を作成する。 復習：討議内容を踏まえた学びの整理。	池西 川北
23～26	文献検討の記述	文献検討の記述 予習：文献検討の過程と結果を記述した資料を作成する。 復習：討議内容を踏まえた学びの整理。	池西 川北
27～30	研究課題の明確化	文献検討の結果を踏まえた研究課題の明確化 予習：自らが取り組む研究課題の資料を作成する。 復習：討議内容を踏まえた学びの整理。	池西 川北

授業科目名	看護技術開発学特論Ⅰ				
授業科目（英）	Nursing Skills：Special Lecture Ⅰ				
教員名	二宮　早苗				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期（前半）	開講曜日	木曜6限、木曜7限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	Evidence-based practice（EBP）の概念について理解を深め、現在の看護技術のエビデンスが構築された過程を学ぶ。				
行動目標	1. EBP の概念とその必要性を説明できる。 2. 現在の看護技術のエビデンスの現状について調べ、説明することができる。 3. EBP に基づく看護実践のための課題と方略について考えを述べることができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、課題探求・研究遂行力				
評価並びにフィードバック法	授業への参加態度（20%）、プレゼンテーション資料（40%）、プレゼンテーションや討議（40%） 課題に対して講義中に解説・講評する。				
教科書	論文から読み解く看護のエビデンス 20，古木秀明，金芳堂				
参考書	適宜提示する				
事前準備受講要件等	提示された課題を行い授業に臨む。予習復習は各 60 分				
オフィスアワー	木曜日　18：00～20：00				
SDGs との関連	3，4，12				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～2	EBP とは	EBP の概念と定義、その歴史的背景、EBP の必要性 看護技術におけるエビデンスの現状 予習：EBP の概念や定義、その歴史的背景について調べる。 復習：EBPの必要性について自分の考えをまとめる。	二宮
3～4	実践されている看護技術のエビデンス（1）	感染対策に関するエビデンス 予習：提示した資料を読み、感染対策に関するエビデンスの現状を調べてくる。 復習：感染対策に関するエビデンスを高めるために必要な事象について考察し、まとめる。	二宮
5～6	実践されている看護技術のエビデンス（2）	清潔ケアに関するエビデンス 予習：提示した資料を読み、清潔ケアに関するエビデンスの現状を調べてくる。 復習：清潔ケアに関するエビデンスを高めるために必要な事象について考察し、まとめる。	二宮
7～8	実践されている看護技術のエビデンス（3）	褥瘡ケアに関するエビデンス 予習：提示した資料を読み、褥瘡ケアに関するエビデンスの現状を調べてくる。 復習：褥瘡ケアに関するエビデンスを高めるに必要な事象について考察し、まとめる。	二宮
9～10	実践されている看護技術のエビデンス（4）	排泄ケアに関するエビデンス① 予習：提示した資料を読み、排泄ケア（便秘）に関するエビデンスの現状を調べてくる。 復習：排泄ケアに関するエビデンスを高めるために必要な事象について考察し、まとめる。	二宮

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
11～12	実践されている看護技術のエビデンス（5）	排泄ケアに関するエビデンス② 予習：提示した資料を読み、排泄ケア（下部尿路症状）に関するエビデンスの現状を調べてくる。 復習：排泄ケアに関するエビデンスを高めるために必要な事象について考察し、まとめる。	二宮
13～14	実践されている看護技術のエビデンス（6）	採血技術に関するエビデンス 予習：提示した資料を読み、採血技術に関するエビデンスの現状を調べてくる。 復習：採血技術に関するエビデンスを高めるために必要な事象について考察し、まとめる。	二宮
15	EBP を実践するための課題	EBP に基づく看護実践のための課題とその方略について議論する 予習：課題についてプレゼンテーションの準備をする。 復習：プレゼンテーションと議論の内容を振り返り、EBP に基づく看護実践の課題とその方略について考えをまとめる。	二宮

授業科目名	看護技術開発学特論Ⅱ				
授業科目（英）	Nursing Skills：Special Lecture Ⅱ				
教員名	二宮　早苗				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期（後半）	開講曜日	木曜 6 限、木曜 7 限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	看護技術と科学の関連と課題を理解し、看護技術の開発や看護実践の評価に必要な科学的手法の基礎知識について学ぶ。				
行動目標	1. 看護技術と科学の関連について説明することができる。 2. 看護技術の発展における課題について考察できる。 3. 看護技術の開発や看護実践の評価における科学的手法の基礎知識を理解することができる。 4. 先行研究に用いられている科学的手法のエビデンスを評価することができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	論理的・批判的思考力、高い倫理観、柔軟な発想力、課題探求・研究遂行力				
評価並びにフィードバック法	プレゼンテーション資料（50%）、プレゼンテーションや討議（50%） 課題に対して講義中に解説・講評をする。				
教科書	適時、提示する				
参考書	適時、提示する				
事前準備受講要件等	関心のあるテーマに関する文献を収集しておくこと 予習復習は各 60 分とする				
オフィスアワー	木曜日 18：00～20：00				
SDGs との関連	3，4，12				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～2	看護技術と科学	科学とは、看護技術と科学、他分野との連携の必要性と実際 予習：提示した資料を読みまとめてくる。 復習：自分の気になる看護技術に関する文献を検索する。	二宮
3～4	看護技術とエビデンス	エビデンスと研究レベル、看護研究の限界と課題および倫理 予習：提示した資料を読んでくる。 復習：自分の関心のある看護技術に関する文献のエビデンスレベルを調べる。	二宮
5～6	看護技術に関する症例研究とエビデンス	看護技術に関する症例研究の例からエビデンスを考える 予習：提示された文献を読んでくる。 復習：関心のある看護技術に関する症例研究の方法と限界について考察しまとめる。	二宮
7～8	看護技術に関する観察研究とコホート研究	看護技術に関する観察研究またはコホート研究の例から、エビデンスを考察する。 予習：提示された文献を読んでくる。 復習：関心のある看護技術に関する観察研究またはコホート研究の方法と限界について考察しまとめる。	二宮

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
9～10	看護技術に関する準実験研究	看護技術に関する準実験研究の例からエビデンスを考察する 予習：提示された文献を読んでくる。 復習：関心のある看護技術に関する準実験研究の方法と限界について考察しまとめる。	二宮
11～12	看護技術に関する実験研究	看護技術に関する実験研究の例からエビデンスを考察する 予習：提示された文献を読んでくる。 復習：関心のある看護技術に関する実験研究の方法と限界について考察しまとめる。	二宮
13～14	看護技術に関するシステマティックレビュー	看護技術に関するシステマティックレビューの例からエビデンスを考察する 予習：提示された文献を読んでくる。 復習：関心のある看護技術に関するシステマティックレビューの研究の方法と限界について考察しまとめる	二宮
15	エビデンスの構築に必要な科学的手法の検討	関心のある看護技術のエビデンスを検証し、エビデンスの構築に必要な科学的手法について考察する。 予習：関心のある看護技術の先行研究を調べ、比較しまとめてくる。 復習：文献を総合的にまとめ、現時点でのエビデンスの限界から今後の課題と具体的な方策について考察しまとめる。	二宮

授業科目名	看護技術開発学演習Ⅰ				
授業科目（英）	Seminar of Advanced Nursing Skills Ⅰ				
教員名	二宮　早苗				
単位数	2	時間数	60	学年	1
開講期	通年（前期後半 後期前半）	開講曜日	前期（木曜6限、木曜7限）、後期（月曜6限、月曜7限）		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	看護技術の開発や看護実践の評価に活用するための評価方法、および看護技術に関する教育方法について学ぶ。				
行動目標	1. 微生物学的評価、生理学的評価の基礎的な方法について説明することができる。 2. 微生物学的評価、生理学的評価を実施するために必要な留意点について説明することができる。 3. 看護技術の開発や看護実践の評価の活用するための評価方法を比較することができる。 4. EBP に基づく看護技術教育のための授業案を作成することができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、教育実践力、課題探求・研究遂行力				
評価並びにフィードバック法	授業への参加態度（40%）、プレゼンテーション資料（30%）、プレゼンテーションや討議（30%） 課題に対して講義中に解説する。				
教科書	特に指定しない				
参考書	適宜紹介する				
事前準備受講要件等	提示された課題を行い授業に臨む。予習復習は各60分とする				
オフィスアワー	木曜日　18：00～20：00				
SDGsとの関連	3，4，12				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～2	看護技術の評価と方法	看護技術の評価に必要な方法 予習：提示された資料を読んでくる。 復習：看護技術の評価に必要な方法についてまとめる。	二宮
3～8	看護技術の評価法（1）	微生物学的評価（手洗い技術の評価） 予習：微生物学的評価に関する 先行研究を調べてくる。 復習：実験レポートを作成し、結果をまとめる。	二宮
9～14	看護技術の評価法（2）	微生物学的評価（環境における ATP 測定） 予習：微生物学的評価に関する先行研究を調べてくる。 復習：実験レポートを作成し、結果をまとめる。	二宮
15～18	EBP に基づく看護技術の教育方法の検討	EBP に基づく看護技術教育のため教授方法を検討し、授業案を作成する。 予習：技術教育に関する文献を検索する。 復習：授業案を作成する。	二宮
19～22	看護技術の評価法（3）	生理学的評価（体圧測定） 予習：生理学的評価に関する先行研究を調べてくる。 復習：実験レポートを作成し、結果をまとめる。	二宮
23～28	看護技術の評価法（4）	生理学的評価（骨盤底筋力の測定） 予習：生理学的評価に関する先行研究を調べてくる。 復習：実験レポートを作成し、結果をまとめる。	二宮

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
29～30	看護技術の評価方法の比較	興味のある看護技術に関する先行研究の評価方法を比較し、看護技術の開発や看護実践の評価に活用するための方法について議論する。 予習：プレゼンテーションの準備をする。 復習：プレゼンテーションと議論の内容を振り返り、エビデンスに基づく看護実践のために必要な評価方法についてまとめる。	二宮

授業科目名	看護技術開発学演習Ⅱ				
授業科目（英）	Seminar of Advanced Nursing Skills Ⅱ				
教員名	二宮　早苗				
単位数	2	時間数	60	学年	1
開講期	後期～前期	開講曜日	2025 年度 後期（月曜 6 限、月曜 7 限）、2026 年度 前期（火曜 6 限、火曜 7 限）		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	看護技術の開発や看護実践の評価に必要な研究方法および評価方法について学び、それらを活用した研究方法を探求する。				
行動目標	1. 看護技術の開発や看護実践の評価に必要な研究方法について説明できる。 2. 明確な評価に必要な用具・機器を比較検討できる。 3. 明確な評価を可能とする評価指標について述べることができる。 4. 看護技術の開発や看護実践の評価を目指したプレテストを実施できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、課題探求・研究遂行力				
評価並びにフィードバック法	レポート（60%）、授業への参加態度とプレゼンテーション（40%） 課題に対して講義中に解説・講評をする。				
教科書	特に指定しない				
参考書	適宜紹介する				
事前準備受講要件等	関心のあるテーマに関する文献を収集しておくこと 予習復習は各 60 分とする				
オフィスアワー	木曜日　18：00～20：00				
SDGs との関連	3，4				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～2	看護技術の開発や看護実践の評価に必要な方法	看護技術の開発に必要な知識（準実験・実験）と研究プロトコルの実際を知る。 予習：準実験・実験とは何か調べ、まとめてくる。 復習：準実験・実験法を用いた看護技術に関する先行研究を調べる。	二宮
3～12	看護技術の開発や看護実践の評価に関する研究の動向	看護技術に関する準実験・実験法を用いた先行研究についてレビューする。 予習：関心のある文献についてクリティークしてくる。 復習：文献の研究方法と限界をまとめる。	二宮
13～18	看護技術の開発や看護実践の評価に必要な用具の検討	看護技術の評価に用いられる用具・機器とその評価方法について検討する。 予習：先行研究で用いられた用具や機器について調べてくる。 復習：関心のある看護技術の開発や看護実践の評価に必要な用具・機器の信頼性と妥当性について調べ、まとめる。	二宮
19～24	看護技術の開発や看護実践の評価に必要な評価指標とその分析方法の検討	看護技術の開発や看護実践の評価に用いられる評価指標の設定とその分析方法について検討する。 予習：先行研究で用いられた評価指標について調べてくる。 復習：関心のある看護技術の開発や看護実践の評価に必要な評価指標とその分析方法についてまとめる。	二宮

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
25～30	看護技術の開発や看護実践の評価に関するプレテスト	関心のある看護技術の開発や看護実践の評価に用いる用具と評価指標を用いたプレテストの実施と評価を行う。 予習：プレテストのプロトコルを立案する。 復習：プレテストの評価を振り返り、課題を明確にする。	二宮

授業科目名	移植・再生医療看護学特論Ⅰ					
授業科目（英）	Theory of Transplantation and Regeneration Nursing Ⅰ					
教員名	寺口　佐與子、近藤　恵（非）					
単位数	2	時間数	30	学年	1	
開講期	前期	開講曜日	木曜 6 限、木曜 7 限			
科目区分	選択	授業形態	講義			
一般目標	重症化した患者やリンパ浮腫患者、移植治療（臓器移植や造血幹細胞移植等）を必要とする患者の健康上の問題を身体・心理・社会・スピリチュアルの側面で理解し、その問題を解決するための専門的能力を養うために、移植・再生医療など先端医療の看護実践に必要な理論や概念について探求する。					
行動目標	重症化した患者やリンパ浮腫患者、移植治療（臓器移植や造血幹細胞移植等）を必要とする患者の課題を広く文献から抽出することができ，課題の対策について検討することができる。また、EBN（Evidence based nursing）や NBN（Narrative based Nursing）の考え方や方法を学修し、移植・再生医療における看護学の動向や研究方法を探求することができる。					
ディプロマポリシーのキーワード	課題探究・研究遂行力、高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力					
評価並びにフィードバック法	レポート、プレゼンテーション、出席状況					
教科書	特に指定しない					
参考書	適宜提示する					
事前準備受講要件等	適宜提示する 予習、復習時間各 30 分					
オフィスアワー	月曜　16:00～18:00					
SDGs との関連	3					

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	ストレス・対処と看護援助	先端医療を受ける患者の生物学的ストレスと対処 事前学習：提示した文献・参考書を読んでおく。 復習：事例を用いて理論を確認する。	寺口
2	ストレス・対処と看護援助	先端医療を受ける患者の心理学的ストレスと対処 事前学習：提示した文献・参考書を読んでおく。 復習：事例を用いて理論を確認する。	寺口
3	ストレス・対処と看護援助	先端医療を受ける患者の現象学的にみるストレスと対処 事前学習：提示した文献・参考書を読んでおく。 復習：事例を用いて理論を確認する。	近藤
4	ストレス・対処と看護援助	先端医療を受ける患者の現象学的にみるストレスと対処 事前学習：提示した文献・参考書を読んでおく 復習：事例を用いて理論を確認する。	近藤
5～6	QOL と看護援助	先端医療を受ける患者の QOL 事前学習：種々の先端医療、QOL について文献検索しておくこと。 復習：先端医療を受ける患者にとっての QOL とは何かをまとめる。	寺口
7	研究の動向と課題	リンパ浮腫ケア領域における研究の動向 事前学習：リンパ浮腫に関する解剖生理 復習：リンパ浮腫に関わる研究の種類を整理する。	寺口

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
8	研究の動向と課題	リンパ浮腫ケアの援助方法のエビデンス 事前学習：リンパ浮腫のケア方法 復習：リンパ浮腫のケアをまとめる。	寺口
9	研究の動向と課題	移植・再生医療看護における研究の動向 事前学習：移植・再生医療看護における重要な概念の抽出 復習：研究の動向をまとめる。	寺口
10	研究の動向と課題	移植・再生医療看護の援助方法のエビデンス 事前学習：移植・再生医療看護における援助方法に関する文献の準備 復習：エビデンスの実際を整理する。	寺口
11～14	看護研究の文献レビュー	研究課題の焦点化と方法論の検討 事前学習：研究テーマに沿って文献を収集し、クリティークしておく。 復習：研究テーマの文献を整理する。	寺口
15	まとめ	プレゼンテーション 事前学習：プレゼンテーションの内容を準備する。 復習：プレゼンテーションの内容をまとめる。	寺口

授業科目名	移植・再生医療看護学特論Ⅱ				
授業科目（英）	Theory of Transplantation and Regeneration Nursing Ⅱ				
教員名	寺口　佐與子、能見　勇人（兼）、萩原　邦子（非）、青山　朋樹（非）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	後期	開講曜日	木曜 6 限、木曜 7 限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	先端医療における危機的場面での臨床判断及び移植・再生医療看護の臨床場面で生じる倫理上の問題を理解するための基盤となる理論を学ぶ。				
行動目標	先端医療における危機的場面での臨床判断及び移植・再生医療看護の臨床場面で生じる倫理上の問題を抽出することができる。 臓器移植看護の実践事例を通して、倫理的問題を看護倫理の観点から討議し、適切な看護援助について検討することができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、課題探究・研究遂行力				
評価並びにフィードバック法	レポート、出席状況				
教科書	特に指定しない				
参考書	適宜提示する				
事前準備受講要件等	適宜提示する 予習、復習時間各 30 分				
オフィスアワー	月曜日　16:00～18:00				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	先端医療における臨床判断	看護における臨床判断の基本概念 事前学習：提示した文献を熟読しておく。 復習：臨床判断の基本概念を整理する。	寺口
2	先端医療における臨床判断	分析的判断 事前学習：提示した文献を熟読しておく。 復習：臨床判断の分析的判断を整理する。	寺口
3	先端医療における臨床判断	直観的判断 事前学習：提示した文献を熟読しておく。 復習：臨床判断の直観的判断を整理する。	寺口
4	先端医療における臨床判断	先端医療における看護の臨床判断 事前学習：現場における臨床判断場面のプレゼンテーションの準備 復習：看護における臨床判断をまとめる。	寺口
5	先端医療としての移植	最新の移植医療 事前学習：これまでの移植医療について調べておく。 復習：移植医療についてまとめる。	能見
6	先端医療における再生医療	最新の再生医療 事前学習：再生医療について調べておく。 復習：再生医療についてまとめる。	青山
7	先端医療における課題	移植・再生医療における法的課題 事前学習：移植・再生医療に関する文献を読む。 復習：移植・再生医療に関する法的課題をまとめる。	寺口

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
8	先端医療における課題	移植・再生医療における倫理的課題 事前学習：移植・再生医療に関する倫理的資料を読む。 復習：移植・再生医療に関する倫理的課題をまとめる。	寺口
9	先端医療における看護倫理	先端医療における看護師の倫理的推論と臨床的推論のつながり 事前学習：移植・再生医療の課題を読む。 復習：移植・再生医療に関する課題をまとめる。	寺口
10〜11	先端医療における看護倫理	先端医療を受ける患者・家族の看護における倫理的課題 事前学習：先端医療における倫理的課題を抽出しておく。 復習：先端医療における看護倫理をまとめる。	寺口
12〜13	臓器移植看護の実践例	レシピエント／ドナー／家族を対象にした看護実践 事前学習：提示した文献を読んでおく。 復習：臓器移植看護の実践をまとめる。	萩原
14	臓器移植看護の実践例	看護師／レシピエント移植コーディネーターの課題 事前学習：提示した文献を読んでおく。 復習：臓器移植看護の実践をまとめる	萩原
15	まとめ	移植・再生医療看護としての倫理的関わり 事前学習：討議テーマを準備する。 復習：討議した内容をまとめる。	寺口

授業科目名	移植・再生医療看護学演習				
授業科目（英）	Seminar of Transplantation and Regeneration Nursing				
教員名	寺口　佐與子、勝山　あづさ				
単位数	2	時間数	60	学年	1
開講期	後期～前期	開講曜日	集中講義		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	移植・再生医療など先端医療における看護の現象を探求するために、帰納的手法（看護質的統合法）を用いた演習を行う。1～2 名の看護師の看護実践場面を観察や面接によってデータ収集し、それを記述し、その場面を描写し、言語化するという過程を通して、看護の現象を構造化する演習を行う。				
行動目標	移植・再生医療など先端医療における看護の現象を探求するために、帰納的手法（看護質的統合法）を用いた演習を通して，看護の現象を構造化することができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、高い倫理観、課題探究・研究遂行力、発信力				
評価並びにフィードバック法	ケースレポート、出席状況				
教科書	質的統合法入門（山浦晴男著，医学書院）				
参考書	適宜提示する				
事前準備受講要件等	適宜提示する 予習、復習時間各 30 分				
オフィスアワー	寺口：月曜 16:00～18:00				
SDGs との関連	3，4				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	看護質的統合法について	看護質的統合法についての概略 事前学習：質的統合法入門を読んでおく。 復習：概要をまとめる。	寺口 勝山
2	看護実践場面における看護の現象	データ収集、個別分析、全体分析、構造図の作成、看護援助方法の検討 事前学習：データの準備。 復習：データ作成方法をまとめる。	寺口 勝山
3～29	フィールド演習	随時指導を行いながら演習を進める 事前学習：これまでの内容を復習。 復習：何回も繰り返して理解する。	寺口 勝山
30	まとめ	プレゼンテーションを行う 事前学習：展開図、結論文を作成 復習：質的統合法の方法をまとめる。	寺口 勝山

授業科目名	がん看護学特論Ⅰ				
授業科目（英）	Theory of Cancer Nursing Ⅰ				
教員名	鈴木　久美、南口　陽子、山中　政子（非）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期	開講曜日	月曜6限、月曜7限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	がん患者を取り巻く状況やがん看護実践における課題を理解したうえで，がん看護の基盤となる主要な理論や概念について学ぶ。また，主要な理論や概念のがん看護実践への応用について考察する。				
行動目標	1. がん患者を取り巻く社会の変化および，がん看護実践における課題を理解できる。 2. がん看護の基盤となる主要な理論や概念について理解できる。 3. 学んだ理論・概念のがん看護実践への応用について考察できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	論理的・批判的思考力，柔軟な発想力，課題探求力，課題解決力，発信力				
評価並びにフィードバック法	授業の参加状況や取り組み（20%），プレゼンテーション資料の作成（50%），プレゼンテーション・ディスカッション（30%）				
教科書	指定なし				
参考書	随時紹介				
事前準備受講要件等	がん看護学専攻の教育研究コース・高度実践コース以外の学生も受講可 予習・復習の時間：各60分				
オフィスアワー	金曜日 18:00～20:00				
SDGsとの関連	3，4				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	がん患者を取り巻く状況およびがん看護実践における課題の理解	がん患者を取り巻く状況およびがん看護実践の課題 1. がん患者を取り巻く社会の変化 2. 日本及び米国の Research Priorities について 予習：がん看護研究の優先性の調査を調べる。 復習：がん看護実践の課題について考察する。	鈴木
2～3	がん患者を理解するための主要な理論や概念1	ストレス・コーピング 1. ストレスおよびコーピングの概念 2. ストレス対処理論 3. ストレス対処と健康保持のメカニズム ＊上記の内容についてプレゼンテーションを行う。 予習：ストレス，コーピングの概念を調べる。 復習：ストレス・コーピング理論をまとめる。	鈴木
4	がん患者を理解するための主要な理論や概念2	不確かさ 1. 病気の不確かさの概念 2. 不確かさ理論について ＊上記の内容についてプレゼンテーションを行う。 予習：不確かさの概念および理論について調べる。 復習：臨床での不確かさ理論の活用を考察する。	鈴木

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
5	がん患者を理解するための主要な理論や概念 3	ボティ・イメージとアピアランス 1. ボディ・イメージの概念および影響要因 2. アピアランスの概念 3. ボディ・イメージ変容に対する介入，アピアランスケア ＊上記の内容についてプレゼンテーションを行う。 予習：ボディ・イメージ，アピアランスの概念について調べる。 復習：ボディ・イメージとアピアランスの違いについてまとめる。	南口
6	がん患者を理解するための主要な理論や概念 4	喪失と悲嘆 1. 喪失・悲嘆の定義 2. 正常な悲嘆と複雑性悲嘆の違い 3. 予期悲嘆の概念 ＊上記の内容についてプレゼンテーションを行う。 予習：喪失と悲嘆の概念について調べる。 復習：予期悲嘆についてまとめる。	鈴木
7〜9	がん看護の基盤となる主要な理論や概念 1	危機理論と危機介入 1. 危機の定義，危機の特徴，危機の種類等 2. アギュレラの問題解決モデル 3. フィンクの危機理論 4. 危機理論を用いた事例分析 ＊上記の内容についてプレゼンテーションを行う。 予習：危機の概念，アギュレラの問題解決モデル，フィンクの危機理論について調べる。 復習：危機介入の特徴についてまとめる。	鈴木
10〜11	がん看護の基盤となる主要な理論や概念 2	セルフケア，セルフマネジメント 1. セルフケア，セルフマネジメントの概念 2. オレムのセルフケア不足理論，看護システム理論について 3. セルフケア，セルフマネジメントを促進するアプローチ ＊セルフケア理論についてプレゼンテーションを行う。 予習：オレムのセルフケア理論について調べる。 復習：セルフケアとセルフマネジメントのそれぞれの特徴をまとめる。	山中
12	がん看護の基盤となる主要な理論や概念 3	セルフエフィカシー 1. セルフエフィカシーの概念・理論 2. セルフエフィカシーを高める情報源 予習：セルフエフィカシーの概念・理論について調べる。 復習：セルフエフィカシーの論文を読み，臨床での活用についてまとめる。	鈴木
13	がん看護の基盤となる主要な理論や概念 4	エンパワメント 1. エンパワメントの概念について 2. エンパワメントアプローチについて 予習：エンパワメントの概念について調べる。 復習：エンパワメントの概念を用いた論文を読み，臨床での活用について考察する。	南口

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
14	がん看護の基盤となる主要な理論や概念 5	ソーシャル・サポート 1. ソーシャル・サポートの定義，種類について 2. ソーシャル・サポートの健康維持・促進メカニズムについて 予習：ソーシャル・サポートの概念を調べる。 復習：ソーシャル・サポートの概念を用いた論文を読み，臨床での活用について考察する。	南口
15	がん看護の基盤となる主要な理論や概念 6	がん予防に関する理論 1. ヘルスビリーフモデルについて 2. トランス・セオリティカルモデルについて 3. がん予防啓発教育に関する研究 予習：ヘルスビリーフモデル，トランス･セオリティカルモデルについて調べる。 復習：日本におけるがん啓発教育の課題について考察する。	鈴木

授業科目名	がん看護学特論Ⅱ				
授業科目（英）	Theory of Cancer Nursing Ⅱ				
教員名	鈴木　久美、南口　陽子、長嶂　美奈子（兼）、小山　富美子（非）、高見　陽子（非）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	後期	開講曜日	月曜6限、月曜7限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	がんの診断期，治療期，進行・再発期，ターミナル期の臨床経過や発達段階におけるがん患者，がんサバイバーの特徴を理解し，効果的かつ包括的な援助方法について学ぶ。また，がん患者の家族が直面する課題を理解し，家族を含めた支援を学ぶ。さらに，がん看護専門看護師の役割・機能について探究する。				
行動目標	1. がんの臨床経過や発達段階におけるがん患者，がんサバイバーが直面する健康課題とその援助について理解できる。 2. がん患者の家族が直面する課題とその援助について理解できる。 3. がん患者のトータルペインと緩和ケアの概念について理解できる。 4. がん患者の援助に重要な看護介入モデルや意思決定支援，エンドオブライフ・ケア等の概念について理解できる。 5. がん医療における倫理的課題および課題解決について理解できる。 6. がん患者に適用できる補完代替療法について理解できる。 7. がん看護専門看護師の役割と機能を理解し，自施設におけるがん専門看護師の役割を考察できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観，論理的・批判的思考力，柔軟な発想力，課題解決力，教育・調整力，発信力				
評価並びにフィードバック法	授業の参加状況や取り組み（20%），プレゼンテーション資料の作成（50%），プレゼンテーション・ディスカッション（30%）				
教科書	指定なし				
参考書	随時紹介				
事前準備受講要件等	がん看護学専攻の教育研究コース・高度実践コース以外の学生も受講可 予習・復習の時間：各60分				
オフィスアワー	金曜日 18:00～20:00				
SDGsとの関連	3，4				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～2	がんの臨床経過や発達段階におけるがん患者，サバイバーの特徴と看護	臨床経過，発達段階における患者の特徴と看護 1. 診断期のがん患者が直面する健康課題と援助 2. 治療期のがん患者が直面する健康課題と援助 3. 進行・再発期のがん患者が直面する健康課題と援助 4. 終末期がん患者が直面する健康課題と援助 5. がんサバイバー（AYA世代，成人，高齢者）が直面する健康課題と援助 予習：各時期における患者の特徴を調べる。 復習：各時期のがん患者の援助をまとめる。	鈴木
3	がん患者のトータルペインと緩和ケア	がん患者のトータルペインと緩和ケア 1. トータルペインの概念 2. がん患者のトータルペインとアセスメント 3. 緩和ケアの概念および歴史的変遷について 予習：トータルペイン，緩和ケアの概念について調べる。 復習：緩和ケアについてまとめる。	南口

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
4	がん患者の家族の特徴および支援	がん患者の家族の特徴と看護 1. 家族の発達課題 2. がん患者の家族が直面する課題 3. 家族のアセスメントと支援 予習：家族の発達課題を調べる。 復習：家族の課題に対する援助をまとめる。	鈴木
5〜6	がん看護における看護介入モデルの理解	がん患者における看護介入モデルの活用 1. Nursing Intervention Model の概念について 2. Nursing Intervention Model のがん看護実践への適用について討論する。 ＊上記の英語論文を訳し，プレゼンテーションを行う。 予習：Nursing Intervention Model の文献を抄読し，まとめる。 復習：がん看護実践への適用についてまとめる。	鈴木 南口
7〜8	がん患者の意思決定に対する支援	がん治療の意思決定における諸問題および支援 1. 意思決定の概念および意思決定における諸問題 2. がん治療（初期治療，再発治療）に対する意思決定支援 3. 療養の場の選択における意思決定支援 4. 生命維持治療における意思決定支援 予習：意思決定の概念について調べる。 復習：それぞれの意思決定支援をまとめる。	南口
9〜10	がん患者のエンドオブライフ・ケア	がん患者のエンドオブライフ・ケアと看取り 1. エンドオブライフ・ケアの概念 2. エンドオブライフでがん患者および家族が直面する課題 3. アドバンス・ケア・プランニングについて 4. がん患者の看取りと家族のグリーフケア 予習：エンドオブライフにおいて患者・家族が直面する課題について調べる。 復習：アドバンス・ケア・プランニングに対する援助について考察する。	長嶸
11〜12	がん医療における倫理的課題	がん医療における倫理的課題 1. がん医療における倫理的課題について 2. 臨床倫理の概念および Jonsen の 4 分割表の活用 3. 臨床倫理 4 分割表を用いた事例検討 4. がん看護専門看護師が行う倫理調整の実際 予習：倫理原則を調べる。 復習：事例検討をまとめる。	小山
13	がん患者における補完代替療法	がん患者における補完代替療法について 1. 補完代替療法の定義，種類，効用について 2. がん患者の補完代替療法の利用実態 3. がん患者への補完代替療法の活用について ＊上記の内容についてプレゼンテーションを行う。 予習：がん患者が使用している補完代替療法について調べる。 復習：補完代替療法における看護師の役割についてまとめる。	鈴木

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
14～15	がん看護専門看護師の役割と機能	がん看護専門看護師の役割・機能について 1. 専門看護師の役割・機能の概念（実践，相談，調整，倫理調整，教育，研究）とその実際 2. 自施設におけるがん専門看護師の果たす役割について討論する。 予習：がん看護専門看護師の役割・機能について調べる。 復習：自施設におけるがん看護専門看護師の役割をまとめる。	高見

授業科目名	がん病態治療論				
授業科目（英）	Cancer Pathology and Cancer Therapy				
教員名	鈴木　久美、南口　陽子、津田　泰宏、廣瀬　善信（兼）、藤阪　保仁（兼）、 岩本　充彦（兼）、池永　昌之（非）、重岡　靖（非）、所　昭宏（非）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	後期	開講曜日	集中講義		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	がん医療の動向，がんの病理，代表的な疾患の病態，診断・検査の進め方や，診療ガイドラインに基づいた治療戦略の臨床判断プロセスについて学ぶ。また，オンコロジック・エマージェンシー，がんに特有な症状の病態，診断，治療に関する医学的知識を学ぶ。				
行動目標	1. がんの疫学・がん対策について理解できる。 2. がんの発生，がん遺伝子･抑制遺伝子，がん進展過程，がんの病理診断について理解できる。 3. 代表的な疾患の病態，診断・検査の進め方，診療ガイドラインに基づいた治療戦略について理解できる。 4. オンコロジック・エマージェンシーの概念，病態，診断・検査の進め方，治療について理解できる。 5. がん患者に代表的な身体症状（がん疼痛等）および精神症状（不安・抑うつ，適応障害，うつ病等）の診断・検査の進め方，治療について理解できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	論理的・批判的思考力，柔軟な発想力，課題解決力				
評価並びにフィードバック法	授業の参加状況や取り組み（20%），プレゼンテーション･ディスカッション（30%），課題レポート（50%）				
教科書	指定なし				
参考書	随時紹介				
事前準備受講要件等	予習を必ず行うこと 予習・復習の時間：各 60 分				
オフィスアワー	金曜日 18:00～20:00				
SDGs との関連	3，4				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	がん医療の動向	がんの疫学とがん対策について 1. がんの罹患・死亡の動向 2. がん対策について ＊上記の内容についてプレゼンテーションを行う。 予習：がんの疫学・がん対策基本法等を調べる。 復習：がん対策についてまとめる。	鈴木 南口
2～3	がんの病理と診断	がんの病理と診断 1. がんの発生，がん遺伝子・抑制遺伝子，がん進展過程 2. がんの病理診断 予習：がんの病態について調べる。 復習：病理診断についてまとめる。	廣瀬
4	代表的ながんの病態と治療 1	肺がんと治療 1. 肺がんの病態，診断・検査，治療戦略 予習：肺がんの病態について調べる。 復習：肺がんの治療についてまとめる。	藤阪

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
5〜6	代表的ながんの病態と治療 2	消化器がん（胃・大腸・膵・肝）の診断と治療 1. 胃がん・大腸がんの病態，診断・検査 2. 膵臓がん・肝臓がんの病態，診断・検査 予習：消化器がんの病態・検査について調べる。 復習：消化器がんの診断についてまとめる。	津田
7	代表的ながんの病態と治療 3	消化器がん（胃・大腸・膵）の治療 1. 胃がん・大腸がん・膵がん等の治療戦略 予習：消化器がんの治療法について調べる。 復習：消化器がんの治療についてまとめる。	津田
8〜9	代表的ながんの病態と治療 4	乳がんと治療 1. 乳がんの病態，診断・検査，治療戦略 2. 骨転移の病態，診断・検査，治療戦略 予習：乳がんの病態について調べる。 復習：乳がん治療および骨転移についてまとめる。	岩本
10〜11	オンコロジック・エマージェンシー	オンコロジック・エマージェンシー 1. オンコロジック・エマージェンシーの概念および病態 2. オンコロジック・エマージェンシーの診断および治療 予習：オンコロジック・エマージェンシーについて調べる。 復習：オンコロジック・エマージェンシーの病態や診断についてまとめ。	重岡
12〜13	精神症状のマネジメント	がんと精神症状 1. がん患者の一般的な心理反応（不安・抑うつ） 2. 精神症状の包括的アセスメントと治療 3. 適応障害，うつ病の概念，診断・治療 予習：適応障害，うつ病について調べる 復習：適応障害，うつ病の治療をまとめる。	所
14〜15	身体症状のマネジメント	身体症状のマネジメント 1. がん患者に特徴的な身体症状 2. 身体症状の包括的アセスメントと症状マネジメント 3. がん疼痛の評価と薬物治療 予習：がん疼痛のメカニズムを調べる。 復習：がん疼痛の薬物療法についてまとめる。	池永

授業科目名	がん看護学援助論Ⅰ				
授業科目（英）	Nursing Intervention for Cancer Patients Ⅰ				
教員名	鈴木　久美、南口　陽子、藤阪　保仁（兼）、菅野　かおり（非）、畠山　明子（非）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期	開講曜日	火曜 6 限、火曜 7 限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	がん薬物療法における医学的知識に基づいて，治療に伴う有害事象に対する臨床判断および予防・早期発見・早期対処に関する援助方法，ならびに治療におけるセルフケア，セルフマネジメントを促進する看護について学ぶ。また，がん薬物療法の継続を支える支援について探究する。				
行動目標	1. 臨床経過（初期治療，進行・再発期治療）のなかでがん薬物療法を受ける患者の特徴および援助方法について理解できる。 2. がん薬物療法における標準治療と臨床試験の考え方について理解できる。 3. 抗がん薬の管理および曝露対策，血管外漏出への援助について理解できる。 4. がん薬物療法に伴う代表的な有害事象のアセスメントおよび臨床判断，症状マネジメントについて理解できる。 5. がん薬物療法の継続を支える援助について考察できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	論理的・批判的思考力，柔軟な発想力，課題解決力，教育実践力，高度な看護実践力，教育・調整力，課題解決力				
評価並びにフィードバック法	授業の参加状況や取り組み（20%），プレゼンテーション資料の作成（50%），プレゼンテーション・ディスカッション（30%）				
教科書	指定なし				
参考書	随時紹介				
事前準備受講要件等	がん看護学専攻の教育研究コースの学生も受講可 予習・復習の時間：各 60 分				
オフィスアワー	金曜日 18:00～20:00				
SDGs との関連	3，4				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～2	がん薬物療法における看護の概要	がん薬物療法（抗がん薬，分子標的薬，免疫チェックポイント阻害薬，内分泌療法）を受ける患者の特徴と援助 1. 補助療法として抗がん薬，分子標的薬，免疫チェックポイント阻害薬を受けるがん患者の課題とその援助 2. 進行・再発がんで抗がん薬，分子標的薬，免疫チェックポイント阻害薬を受けるがん患者の課題とその援助 3. 内分泌療法を受ける患者の課題とその援助 ＊上記の内容についてプレゼンテーションを行う。 予習：抗がん薬や内分泌療法を受ける患者の課題を調べる。 復習：がん薬物療法の看護師の役割をまとめる。	鈴木
3	がん薬物療法に対する理解 1	がん薬物療法（抗がん薬，分子標的薬等），免疫療法のレジメンの考え方と治療選択について 1. 治療レジメンとは 2. 治療選択の考え方 3. 治療の効果判定について 予習：治療レジメンの概念について調べる。 復習：治療の意思決定支援についてまとめる。	藤阪

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
4	がん薬物療法に対する理解 2	臨床試験・治験の発展と諸問題 1. 臨床試験・治験，標準治療の違い 2. 臨床試験・治験における看護師の役割 予習：臨床試験・治験の概念について調べる。 復習：臨床試験における援助をまとめる。	藤阪
5〜6	がん薬物療法に対する看護 1	抗がん薬の管理 1. 抗がん薬の種類と取り扱い 2. 抗がん薬の曝露対策とその取り組み 3. 血管のアセスメントと血管外漏出とその対策 予習：抗がん薬の種類について調べる。 復習：血管外漏出の予防法についてまとめる。	菅野
7	がん薬物療法に対する看護 2	経口抗がん薬，経口分子標的薬を服用している患者の援助 1. 患者の特徴および出現しやすい副作用 2. 患者アセスメント，セルフマネジメント教育 予習：経口抗がん治療薬について調べる。 復習：経口抗がん治療薬の看護をまとめる。	南口
8〜9	がん薬物療法に伴う有害事象と援助 1	治療に伴う有害事象と援助：消化器症状 1. 悪心・嘔吐，下痢，便秘の発生機序 2. 症状のアセスメントと臨床判断 3. 症状マネジメントと評価 ＊上記の内容についてプレゼンテーションを行う 予習：悪心・嘔吐，下痢，便秘の発生機序について調べる。 復習：効果的な対処法についてまとめる。	南口
10	がん薬物療法に伴う有害事象と援助 2	治療に伴う有害事象と援助：骨髄抑制 1. 血球減少の発生機序 2. 症状のアセスメントと臨床判断 3. 症状マネジメントと評価 ＊上記の内容についてプレゼンテーションを行う。 予習：骨髄抑制の発生機序を調べる。 復習：効果的な対処法についてまとめる。	鈴木
11〜12	がん薬物療法に伴う有害事象と援助 3	治療に伴う有害事象と援助：神経障害と皮膚反応 1. 末梢神経障害，手足症候群の発生機序 2. 症状のアセスメントと臨床判断 3. 症状マネジメントと評価 ＊上記の内容についてプレゼンテーションを行う。 予習：末梢神経障害，手足症候群の発生機序を調べる。 復習：効果的な対処法についてまとめる。	鈴木 南口
13	がん薬物療法に伴う有害事象と援助 4	治療に伴う性機能障害・生殖機能障害と援助 1. 性機能障害および生殖機能障害の発生機序 2. 性機能・生殖機能のアセスメント 3. セクシュアリティへの援助 4. 妊孕性保護について ＊上記の内容についてプレゼンテーションを行う。 予習：性機能障害・生殖機能障害の発生機序を調べる。 復習：妊孕性保護の具体的な援助をまとめる。	鈴木

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
14～15	がん薬物療法の継続を促す支援	がん薬物療法の継続を促す支援 1. がん薬物療法の継続を促す支援における看護師の役割 2. 補助療法としてがん薬物療法を受ける患者のアドヒアランスを高める援助 3. 再発がん患者のがん薬物療法の継続を促す支援 予習：アドヒアランスの概念および影響要因について調べる。 復習：がん薬物療法の継続を促す看護師の役割についてまとめる。	畠山

授業科目名	がん看護学援助論Ⅱ				
授業科目（英）	Nursing Intervention for Cancer Patients Ⅱ				
教員名	鈴木　久美、南口　陽子、二瓶　圭二（兼）、藤本　美生（非）、 橋口　周子（非）、戎谷　明日香（非）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	後期	開講曜日	火曜 6 限、火曜 7 限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	放射線療法看護の基盤となる放射線療法の原理や治療戦略，有害事象の発生機序，放射線防護の三原則と被曝対策について学ぶ。放射線療法を受けるがん患者の特徴および代表的な有害事象，晩期障害に対するアセスメント，臨床判断，予防・早期発見・早期対処に関するセルフケアを促進する援助方法について学ぶ。また，放射線療法におけるがん看護専門看護師の役割について探究する。				
行動目標	1. 放射線療法を受けるがん患者の特徴および援助方法について理解できる。 2. 最新の放射線療法およびその看護，被曝対策について理解できる。 3. 外照射と内照射を受けるがん患者の特徴および援助方法について理解できる。 4. 放射線療法に伴う代表的な有害事象に対する臨床判断および援助方法を理解できる。 5. 放射線療法におけるがん看護専門看護師の役割について考察できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題解決力，論理的・批判的思考力，柔軟な発想力，調整・教育力				
評価並びにフィードバック法	授業の参加状況や取り組み（20%），プレゼンテーション資料の作成（50%），プレゼンテーション・ディスカッション（30%）				
教科書	指定なし				
参考書	随時紹介				
事前準備受講要件等	がん看護学の教育研究コースの学生も受講可 予習・復習の時間：各 60 分				
オフィスアワー	金曜日 18:00～20:00				
SDGs との関連	3，4				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	放射線療法に関する看護の概要	放射線療法を受けるがん患者の特徴と援助 1. 根治治療としての放射線療法を受ける初発がん患者の課題とその援助 2. 緩和治療としての放射線療法を受ける進行・再発がん患者の課題とその援助 3. 放射線療法完遂を支える心理的援助 予習：放射線療法を受ける患者の課題を調べる。 復習：放射線療法の看護師の役割をまとめる。	鈴木
2～3	最新の放射線療法	最新の放射線治療 1. 放射線療法の原理 2. 放射線の種類（X 線，重粒子線，ホウ素中性子等）と特徴 3. 放射線療法の適応と治療戦略，治療効果判定 4. 有害事象の種類と発生機序 5. 身体管理，有害事象対策の実際 予習：放射線の原理，放射線の種類を調べる。 復習：有害事象の発生機序と対策をまとめる。	二瓶

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
4～5	放射線療法に対する看護 1	外照射と内照射を受ける患者の看護 1. 外照射を受ける患者の特徴と看護 2. 内照射を受ける患者の特徴と看護 3. 放射線防護の三原則と被曝対策 予習：外照射と内照射の有害事象を調べる。 復習：外照射と内照射の看護の特徴をまとめる。	橋口
6～7	放射線療法に対する看護 2	照射部位に応じた患者の特徴と援助 1. 脳腫瘍患者に生じる有害事象と援助 2. 頭頸部腫瘍患者に生じる有害事象と援助 3. 消化器がん患者に生じる有害事象と援助 予習：照射部位の有害事象について調べる。 復習：照射部位による援助の特徴をまとめる。	戎谷
8～9	放射線療法に伴う有害事象と援助 1	治療に伴う有害事象と援助：皮膚・粘膜障害 1. 放射性皮膚炎，粘膜炎の発生機序 2. 症状のアセスメントと臨床判断 3. 症状マネジメントと評価 ＊上記の内容についてプレゼンテーションを行う。 予習：皮膚炎，粘膜炎の発生機序を調べる。 復習：効果的なケアについてまとめる。	南口
10	放射線療法に伴う有害事象と援助 2	治療に伴う有害事象と援助：骨髄抑制・肺臓炎 1. 骨髄抑制・肺臓炎の発生機序 2. 症状のアセスメントと臨床判断 3. 症状マネジメントと評価 ＊上記の内容についてプレゼンテーションを行う。 予習：骨髄抑制・肺臓炎の発生機序を調べる。 復習：効果的なケアについてまとめる。	鈴木
11～12	放射線療法に伴う有害事象と援助 3	治療に伴う有害事象と援助：晩期障害 1. 起こりやすい晩期障害とその発生機序 2. 症状のアセスメントと臨床判断 3. 症状マネジメントと評価 ＊上記の内容についてプレゼンテーションを行う。 予習：晩期障害について調べる。 復習：効果的なケアについてまとめる。	南口 鈴木
13～14	最新の放射線療法と看護	最新の放射線治療と看護 1. 重粒子線治療とは 2. 治療過程に沿ったアセスメント 3. 有害事象とマネジメント 4. 晩期障害と援助 予習：重粒子線について調べる。 復習：重粒子線治療の援助を考察する。	藤本
15	放射線療法におけるがん看護専門看護師の役割の理解	放射線療法におけるがん看護専門看護師の役割 1. 放射線療法における看護実践，相談，調整，倫理調整，教育の実際について 予習：がん専門看護師の役割・機能について復習する。 復習：放射線療法におけるがん看護専門看護師の役割を考察する。	藤本

授業科目名	がん看護学演習Ⅰ				
授業科目（英）	Seminar of Cancer Nursing Ⅰ				
教員名	南口　陽子、鈴木　久美				
単位数	2	時間数	60	学年	1
開講期	通年	開講曜日	前期（木曜6限、木曜7限）、後期（木曜6限、木曜7限）		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	がん薬物療法もしくは放射線療法を受けるがん患者の体験や、がんの病態または治療により生じている症状体験を理解する方法について学ぶ。また、症状緩和のための看護技術に関してEvidence Based Practice（EBP）の手法を用いた文献検討を行い、得られた知見をもとに看護実践におけるエビデンスの活用について学ぶ。				
行動目標	1. がん薬物療法や放射線療法の看護に関する文献についてEBP手法を用いて検討し、得られた知見をもとに看護実践におけるエビデンスの活用や応用ができる。 2. がん薬物療法や放射線療法を受けるがん患者に適用できる症状マネジメントモデルの概念及び臨床での活用法について理解できる。 3. がん薬物療法もしくは放射線療法を受ける初発がん患者や再発がん患者が体験する症状を、症状マネジメントモデルに基づいて理解し、症状緩和技術の文献についてEBP手法を用いて検討し、看護実践におけるエビデンスの活用を考察できる。 4. がん薬物療法と放射線療法を併用しているがん患者の体験や看護介入の文献についてEBP手法を用いて文献検討し、看護実践におけるエビデンスの活用を考察できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、課題探求力、課題解決力、高度な看護実践力				
評価並びにフィードバック法	授業の参加状況や取り組み（20%）、プレゼンテーション資料の作成（60%）、プレゼンテーション（20%） 予習・復習の時間：各60分				
教科書	指定なし				
参考書	随時、紹介				
事前準備受講要件等	指定された課題をまとめる				
オフィスアワー	金曜日 18:00～19:00				
SDGsとの関連	3，4				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～2	がん薬物療法看護や放射線療法看護に関するEBP手法を用いた文献検討	1. がん薬物療法や放射線療法を受ける患者体験及び看護に関連した文献検索について 2. 文献から得られた知見のエビデンスの検討法 3. 文献から得られたエビデンスの活用について 予習：指定された課題をまとめる。 復習：指定された文献を検討し、まとめる。	鈴木
3～4	がん薬物療法や放射線療法を受けるがん患者の症状マネジメント	1. がん薬物療法や放射線療法を受ける患者が体験する主な症状 2. 症状マネジメントモデルの概念及び活用法 3. 症状マネジメントモデルを用いた事例分析 予習：症状マネジメントモデルについて調べる。 復習：IASMを用いた事例をまとめる。	南口

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
5〜8	がん薬物療法を受ける肺がん患者の症状の理解と症状緩和技術におけるエビデンスの活用	1. がん薬物療法を受ける肺がん患者に特有な症状（呼吸困難等）を取り上げ、症状マネジメントモデルに基づいて症状体験の理解を深める。 2. 取り上げた症状緩和技術に関する文献を読み、エビデンスの検討を行う。 3. 文献から得られた知見や課題について検討し、がん薬物療法を受ける肺がん患者への効果的な看護実践について考察する。 4. 上記の学習内容をプレゼンテーションする。 予習：取り上げた症状の定義や発生機序、関連文献を検索し、批判的に吟味する。 復習：がん看護実践への応用についてまとめる。	南口 鈴木
9〜12	がん薬物療法を受ける消化器（胃、大腸、肝臓、膵臓）がん患者の症状の理解と症状緩和技術におけるエビデンスの活用	1. がん薬物療法を受ける消化器（胃、大腸、肝臓、膵臓）がん患者に特有な症状（消化器症状等）を取り上げ、症状マネジメントモデルに基づいて症状体験の理解を深める。 2. 取り上げた症状緩和技術に関する文献を読み、エビデンスの検討を行う。 3. 文献から得られた知見や課題について検討し、がん薬物療法を受ける消化器がん患者への効果的な看護実践について考察する。 4. 上記の学習内容をプレゼンテーションする。 予習：取り上げた症状の定義や発生機序、関連文献を検索し、批判的に吟味する。 復習：がん看護実践への応用についてまとめる。	南口 鈴木
13〜16	がん薬物療法と放射線療法を併用している食道がん患者の理解と看護実践におけるエビデンスの活用	1. がん薬物療法と放射線療法を併用している食道がん患者の体験に関する文献から患者の特徴を理解する。 2. がん薬物療法と放射線療法を併用している食道がん患者への看護介入に関する文献を読み、エビデンスの検討を行う。 3. 文献から得られた知見等について検討し、がん薬物療法及び放射線療法を併用している食道がん患者への効果的な看護実践を考察する。 4. 上記の学習内容をプレゼンテーションする。 予習：検索文献を読み、エビデンスを吟味する。 復習：がん看護実践への応用についてまとめる。	南口 鈴木
17〜20	がん薬物療法と放射線療法を併用している再発前立腺がん患者の理解と看護実践におけるエビデンスの活用	1. がん薬物療法と放射線療法を併用している再発前立腺がん患者の体験に関する文献から患者の特徴を理解する。 2. がん薬物療法と放射線療法を併用している前立腺がん患者への看護介入に関する文献を読み、エビデンスの検討を行う。 3. 文献から得られた知見等について検討し、がん薬物療法と放射線療法を併用している前立腺がん患者への効果的な看護実践を考察する。 4. 上記の学習内容をプレゼンテーションする。 予習：検索文献を読み、エビデンスを吟味する。 復習：がん看護実践への応用についてまとめる。	南口 鈴木

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
21～24	放射線療法を受ける婦人科がん患者の症状の理解と症状緩和技術におけるエビデンスの活用	1. 放射線療法を受ける婦人科がん患者に特有な症状（排尿障害等）を取り上げ、症状マネジメントモデルに基づいて症状体験の理解を深める。 2. 取り上げた症状緩和技術に関する文献を読み、エビデンスの検討を行う。 3. 文献から得られた知見や課題について検討し、放射線療法を受ける婦人科がん患者への効果的な看護実践について考察する。 4. 上記の学習内容をプレゼンテーションする。 予習：取り上げた症状の定義や発生機序、関連文献を検索し、批判的に吟味する。 復習：がん看護実践への応用についてまとめる。	南口 鈴木
25～28	放射線療法を受ける再発乳がん患者の症状の理解と症状緩和技術におけるエビデンスの活用	1. 放射線療法を受ける再発乳がん患者に特有な症状（がん疼痛）を取り上げ、症状マネジメントモデルに基づいて症状体験の理解を深める。 2. 取り上げた症状緩和技術に関する文献を読み、エビデンスの検討を行う。 3. 文献から得られた知見や課題について検討し、放射線療法を受ける再発乳がん患者への効果的な看護実践について考察する。 4. 上記の学習内容をプレゼンテーションする。 予習：取り上げた症状の定義や発生機序、関連文献を検索し、批判的に吟味する。 復習：がん看護実践への応用についてまとめる。	南口 鈴木
29～30	がん薬物療法や放射線療法を受けるがん患者の心理・社会的特徴の理解と看護実践におけるエビデンスの活用	1. がん薬物療法や放射線療法を受けるがん患者の心理・社会的特徴を文献から理解する。 2. がん薬物療法や放射線療法を受ける患者の心理･社会的課題への看護介入について文献を読み、エビデンスを検討したうえで、効果的な看護実践について考察する。 3. 上記の学習内容をプレゼンテーションする。 予習：検索した文献を読み、まとめる。 復習：がん看護実践への応用についてまとめる。	南口 鈴木

授業科目名	がん看護学演習Ⅱ				
授業科目（英）	Seminar of Cancer Nursing Ⅱ				
教員名	鈴木　久美、南口　陽子、上田　育子（兼）、有田　由美（兼）、野口　忍（非）				
単位数	2	時間数	60	学年	1
開講期	後期～前期	開講曜日	2025 年度 後期（木曜 6 限、木曜 7 限）、2026 年度 前期（木曜 6 限、木曜 7 限）		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	がん薬物療法や放射線療法を受けるがん患者の援助に必要な看護介入技法を取り上げ，講義，学内演習および医療施設における学外演習を通して，看護介入技法の知識や技術を習得する。				
行動目標	1. がん薬物療法や放射線療法を受ける患者のセルフマネジメント教育の重要性を理解した上で，患者教育のプロセスを展開できる。 2. がん薬物療法や放射線療法を受けており症状を有するがん患者に対して症状マネジメントモデルを用いた看護介入の実際を理解できる。 3. がん薬物療法や放射線療法を受けるがん患者へのグループアプローチを理解し，がん患者におけるグループアプローチの有効性や活用方法について考察できる。 4. がん薬物療法や放射線療法を受けている患者への相談技術について理解し，相談技術のスキルの活用を考察できる。 5. がん薬物療法や放射線療法を受けているがん患者の退院調整，退院支援の概念，および退院調整・支援のプロセスや具体的方法について理解できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	論理的・批判的思考力，柔軟な発想力，課題解決力，高度な看護実践力，調整・教育力				
評価並びにフィードバック法	授業の参加状況や取り組み（40%），課題レポート（60%）				
教科書	指定なし				
参考書	随時紹介				
事前準備受講要件等	がん看護学専攻の教育研究コースの学生も受講可 予習・復習の時間：各 60 分				
オフィスアワー	金曜日 18:00～20:00				
SDGs との関連					

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～2	がん薬物療法を受ける患者のセルフマネジメントを促すための患者教育の理解	【学内演習：薬物療法を受ける患者の教育】 1. がん薬物療法を受ける患者のセルフマネジメントを促す学習計画について事例を用いて展開する。（学習ニーズアセスメント，教育目標の設定，学習計画立案，実施上の留意点，評価） 予習：事例に基づいて課題を実施する。 復習：学習計画を修正する。	鈴木
3～4	放射線療法を受けるがん患者のセルフマネジメントを促すための患者教育の理解	【学内演習：放射線療法を受ける患者の教育】 1. 放射線療法を受ける患者のセルフマネジメントを促す学習計画について事例を用いて展開する。（学習ニーズのアセスメント，教育目標の設定，学習計画立案，実施上の留意点，評価） ＊事例分析した内容についてプレゼンテーションを行う。 予習：事例に基づいて課題を実施する。 復習：学習計画を修正する。	鈴木 南口

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
5〜7	がん薬物療法や放射線療法を受け症状有するがん患者の症状マネジメントの実際 1	【学外演習：大阪医科薬科大学病院での演習】 1. がん疼痛のある患者のケア場面に参加し，アセスメントや症状マネジメント方略（薬物の調整，痛みの評価）の実際を学ぶ。 2. 看護師が関わった患者のアセスメントおよび症状マネジメント方略をまとめ考察し，プレゼンテーションを行う。 予習：がん疼痛の薬物療法を調べる。 復習：事例としてまとめ，考察する。	有田 鈴木 南口
8〜10	がん薬物療法や放射線療法を受け症状を有するがん患者の症状マネジメントの実際 2	【学外演習：大阪医科薬科大学病院での演習】 1. 症状（倦怠感，不眠，悪心・嘔吐，食欲不振等）のあるがん患者のケア場面に参加し，アセスメントおよび症状マネジメント方略を学ぶ。 2. 看護師が関わった患者のアセスメントおよび症状マネジメント方略をまとめ考察し，プレゼンテーションを行う。 予習：症状マネジメントモデルやがん疼痛のアセスメントや薬物療法を復習する。 復習：事例としてまとめ，考察する。	有田 鈴木 南口
11〜12	がん薬物療法や放射線療法を受けている患者のグループアプローチの理解	【講義：がん患者のグループアプローチ】 1. グループアプローチの概念，機能，効用 2. グループアプローチの展開方法及びスキル 予習：グループアプローチについて調べる。 復習：グループアプローチの展開をまとめる。	鈴木
13〜14	がん薬物療法や放射線療法を受けている患者がん患者のグループアプローチの実際 1	【学外演習：乳がん患者会への参加】 1. がん薬物療法や放射線療法を受けている乳がんの患者会に参加し，会の準備や運営に参画し，ファシリテーターを体験する。 予習：ファシリテーターのスキルを復習する。 復習：患者会の効果を分析し，まとめる。	鈴木
15〜16	がん薬物療法や放射線療法を受けている患者がん患者のグループアプローチの実際 2	【学外演習：病院のがん患者サロンへの参加】 1. がん薬物療法や放射線療法を受けているがん患者が参加している患者サロンに参加し，会の準備や運営に参画する。 予習：がん診療拠点病院におけるがん患者サロンの役割を調べる。 復習：がん看護専門看護師が用いているスキルを分析し，レポートにまとめる。	上田 鈴木 南口
17〜18	がん薬物療法や放射線療法を受けている患者の相談技術の理解	【講義：がん相談技術について】 1. 病院におけるがん相談支援センターの役割 2. がん相談支援センターで多い相談内容 3. がん相談に必要な知識・技術について 4. がん相談やがんサポート外来の展開について 5. がん患者の就労支援 予習：相談に必要な知識・技術を調べる。 復習：がん相談のプロセスについてまとめる。	上田
19〜21	がん薬物療法や放射線療法を受けている患者の相談技術の実際 1	【学外演習：大阪医科薬科大学病院での演習】 1. がん相談支援センターでのケア場面に参加し，がん看護専門看護師が用いる相談技術を学ぶ。 2. 相談内容・相談技術を分析し，考察する。 予習：がん相談のプロセスについて復習する。 復習：相談技術についてまとめる。	上田 鈴木 南口

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
22～24	がん薬物療法や放射線療法を受けている患者の相談技術の実際 2	【学外演習：大阪医科薬科大学病院での演習】 1. がんサポート外来でのケア場面に参加し，がん看護専門看護師が用いる相談技術を学ぶ。 2. 支援内容・相談技術を分析し，考察する。 予習：がん相談のプロセスについて復習する。 復習：相談技術についてまとめる。	上田 鈴木 南口
25～26	がん薬物療法や放射線療法を受けているがん患者の退院調整・退院支援の理解	【講義：がん患者の退院調整・支援】 1. 地域包括ケアの概念 2. がん患者の退院調整・退院支援の概念 3. がん患者の退院調整・退院支援に必要な技術 予習：退院調整・退院支援について調べる。 復習：退院調整・退院支援に必要な技術についてまとめる。	野口
27～28	がん薬物療法や放射線療法を受けているがん患者の退院調整・退院支援の実際 1	【学外演習：大阪医科薬科大学病院での演習】 1. 広域医療連携センターでのがん患者の支援場面に参加し，退院・転院が必要な患者・家族への説明，他部門との調整・連携，支援を学ぶ。 2. 関わった事例のプロセスを分析し考察する。 予習：退院調整・支援について復習する。 復習：関わった患者の事例をまとめる。	鈴木 南口
29～30	がん薬物療法や放射線療法を受けているがん患者の退院調整・退院支援の実際 2	【学外演習：大阪医科薬科大学病院での演習】 1. 広域医療連携センターでのがん患者の支援場面に参加し，在宅療養が必要な患者･家族への説明，他部門との調整・連携，支援を学ぶ。 2. 関わった事例のプロセスを分析し考察する。 予習：退院調整・支援について復習する。 復習：関わった患者の事例をまとめる。	鈴木 南口

授業科目名	がん看護学実習Ⅰ				
授業科目（英）	Advanced Practicum of Cancer Nursing Ⅰ				
教員名	鈴木　久美、南口　陽子				
単位数	2	時間数	90	学年	1
開講期	後期	開講曜日	実習		
科目区分	選択	授業形態	実習		
一般目標	主要ながんの診断における臨床判断，および治療決定のプロセスについて必要な知識や技術を学ぶ。また，がん薬物療法や放射線療法を受けるがん患者の身体管理及び治療評価における臨床判断プロセスについて理解し，高度実践看護への応用について学ぶ。				
行動目標	1. 主ながん（乳がん等）の診断（問診，フィジカルアセスメント，画像診断，病理診断，検査データの解釈）における臨床判断について理解できる。 2. がん患者の治療戦略の立て方や治療決定プロセスについて理解できる。 3. がん薬物療法を受けるがん患者の身体管理および治療評価における臨床判断プロセスについて理解できる。 4. 放射線療法を受けるがん患者の身体管理および治療評価における臨床判断プロセスについて理解できる。 5. がん薬物療法や放射線療法を受けている患者への看護実践の応用について考察できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	論理的・批判的思考力，柔軟な発想力，課題解決力，高度な看護実践力，発信力				
評価並びにフィードバック法	実習への参加状況及び取り組み（30%），実習カンファレンス（20%），課題レポート（50%）				
教科書	随時紹介				
参考書	随時紹介				
事前準備受講要件等	がん病態治療論，がん看護学援助論Ⅰ・Ⅱの内容を復習して臨むこと 予習・復習の時間：150 分				
オフィスアワー	金曜日 18:00～20:00				
SDGs との関連	3，4				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1〜45時間	がん疾患の診断・治療における臨床判断，およびがん薬物療法を受けている患者の身体管理・治療評価における臨床判断（1単位）	【実習内容】 ①主ながん（乳がん等）の診断と治療決定における臨床判断プロセス ②がん薬物療法を受けるがん患者の身体管理および治療評価における臨床判断プロセス 【方法】 ①がんの診断・治療における臨床判断プロセス ・外来の診察場面に同席し，医師の指導のもと，患者の問診，フィジカルアセスメントを実施する。また，画像診断，病理診断，検査データを基にした診断プロセスにおける臨床判断を学ぶ。 ・また，外来の診察場面や臨床カンファレンスに参加し，医師の指導のもと診断に基づいた治療戦略の立て方や治療決定のプロセスを学ぶ。 ・課題レポートを作成し，問診，フィジカルアセスメント，画像診断，病理診断，検査データを基にした診断プロセス，治療決定にいたるプロセスについてまとめ，考察する。 ②がん薬物療法を受ける患者の身体管理および治療評価における臨床判断プロセス ・がん薬物療法を受けている患者の有害事象を含めた身体管理（問診，フィジカルアセスメント，検査データの解釈）における臨床判断，有害事象対策，治療の評価について学ぶ。 ・課題レポートを作成し，身体管理（問診，フィジカルアセスメント，検査データ）における臨床判断，有害事象対策，治療効果の評価についてまとめ，看護実践への応用について考察する。 ＊必ず1回は学生主体のカンファレンスを計画し，医師およびがん看護専門看護師，教員による指導を受ける。 ＊課題レポートをまとめる際には，医師やがん看護専門看護師，教員のスーパービジョンを受ける。	鈴木 南口

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
46～90時間	放射線療法を受けるがん患者の身体管理・治療評価における臨床判断（1単位）	【実習内容】 放射線療法を受けるがん患者の身体管理および治療評価における臨床判断プロセス 【方法】 ・放射線治療室での診察場面に同席し，医師の指導のもと，放射線療法を受けているがん患者の有害事象を含めた身体管理（問診，フィジカルアセスメント，検査データの解釈）における臨床判断，および有害事象対策，治療効果の評価について学ぶ。 ・課題レポートを作成し，身体管理（問診，フィジカルアセスメント，検査データ）における臨床判断，有害事象対策，治療の評価についてまとめ，看護実践への応用について考察する。 ＊必ず1回は学生主体のカンファレンスを計画し，医師およびがん看護専門看護師，教員による指導を受ける。 ＊課題レポートをまとめる際には，医師やがん看護専門看護師，教員のスーパービジョンを受ける。 【実習場所と実習指導者】 1. 大阪医科薬科大学病院 岩本 充彦（乳腺・内分泌外科医師） 二瓶 圭二（放射線治療科医師） 上田 育子（がん看護専門看護師） 長嶸 美奈子（がん看護専門看護師） 【教員】 鈴木 久美，南口 陽子 【実習期間】 11月～1月のうち4～5週間（週3～4日を原則）	鈴木 南口

授業科目名	がん看護学実習Ⅱ				
授業科目（英）	Advanced Practicum of Cancer Nursing Ⅱ				
教員名	南口　陽子、鈴木　久美				
単位数	2	時間数	90	学年	1
開講期	後期	開講曜日	実習		
科目区分	選択	授業形態	実習		
一般目標	がん薬物療法及び放射線療法におけるがん看護専門看護師が果たす実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究に関する役割・機能の実際について学び、役割開発に関する能力を培う。				
行動目標	1. がん看護専門看護師の実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究に関する役割・機能について理解できる。 2. がん看護専門看護師が実践、相談、調整、倫理調整、教育で用いている専門知識、臨床判断、熟練したケア技術等のあらゆる介入技術を理解できる。 3. がん看護専門看護師とともに相談、調整、倫理調整のいずれかの役割を考察できる。 4. サブスペシャリティをもつがん看護専門看護師の役割･機能と役割開発について考察できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、理論的・批判的思考力、課題解決力、高度な看護実践力、調整・教育力				
評価並びにフィードバック法	実習への参加状況及び取り組み（30%）、実習カンファレンス（20%）、課題レポート（50%）				
教科書	随時、紹介				
参考書	随時、紹介				
事前準備受講要件等	がん看護学特論Ⅱの内容を復習して臨むこと 予習・復習の時間：150 分				
オフィスアワー	金曜日 18:00～19:00				
SDGs との関連	3，4				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～90時間	がん看護専門看護師の役割・機能（2単位）	【実習内容】 がん看護専門看護師の指導のもと、実践、教育、相談、調整、倫理的調整、教育、研究における役割・機能について学ぶ。 【方法】 ・がん看護専門看護師の活動に一緒に参加し、見学実習を行う。 ・がん専門看護師の果たす役割のうち、相談、調整、倫理調整のいずれかを考察する。 1. 外来や病棟において複雑な問題を抱えているがん患者及び家族への専門看護師の関わりを通して、どのような専門知識や臨床判断、看護ケア技術を用いて実践しているのかを分析し、高度実践について考察する。 2. 外来や病棟における相談場面に参加して、対応を必要とした問題を明確化したうえで、相談内容と経過、用いた技術・方略を分析し、相談のプロセスや効果的な技術を考察する。 3. 外来や病棟における調整、倫理調整の場面に参加し、対応した課題･問題の明確化の方法、課題･問題への調整の方向性やその具体的アプローチ、期待される成果について分析し、調整、倫理調整のプロセス及び介入技術を考察する。 4. 外来や病棟の看護スタッフへの教育場面や関わっている場面に参加し、教育ニーズの把握、教育計画立案、評価について明確にし、教育における役割・機能を考察する。 5. 施設においてどのような方略を用いたり、どのような体制をつくり、役割開発しているか専門看護師とのかかわりから分析し、考察する。 ＊がん看護専門看護師の役割・機能について、まとめのカンファレスを行う ＊実習終了後に、がん看護専門看護師の役割・機能及び役割ごとの自己の課題についてレポートを作成し、考察する。 【実習場所及び実習指導者】 1. 大阪府済生会吹田病院 高見　陽子（がん看護専門看護師） 2. 大阪医科薬科大学病院 上田　育子（がん看護専門看護師） 3. 淀川キリスト教病院 市原　香織（がん看護専門看護師） 【教員】 南口　陽子，鈴木　久美 【実習期間】 2月のうち2週間（週5日を原則）	南口 鈴木

授業科目名	がん看護学実習Ⅲ				
授業科目（英）	Advanced Practicum of Cancer Nursing Ⅲ				
教員名	鈴木　久美、南口　陽子				
単位数	3	時間数	135	学年	2
開講期	前期	開講曜日	実習		
科目区分	選択	授業形態	実習		
一般目標	がん薬物療法を受け複雑な問題を抱えている患者および家族に対して，学んだ専門知識や臨床判断，看護ケア技術を用いて，がん看護専門看護師としての倫理観に基づき，質の高いケアを提供する実践能力を培う。また，がん薬物療法看護におけるがん看護専門看護師が果たす役割（相談，調整，倫理調整）が自立して行える能力を養う。				
行動目標	1. がん薬物療法を受け複雑な問題を抱えている患者および家族に対して，専門知識や的確な臨床判断，エビデンスに基づいた看護ケア技術を用いて，患者および家族の QOL の維持・向上をめざした看護を提供できる。 2. がん患者及び家族に関わる医療スタッフと信頼関係を築き，多職種と協働できる。 3. がん薬物療法を受けている患者・家族および患者・家族に関わるスタッフへの相談，調整，倫理調整のいずれかの役割を実施できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観，論理的・批判的思考力，柔軟な発想力，課題解決力，高度な看護実践力，調整・教育力				
評価並びにフィードバック法	実習への参加状況及び取り組み（30%），実習カンファレンス（20%），実習記録および課題レポート（50%）				
教科書	随時紹介				
参考書	随時紹介				
事前準備受講要件等	がん看護学に関連する科目の内容を復習して臨むこと 予習・復習の時間：120 分				
オフィスアワー	金曜日 18:00～20:00				
SDGs との関連	3，4				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1〜90時間	がん薬物療法を受け複雑な問題を抱えているがん患者および家族に対して，専門知識や臨床判断，看護ケア技術を用いた看護実践（2単位）	【実習内容】 がん看護専門看護師の指導のもと，がん薬物療法を受け複雑な問題を抱えている患者および家族に対して，専門知識や臨床判断，看護ケア技術を用いて看護実践する。 【方法】 1. 外来あるいは病棟でがん薬物療法を受け複雑な問題を抱えている患者（補助療法を受けるがん患者，再発がん患者）を2名以上受け持ち実践する。 2. がん患者の画像所見や血液検査データ，問診，フィジカルアセスメントを基に，患者の身体的側面および生活面，心理・社会的側面，スピリチュアルな側面から包括的にアセスメントする。 3. がん患者・家族が抱えている課題を明確にし，課題に対してエビデンスに基づいた介入計画やセルフケア，セルフマネジメント支援の計画を立案する。 4. 学んだ看護ケア技術を駆使し，計画に基づきながら看護介入を行う。介入計画・看護介入においては，看護スタッフと連携して実施する。 5. がん患者に実施した看護介入は，がん看護専門看護師および看護師とともにカンファレンスで評価する。 ＊実践した事例についてまとめのカンファレスを行う。 ＊実習終了後に，実践した事例について考察し，課題レポートを作成する。	鈴木 南口

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
91 〜135 時間	がん薬物療法を受けているがん患者・家族および患者・家族に関わるスタッフへの相談，調整，倫理調整の実施（1 単位）	【実習内容】 がん看護専門看護師の指導のもと，がん薬物療法を受けている患者・家族および患者・家族に関わるスタッフに対して相談，調整，倫理調整のいずれかの役割を実施する。 【方法】 1. がん薬物療法を受けている患者への看護実践を通して，患者・家族に関わっている外来や病棟看護師に対して相談，調整，倫理調整のいずれかの役割を実施する。 2. がん患者・家族に関わっている外来あるいは病棟看護師のケア状況をアセスメントする。 3. 看護師が抱えている課題を明確にし，課題に対してどのような方法（相談，調整，倫理調整）で対応したらよいか計画を立案する。 4. 立案した計画に基づいて実践し，評価する。実施の際にはがん看護専門看護師及び教員のスーパーバイズを受ける。 ＊実践した役割について，まとめのカンファレスを行う。 ＊実習終了後に，実施した役割について課題レポートを作成し，考察する。 【実習場所と実習指導者】 2. 大阪医科薬科大学病院 長嶸 美奈子（がん看護専門看護師） 有田 由美（がん看護専門看護師） 【教員】 鈴木 久美，南口 陽子 【実習期間】 7 月中旬〜8 月のうち 4〜5 週間（週 4〜5 日を原則）	鈴木 南口

授業科目名	がん看護学実習Ⅳ				
授業科目（英）	Advanced Practicum of Cancer Nursing Ⅳ				
教員名	鈴木　久美、南口　陽子				
単位数	3	時間数	135	学年	2
開講期	前期	開講曜日	実習		
科目区分	選択	授業形態	実習		
一般目標	放射線療法を受けており退院支援を必要とする複雑な問題を抱えているがん患者および家族に対して，学んだ専門知識や臨床判断，看護ケア技術を用いて，がん看護専門看護師としての倫理観に基づき，質の高いケアを提供する実践能力を培う。また，放射線療法看護領域においてがん看護専門看護師が果たす役割（相談，調整，教育）が自立して行える能力を養う。				
行動目標	1. 放射線療法を受けており退院支援を必要とする複雑な問題を抱えているがん患者および家族に対して，専門知識や的確な臨床判断，エビデンスに基づいた看護ケア技術を用いて，患者および家族の QOL の維持・向上をめざした看護を提供できる。 2. がん患者および家族に関する地域連携の場に参画し，地域連携の実際やそのシステムについて学ぶ。 3. がん患者および家族に関わる医療スタッフと信頼関係を築き，連携・協働できる。 4. 放射線療法を受けているがん患者・家族および患者・家族に関わるスタッフへの相談，調整，教育のいずれかの役割を実施できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観，論理的・批判的思考力，柔軟な発想力，課題解決力，高度な看護実践力，調整・教育力				
評価並びにフィードバック法	実習への参加状況及び取り組み（30%），実習カンファレンス（20%），実習記録および課題レポート（50%）				
教科書	随時紹介				
参考書	随時紹介				
事前準備受講要件等	がん看護学に関連する科目の内容を復習して臨むこと 予習・復習の時間：150 分				
オフィスアワー	金曜日 18:00～20:00				
SDGs との関連	3，4				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1〜90時間	放射線療法を受けており退院支援を必要とする複雑な問題を抱えているがん患者および家族に対して，専門知識や臨床判断，看護ケア技術を用いた看護実践（2単位）	【実習内容】 がん看護専門看護師の指導のもと，放射線療法を受けて退院支援を必要とする複雑な問題を抱えているがん患者および家族に対して，専門知識や臨床判断，看護ケア技術を用いて看護実践する。また，がん医療における地域連携の実際について学ぶ。 【方法】 1. 病棟あるいは外来において複雑な問題を抱え放射線療法を受ける患者を2名以上受け持ち実践する。 2. がん患者の画像所見や血液データ，問診，フィジカルアセスメントを基に，患者の身体的側面，生活面，心理・社会的側面，スピリチュアルの側面から包括的にアセスメントする。 3. がん患者・家族が抱えている課題を明確にし，課題に対してエビデンスに基づいた介入計画や退院支援の計画を立案する。 4. 学んだ看護ケア技術を駆使し，計画に基づきながら看護介入を行う。介入計画・看護介入においては，看護スタッフと連携して実施する。 5. がん患者・家族に関する地域連携の場に参画し，地域連携のしくみやそれに必要な知識・技術を分析し，考察する。 6. がん患者に実施した看護介入は，がん看護専門看護師および看護師とともにカンファレンスで評価する。 ＊実践事例のまとめのカンファレスを行う。 ＊実習終了後に，実践した事例について治療継続や有害事象に対する援助，退院支援，地域連携の視点から考察し，課題レポートを作成する。	鈴木 南口

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
91 〜135 時間	放射線療法受けているがん患者・家族および患者・家族に関わるスタッフへの相談，調整，教育の実施（1 単位）	【実習内容】 がん看護専門看護師の指導のもと，放射線療法を受けているがん患者・家族および患者・家族に関わるスタッフに対して相談，調整，教育のいずれかの役割を実施する。 【方法】 1. 放射線療法受けているがん患者・家族の実践を通して，患者・家族に関わっている病棟あるいは外来看護師に対して相談，調整，教育のいずれかの役割を実施する。 2. がん患者に関わっている外来あるいは病棟看護師のケアの状況をアセスメントする。 3. 看護師が抱えている課題を明確にし，課題に対してどのような方法（相談，調整，教育）で対応したらよいか計画を立案する。 4. 立案した計画に基づいて，実践し，評価する。 実施の際には実習指導者および教員のスーパーバイズを受ける。 ＊実践した役割について，まとめのカンファレスを行う。 ＊実習終了後に，実践した役割について課題レポートを作成し，考察する。 【実習場所及び実習指導者】 1. 大阪医科薬科大学病院 上田 育子（がん看護専門看護師） 【教員】 鈴木 久美，南口 陽子 【実習期間】 6 月〜7 月のうち 4〜5 週間（週 4〜5 日を原則）	鈴木 南口

授業科目名	慢性看護学特論Ⅰ				
授業科目（英）	Theory of Chronic Care Nursing Ⅰ				
教員名	飛田　伊都子				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期	開講曜日	木曜6限、木曜7限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	慢性看護の考え方、慢性病を持つ人の行動理解に役立つ概念・諸理論を学び、慢性疾患が持つ疾患特有の複雑で解決困難な問題とその背景を理解する。これらの理解を通じて援助するための概念・理論について探求する。また、自己概念、自己決定、アドヒアランス、セルフケア理論、学習理論、行動理論、適応モデル、自己効力感、ストレスコーピング、権利擁護、患者参加などと関連する研究論文を通して理解を深める。				
行動目標	慢性病を持つ人や家族の援助に必要な主要概念・理論の要点を説明できる。 慢性病を持つ人の生活の質の向上を目指して、看護実践に活用できる主要概念・理論について討議できる。 慢性看護領域で用いられる概念・理論の慢性看護実践への適応を検討できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	課題レポート（60%）、発表・討議における発表内容（20%）、討議への参加状況（20%）				
教科書	看護実践に生かす中範囲理論 第2版：メヂカルフレンド社 慢性疾患を生きる：医学書院 慢性疾患の病みの軌跡：医学書院				
参考書	看護理論家とその業績 第3版：医学書院				
事前準備受講要件等	提示する課題を事前学習して授業に臨む 予習・復習の時間：各60分				
オフィスアワー	水曜日 12:10～13:00				
SDGsとの関連	3，5				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	慢性疾患の動向と慢性病を持つ対象背景の理解	慢性疾患の歴史的変遷について学び、慢性病を持つ対象の背景について理解する 予習：慢性疾患の動向について調べる 復習：授業から慢性看護の概念について整理する	飛田
2	慢性看護に関する理論・概念の変遷	慢性看護学の動向および慢性看護に関する理論や概念について理解する 予習：慢性看護に関する理論や概念を調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
3	慢性看護領域で用いられる概念・理論の理解と活用1（アドヒアランス）	慢性看護学領域で用いられるアドヒアランスについて研究論文等のクリティークを通して理解する 予習：アドヒアランスについて調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
4	慢性看護領域で用いられる概念・理論の理解と活用2（セルフケア理論）	慢性看護学領域で用いられるセルフケア理論について研究論文等のクリティークを通して理解する 予習：セルフケア理論について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
5	慢性看護領域で用いられる概念・理論の理解と活用3（適応モデル）	慢性看護学領域で用いられる適応モデルについて研究論文等のクリティークを通して理解する 予習：適応モデルについて調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
6	慢性看護領域で用いられる概念・理論の理解と活用 4（学習理論）	慢性看護学領域で用いられる学習理論について研究論文等のクリティークを通して理解する 予習：学習理論について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
7	慢性看護領域で用いられる概念・理論の理解と活用 5（セクシュアルヘルス・倫理的問題）	慢性看護学領域におけるセクシュアルヘルス・倫理的問題について研究論文等のクリティークを通して理解する 予習：セクシュアルヘルス・倫理的問題について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
8	慢性看護領域で用いられる概念・理論の理解と活用 6（自己概念）	慢性看護学領域で用いられる自己概念について研究論文等のクリティークを通して理解する 予習：自己概念について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
9	慢性看護領域で用いられる概念・理論の理解と活用 7（自己効力感）	慢性看護学領域で用いられる自己効力感について研究論文等のクリティークを通して理解する 予習：自己効力感について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
10	慢性看護領域で用いられる概念・理論の理解と活用 8（ストレスコーピング）	慢性看護学領域で用いられるストレスコーピングについて研究論文等のクリティークを通して理解する 予習：ストレスコーピングについて調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
11	慢性看護領域で用いられる概念・理論の理解と活用 9（行動理論）	慢性看護学領域で用いられる行動理論について研究論文等のクリティークを通して理解する 予習：行動理論について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
12	慢性看護領域で用いられる概念・理論の理解と活用 10（強化の原理）	慢性看護学領域で用いられる強化の原理について研究論文等のクリティークを通して理解する 予習：強化の原理について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
13	慢性看護領域で用いられる概念・理論の理解と活用 11（権利擁護）	慢性看護学領域における権利擁護について研究論文等のクリティークを通して理解する 予習：権利擁護について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
14	慢性看護領域で用いられる概念・理論の理解と活用 12（患者参加）	慢性看護学領域における患者参加について研究論文等のクリティークを通して理解する 予習：患者参加について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
15	専門家としての自己課題の明確化と概念・理論の活用	自己の事例について興味ある概念・理論で分析・評価する 予習：発表の準備をする 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田

授業科目名	慢性看護学特論Ⅱ				
授業科目（英）	Theory of Chronic Care Nursing Ⅱ				
教員名	飛田　伊都子、藤田　愛（非）、丹生　淳子（非）、鳥嶋　雅子（非）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期	開講曜日	木曜 6 限、木曜 7 限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	慢性病を持つ人々とその家族に適用される医療・福祉の制度とその革新方法について学修し、利用者の立場に立った医療福祉の制度の在り方を探求する。				
行動目標	慢性病を持つ人々への医療福祉制度と体制、社会資源の概要を説明できる。 慢性病を持つ人々を取り巻く医療福祉制度と体制の問題課題を改善・変革するための方略について討議できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	課題レポート（60%）、発表・討議における発表内容（20%）、討議への参加状況（20%）				
教科書	慢性疾患を生きる：医学書院				
参考書	看護六法：新日本法規 国民衛星の動向：一般財団法人 厚生労働統計協会				
事前準備受講要件等	提示する課題を事前学習して授業に臨む 予習・復習の時間：各 60 分				
オフィスアワー	水曜日 12:10～13:00				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～2	慢性病を持つ人々とその家族に適用される慢性疾患予防対策とその支援体制	慢性病を持つ人々とその家族に適用される慢性疾患予防対策、そしてその支援体制の特徴について文献学習を通じて討議を交えて理解する。 予習：慢性疾患予防対策について調べる 復習：慢性疾患予防対策、体制組織の特徴についてまとめる	飛田
3～4	難病に関わる諸制度とその適用	難病に関わる諸制度と適用について事例を取り上げ、討議を通じて理解する。 予習：難病に関わる諸制度について調べる 復習：難病に関わる諸制度について授業で討議した内容をまとめる	飛田
5～6	看護現場の変革に必要な理論	看護現場の変革について、レビンの三段階変革理論やリピッドの 7 段階変革課程等を参考にしながら討議し理解する。 予習：変革に必要な理論について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
7～8	職場において適用される医療・福祉制度	職場において適用される医療・福祉制度の事例を取り上げ、討議を交えて理解する 予習：職場において適用される医療・福祉制度について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
9	長期療養者と介護する家族への支援に向けた保健医療・福祉制度	長期療養者と介護する家族への支援に向けた保健医療・福祉制度と体制の活用と課題に関して事例を取り上げ、討議を交えて理解する 予習：長期療養者と介護する家族に向けた保健医療・福祉制度について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	藤田
10	長期療養者と介護する家族支援に向けた保健医療・福祉制度の活用に関する専門看護師の役割と機能	長期療養者と介護する家族への支援に向けた保健医療・福祉制度と体制の活用に関して専門看護師の活動事例から、討議を通じて専門看護師の役割と機能を探求する 予習：長期療養者と介護する家族に向けた保健医療・福祉制度の活用における専門看護師の役割について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	藤田
11	慢性病を持つ人々に適用される医療・福祉制度	慢性病を持つ人々に適用される医療・福祉制度の実際について事例を取り上げ、討議を交えて理解する 予習：慢性病を持つ人々に適用される医療・福祉制度について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	丹生
12	慢性病を持つ人々に適用される医療・福祉制度の整備に関する専門看護師の役割と機能	慢性病を持つ人々に適用される医療・福祉制度の整備について、専門看護師の活動事例から、討議を通じて専門看護師の役割と機能と探求する 予習：慢性病を持つ人々に適用される医療・福祉制度の活用における専門看護師の役割について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	丹生
13	遺伝子疾患を持つ人々の医療・福祉制度と体制の長期療養への適用とその課題	遺伝子疾患を持つ人々に適用される医療福祉制度の整備について専門看護師の活動事例から、討議を通じて専門看護師の役割と機能を探求する 予習：遺伝子疾患を持つ慢性疾患をもつ人々に適用される医療福祉制度を調べる 復習：授業から適用される医療福祉制度をまとめる	鳥嶋
14～15	医療・福祉制度と体制の現状と課題	医療・福祉制度と体制の現状と課題について討議を交えて理解する。 予習：プレゼンテーションの準備を行う 復習：討議の内容をまとめる	飛田

授業科目名	慢性看護アセスメント論				
授業科目（英）	Chronic Nursing Assessment				
教員名	飛田　伊都子、本城　綾子（非）、仲村　直子（非）、丹生　淳子（非）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	後期	開講曜日	火曜 6 限、火曜 7 限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	慢性病を持つ人々やその家族の複雑な状態の身体・精神心理・社会面を含めた包括的なアセスメントの方法について学修する。慢性期にある人々の身体・精神心理・社会面の特性と看護実践を行う上でのアセスメントの焦点について内分泌・代謝疾患、循環器疾患、消化器疾患、呼吸器疾患、膠原病を中心に学修する。さらに、その理解を基盤に慢性看護学におけるアセスメントの視点を探求し、看護実践に適応した慢性病を持つ人々やその家族を包括的にアセスメントするための能力を培う				
行動目標	慢性疾患が慢性病を持つ人々やその家族に及ぼす影響を理解し、包括的にアセスメントする方法を説明し、討議できる				
ディプロマポリシーのキーワード	論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	課題レポート（60%）、発表・討議における発表内容（20%）、討議への参加状況（20%）				
教科書	授業時、適宜紹介する				
参考書	高度実践看護 統合的アプローチ：へるす出版 ナースのための臨床推論：メヂカルフレンド社				
事前準備受講要件等	提示する課題を事前学習して授業に臨む 予習・復習の時間：各 60 分				
オフィスアワー	水曜日 12:10～13:00				
SDGs との関連	3，5				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	看護実践におけるアセスメントの目的・意義	慢性病を持つ人々の看護実践に必要なアセスメントの目的と意義について理解する 予習：看護実践に必要なアセスメントの目的と意義について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
2	看護実践におけるアセスメントの看護実践への活用	慢性病を持つ人々の看護実践に必要なアセスメントの看護実践への活用について文献学習、討議を通じて理解する 予習：自己の興味のある疾患のアセスメントの看護実践への活用について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
3～4	慢性的な内分泌・代謝に障害のある人々へのアセスメント	慢性的な内分泌・代謝に障害のある人々やその家族へのアセスメントの特性を理解する 予習：内分泌・代謝に障害のある人々へのアセスメントについて調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
5～6	慢性的な循環器障害のある人々へのアセスメント	慢性的な循環器障害のある人々やその家族へのアセスメントの特性を理解する 予習：循環器障害のある人々へのアセスメントについて調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
7～8	慢性的な消化器障害のある人々へのアセスメント	慢性的な消化器障害のある人々やその家族へのアセスメントの特性を理解する 予習：消化器障害のある人々へのアセスメントの特性について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
9～10	特定領域における専門看護師のアセスメントの実際 （呼吸器疾患）	専門看護師のアセスメントの実践から包括的なアセスメントを学ぶ 予習：専門看護師（呼吸器疾患）のアセスメントの実践について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	本城
11	特定領域における専門看護師のアセスメントの実際 （循環器疾患）	専門看護師のアセスメントの実践から包括的なアセスメントを学ぶ 予習：専門看護師（循環器疾患）のアセスメントの実践について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	仲村
12	特定領域における専門看護師のアセスメントの実際 （膠原病）	専門看護師のアセスメントの実践から包括的なアセスメントを学ぶ 予習：専門看護師（膠原病）のアセスメントの実践について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	丹生
13	慢性疾患が慢性病を持つ人々やその家族に及ぼす影響についてのアセスメント	慢性疾患が慢性病を持つ人々やその家族に及ぼす影響についてのアセスメントについて学ぶ 予習：慢性病を持つ人々やその家族への影響についてのアセスメントについてまとめる 復習：討議の内容をまとめる	飛田
14～15	特定領域の慢性病を持つ人々やその家族の複雑な状態の身体・精神心理・社会面を含めた包括的なアセスメント	関心領域において、看護実践に適応した慢性病を持つ人々やその家族の包括的アセスメントについてプレゼンテーションを行い討議できる。 予習：プレゼンテーションの準備をする 復習：討議の内容をまとめる	飛田

授業科目名	慢性看護援助論Ⅰ				
授業科目（英）	Nursing Intervention for Patients with Chronic Illness Ⅰ				
教員名	飛田　伊都子、中村　雅美（非）、伊波　早苗（非）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期	開講曜日	金曜6限、金曜7限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	慢性病を持つ人々やその家族に対して質の高い看護実践を継続的に提供するための治療や療養環境（病棟、外来、地域、居宅、職場など）整備の方法、質の高い生活を導くための地域社会支援（サポートネットワーク作り、社会資源の活用など）を調整するための知識・技術を探求する。さらに、慢性病を持つ人々のケアの継続における専門看護師の役割について探求する。これらを通して、慢性病を持つ人々に対し、より質の高い治療や療養環境の提供と地域社会支援のための社会資源の活用への新たな方策を創造する能力を培う。				
行動目標	慢性病を持つ人々がおかれている治療環境と地域環境社会の現状をアセスメントし、その課題を明らかにできる。 慢性病を持つ人々に対し最善の治療や療養環境を提供し、地域社会支援のための社会資源の活用とそのための調整など、包括的ケアについて説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	課題レポート（60%）、発表・討議における発表内容（20%）、討議への参加状況（20%）				
教科書	授業時、適宜紹介する				
参考書	専門看護師の思考と実践：医学書院 看護師の倫理調整力：日本看護協会出版会				
事前準備受講要件等	提示する課題を事前学習して授業に臨む。 予習・復習の時間：各60分				
オフィスアワー	水曜日 12:10～13:00				
SDGsとの関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～2	慢性病を持つ人々における質の高い生活のための調整方法Ⅰ	慢性病を持つ人々における生活の質のとらえ方について文献学習を通じて理解する 予習：慢性病を持つ人々における生活の質のとらえ方について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
3～4	慢性病を持つ人々における質の高い生活のための調整方法Ⅱ	生活の質を高めるための働きかけと評価について文献学習を通じて理解する 予習：生活の質を高めるための働きかけと評価について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
5～6	慢性病を持つ人々が受けている治療や療養を支える環境の現状	治療の継続における療養環境の現状と課題について検討する 予習：治療や療養環境について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
7～8	慢性病を持つ人々がおかれている地域社会支援に活用する理論の理解	慢性病を持つ人々のケアに必要なシステムを整えるための調整の理論について文献学習、討議を通じて理解する 予習：慢性病を持つ人々のケアに必要なシステムについて代表例を一つ調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
9	慢性病を持つ人々のケアの継続と専門看護師の役割Ⅰ（病棟）	専門看護師の実践例から治療や療養環境の調整における専門看護師の役割・機能について理解する 予習：病棟での専門看護師の役割・機能について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	中村
10	慢性病を持つ人々のケアの継続と専門看護師の役割Ⅱ（看護相談外来）	専門看護師の実践例から看護相談外来の活動と組織の整備における専門看護師の役割・機能について理解する 予習：専門看護師の看護相談外来における役割について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	中村
11	慢性病を持つ人々のケアの継続と専門看護師の役割（倫理調整）	専門看護師の活動の実践例から倫理的課題対応について理解する 予習：専門看護師における倫理的課題対応について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	伊波
12～13	慢性病を持つ人々が受けている治療や療養を支える環境の整備	慢性病を持つ人々に対するより良い治療や療養環境、地域社会支援との連携方法などの環境の整備について討議を通じて検討する 予習：慢性病を持つ人々に対する包括的ケアについて調べる 復習：討議についてまとめる	飛田
14～15	慢性病を持つ人々の生活の質の向上への治療や療養環境の提供と地域社会支援のための社会資源の活用の調整に向けた改善・変革方策	関心領域を選択して、生涯にわたって治療を受けるための治療や療養環境と社会資源の活用の在り方について討議を通じて考察を深める 予習：生涯にわたって治療を受けるための社会資源の在り方について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田

授業科目名	慢性看護援助論Ⅱ				
授業科目（英）	Nursing Intervention for Patients with Chronic Illness Ⅱ				
教員名	飛田　伊都子、仲村　直子（非）、丹生　淳子（非）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	後期	開講曜日	火曜 6 限、火曜 7 限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	慢性看護学特論Ⅰでの学びをもとに、慢性疾患の発症期から回復期、リハビリテーション期、増悪期、終末期と様々な時期に対応した予防、診断・治療に伴う専門的援助技術の基本とその評価方法を理論、看護実践モデルを用い、実践を通じて探求する。また、慢性病を持つ人々の質の高い生活に向けて調整するための知識・技術、直面する倫理的課題に対応する能力を培う。さらに、QOL の維持と向上に向けた自己管理行動への援助として循環器系疾患や膠原病を持つ人々とその家族を取り上げ、自己管理に向けた患者教育に必要な援助能力を培う。これらを通して、慢性病を持つ人々の生活の質の向上に向けた援助技術の改善・革新に向けての新たな方策を創造する能力を培う。				
行動目標	慢性疾患の様々な変化した時期に対応した予防、診断・治療はじめとする専門的援助技術とその評価方法の基本を説明できる。 QOL の維持と向上に向けた自己管理行動、回復期、増悪期、リハビリテーション期、終末期のための患者教育を説明できる。 理論的方法により援助技術と評価方法を改善革新に向けて討議できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	課題レポート（60%）、発表・討議における発表内容（20%）、討議への参加状況（20%）				
教科書	授業時、適宜紹介する				
参考書	行動変容法入門：二瓶社 看護師の倫理調整力：日本看護協会出版会				
事前準備受講要件等	提示する課題を事前学習して授業に臨む 予習・復習の時間：各 60 分				
オフィスアワー	水曜日 12:10～13:00				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	ヘルスプロモーション活動の主な概念とモデル	ヘルスプロモーション活動の主な概念とモデルについて討議を交えて理解する。 予習：ヘルスプロモーションの概念とモデルについて調べる 復習：ヘルスプロモーション活動の中での看護職の役割と課題についてまとめる	飛田
2	保健行動の概念と行動変容を促すモデル	保健行動の概念と行動変容を促すモデルについて討議を交えて理解する 予習：保健行動の概念と行動変容モデルについて調べる 復習：行動変容を促すモデルについてまとめる	飛田
3	保健行動変容を促すための援助技術の看護実践への活用	学習援助型の看護援助の評価方法をふまえた事例を取り上げ、文献学習、討議を通じて理解する 予習：セルフマネージメント、エンパワメント、自己効力について復習する 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
4	倫理的課題と看護職者の役割の理解	看護実践に特有な倫理的課題、アドボカシー、自己決定と看護職者の役割について理解する 予習：看護実践に特有な倫理的課題について調べる 復習：倫理的課題と看護職者の役割についてまとめる	飛田
5	慢性病を持つ人と家族に関わる倫理的課題	事例および文献学習を通じて、慢性病を持つ人への看護実践に特有な倫理的課題をプレゼンテーションする 予習：プレゼンテーションの準備をする 復習：討議した内容をまとめる	飛田
6	慢性病を持つ人と家族に関わる倫理的課題への対応（倫理調整）	倫理的課題への対応に向けた看護職者の倫理調整について討議する 予習：倫理的課題への対応に向けた看護職者の倫理調整について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
7～8	様々な時期に対応した予防､診断･治療に伴う援助技術と評価	慢性疾患の様々な時期に対応した予防、診断・治療に伴う援助技術（モニタリング、マネジメント、教育支援､相談技術）と評価（指導の方法とプロセス）について理解する 予習：ある時期を特定し、予防、診断・治療に伴う援助技術（モニタリング、マネジメント、教育支援、相談技術）と評価について調べる 復習：特定した時期に対応した援助技術と評価についてまとめる	飛田
9～10	健康レベルに応じた援助技術の看護実践への活用（循環器系疾患）	慢性疾患（主に循環器系疾患）の発症期から回復期、リハビリテーション期の各健康レベルの生活に適応した援助技術（セルフマネジメントを促すための教育支援、急性増悪を予防するための教育支援）について事例を取り上げ理解する 予習：ある時期を特定し循環器系疾患の生活に適応した援助技術（セルフマネジメント）を促すための教育支援について調べる 復習：特定した時期に対応した援助技術と教育支援についてまとめる	仲村
11～12	健康レベルに応じた援助技術の看護実践への活用（膠原病）	慢性疾患（主に膠原病）の増悪期から終末期の各健康レベルの生活に適応した援助技術（症状マネジメント、セルフマネジメント、自己決定）について事例を取り上げ理解する 予習：ある時期を特定し膠原病に適応した援助技術（セルフマネジメント）を促すための教育支援について調べる 復習：特定した時期に対応した援助技術と教育支援についてまとめる	丹生
13～14	看護実践を踏まえて健康レベルに応じた援助技術と専門看護師の役割と機能	慢性疾患の各健康レベルの生活に適応した援助技術、さらに、生命倫理への課題も含めて、専門看護師の役割と機能について討議を通じて考える 予習：健康レベルを特定し、対応した援助技術と専門看護師の役割と機能について調べる 復習：特定した時期に対応した援助技術と専門看護師の役割と機能についてまとめる	飛田

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
15	対象者の生活の質の向上にむけた援助技術と評価方法の改善･革新･方略	慢性看護学領域の立場で、慢性病を持つ人々の生活の質の向上に向けた援助技術の改善革新に向けて討議する 予習：対象者の生活の質の向上にむけた援助技術の改善革新について意見をまとめる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田

授業科目名	慢性看護学演習Ⅰ				
授業科目（英）	Seminar of Chronic Care Nursing Ⅰ				
教員名	飛田　伊都子、荒若　繁樹（兼）、西上　あゆみ（非）				
単位数	2	時間数	60	学年	1
開講期	後期	開講曜日	月曜6限、月曜7限		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	慢性看護アセスメントで学習した内容を基盤に、慢性疾患の病態･兆候の出現機序と診断技術･病態治療の基本的考え方を学ぶ。それらを活用して看護職者の視点から、慢性病を持つ人のパンデミック時や災害時の対策も含め様々な変化した時期に対応した生活の質の向上を目指した効果的な援助技術とその評価方法を検討する。さらに患者とその家族が直面する倫理的課題（自己決定、権利擁護）の問題への援助について検討する。その理解を基盤に、腎臓病等を取り上げ、アセスメントの特徴を踏まえて、慢性疾患の様々な時期に対応した関心領域における包括的アセスメントツールの作成をする。				
行動目標	慢性疾患の病態・兆候の出現機序と診断技術・病態治療、薬物調整・管理の基本的考え方を説明できる。 慢性疾患の様々な変化した時期に対応した看護援助と評価方法を説明できる。 患者とその家族が直面する倫理的課題（自己決定、権利擁護）の対応について討議できる。 関心領域における包括的アセスメントのツールを作成できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、高度な看護実践力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	演習への参加態度・内容（60%）、レポート内容（40%）				
教科書	授業時、適宜紹介する				
参考書	新臨床内科学：医学書院 高度実践看護 統合的アプローチ：へるす出版 ナースのための臨床推論：メヂカルフレンド社				
事前準備受講要件等	提示する課題を事前学習して授業に臨む 予習・復習の時間：各60分				
オフィスアワー	水曜日 12:10～13:00				
SDGsとの関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～2	代表的な慢性病を持つ人々の各期の看護援助技術	自己の経験や文献学習から発症期、維持期、増悪期にある慢性病を持つ人々の身体、精神心理、社会的特徴とそれに対応する看護援助を理解する 予習：各期の身体、精神心理、社会的特徴とそれに対応する看護援助について調べる 復習：授業から各期の身体、精神心理、社会的特徴とそれに対応する看護援助についてまとめる	飛田
3～4	慢性疾患の病態・兆候の出現機序と診断技術・病態治療が生体に及ぼす影響の基礎	慢性疾患の病態・兆候の出現機序と診断技術・病態治療が生体に及ぼす影響の基本的考え方とその対応に関して代表例を挙げながら理解する 予習：代表例の病態・兆候の出現機序と診断技術・病態治療について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	荒若

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
5～6	慢性疾患に対応した予防に伴う専門的援助技術	慢性的な障害を持つ人々に対応した予防に伴う専門的援助技術を実技、講義を通じて理解する 予習：慢性的な疾患に対応した予防、診断・治療に伴う専門的援助技術と薬剤調整について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	荒若
7～8	慢性疾患に対応した診断・治療に伴う専門的援助技術	慢性的な障害を持つ人々に対応した診断・治療に伴う専門的援助技術を実技、講義を通じて理解する 予習：慢性的な障害を持つ人々に対応した予防、診断・治療に伴う専門的援助技術と薬物調整について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	荒若
9～10	慢性疾患に対応した増悪予防に伴う薬剤調整の基礎	慢性的な障害を持つ人々に対応した増悪予防に伴う薬物調整の基礎について講義を通じて理解する 予習：慢性的な障害を持つ人々に対応した増悪予防に伴う専門的援助技術と薬物調整について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	荒若
11～12	慢性疾患に対応した診断・治療に伴う薬剤調整の基礎	慢性的な障害を持つ人々に対応した診断・治療に伴う薬物調整の基礎について講義を通じて理解する 予習：慢性的な障害を持つ人々に対応した診断・治療に伴う薬物調整の基礎について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	荒若
13～14	慢性病を持つ人々のパンデミック時や災害時の看護援助技術	事例からパンデミック時や災害時の対策も踏まえて、慢性病を持つ人々の身体、精神心理、社会的特徴とそれに対応する看護援助を理解する 予習：災害時の看護援助について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	西上
15	慢性病を持つ人々の各期の生活の質の向上を目指した看護援助技術	慢性病を持つ人々の発症期、維持期、増悪期それぞれの身体、精神心理、社会的特徴を理解し、生活の質の向上に繋がる要因を理解し、それに対応する看護援助を探求する 予習：慢性病を持つ人々の生活の質の向上を目指した看護援助技術について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
16	さまざまな状況におかれた患者とその家族が直面する倫理的課題（意思決定、権利擁護）	既習の概念・理論をもとに、慢性病を持つ患者とその家族に生じる倫理的課題、例えば、慢性期のインスリン治療方法などの選択や高次脳障害を持つ患者の意思決定、増悪期の DNR 時の課題等について文献検討を通じてアセスメントの特徴を理解する 予習：特定の時期を選択し倫理的課題について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
17	さまざまな状況におかれた患者とその家族が直面する倫理的課題（意思決定、権利擁護）への対応	既習の概念・理論をもとに、慢性病を持つ患者とその家族に生じる倫理的課題、例えば、慢性期のインスリン治療方法などの選択や高次脳障害を持つ患者の意思決定、増悪期の DNR 時の課題等に対するアセスメントについて、討議する 予習：特定の時期を選択し、倫理的課題とその対応について調べる 復習：授業で討論した内容をまとめる	飛田

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
18～19	特定領域の病いを持つ人のおかれた食事管理状況に対応するアセスメント	フィールドワークを通じて、特定領域（例えば、腎臓病における食事管理）のアセスメントの特徴を理解する 予習：特定の領域を選択しアセスメントの特徴を調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
20～21	特定領域の病いを持つ人のおかれた薬物管理や感染管理状況に対応するアセスメント	フィールドワークを通じて、特定領域（例えば、腎臓病における薬物管理や感染管理）のアセスメントの特徴を理解する 予習：特定の領域を選択しアセスメントの特徴を調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
22～23	特定領域の病いを持つ人のおかれた身体活動やリハビリテーション状況に対応するアセスメント	フィールドワークを通じて、特定領域（例えば、腎臓病を持つ患者における身体活動やリハビリテーション）のアセスメントの特徴を理解する 予習：特定の領域を選択しアセスメントの特徴を調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
24～25	特定領域の病いを持つ人のおかれた社会活動状況に対応するアセスメント	フィールドワークを通じて、特定領域（例えば、腎臓病を持つ患者における社会活動、合併症予防等）のアセスメントの特徴を理解する 予習：特定の領域を選択しアセスメントの特徴を調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
26～27	関心領域における包括的アセスメントツール試案の作成	関心領域におけるアセスメントツールについて文献学習を通して、項目を抽出し、試案を作成する 予習：関心領域におけるアセスメントツールについて調べる 復習：関心領域におけるアセスメントツール試案を作成する	飛田
28～29	関心領域における包括的アセスメントツールの作成	関心領域におけるアセスメントツールを自己の体験およびフィールドワークを分析しながら完成させる 予習：関心領域におけるアセスメントツールについて調べる 復習：関心領域におけるアセスメントツールを作成する	飛田
30	関心領域における包括的アセスメントツールの発表	作成したアセスメントツールについて発表し、討議する 予習：関心領域におけるアセスメントツールの発表について準備する 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田

授業科目名	慢性看護学演習Ⅱ				
授業科目（英）	Seminar of Chronic Care Nursing Ⅱ				
教員名	飛田　伊都子				
単位数	2	時間数	60	学年	2
開講期	前期	開講曜日	火曜 6 限、火曜 7 限		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	糖尿病や腎臓病などの慢性病を持つ人々とその家族を対象に自己管理能力の向上のための効果的な患者会、患者交流会の運営（フィールドワーク）に実際に参加し、支援技術とその評価方法に関する理論と実践を探究する。その体験を基盤に、慢性病を持つ人々やその家族の理解を深めるとともに、社会生活を送る上で必要な医療福祉制度を活用し、自己管理への支援について実践的に探求する。さらに、慢性病を持つ人々に適応される医療福祉制度や体制とその革新方策について探究する。				
行動目標	慢性病を持つ人々とその家族を対象に患者教育の運営に参加できる。 実践を基盤に、慢性病を持つ人々やその家族が社会生活を送る上で必要な医療福祉制度を活用し、自己管理への支援について考案できる。 慢性病を持つ人々に適応される医療福祉制度や体制とその革新方策について概説できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、高度な看護実践力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	演習への参加態度・内容（60%）、レポート内容（40%）				
教科書	授業時、適宜紹介する				
参考書	高度実践看護 統合的アプローチ：へるす出版 ナースのための臨床推論：メヂカルフレンド社 看護師の倫理調整力：日本看護協会出版会				
事前準備受講要件等	提示する課題を事前学習して授業に臨む。 予習・復習の時間：各 60 分				
オフィスアワー	水曜日 12:10～13:00				
SDGs との関連	3，4				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	慢性病を持つ人々とその家族の自己管理能力向上に向けた支援技術としての教育的役割	慢性病を持つ人々とその家族の自己管理向上に向けた支援技術としての教育的役割について文献学習、討議を通じて学修する 予習：自己管理向上に向けた看護支援の教育的役割について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
2	慢性病を持つ人々の教育に用いられる理論	アンドラゴジーについて文献学習、討議を通じて学修する 予習：アンドラゴジーについて調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
3	慢性病を持つ人とその家族における関係構築のための支援技術としてのコンサルテーション	事例を用いて慢性病を持つ人とその家族における関係構築のための支援技術としてのコンサルテーションの実際とその評価について理解する 予習：コンサルテーションについて調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
4	慢性病を持つ人々とその家族における良好な療養生活移行のための支援技術としての退院調整	事例を用いて慢性病を持つ人々とその家族における良好な療養生活移行のための支援技術としての退院調整の実際とその評価について理解する 予習：退院調整の具体的事例を挙げる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
5	慢性病を持つ人々とその家族における治療・ケアの意思決定に関する支援技術としての倫理調整	事例を用いて慢性病を持つ人々とその家族における治療・ケアの意思決定に関する支援技術としての倫理調整の実際とその評価について理解する 予習：倫理的対応の具体的事例を挙げる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
6	自己管理能力の向上のための効果的な患者会、患者交流会の活用と在り方（1）	関心領域における慢性病者への支援技術としての自己管理能力の向上のための効果的な患者会、患者交流会の活用や在り方について文献学習を通じて理解する 予習：関心領域の患者会・患者交流会について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
7～8	自己管理能力の向上のための効果的な患者会、患者交流会の活用と在り方（2）	関心領域における慢性病者への支援技術としての自己管理能力の向上のための効果的な患者会、患者交流会の活用や在り方について討議を通じて理解する 予習：関心領域の患者会・患者交流会について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
9～10	自己管理能力の向上のための患者会、患者交流会の運営	関心領域の既存の患者会、患者交流会等の運営について調べる 予習：関心領域の患者会等の効果および課題についてまとめる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
11	自己管理能力の向上のための患者会、患者交流会の参加	関心領域の既存の患者会、患者交流会等に参加する 【患者会・交流会】 例）大阪医科薬科大学病院　糖尿病の患者会（若槻会等）、腎臓病の患者会、肝臓病の患者会、北摂地区患者交流広場　等 予習：参加予定の患者会等について調べる 復習：体験を踏まえて患者会・交流会の運営についてまとめる	飛田
12～13	自己管理能力の向上のための患者会､患者交流会における患者教育･健康相談	関心領域の既存の患者会、患者交流会等に参加し、可能であれば、責任者の指導の下、関心領域の患者会、患者交流会の患者教育、健康相談等を実践する実践に関しては患者会等の予定合わせて演習日程を予定する 【患者会・交流会】 例）大阪医科薬科大学病院　糖尿病の患者会（若槻会等）、腎臓病の患者会、肝臓病の患者会、北摂地区患者交流広場　等 予習：参加予定の患者会等に関して調べる 復習：参加した患者会・交流会の運営および成果についてまとめる	飛田

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
14～15	慢性病を持つ人々とその家族の患者会、患者交流会の効果と適用	参加した患者会、患者交流会ついて、その効果と適用、今後への充実について討議する 予習：参加した患者会等の効果と課題についてまとめる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
16～17	慢性病を持つ人々とその家族に適用される医療・福祉制度の現状	実践を踏まえて、慢性病を持つ人々が、社会生活を送る上で適用される医療・福祉制度の現状と課題を明らかにする 予習：社会生活を送るうえで適用される医療・福祉制度について調べる 復習：医療・福祉制度の現状と課題についてまとめる	飛田
18～19	慢性病を持つ人々を支えるチーム医療体制と専門職者の機能	実践を踏まえて、チーム医療体制の活動実態と専門職者機能について討議を通じて検討する 予習：チーム医療体制の活動実態と専門職者機能について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
20～21	長期療養における継続療養支援の現状と課題	実践を踏まえて、慢性病を持つ人々の継続療養支援の現状と課題を明らかにする 予習：継続療養支援の現状と課題について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
22～23	慢性疾患とマネジメントケア	慢性疾患とマネジメントケアにおける看護実践活動における体制の現状と課題を明らかにする 予習：マネジメントケアにおける現状と課題について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
24～25	慢性病を持つ人々に活用される医療・福祉制度や体制の現状	関心領域における患者とその家族が慢性病とともに生活するために活用できる医療・福祉制度や体制について調査する 予習：関心領域における医療・福祉制度や体制について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
26～27	慢性病を持つ人々に活用される医療・福祉制度や体制の課題（1）	関心領域における患者とその家族が慢性病とともに生活するために活用できる医療・福祉制度や体制における課題について整理する 予習：関心領域における医療・福祉制度や体制における課題について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
28	慢性病を持つ人々に活用される医療・福祉制度や体制の課題（2）	関心領域における患者とその家族が慢性病とともに生活するために活用できる医療・福祉制度や体制について課題について討議する 予習：関心領域における医療・福祉制度や体制における課題について調べる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田
29～30	慢性病を持つ人々に活用される医療・福祉制度や体制の充実方法	関心領域における患者とその家族が慢性病とともに生活するために活用できる医療・福祉制度や体制の充実方法について調査をもとにして討議し、まとめる 予習：実践事例から医療・福祉制度や体制の活用についてまとめる 復習：授業で討議した内容をまとめる	飛田

授業科目名	慢性看護学実習Ⅰ				
授業科目（英）	Advanced Practicum for Chronic Care Nursing Ⅰ				
教員名	飛田　伊都子				
単位数	2	時間数	90	学年	1
開講期	後期	開講曜日	実習		
科目区分	選択	授業形態	実習		
一般目標	慢性看護領域における高度な看護実践を行う指導者の活動を見学する。慢性病を持つ人々とその家族における身体的・精神心理的・社会的側面の包括的アセスメントに基づく様々な時期の高度な看護実践についての役割と機能を理解し、病棟、外来、地域などの場における実践に必要とされる知識や技術の理解を深める。				
行動目標	1. 慢性疾患看護専門看護師の役割と機能について、実践的活動の見学を通して理解を深める。 2. 高度な看護実践を行うための包括的アセスメントについて理解を深める。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、高度な看護実践力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	実習目標に基づく実践に対する自己評価及び他者評価を行う。また、スーパービジョンを受けた専門看護師による評価（30%）、カンファレンスの参加度（20%）、ケースレポートの内容（50%）と総合して評価する。				
教科書	実習中に適宜紹介する				
参考書	実習中に適宜紹介する				
事前準備受講要件等	主体的に取り組むことを期待する				
オフィスアワー	水曜日 12:10～13:00				
SDGsとの関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～90時間	自己の関心領域において実習が可能な実習施設において、慢性病を持つ人々とその家族を看護する領域における高度な看護実践について指導を受けながら理解を深める	1. 実習場所 実習場所：慢性病を持つ人々とその家族に対して専門看護師又は専門看護師に相当する者によって高度な看護実践が行われている場で実施する（大阪医科薬科大学病院：西原望、山本優子、医療法人社団慈恵会北須磨訪問看護・リハビリセンター：藤田愛、天理よろづ相談所病院「憩いの家」：丹生淳子）。 2. 指導体制 専門看護師（大阪医科薬科大学病院：西原望、山本優子、医療法人社団慈恵会 北須磨訪問看護・リハビリセンター：藤田愛、天理よろづ相談所病院「憩いの家」：丹生淳子）の指導のもとで実習する。慢性疾患看護専門看護師の実践活動の見学、臨床講義やカンファレンスの参加を通じて、高度な看護実践の機能と役割について学修する。そして可能な範囲で実践する。定期的に専門看護師や教員からスーパーバイズを受けて、学修する。 3. 実習内容 1）実習場所において、慢性疾患看護専門看護師の実践活動の見学、臨床講義、カンファレンスを通じて看護実践の機能と役割を理解する。 2）慢性病を持つ患者の看護をする看護師が困難であると感じている看護の相談、調整（倫理調整を含む）について知識及び技術を学修する。 3）ケースの状況に応じて病棟、外来、地域など様々な場での看護実践の知識及び技術を学修する。 4）集団教育、個別教育の看護実践の知識及び技術を学修する。 5）必要時、慢性疾患看護専門看護師、スタッフ、教員とともに事例検討を行いながら看護を幅広く、またより深く考察する。 6）必要時、慢性疾患看護専門看護師、スタッフ、教員とともに事例検討を行いながら慢性看護実践のモデルを理解する。 4. 実習期間 指導教員と相談し、必要な期間を学生の経験に合わせて計画する。 以上の実習で習得したことから課題を設定し、実習報告書として構成する。 予習：実習施設について調べる。慢性疾患看護専門看護師の役割と機能について調べる 復習：実習を通じて慢性疾患看護専門看護師の役割と機能についてまとめる	飛田

授業科目名	慢性看護学実習Ⅱ				
授業科目（英）	Advanced Practicum for Chronic Care Nursing Ⅱ				
教員名	飛田　伊都子				
単位数	4	時間数	180	学年	2
開講期	通年	開講曜日	実習		
科目区分	選択	授業形態	実習		
一般目標	慢性看護領域における高度な看護実践を指導者からのスーパービジョンを受けながら行う。慢性病を持つ人々の生活の質の重視の観点から、慢性疾患の基本的な医学評価・判断、包括的アセスメントに基づく様々な時期の薬物療法、および医学的評価・判断に基づく様々な時期の医療処置（包括指示による一部の医行為を含む）である検査、処方、療養法の選択と導入等の管理に関して、カンファレンスの参加や臨床講義等の参加、さらに事例を通じて理解を深め、専門的な看護実践能力を培う。実習で習得したことから課題を設定し、実習報告書として構成する。				
行動目標	1. 慢性病を持つ人々の様々な時期の療養の場において自己の専門領域における基本的な医学評価・判断に基づく薬物調整・管理について理解できる。 2. 慢性病を持つ人々の様々な時期の療養の場において自己の専門領域における基本的な医学評価・判断に基づく医療処置（包括指示による一部の医行為を含む）・管理について理解できる。 3. 1. 2に基づき、医師の包括的指示に基づき高度な知識・技術を用いて専門的な看護判断、看護実践できる。 4. 慢性看護領域における高度な看護実践を指導者からのスーパービジョンを受けながら行う。 5. 実習で習得したことから課題を設定し、実習報告書として構成できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、高度な看護実践力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	実習目標に基づく実践に対する自己評価及び他者評価を行う。また、スーパービジョンを受けた専門看護師による評価（30%）、カンファレンスの参加度（20%）、ケースレポートの内容（50%）と総合して評価する。				
教科書	実習中に適宜紹介する				
参考書	実習中に適宜紹介する				
事前準備受講要件等	主体的に取り組むことを期待する				
オフィスアワー	水曜日 12:10～13:00				
SDGsとの関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～180時間	慢性病を持つ人々の様々な時期の療養の場において自己の専門領域における薬物療法の管理	1. 実習場所 包括的な医学的指示のもと専門看護師又は専門看護師に相当する者が薬物療法の管理、医療処置の管理を行なっている施設で、自己の専門領域の対象の援助が行われている場で実施する（大阪医科薬科大学病院）。 2. 指導体制 医師（大阪医科薬科大学病院：荒若繁樹）および専門看護師（大阪医科薬科大学病院：西原望、山本優子）の指導のもとで実習する。専門医の診察、医師および薬剤師のカンファレンスの参加や臨床講義等を通じて、薬物の調整、医療処置の管理、検査、治療、診断等について学修する。そして可能な範囲で実践する。定期的に専門看護師や教員からスーパーバイズを受けて、学修する。 3. 実習内容 1）医学的介入が重要となる療養の場での包括的アセスメントに基づいた薬物の調整・入院療養が必要となった患者のフィジカルアセスメント、検査結果、生活状況、サインマネジメント・シンプトムマネジメントによる包括的アセスメントに基づくステロイド外用薬、緩下剤、整腸剤等の薬剤と投与量･投与経路の選択と使用、説明、管理、副作用の対応、血圧降下薬、血糖降下薬、鎮痛薬、抗不安薬、睡眠薬、（喀痰調整薬、免疫調整薬、生物学的製剤）等の評価と管理、副作用の対応等を可能な限り実施する。 2）医学的評価・判断に基づく医療処置、検査、運動処方、療養法の選択と導入・管理・病態や危険因子、機能評価のための血液検査の実施の判断と評価、説明･酸素量の調整と投与方法の選択、説明・管理・飲水量の指示と調整、説明・管理・栄養量の指示と調整、説明・管理・嚥下リハビリテーションプログラムにおける指示と調整・評価・調整・栄養指導、スキンケア指導、禁煙指導、服薬指導などの依頼と評価、調整の対応等を可能な限り実施する。 4. 実習期間 指導教員と相談し、必要な期間を学生の経験に合わせて計画する。 以上の実習で習得したことから課題を設定し、実習報告書として構成する。 予習：選択領域の基本的な医学評価・判断、包括的アセスメントに基づく様々な時期の薬物療法、および医学的評価・判断に基づく様々な時期の医療処置（包括指示による一部の医行為を含む）である検査、処方、療養法の選択と導入等の管理に関して調べる 復習：実習を通じて選択領域の基本的な医学評価・判断、包括的アセスメントに基づく様々な時期の薬物療法、および医学的評価・判断に基づく様々な時期の医療処置（包括指示による一部の医行為を含む）である検査、処方、療養法の選択と導入等の管理に関してまとめる。	飛田

授業科目名	慢性看護学実習Ⅲ				
授業科目（英）	Advanced Practicum for Chronic Care Nursing Ⅲ				
教員名	飛田　伊都子				
単位数	4	時間数	180	学年	2
開講期	通年	開講曜日	実習		
科目区分	選択	授業形態	実習		
一般目標	困難・複雑な状況にある慢性病を持つ人々とその家族を看護する領域における高度な看護実践を指導者からのスーパービジョンを受けながら行う。様々な時期の療養の場において、包括指示のもとに生活の重視の観点から求められる基本的な医学的評価・判断に基づく薬物療法や医療処置の管理について、実践を通じて、学ぶ。また、チーム医療の一員として、一般の人々に対する教育、コンサルテーションや他職種とのケアの調整技術を養い、看護実践能力（実践・教育・相談・調整・研究・倫理）を統合して発揮できる能力を高め、ケアとキュアを統合した高度な看護実践能力を修得する。実習で習得したことから課題を設定して、看護実践の改善にむけた方略も踏まえた実習報告書を作成する。				
行動目標	1. 様々な時期の療養の場において、チームの一員として包括指示のもとに生活の重視の観点から求められる基本的な医学的評価･判断に基づく薬物療法や医療処置の管理を実施できる。 2. 看護実践を通して、チーム医療、他医療機関・地域との連携の調整ができる。 3. 慢性疾患看護専門看護師として専門領域スタッフからの相談、教育活動を実践できる。 4. 慢性看護改善のために組織における看護活動をアセスメントし、慢性看護の質の改善に資する企画立案、実施、評価やその調整プロセスを実践できる。 5. 困難･複雑な状況にある慢性病を持つ人々とその家族に対して専門看護師としてケアとキュアを統合した最善の看護を提供できる。 6. 看護実践活動を通して、看護の質の向上のために研究への適用方法を探究できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、高度な看護実践力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	実習目標に基づく実践に対する自己評価及び他者評価を行う。また、スーパービジョンを受けた専門看護師による評価（30%）､カンファレンスの参加度（20%）､ケースレポートの内容（50%）と総合して評価する。				
教科書	実習中に適宜紹介する				
参考書	実習中に適宜紹介する				
事前準備受講要件等	慢性看護学実習Ⅱが終了していることが要件である 主体的に取り組むことを期待する				
オフィスアワー	水曜日 12:10～13:00				
SDGsとの関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1〜180時間	自己の関心領域において実習が可能な実習施設において、複雑な問題を持つ慢性病を持つ人々とその家族に対して、包括指示のもとに安全に一部の医行為ができ専門的で高度な質の高い看護実践(実践・教育・相談・調整・研究・倫理)を提供できる。	1. 実習場所 自己の専門領域において専門看護師又は専門看護師に相当する者によって高度な看護実践が行われている場で実施する（大阪医科薬科大学病院、医療法人社団慈恵会 北須磨訪問看護・リハビリセンター、天理よろづ相談所病院「憩いの家」)。 2. 指導体制 医師（大阪医科薬科大学病院：荒若繁樹)、専門看護師（大阪医科薬科大学病院：西原望、山本優子、医療法人社団慈恵会 北須磨訪問看護・リハビリセンター:藤田愛､天理よろづ相談所病院「憩いの家」:丹生淳子）の指導のもとで実習する。専門医の診察、医師、および薬剤師のカンファレンスの参加や臨床講義等を通じて、薬物の調整、医療処置の管理、検査、治療、診断等について学修する。そして可能な範囲で実践する。定期的に専門看護師や教員からスーパーバイズを受けて、学修する。 3. 実習内容 1）実習場所において、複雑な問題を抱える慢性病を持つ患者3-4例を受け持ち、慢性看護に関わる理論と､エビデンスに基づいた看護実践を行う。 2）様々な時期の療養の場において、チームの一員として包括指示のもとに生活の重視の観点から求められる基本的な医学的評価・判断に基づく薬物療法や医療処置の管理を実施できる。 3）慢性病を持つ患者の看護をする看護師が困難であると感じている看護の相談、調整（倫理調整を含む）についてスーパービジョンを受けながら、計画、実践、評価する。 4）ケースの状況に応じて病棟､外来､地域など様々な場で看護する。 5）集団教育､個別教育を各1回以上､計画を立案し､実践し、評価する。 6）必要時、スタッフ、教員とともに事例検討を行いながら看護を幅広く、またより深く考察し、実践につなげる。 7）看護実践活動から政策的アプローチを探究し、担当した事例を通して新しい援助方法の開発や改善などを提示する。 4. 実習期間 指導教員と相談し、必要な期間を学生の経験に合わせて計画する。 以上の実習で習得したことから課題を設定し、実習報告書として構成する。 予習：選択領域での専門看護師として求められる看護実践能力（実践・教育・相談・調整・研究・倫理）について調べる。また、基本的な医学的評価・判断に基づく薬物療法や医療処置の管理について復習する。 復習：実習から、困難・複雑な状況にある慢性疾患をもつ人々とその家族に対して専門看護師としてケアとキュアを統合した看護実践と課題についてまとめる。	飛田

授業科目名	精神看護学特論Ⅰ				
授業科目（英）	Theory of Mental Health and Psychiatric Nursing Ⅰ				
教員名	山岡　由実				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期	開講曜日	木曜6限、木曜7限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	本科目では、1）精神保健医療福祉に関する歴史への省察、2）本邦の法制度の歴史的変遷の検討（精神衛生法以前、精神衛生法、精神保健法）、3）精神保健福祉法の理念とその運用の検証（患者の権利擁護、入院形態、行動制限、地域生活支援等）、4）障害者総合支援法やその他の精神看護に必要な法制度の吟味、及び5）心神喪失者等医療観察法ならびに司法精神看護に関連する課題の検討を行う。最後に、精神科医療における倫理綱領及び精神障害者の人権、権利擁護とインフォームド・コンセントの理念を踏まえ、これまでの学修を諸外国の歴史、法律と比較する中で、今後の精神看護の課題と展望、高度実践看護師に期待される役割を検討する。				
行動目標	・精神医療に関連する歴史、法制度並びに福祉制度を理解し説明できる ・上記の学びから見出した課題を考察し、課題にむけた高度看護実践について議論できる				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、教育実践力、課題探求・研究遂行力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	講義への参加状況やレポートなどを総合して行う。				
教科書	特に指定しない。				
参考書	講義の中で適宜、紹介する。				
事前準備受講要件等	下記の予習・復習の項目を確認しておくこと。 各回の予習・復習は、それぞれ60分以上を目安とする。 授業では、プレゼンテーションやディスカッションを行う。詳細は授業のなかで説明する。				
オフィスアワー	月曜日 16:40 ～ 17:50				
SDGsとの関連	3，4，10				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	精神保健医療福祉に関する歴史(1)	精神障がいと治療の歴史について 予習：精神障害者福祉に関する法律を概観しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡
2	精神保健医療福祉に関する歴史(2)	患者の処遇の歴史的な変遷について 予習：患者の処遇の歴史的な変遷を概観しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡
3	日本の精神医療に関する法制度の歴史的変遷	精神衛生法以前、精神衛生法、精神保健法について 予習：精神保健法までの歴史的変遷を概観しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡
4	精神保健福祉法の理念と運用（1）	精神保健福祉法の理念と概要について 予習：精神保健福祉法の理念と概要を学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡
5	精神保健福祉法の理念と運用（2）	患者の権利擁護に関する規程（精神医療審査会等） 予習：権利擁護に関する規程を学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡
6	精神保健福祉法の理念と運用（3）	患者の医療・保護に関する規程（入院形態等） 予習：患者の医療保護に関する規程を学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
7	精神保健福祉法の理念と運用（4）	精神病床における患者の行動制限に関する規程 予習：行動制限に関する事柄を学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡
8	精神保健福祉法の理念と運用（5）	患者の福祉に関する規程（地域生活支援等） 予習：地域生活支援等福祉に関して学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡
9	精神看護で必要な法制度（1）	障害者総合支援法の概要および施策に関する規程 予習：障害者総合支援法について学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡
10	精神看護で必要な法制度（2）	うつ病の患者の治療と福利厚生に関係した法律の諸制度 予習：労働安全衛生法に関して学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡
11	精神看護で必要な法制度（3）	自殺対策基本法、児童虐待防止法、障害者差別禁止法他、精神看護で必要な法制度の理解 予習：自殺対策基本法について学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡
12	司法精神看護・心神喪失者等医療観察法	心神喪失者等医療観察法と看護の役割 予習：心神喪失者等医療観察法について学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡
13	精神看護の歴史と法制度～まとめ(1)	精神科医療における倫理綱領及び精神障害者の人権、権利擁護とインフォームド・コンセント 予習：倫理綱領、精神障害者の人権とインフォームド・コンセントについて学習しておく。 復習：精神看護の歴史と法制度に関する学習から見出された課題について整理する。	山岡
14～15	精神看護の歴史と法制度～まとめ(2)	諸外国と日本との精神保健医療福祉における制度の比較と今後の課題 予習：これまでの学習した内容を振り返っておく。 復習：見出された精神看護における課題を克服するために必要な看護実践について検討する。	山岡

授業科目名	精神看護学特論Ⅱ				
授業科目（英）	Theory of Mental Health and Psychiatric Nursing Ⅱ				
教員名	山岡　由実				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期	開講曜日	金曜 6 限、金曜 7 限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	本科目では、1）精神力動論の理解と精神看護への応用、2）発達理論の理解と看護への応用、3）ペプロウ、シュヴィング、外口らによる対人関係論によって患者ー看護師関係を発展させる方法、4）現象学的方法に基づく患者・家族の体験世界の意味の理解と看護展開の方法、5）リカバリー理論の理解と看護展開の方法、6）危機理論、ストレス理論の理解と看護展開の方法、7）集団力動理論、ケアマネジメント理論など精神看護に関連する理論・概念及び援助方法について吟味し、これらの諸理論を有機的に統合させた精神看護のあり方、高度実践のあり方について検討する。				
行動目標	・精神看護に関する諸理論、概念を理解し、説明できる ・精神看護に関する諸理論、概念の、高度な看護実践への活用について考察し、討議できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、教育実践力、柔軟な発想力、高度な看護実践力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	講義への参加状況やレポートなどを総合して行う。				
教科書	特に指定しない。				
参考書	講義の中で適宜、紹介する。				
事前準備受講要件等	下記の予習・復習の項目を確認しておくこと。 各回の予習・復習は、それぞれ 60 分以上を目安とする。 授業では、プレゼンテーションやディスカッションを行う。詳細は授業のなかで説明する。				
オフィスアワー	月曜日 16:40 ～ 17:50				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	精神力動論の理解と看護実践（1）	フロイトの自我の構造・機能の理解と看護への応用 予習：フロイトの精神力動論について調べておく 復習：フロイトの精神力動論と対象理解について事例をもとに整理する	山岡
2	精神力動論の理解と看護実践（2）	フロイトの自我の防衛機制の理解と看護への応用 予習：フロイトの自我の適応と防衛機制について調べておく 復習：フロイトの精神力動論と看護実践への応用を事例をもとに整理する	山岡
3	発達理論の理解と看護実践	エリクソン、マーラー、フロイトらの発達理論の理解と看護への応用 予習：エリクソン、マーラー、フロイトらの発達理論について調べておく 復習：発達理論と看護実践への応用を事例をもとに整理する	山岡
4	対人関係論に基づく精神看護の働きかけ（1）	ペプロウによる患者～看護師関係の発展過程 予習：ペプローによる患者～看護師関係の発展過程”について調べておく。 復習：ペプロー理論の意義について整理する。	山岡

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
5	対人関係論に基づく精神看護の働きかけ（2）	シュヴィング、外口らによる対人関係に関連する理論の理解 予習：シュヴィング的接近について調べておく。 復習：シュヴィング、外口によるアプローチについて整理する。	山岡
6	現象学的方法に基づく精神看護の働きかけ	患者・家族の体験世界の意味の理解と看護展開 予習：患者・家族の体験世界について記された文献をいくつか読んでおく 復習：患者・家族の体験世界と看護展開の関連性を整理する	山岡
7	リカバリー理論の理解と看護実践	リカバリー理論、概念の理解と看護への適用 予習：リカバリー概念、ストレングスモデルについて調べておく。 復習：ストレングスモデルとリカバリー志向の看護への適用について整理する。	山岡
8	危機理論の理解と看護実践	危機理論、グリーフワークの理解と看護実践への応用 予習：危機理論について調べておく。 復習：学習内容を踏まえてグリーフワークについてまとめてく	山岡
9	ストレス・コーピング理論の理解と看護実践	ストレス・コーピング理論の理解と看護実践への応用 予習：ストレス・コーピング理論について調べておく。 復習：ストレス・コーピングの看護実践での活用例を整理しておく	山岡
10	ストレスに関連する諸理論及び概念（SOC 理論、レジリエンス等）の理解と看護実践	ストレスに関連する諸理論及び概念の理解とストレスマネジメント等への看護実践への応用 予習：レジリエンス他ストレスに関連する諸概念について調べておく。 復習：ストレスマネジメントの看護実践での活用例をまとめておく	山岡
11	集団力動理論（グループダイナミクス）の理解と看護実践	集団力動理論（グループダイナミクス）の理解と看護実践への応用 予習：グループダイナミクスについて調べておく。 復習：集団力動理論の看護実践への適用について整理しておく。	山岡
12	ケアマネジメント理論の理解と看護実践	ケアマネジメント理論に基づいた社会資源を活用した看護実践への応用 予習：ケアマネジメント理論について調べておく 復習：学習内容を踏まえて社会資源を活用した看護実践の展開について整理しておく	山岡
13	諸理論を有機的に統合させた精神看護（1）	対人関係論とヒューマニスティックアプローチ 予習：カール・ロジャースのカウンセリング理論、ヒューマニスティックアプローチについて予習しておく。 復習：ロジャースの理論の看護への適用についてまとめておく	山岡

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
14	諸理論を有機的に統合させた精神看護（2）	回復過程に沿ったセルフケアモデルによる看護アプローチ 予習：精神疾患の回復過程に沿ったセルフケアモデルに関する文献を読んでおく 復習：学習内容を踏まえて回復過程に沿ったセルフケアモデルの活用について整理しておく	山岡
15	諸理論を有機的に統合させた精神看護（3）	諸理論を有機的に統合させた看護アプローチの検討 予習：これまで学習した諸理論をまとめておく 復習：自分が活用・発展できそうな理論を選びその活用方法について検討する	山岡

授業科目名	精神看護学特論Ⅲ				
授業科目（英）	Theory of Mental Health and Psychiatric Nursing Ⅲ				
教員名	山岡　由実、新田　和子（非）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	後期	開講曜日	金曜 6 限、金曜 7 限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	本科目では、リエゾン精神看護の知識と技術について体系的に学びを深めることを目標とし、1）リエゾン精神看護の概念と発展の歴史、2）一般病院、総合病院での精神看護専門看護師の役割と機能、3）リエゾン精神看護に関する理論、モデル、検査法、介入方法、4）精神的諸問題のアセスメントと直接ケアの実際、5）看護師のメンタルヘルス支援、6）一般病院、総合病院での精神看護専門看護師が行なうコンサルテーションと調整・倫理調整の実際、7）組織変革者としての精神看護専門看護師の役割について学習する。				
行動目標	・リエゾン精神看護がどのような看護実践領域であるかについて説明できる。 ・リエゾン精神看護の対象となる精神的諸問題をもつ患者に直接ケアを行なう際のアセスメントの方法、およびケアをどのように計画していくかについて説明できる。 ・一般病院、総合病院での精神看護専門看護師によるコンサルテーションのプロセス、調整・倫理調整の進め方について考察し、説明できる。 ・精神看護専門看護師による役割開発の手順・方法について考察し、説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、高度な看護実践力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	講義への参加状況やレポートなどを総合して行なう。				
教科書	・野末聖香編（2004）：リエゾン精神看護　患者ケアとナース支援のために，医歯薬出版株式会社，東京.				
参考書	講義の中で適宜、紹介する。				
事前準備受講要件等	・下記の予習・復習の項目を確認しておくこと。 ・各回の予習・復習は、それぞれ 60 分以上を目安とする。 ・授業では学生にプレゼンテーションを求める場合がある。詳細は授業のなかで説明する。				
オフィスアワー	月曜日 16:40 - 17:50				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	リエゾン精神看護の概念と発展の歴史	精神医学・看護におけるコンサルテーション・リエゾン活動の発展の歴史を踏まえて、リエゾン精神看護の概念の意味や目標を明らかにするとともに現在、求められている課題について検討する。 予習：リエゾン精神看護の意義と必要性について調べる。 復習：関連文献を読み、リエゾン精神看護の発展の歴史について理解を深める。	山岡
2	一般病院、総合病院での精神看護専門看護師の役割と機能	精神科以外の一般領域の医療の特性、およびリエゾン精神看護の対象である患者、家族、医療スタッフおよび医療チームの特徴をおさえた上で、患者に良質なケアを提供する精神看護専門看護師に求められる役割と機能について検討する。 予習：前期の授業で学んだ高度実践看護師の役割と機能についてまとめる。 復習：講義内容を振り返り、一般病院での精神看護専門看護師の役割・機能について整理し理解を深める。	新田 山岡

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
3	リエゾン精神看護に関する理論、検査法	リエゾン精神看護において対象の心のありようの理解を深め、ケアの方向性を得るために理論のいくつか（ストレス・コーピング理論、防衛機制理論、一般システム理論）と mental status examination について検討する。 予習：上に提示したそれぞれの理論、検査法について調べる。 復習：関連文献を読み、上記の理論、検査法について整理し理解を深める。	山岡
4	リエゾン精神看護に関するモデル	リエゾン精神看護において対象の心のありようの理解を深め、ケアの方向性を得るためにオレム～アンダーウッドモデルについて検討する。 予習：オレム～アンダーウッドモデルについて調べる。 復習：関連文献を読み、上記のモデルについて整理し理解を深める。	山岡
5	リエゾン精神看護における介入法(1)	精神看護専門看護師が活用する介入法として、個人精神療法（カウンセリング）、集団精神療法について事例を通して検討する。 予習：上に提示したそれぞれの精神療法について調べる。 復習：関連文献を読み、上記の２つの精神療法の特徴を整理し理解を深める。	新田
6	リエゾン精神看護における介入法(2)	精神看護専門看護師が活用する介入法として、認知行動療法、リラクセーションについて事例を通して検討する。 予習：認知行動療法、リラクセーションについて調べる。 復習：関連文献を読み、上記の２つの介入法について整理し理解を深める。	新田
7	精神的諸問題のアセスメントとケア（1）～不安の強い患者～	不安の鑑別診断や不安のレベルをアセスメントする方法および患者への働きかけのポイントを整理し、事例を通して、不安の強い患者への直接ケアの実際について検討する。 予習：不安症状、不安のレベル、適応障害について調べる。 復習：講義内容を振り返り、不安の強い患者に対するアセスメントとケアについて整理し、理解を深める。	新田
8	精神的諸問題のアセスメントとケア（2）～抑うつ状態にある患者～	抑うつの症状を引き起こしている要因に関するアセスメントの方法および患者への働きかけのポイントを整理し、事例を通して、抑うつ状態にある患者への直接ケアの実際について検討する。 予習：抑うつ状態、うつ症状、うつ病について調べる。 復習：講義内容を振り返り、抑うつ状態にある患者に対するアセスメントとケアについて整理し理解を深める。	新田

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
9	精神的諸問題のアセスメントとケア（3）～怒りの強い（痛みとの関連から）患者～	怒りの発生要因ならびに精神・身体状態のアセスメントの方法と患者への働きかけのポイントを整理し、事例を通して､怒りの強い患者（痛みとの関連から）への直接ケアの実際について検討する。 予習：怒りの感情の特徴、怒りのレベル、痛み・抑うつ・怒りの関係について調べる。 復習：講義内容を振り返り、怒りの強い（痛みとの関連から）患者抑うつ状態に対するアセスメントとケアについて整理し理解を深める。	新田
10	精神的諸問題のアセスメントとケア（4）～せん妄状態の患者～	せん妄状態を見極めるアセスメントの方法と患者への働きかけのポイントを整理し、事例を通して、せん妄状態にある患者への直接ケアの実際について検討する。 予習：せん妄状態、せん妄の原因、せん妄、抑うつ、認知症の違いについて調べる。 復習：講義内容を振り返り、せん妄状態の患者に対するアセスメントとケアについて整理し理解を深める。	新田
11	精神的諸問題のアセスメントとケア（5）～自殺企図患者～	自殺企図患者の３次救急医療施設における初期対応およびその後の精神的支援を含む直接ケアの実際について検討する。 予習：自殺念慮と自殺企図の違い、自殺につながる原因や背景について調べる。 復習：講義内容を振り返り、自殺企図患者に対するアセスメントとケアについて整理し理解を深める。	新田
12	看護師のメンタルヘルス支援	看護師のメンタルヘルスをストレッサーとストレス反応の観点から検討し、事例をもとに職場への適応の問題や医療現場の特徴的な状況として医療事故や外傷後ストレス障害を取り上げ討議する。 予習：看護職が抱えるさまざまな葛藤について調べる。 復習：講義内容を振り返り、職場適応が難しい看護職への支援について整理し理解を深める。	新田 山岡
13	一般病院、総合病院での精神看護専門看護師が行なうコンサルテーションの実際	患者や家族に焦点をあてたコンサルテーション、看護師自身の問題に焦点をあてたコンサルテーションの実際について、一般病院、総合病院での事例を用いて検討する。 予習：コンサルテーションのタイプについて調べる。 復習：講義で取り上げた事例を振り返り、一般病院、総合病院で精神看護専門看護師が行なうコンサルテーションのプロセスを整理し理解を深める。	新田
14	一般病院、総合病院での精神看護専門看護師が行なう調整・倫理調整	チーム医療を促進する調整・倫理調整の実際について、一般病院、総合病院での事例を用いて検討する。 予習：倫理調整の観点からチーム医療を進める際の課題について調べる。 復習：講義で取り上げた事例を振り返り、一般病院、総合病院にて精神看護専門看護師が行なう調整の方法・スキルを整理し理解を深める。	新田

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
15	組織変革者としての精神看護専門看護師の役割	多職種をつなぎ、役割開発を担い、管理者と協力しながら組織の変革に貢献していく精神看護専門看護師の役割、および組織改革を阻む要素とその対策等について検討する。 予習：リエゾン精神看護の特質が組織変革の推進と関連する理由について調べる。 復習：講義内容を振り返り、組織変革者としての精神看護専門看護師の役割について整理し理解を深める。	新田 山岡

授業科目名	精神看護アセスメント論				
授業科目（英）	Mental Health and Psychiatric Nursing Assessment				
教員名	山岡　由実、金沢　徹文（兼）、新田　和子（非）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期	開講曜日	木曜 6 限、木曜 7 限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	本科目では精神・身体状態の評価ができるようになるために、1）認知、感情、意欲、意識、人格等の観点からの心的活動のアセスメント、2）自我、不安と防衛、発達、愛着、対象関係等の観点からの精神力動的アセスメント、3）心理社会的な生活環境面（災害や事故を含む）と身体との交互作用のアセスメント、4）DSM ～Ⅴや ICD-10（11）などの診断基準を用いた精神科診断学､5）脳波検査や心理検査などの精神科臨床検査学､6）（上記の項目を踏まえての）精神的健康に関する状態像の総合的評価の方法と実際（メンタル・エグザミネーション）ついて教授し、高度実践能力を養う。				
行動目標	・精神・身体状態の健康状態を評価する視点が説明できる ・精神・身体状態の健康状態の評価を手技を用いて実施できる ・精神・身体状態の健康状態と生活行動との関連を評価し、対象の全体像を説明できる。 ・学んだ知識と技能を用いた、実際の高度実践看護における活用を議論できる				
ディプロマポリシーのキーワード	論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、教育実践力、高度な看護実践力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	講義への参加状況やレポートなどを総合して行う。				
教科書	特に指定しない。				
参考書	適時、紹介する。				
事前準備受講要件等	下記の予習・復習の項目を確認しておくこと。 各回の予習・復習は、それぞれ 60 分以上を目安とする。 授業では、プレゼンテーションやディスカッションを行う。詳細は授業のなかで説明する。				
オフィスアワー	月曜日 16:40 - 17:50				
SDGs との関連	3，4				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	心的活動のアセスメント（1）	知覚，思考，記憶の観点からとらえた状態像の検討 予習：知覚，思考，記憶ついて調べておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡
2	心的活動のアセスメント（2）	意識，意欲，感情の観点からとらえた状態像の検討 予習：意識，意欲，感情について調べておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡
3	心的活動のアセスメント（3）	人格，気質，知能の観点からとらえた状態像の検討 予習：人格，気質，知能について調べておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める	山岡
4	精神力動的アセスメント（1）	自我、不安、防衛の観点からとらえた状態像の検討 予習：自我、不安、防衛について調べておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡
5	精神力動的アセスメント（2）	フロイトやエリクソンの発達論からとらえた状態像の検討 予習：フロイト、エリクソンの発達論について調べておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
6	精神力動的アセスメント（3）	愛着理論や対象関係論からとらえた状態像の検討 予習：愛着理論、対象関係論について調べておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡
7	心身相互作用のアセスメント（1）	心理社会的側面（生活環境面）からとらえた状態像の検討 予習：心身相互作用について調べておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	新田
8	心身相互作用のアセスメント（2）	身体・心理・社会面の相互作用からとらえた状態像の検討 予習：相互作用に関するモデルについて調べておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	新田
9	心身相互作用のアセスメント（3）	事故や災害の観点からとらえた状態像の検討 予習：災害と心的外傷の関連について調べておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	新田
10	精神科診断学（1）	身体因性精神障がいの診断について 予習：身体因性精神障がいに該当する疾患について整理しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	金沢
11	精神科診断学（2）	内因性精神障がいの診断について 予習：内因性精神障がいに該当する疾患について整理しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	金沢
12	精神科診断学（3）	心因性精神障がいの診断について 予習：心因性精神障がいに該当する疾患について整理しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	金沢
13	精神科臨床検査学	心理検査、脳波検査、神経心理検査について 予習：各種臨床検査によって得られるデータの活用方法について整理しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	金沢
14	メンタルヘルス・エグザミネーション（1）	面接や参加観察で得られた情報の総合的な評価方法 予習：面接や参加観察について調べておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡
15	メンタルヘルス・エグザミネーション（2）	看護師の面接・参加観察による総合的評価 予習：前回の学習内容を振り返っておく。 復習：状態像を総合的に捉えることが看護実践にいかに貢献しうるかについて考察する。	山岡

授業科目名	精神看護学援助論Ⅰ				
授業科目（英）	Nursing Intervention for Mental Health and Psychiatric Nursing Ⅰ				
教員名	山岡　由実、澤村　律子（兼）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	後期	開講曜日	金曜6限、金曜7限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	本科目では、精神看護のアセスメント・支援モデルを活用して卓越した看護実践を行うことができるように、まず1）ストレス・脆弱性・対処技能モデル、2）ストレングスモデル、3）レジリエンス・セルフ・コンパッション、エンパワメント、自己効力感等の健康生成論及びポジティブ心理学に関連する概念、4）国際生活機能分類モデル、5）危機理論に基づく介入モデルと予防概念モデルの理解を深め、精神看護の働きかけについて検討する。そしてこれらの学びを統合した6）バイオ・サイコ・ソーシャルモデルに基づく包括的な看護アプローチ、7）セルフケアモデルによる看護実践の展開に関して教授並びに検討を行う。最後に8）看護実践を支える自己理解とアセスメントツールの活用を学び、精神看護専門看護師の歴史と発展、役割と機能からみた看護実践モデルの活用と意義、今後の課題についてまとめを行う。				
行動目標	・精神看護のアセスメント・支援モデルについて説明できる。 ・アセスメント・支援モデルを活用した看護実践を事例を用いて展開し、高度看護実践の視点から評価できる。 ・看護実践における自己理解の意義について理解し、活用方法について議論できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	論理的・批判的思考力、高い倫理観、柔軟な発想力、高度な看護実践力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	演習への参加状況やレポートなどを総合して行う。				
教科書	特に指定しない。				
参考書	演習の中で適宜、紹介する。				
事前準備受講要件等	下記の予習・復習の項目を確認しておくこと。 各回の予習・復習は、それぞれ60分以上を目安とする。 授業では、プレゼンテーションやディスカッションを行う。詳細は授業のなかで説明する。				
オフィスアワー	月曜日 16:40 ～ 17:50				
SDGsとの関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	ストレス・脆弱性・対処技能モデルと精神看護の働きかけ	ストレス・脆弱性・対処技能モデルの理解と事例を用いた看護実践の展開～プレゼンテーション、討論 予習：ストレス・脆弱性・対処技能モデルについて調べておく。 復習：学習内容を踏まえ、事例を用いてストレス・脆弱性・対処技能モデルを整理する。	山岡
2	ストレングスモデルを用いたリカバリーへの精神看護の働きかけ	ストレングスモデルの理解と事例を用いたリカバリープロセスに向けた看護実践の展開～プレゼンテーション、討論 予習：ストレングスモデルとリカバリー概念について調べておく。 復習：学習内容を踏まえ、事例を用いて、ストレングスモデルとリカバリー概念について整理する。	山岡

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
3	レジリエンス、セルフ・コンパッション、エンパワメント、自己効力感等の概念と精神看護への活用	レジリエンス・セルフ・コンパッション、エンパワメント、自己効力感等の概念の理解と精神看護への活用～プレゼンテーション、討論 予習：レジリエンス・セルフ・コンパッション、エンパワメント、自己効力感等の概念について調べておく。 復習：学習内容を踏まえ、事例を用いて、ストレングスモデルとリカバリー概念について整理する。	山岡
4	国際生活機能分類モデルと精神看護への活用	精神科リハビリテーションにおける国際生活機能分類モデルの理解、精神看護への活用～プレゼンテーション、討論 予習：国際生活機能分類モデルについて調べておく。 復習：学習内容を踏まえ、事例を用いて、国際生活機能分類モデルについて整理する。	山岡
5	危機理論に基づく精神看護の働きかけ	危機介入モデルとカプランの予防概念モデルの理解及び事例を用いた看護過程の展開～プレゼンテーション、討論 予習：危機介入モデル・カプランの予防概念モデルについて調べておく。 復習：学習内容を踏まえ、事例を用いて、危機介入モデル・カプランの予防概念モデルについて整理する。	山岡
6	バイオ・サイコ・ソーシャルモデルに基づく精神看護の働きかけ(1)	バイオ・サイコ・ソーシャルモデルを用いた看護実践の展開：臨床で経験した事例を用いた看護過程の展開～プレゼンテーション、討論 予習：バイオ・サイコ・ソーシャルモデルについて調べておく。 復習：学習内容を踏まえ、事例を用いて、バイオ・サイコ・ソーシャルモデルについて整理する。	山岡
7～8	バイオ・サイコ・ソーシャルモデルに基づく精神看護の働きかけ(2)	バイオ・サイコ・ソーシャルモデルに基づいた包括的アプローチとケースマネジメント、及び多職種連携の展開：臨床で経験した事例を用いた対象理解と看護過程の展開 予習：包括的アプローチ・ケースマネジメントについて調べておく。 復習：学習内容を踏まえ、事例を用いて、ケースマネジメント、多職種連携の展開について整理する。	山岡
9	セルフケア論に基づく精神看護の働きかけ（1）	オレムのセルフケアモデルの理解～プレゼンテーション、討論 予習：オレムのセルフケア論について調べておく。 復習：学習内容を踏まえ、オレムの看護過程について整理する。	山岡
10～11	セルフケア論に基づく精神看護の働きかけ（2）	オレム・アンダーウッドのセルフケアモデルの理解～プレゼンテーション、討論 予習：オレムアンダーウッド理論について調べておく。 復習：学習内容を踏まえ、オレムアンダーウッド理論について整理する。	山岡

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
12	セルフケア論に基づく精神看護の働きかけ（3）	セルフケアモデルにおける発達理論の活用とリカバリーの接点の検討～事例を用いたプレゼンテーション、討論 予習：フロイト、エリクソン、マーラーらの発達理論について調べておく。 復習：学習内容を踏まえ、事例をもとにセルフケアモデルとリカバリーの接点について整理する。	山岡
13	セルフケア論に基づく精神看護の働きかけ（4）	オレム・アンダーウッドのセルフケアモデルを用いた看護実践の展開；臨床で経験した事例を用いた看護過程の展開～プレゼンテーション、討論 予習：事例をもとに、オレム・アンダーウッドのセルフケアモデルを用い看護実践をまとめる 復習：学習内容を踏まえて、事例を整理し、発達理論の意義について整理する。	山岡
14～15	看護師の自己理解とアセスメントツールの活用	看護師が自身の行動傾向をよりよく理解するための方法や自己理解のためのいくつかのツールについて学修する。 予習：自己理解のための方法について学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	澤村

授業科目名	精神看護学援助論Ⅱ				
授業科目（英）	Nursing Intervention for Mental Health and Psychiatric Nursing Ⅱ				
教員名	山岡　由実、木下　真也（兼）、岩田　和彦（非）、 岡部　英子（非）、本多　晶子（非）、新田　和子（非）				
単位数	2	時間数	60	学年	1
開講期	後期	開講曜日	火曜 6 限、火曜 7 限		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	本科目では精神科病院で活用されている精神科治療技法である心理・社会的療法を実施、評価できるために、1）精神科リハビリテーションの歴史と概要について理解し、2）精神科リハビリテーションでの治療技法（①心理教育、②生活技能訓練（SST）、③認知行動療法、④行動療法、⑤家族療法）、3）児童期精神科病棟での行動療法等の治療技法、4）治療的面接及び面接技法と看護師による働きかけ（①来談者中心療法、②支持的精神療法・動機づけ面接法、5）グループ・アプローチの治療技法（①集団精神療法、②サポートグループ、③オープンダイアローグ）、6）リラクセーション法、7）精神医学のトピックスとして「性別違和」とメンタルサポート、そして最後に、それまでの学びを基に、8）精神看護領域におけるケアとキュアを融合した心理・社会的療法のあり方を検討する。				
行動目標	・精神科治療技法である心理・社会的療法を理解して説明することができる ・精神科治療技法である心理・社会的療法を実践し、評価できる ・精神医学のトピックスの理解を深め、高度看護実践における課題を議論できる ・高度実践看護の視点からみた、精神看護領域における心理・社会的療法のあり方、活用について、その課題と共に考察し、検討できる				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、教育実践力、教育・調整力、高度な看護実践力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	演習への参加状況やレポートなどを総合して行う。				
教科書	特に指定しない。				
参考書	演習の中で適宜、紹介する。				
事前準備受講要件等	下記の予習・復習の項目を確認しておくこと。 各回の予習・復習は、それぞれ 60 分以上を目安とする。 授業では、プレゼンテーションやディスカッションを行う。詳細は授業のなかで説明する。				
オフィスアワー	月曜日 16:40 ～ 17:50				
SDGs との関連	3，5				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	精神科リハビリテーションの歴史と概要	精神科リハビリテーションの歴史と概要の理解 予習：精神科リハビリテーションの歴史について調べておく 復習：授業で学んだことを整理しておく	山岡
2	精神科リハビリテーションでの治療技法（1）	統合失調症と心理教育についての概説と理論 予習：統合失調症の治療方法と心理教育について学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	岩田
3	精神科リハビリテーションでの治療技法（2）	精神科病院における心理教育の実際（見学） 予習：前回の講義内容を踏まえて心理教育について学習しておく。 復習：心理教育の実際の見学を通して学習したことを整理する。	岩田 山岡

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
4	精神科リハビリテーションでの治療技法（3）	統合失調症のある方への心理教育の実施（ロールプレイ～学生同士，教員等対象）とリフレクション・討論、及び教員によるスーパービジョン 予習：ロールプレイができるように準備をしておく。 復習：ロールプレイを振り返って、実践した心理教育について評価する。	岩田 山岡
5	精神科リハビリテーションでの治療技法（4）	統合失調症と生活技能訓練（SST）の概説と理論 予習：SST について学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	岩田
6	精神科リハビリテーションでの治療技法（5）	精神科病院における SST の実際（見学） 予習：前回の講義内容を踏まえて SST について学習しておく。 復習：SST の実際の見学を通して学習したことを整理する。	岩田 山岡
7	精神科リハビリテーションでの治療技法（6）	統合失調症のある方への SST の実施（ロールプレイ～学生同士，教員等対象）とリフレクション・討論、及び教員によるスーパービジョン 予習：前回の講義内容を踏まえて SST について学習しておく。 復習：SST の実際の見学を通して学習したことを整理する。	岩田 山岡
8	精神科リハビリテーションでの治療技法（7）	統合失調症、うつ病と認知行動療法（CBT）についての概説と理論 予習：CBT について学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	岩田
9	精神科リハビリテーションでの治療技法（8）	精神科病院における認知行動療法（CBT）の実際（見学） 予習：前回の講義内容を踏まえて CBT について学習しておく。 復習：CBT の実際の見学を通して学習したことを整理する。	岩田 山岡
10	精神科リハビリテーションでの治療技法（9）	統合失調症又はうつ病のある方への CBT の実施（ロールプレイ～学生同士，教員等対象）とリフレクション・討論、及び教員によるスーパービジョン 予習：ロールプレイができるように準備をしておく。 復習：ロールプレイを振り返って、実践した CBT について評価する。	岩田 山岡
11	精神科リハビリテーションでの治療技法（10）	行動療法の理論と技法；弁証法的行動療法、感情調整困難へのアプローチとマインドフルネス 予習：行動療法 について学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡
12	精神科リハビリテーションでの治療技法（11）	家族療法の理論と技法、システム理論の理解 予習：家族療法、システム理論 について学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
13～15	児童期精神科病棟での治療技法	児童精神科看護の特徴、こどものこころのアセスメント、およびティーチプログラムなどの治療技法の概説、トークンエコノミー等の行動療法の実際（見学）、行動療法の評価方法や児童期精神科病棟での高度実践者のはたらきについての検討（演習） 予習：児童精神科（および当該病棟）の特徴について調べておく 復習：児童精神科で行われている行動療法について整理しておく	岡部
16	治療的面接及び面接技法と看護師による働きかけ（1）	来談者中心療法の理論と方法 予習：クライエント中心療法について概説されている文献を読んでおく 復習：講義の内容と予習の内容の相違などを確認する	本多
17	治療的面接及び面接技法と看護師による働きかけ（2）	来談者中心療法のカウンセリングの実際（カウンセリング逐語録の解説） 予習：事前に配布された面接逐語録を読んでおく。文献などで他に逐語録が見つかれば目を通しておく 復習：来談者中心療法の面接の特徴をまとめておく	本多
18	治療的面接及び面接技法と看護師による働きかけ（3）	来談者中心療法の精神科領域での発展（プリセラピー他）；精神科領域でのクライエント中心療法の実践紹介 予習：事前に配布された来談者中心療法の精神科領域における実践についての資料を読んでおく 復習：来談者中心療法の精神科領域における実践の意義についてまとめておく	本多
19	治療的面接及び面接技法と看護師による働きかけ（4）	来談者中心療法を活用した看護相談のロールプレイの実施、リフレクション･討論･教員によるスーパービジョン（臨床実践で経験した事例を用いて看護相談場面の逐語的やり取りをロールプレイの素材とし、来談者中心療法の視点で検討～学生同士，教員等） 予習：授業で検討する素材（看護相談場面での逐語的やり取り）を選択し、わかりやすく記述し、検討点を挙げておく 復習：意見交換を通じて学んだ内容をまとめておく	本多
20	治療的面接及び面接技法と看護師による働きかけ（5）	支持的精神療法・動機づけ面接法に関する概説と理論 予習：支持的精神療法・動機づけ面接法について学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡
21	治療的面接及び面接技法と看護師による働きかけ（6）	支持的精神療法を用いた看護相談の実施（臨床実践で経験した事例を用いて看護相談場面のロールプレイ～学生同士，教員等対象）とリフレクション・討論、及び教員によるスーパービジョン 予習：ロールプレイができるように準備をしておく。 復習：ロールプレイを振り返って、実践した支持的精神療法を用いた看護相談について評価する。	山岡
22	グループ・アプローチの治療技法（1）	集団精神療法に関する概説と理論、効果、技法 予習：集団精神療法について学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	新田

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
23	グループ・アプローチの治療技法(2)	T グループの体験と学生同士等との意見交換、集団精神療法の視点からの討論、教員によるスーパービジョン 予習：T グループについて学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	新田
24	グループ・アプローチの治療技法(3)	サポートグループの概念、理論的根拠、目的及び運営方法 予習：サポートグループについて学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	新田
25	グループ・アプローチの治療技法(4)	オープンダイアローグの理論的根拠、技法 予習：オープンダイアローグについて学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	新田
26	リラクセーション法（1）	リラクセーション法の理論と実際 呼吸法、漸進的筋弛緩法、自律訓練法、イメージ療法など 予習：リラクセーション技法について学習しておく 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡
27	リラクセーション法（2）	リラクセーション技法の演習 ；健康教育等の状況を設定し、学生同士、教員、ボランティア住民等を対象に実施、リフレクション及び討論、教員によるスーパービジョン 予習：リラクゼーション法の健康教育の開催準備を行う。 復習：ロールプレイを振り返って、実践した健康教育について評価する。	山岡
28～29	精神医学のトピックス：性別違和	性別違和とメンタルサポート～ジェンダー外来の活動（見学含む） 予習：性別違和について学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	木下
30	精神看護領域におけるケアとキュアを融合した心理・社会的療法のあり方の検討	精神科病棟・一般病棟・外来・地域で提供される心理・社会的療法の提供方法・活用の意味の考察、及び高度実践看護師としての役割・あり方についてプレゼンテーションし、討論を通して検討 予習：これまで学んだ心理・社会的療法についてまとめておく 復習：授業で学んだことを整理しておく	新田 山岡

授業科目名	精神看護学治療論				
授業科目（英）	Therapy of Mental Health and Psychiatric Nursing				
教員名	山岡　由実、金沢　徹文（兼）、木下　真也（兼）、新田　和子（非）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	後期	開講曜日	月曜 6 限、月曜 7 限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	本科目では、精神科薬物療法や身体療法について理解し、評価できるために、1）精神科薬物療法、2）修正型電気けいれん療法などの身体療法について学び、3）精神科薬物療法・身体療法への支援に関連する概念、支援のあり方を検討する。また、4）事例を用いて精神科薬物療法・身体療法のまとめを行い、ケアとキュアを融合した高度看護実践について検討する。				
行動目標	1. 精神科治療における薬物療法、身体療法について、その診断と治療を理解し検討できる。 2. コンサルテーション・リエゾン精神医学でよくみられる問題点について評価し、その診断と治療を理解し検討できる。 3. 精神科治療に関連する支援に関わる概念を理解し、説明できる 4. 高度実践看護師としての精神科治療における支援のあり方、評価、課題について検討できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、高度な看護実践力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	講義への参加状況やレポートなどを総合して行う。				
教科書	特に指定しない。				
参考書	講義の中で適宜、紹介する。				
事前準備受講要件等	下記の予習・復習の項目を確認しておくこと。 各回の予習・復習は、それぞれ 60 分以上を目安とする。 授業では、プレゼンテーションやディスカッションを行う。詳細は授業のなかで説明する。				
オフィスアワー	月曜日 16:40 ～ 17:50				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	精神科治療における薬物療法（1）	向精神病薬の処方例（作用機序、適応、容量、用法、効果、副作用についての講義） ～抗精神病薬，抗パーキンソン薬～ 予習：抗精神病薬，抗パーキンソン薬について学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める	金沢
2	精神科治療における薬物療法（2）	向精神病薬の処方例（作用機序、適応、容量、用法、効果、副作用についての講義） ～抗うつ薬、気分安定薬、抗てんかん薬～ 予習：抗うつ薬、気分安定薬、抗てんかん薬について学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	金沢
3	精神科治療における薬物療法（3）	向精神病薬の処方例（作用機序、適応、容量、用法、効果、副作用についての講義） ～アルコール依存症治療薬、注意欠如・多動症治療薬、認知症治療薬など～ 予習：アルコール依存症治療薬、注意欠如・多動症治療薬、認知症治療薬について学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	金沢

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
4	精神科治療における薬物療法（4）	向精神病薬の処方例（作用機序、適応、容量、用法、効果、副作用についての講義） ～抗不安薬、睡眠薬～ 予習：抗不安薬、睡眠薬について学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	金沢
5～6	精神科治療における身体療法（1）	修正型電気けいれん療法（m-ECT） ～薬物抵抗性難治性うつ病等での適用の事例、効果と副作用の評価に関する講義（見学を含む） 予習：修正型電気けいれん療法について学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	木下
7～8	精神科治療における身体療法（2）	反復経頭蓋磁気刺激（rTMS）療法 ～薬物抵抗性難治性うつ病等での適用の事例、効果と副作用の評価に関する講義（見学を含む） 予習：反復経頭蓋磁気刺激（rTMS）療法について学習しておく 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	金沢
9～10	精神科薬物療法・身体療法への支援	精神科薬物療法・身体療法とコンプライアンス、アドヒアランス、インフォームド・コンセント、共同意思決定、コンコーダンスなどの概念についてプレゼンテーションし、拒薬、医療拒否の意味と服薬支援（直接ケア、相談、調整、倫理調整など）についての学生同士・教員による討論を通して検討 予習：コンプライアンス､アドヒアランス､コンコーダンス、共同意思決定について学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	新田 山岡
11	コンサルテーション・リエゾン精神医学（1）	リエゾン精神医療でよくみる問題点（せん妄）と対応、処方例とその効果及び副作用の評価に関する講義 予習：せん妄について学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	木下
12	コンサルテーション・リエゾン精神医学（2）	リエゾン精神医療でよくみる問題点（身体疾患に伴う精神障害）と対応、処方例とその効果及び副作用の評価に関する講義 予習：身体疾患に伴う精神障害について学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	木下
13～14	コンサルテーション・リエゾン精神医学（3）	リエゾン精神医療でよくみる問題点（抑うつ、その他）と対応、処方例とその効果及び副作用の評価に関する講義 予習：抑うつ、怒り、不安他、リエゾン精神医療でよくみる問題行動について学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	木下
15	精神科薬物療法・身体療法のまとめ及び、ケアとキュアを融合した高度実践能力	臨床で経験したケア困難事例を用いて、薬物療法・身体療法を再評価し、高度実践看護師としての役割（直接ケア、相談、調整、倫理調整など）・あり方についてプレゼンテーションし、討論を通して検討 予習：これまで学習した治療法を整理し、事例をまとめ、高度実践看護師としての役割・あり方を検討しておく 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める	新田 山岡

授業科目名	精神看護学演習				
授業科目（英）	Seminar of Mental Health and Psychiatric Nursing				
教員名	山岡　由実、山内　彩香、岩田　和彦（非）、岡部　英子（非）、 新田　和子（非）、藤澤　由里子（兼）				
単位数	2	時間数	60	学年	2
開講期	前期	開講曜日	月曜 6 限、月曜 7 限		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	本科目では、地域包括ケアを推進する視点から、慢性期患者のリカバリー・地域生活の安寧への支援、長期入院患者の地域移行の推進、多様な病期や状況にある人々に向けて卓越した看護実践を行うために、1）慢性期看護に関連する日本の精神医療の課題を概説し、2）自己決定能力を高めるケア技術や身体合併症を早期に発見するケア技術、3）慢性期病棟の看護師へのコンサルテーションおよび教育的かかわり、4）精神科リハビリテーション看護、5）長期在院患者の自立支援に向けての調整（患者のアセスメント、家族支援を含む）、6）地域包括ケアシステムにおける精神科訪問看護活動と訪問看護への支援について検討する。また、7）精神障害者の権利擁護と倫理的判断・倫理調整、8）精神科チーム医療とコーディネーションにおける高度看護実践のあり方を検討し、9）職場におけるメンタルヘルス支援、10）災害時のメンタルヘルス支援についての理解を深める。さらに 11）地域移行に関する近年の考え方を教授し、最後に地域精神看護で高度実践看護師に期待される働きについてまとめを行う。				
行動目標	・慢性期看護、地域包括ケアの推進にむけた現状と課題について理解し、考察して討議することができる。 ・多様な病期や状況にある人々に対する精神看護の必要性と意義について理解し、実施できる。 ・上記の理解、実施、討議を踏まえ、高度実践看護への適応を検討できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、高度な看護実践力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	演習への参加状況やレポートなどを総合して行う。				
教科書	特に指定しない。				
参考書	演習の中で適宜、紹介する。				
事前準備受講要件等	下記の予習・復習の項目を確認しておくこと。 各回の予習・復習は、それぞれ 60 分以上を目安とする。 授業では、プレゼンテーションやディスカッションを行う。詳細は授業のなかで説明する。				
オフィスアワー	月曜日 16:40 ～ 17:50				
SDGs との関連	3，4，8				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～2	慢性期看護に関連する日本の精神医療の課題	国民の理解の変化、精神医療の改革、地域支援強化～精神障がい者の地域移行の推進に向けて～ 予習：慢性期看護に関連する日本の精神医療の課題について考えておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡 山内
3～4	慢性期看護の直接ケア技術	慢性期統合失調症からの寛解過程に沿ってセルフケア不足を改善し自己決定能力を高める看護技術 予習：セルフケアプログラムについて学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡 山内
5～6	慢性期病棟の看護師へのコンサルテーション	看護師の脱備給～うんざりして気を抜いてしまうこと～と関心を持ち続けることの工夫 予習：慢性期病棟で勤務する看護師が抱える困難について学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	岡部 山岡

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
7～8	慢性期病棟の看護師への教育的かかわり（1）	精神科病院での身体合併症の早期発見及び看護への不安とその対策 予習：慢性期患者に起こりやすい身体合併症について学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	新田 山岡
9～10	慢性期病棟の看護師への教育的かかわり（2）	リカバリーの捉え方による看護師の患者観の変化 予習：リカバリーについて学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡 山内
11～12	精神科リハビリテーション看護	看護師による運営、或いは参加観察を通しての大集団精神療法、生活技能訓練、作業療法、園芸療法、レクリエーション療法等が患者に与える効果の検討 予習：精神科リハビリテーションにおける看護師の役割について整理しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡
13～14	長期在院患者の自立支援への調整（1）	患者の社会参加についてのアセスメントの方法 予習：長期在院患者の社会参加について学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	岩田 山岡
15～16	長期在院患者の自立支援への調整（2）	家族への支援・心理家族教室の概説 予習：精神看護領域における家族への支援について学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	藤澤
17～18	長期在院患者の自立支援への調整（3）	長期在院患者への近年注目されている新たなアプローチ（ユマニチュード等） 予習：ユマニチュードについて学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	岩田 山岡
19	精神科訪問看護の役割と機能	地域包括ケアシステムの視点からみた精神科訪問看護ステーションの役割と機能 予習：地域包括ケアシステムとその中での精神科訪問看護について学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡
20～21	精神科訪問看護活動と訪問看護への支援	精神科病院の訪問看護師のかかわり方と訪問看護に関連したカンファレンス（見学、意見交換） 予習：ACT と多職種連携について学習しておく 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡 山内
22	精神障害者の権利擁護と倫理的判断・倫理調整	倫理調整を必要とした具体的な事例・場面による精神障害者の権利擁護～倫理的判断の根拠と高度実践看護師としての倫理調整のあり方の検討 予習：高度実践看護者に求められる倫理調整の機能について調べておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡 山内
23	精神科チーム医療とコーディネーション	こころの健康問題をもつ患児の生活を支えるチーム医療と退院に向けた多職種間の役割調整：事例を用いた講義、討論 予習：①児童福祉に関連する法律を調べておく。②児童思春期外来・病棟の機能を調べておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	岡部

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
24	職場におけるメンタルヘルス支援(1)	家族調整や職場支援が必要なうつ病等のある方の退院支援･自立支援への調整と看護アプローチ:リワーク支援の実際及び事例を用いた講義、討論 予習：うつ病患者の職場復帰に向けた看護実践について学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡
25	職場におけるメンタルヘルス支援(2)	職場における心の健康の保持増進、予防についての概説と実際及び事例を用いた講義、討論 予習：職場におけるメンタルヘルス支援について学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡
26	災害時のメンタルヘルス支援（1）	災害におけるメンタルヘルス支援の実際及び、サイコロジカル・ファーストエイド（PFA）の概説、学生同士及び教員との意見交換 予習：DPAT、PFA 等の災害時のメンタルヘルス支援について学習しておく 復習：復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡
27	災害時のメンタルヘルス支援（2）	心的外傷後ストレス障害（PTSD）とトラウマ概念、トラウマインフォームドケアの理解及び高度実践看護師としての災害時のメンタルヘルス支援についての検討 予習：PTSD、トラウマ概念、トラウマインフォームドケアについて学習しておく 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡
28～29	地域医療の中で病院の医療を捉える考え方	在宅看護、ディケア、外来、精神科訪問看護等の機能を充実させ入院中心から地域中心を推進する近年の動向 予習：近年の精神医療の動向について学習しておく。 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める。	山岡 山内
30	まとめ	今後の地域精神看護で高度実践看護師に期待される働きについてのプレゼンテーション、討論 予習：これまで学習した内容について振り返っておく。 復習：学習内容を踏まえ、今後の高度実践者に期待される働きについて考察する。	山岡 山内

授業科目名	精神看護学実習Ⅰ				
授業科目（英）	Advanced Practicum of Mental Health and Psychiatric Nursing Ⅰ				
教員名	山岡　由実、山内　彩香				
単位数	2	時間数	90	学年	1
開講期	後期	開講曜日	実習		
科目区分	選択	授業形態	実習		
一般目標	精神看護専門看護師に同行しながら、直接ケア（実践）・相談・調整・倫理調整・教育・研究などの実際を体験し、精神看護専門看護師として必要な能力や姿勢を学ぶ。				
行動目標	1. 精神看護専門看護師の指導を受けながら、直接ケア介入の一部に携わることができる 2. 精神看護専門看護師の指導を受けながら、コンサルテーション・コーディネーション活動の一部に携わることができる 3. 精神看護専門看護師の指導を受けながら、教育活動の一部に携わることができる				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考、柔軟な発想力、高度な看護実践力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	実習への参加状況やレポートなどを総合して行う。				
教科書	特に指定しない。				
参考書	実習の中で適宜、紹介する。				
事前準備受講要件等	下記の予習・復習の項目を確認しておくこと。 毎日の予習・復習は、それぞれ 120 分以上を目安とする。				
オフィスアワー	月曜日 16:40 ～ 17:50				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
90 時間	1. 本実習について 本実習は精神看護専門看護師の役割機能の実習（1単位）と医療施設におけるコンサルテーションおよびコーディネーション実習（1単位）から構成される。 2. 課題レポート 履修者は実習終了後、実習内容を反映させながら、精神看護専門看護師の役割と機能、および今後の自己の課題について1500～2000字程度のレポートを作成する。 3. 実習指導者 (1) 岡部英子（精神看護専門看護師・大阪精神医療センター） (2) 藤澤由里子（精神看護専門看護師･大阪医科薬科大学病院） (3) 山田顕子（リエゾン精神看護専門看護師・神戸市立西神戸医療センター）	1. 実習内容 前半の役割機能の実習では、学生は精神看護専門看護師に同行しながら、同専門看護師が医療施設で行っている直接ケア（実践)･相談･調整･倫理調整･教育・研究などを学ぶ。 後半のコンサルテーションおよびコーディネーション実習では、精神看護専門看護師に必要な機能と役割のうち、コーディネーションとコンサルテーションを重点的に学ぶ。具体的には1）精神看護専門看護師が行っている調整場面の見学やディスカッションを通して、調整が必要になった背景および協働を促進するための調整機能等を学ぶ。また、2）精神看護専門看護師が行っているコンサルテーションの見学やディスカッションを通して、コンサルティとコンサルタントの関係構築、コンサルテーションのプロセス、コンサルタントの役割について学ぶ。 2. 実習開始日時・期間 実習指導者と相談の上、決定する 3. 実習場所 教員と相談の上、次の施設の中から決定する。 (1) 大阪府立病院機構　大阪精神医療センター (2) 大阪医科薬科大学病院 精神神経科病棟 (3) 神戸市立西神戸医療センター 4. 予習および復習 1）予習：精神看護専門看護師、教員より各実習日の前に提示される課題に取り組み、まとめる 2）復習：当該日の実習内容について整理し、精神看護専門看護師、教員より提示された課題に取り組み、まとめる 5. 評価 実習における姿勢、実践内容、カンファレンスなどでのプレゼンテーション、実習記録に記載された内容、課題レポートなどで総合的に評価する。評価にあたっては、精神看護専門看護師、専任教員が協議し、専任教員が評価する。	山岡 山内

授業科目名	精神看護学実習Ⅱ				
授業科目（英）	Advanced Practicum of Mental Health and Psychiatric Nursing Ⅱ				
教員名	山岡　由実、山内　彩香				
単位数	6	時間数	270	学年	1
開講期	後期～前期	開講曜日	実習		
科目区分	選択	授業形態	実習		
一般目標	・精神科診断・治療実習（2 単位）では、精神神経科外来において精神科医の診察に立ち会い、精神科医より精神科診断および治療に関する指導を受ける。また、精神神経科病棟においては精神科医より面談可能と判断された複数の患者に対して学生が面接を行ない、その面接についてスーパービジョンを受ける。事例レポートを作成し、指導を受け、精神科診断・治療に関する知見を深める。 ・直接ケア実習では精神疾患患者を対象とした直接ケア実習（2 単位）とリエゾン精神看護に関連する直接ケア実習（2 単位）の両方の実習を行なう。いずれの実習においても、精神神経科病棟、また一般総合病院において、さまざまな身体・精神上の健康問題をもつ患者の事例を受け持ち、精神看護専門看護師の指導を受けながら、患者の健康状態、精神状態、生活状況を評価し、看護を展開する体験を通して、精神看護専門看護師に必要なアセスメント能力、直接介入能力を培う。				
行動目標	1. DSM-V、ICD-10（11）を用いての精神科診断の基本を身につけ、患者に応じた薬物療法等の治療方法について検討することができる。 2. 精神看護専門看護師のスーパービジョンを受けながら、精神疾患患者およびリエゾン精神看護領域での看護対象である患者に対する直接ケア（の一部）を実行することができ、アセスメントに基づくケアプランをたて、カンファレンス等で発表できる				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考、柔軟な発想力、高度な看護実践力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	実習への参加状況やレポートなどを総合して行う。				
教科書	特に指定しない。				
参考書	実習の中で適宜、紹介する。				
事前準備受講要件等	実習Ⅰの単位の取得を履修の条件とする。 下記の予習・復習の項目を確認しておくこと。 毎日の予習・復習は、それぞれ 120 分以上を目安とする。				
オフィスアワー	月曜日 16:40 ～ 17:50				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
270 時間	1. 本実習について 本実習は精神科診断･治療実習（2単位）と直接ケア実習（4単位）から構成される。また、直接ケア実習は、精神神経科病棟に入院している精神疾患患者に対する直接ケア実習（2単位）と一般総合病院でのリエゾン精神看護に関連した実習（2単位）で構成される。 2. 本実習科目の履修の条件 本実習は実習Ⅰの単位の取得を履修の条件とする。 3. 課題レポート 1）精神科診断・治療実習 精神神経科病棟で面接した患者2名の診断過程・治療についてのケースレポートを各患者につき1000字程度で作成する 2）直接ケア実習（精神疾患患者を対象とする） 担当した事例のケースレポートを1500～2000字程度で作成する。 3）直接ケア実習（リエゾン精神看護関連） 担当した事例のケースレポートを1500～2000字程度で作成する。 4. 実習指導者 1）精神科診断・治療実習 金沢徹文（精神神経科医師・大阪医科薬科大学病院） 2）直接ケア実習 (1) 岡部英子（精神看護専門看護師・大阪精神医療センター） (2) 藤澤由里子（精神看護専門看護師･大阪医科薬科大学病院） (3) 山田顕子（リエゾン精神看護専門看護師・神戸市立西神戸医療センター）	1. 本実習の基本的な手順 1）精神科診断・治療実習 精神神経科外来において、精神科医の診療場面に立ち会い、精神科診断および治療の実際について学ぶ。また、精神神経科病棟にて精神科医が面談可能と判断した患者と面接し、その面接についてスーパービジョンを受ける。当該患者に関するケースレポートを作成し、精神科診断と治療の観点から精神科医より指導を受ける。 2）直接ケア実習 直接ケア実習は精神疾患患者を対象とした直接ケア実習、リエゾン精神看護に関連した直接ケア実習の順で行われるが、いずれにおいても、以下の手順を踏んで実習を展開する。但し、直接ケアの事例、また学生のニーズおよび達成度によって、進行の仕方に修正が加わる場合があり得る。 (1) 精神看護専門看護師が同行可能と判断した直接ケア場面を見学し、精神看護専門看護師として必要な態度、知識、技術を学ぶ。 (2) その後、受け持ち事例を1例選び、精神看護専門看護師、教員の指導を受けながら、患者の健康状態、精神状態、自我状態、生活状況をアセスメントし、看護を展開する。 (3) 精神看護専門看護師とのディスカッション、病棟でのカンファレンスや事例検討会に参加し、事例に関する理解を深める。 (4) 受け持った事例のケースレポートを作成し、可能な場合、病棟カンファレンスにて発表する 2. 実習開始日時・期間 実習指導者と相談の上、決定する 3. 実習場所 1）精神科診断・治療実習 大阪医科薬科大学病院 精神神経科外来および病棟, 2）直接ケア実習 教員と相談の上、次の施設のいずれかとする。 (1) 大阪府立病院機構　大阪精神医療センター (2) 大阪医科薬科大学病院 (3) 神戸市立西神戸医療センター 4. 予習および復習 1）予習：精神看護専門看護師、教員より各実習日の前に提示される課題に取り組み、まとめる 2）復習：当該日の実習内容について整理し、精神看護専門看護師、教員より提示された課題に取り組み、まとめる 5. 評価 実習における姿勢、実践内容、カンファレンス等におけるプレゼンテーション、実習記録に記載された内容、課題レポートなどで総合的に評価する。評価にあたっては、精神看護専門看護師、教員が協議し、教員が評価する。	山岡 山内

授業科目名	精神看護学実習Ⅲ				
授業科目（英）	Advanced Practicum of Mental Health and Psychiatric Nursing Ⅲ				
教員名	山岡　由実、山内　彩香				
単位数	2	時間数	90	学年	2
開講期	通年	開講曜日	実習		
科目区分	選択	授業形態	実習		
一般目標	本実習はサブスペシャリティの分野に関連した実習（2単位）である。 【専攻分野：地域精神看護／Sub-specialty; Community Mental Health Nursing】 精神看護専門看護師、および担当教員からスーパービジョンを受けながら、サブスペシャリティ領域～地域精神看護における直接ケア、コンサルテーション、調整、倫理調整、教育などの活動を行ない、精神看護専門看護師として必要な能力を養う 【専攻分野：専攻分野：リエゾン精神看護／Sub-specialty; Liaison Mental Health and Psychiatric Nursing】 精神看護専門看護師、および担当教員からスーパービジョンを受けながら、サブスペシャリティ領域～リエゾン精神看護において、メンタルヘルス上の課題を抱える複雑で対応が困難な一般身体疾患患者とその家族を対象とし、直接ケア、コンサルテーション、調整、倫理調整、教育などの活動を行い、リエゾン精神看護専門看護師として必要な能力を養う				
行動目標	【専攻分野：地域精神看護／Sub-specialty; Community Mental Health Nursing】 1. 精神看護専門看護師と担当教員からのスーパービジョンを受けながら、サブスペシャリティ領域で受け持った直接ケアの事例に対するアセスメントを行い、看護計画をたて、実践し、評価ができる。 2. 精神看護専門看護師と相談の上、上記の事例に関してのコンサルテーション、調整、倫理調整、教育等の役割に携わることができる（但し、当該事例では困難な場合はこの事例に限らない） 【専攻分野：専攻分野：リエゾン精神看護／Sub-specialty; Liaison Mental Health and Psychiatric Nursing】 1. 精神看護専門看護師と担当教員からのスーパービジョンを受けながら、サブスペシャリティ領域～リエゾン精神看護で受け持った一般身体疾患患者とその家族を対象とした直接ケアの事例に対するアセスメントを行い、看護計画をたて、実践し、評価ができる 2. 精神看護専門看護師と相談の上、上記の事例に関してのコンサルテーション、調整、倫理調整、教育等の役割に携わることができる（当該事例では困難な場合はこの事例に限らない。但し、一般身体疾患患者とその家族を対象としたメンタルヘルスケアに関わる事例とする）				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考、柔軟な発想力、高度な看護実践力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	実習への参加状況やレポートなどを総合して行う。				
教科書	特に指定しない。				
参考書	実習の中で適宜、紹介する。				
事前準備受講要件等	実習Ⅰ、実習Ⅱの単位の取得を履修の条件とする。 下記の予習・復習の項目を確認しておくこと。 毎日の予習・復習は、それぞれ120分以上を目安とする。				
オフィスアワー	月曜日 16:40 ～ 17:50				
SDGsとの関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
90 時間	【専攻分野：地域精神看護／ Sub-specialty; Community Mental Health Nursing】 1. 本実習について 本実習はサブスペシャリティ領域～地域精神看護の実習科目（2単位）である。 学生はいずれのサブスペシャリティ領域にて実習を行なうかについて、あらかじめ教員と相談し選択する。 本実習の展開は、原則として右記の手順で行われる。但し、直接ケアの事例、また学生のニーズおよび達成度によって、進行の仕方に修正が加わる場合があり得る。 2. 本実習科目の履修の条件 本科目は精神看護学実習Ⅰ、精神看護学実習Ⅱの単位の取得（Ⅱについては取得見込を含む）を履修の条件とする。 3. 課題レポート 担当した直接ケアの事例1例のケースレポートを2000字程度で作成する。 4. 実習指導者 (1) 岡部英子（精神看護専門看護師・大阪精神医療センター） (2) 藤澤由里子（精神看護専門看護師･大阪医科薬科大学病院）	【専攻分野：地域精神看護／ Sub-specialty; Community Mental Health Nursing】 1. 本実習の基本的な手順 1）精神看護専門看護師と相談の上、直接ケアに関して学生が実践可能な事例を選び、これまで講義、演習、実習を通して学んだ理論、モデル、検査法、介入法等を活用しつつ、担当事例に対するアセスメント、計画立案、直接介入を行ない、実践活動の評価を行なう。 2）精神看護専門看護師の指導のもとで、コンサルテーション、調整、倫理調整、教育などに携わり、サブスペシャリティ領域の専門看護師として必要な能力を養っていく。 2. 実習開始日時・期間 実習指導者と相談の上、決定する 3. 実習場所 サブスペシャリティに合わせて教員と相談の上、次の施設のいずれかとする。 (1) 大阪府立病院機構　大阪精神医療センター (2) 大阪医科薬科大学病院 4. 予習および復習 1）予習：精神看護専門看護師、教員より各実習日の前に提示される課題に取り組み、まとめる 2）復習：当該日の実習内容について整理し、精神看護専門看護師、教員より提示された課題に取り組み、まとめる 5. 評価 実習における姿勢、実践内容、カンファレンス等におけるプレゼンテーション、実習記録に記載された内容、課題レポートなどで総合的に評価する。評価にあたっては、精神看護専門看護師、教員が協議し、教員が評価する。	山岡 山内

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
90 時間	【専攻分野：専攻分野：リエゾン精神看護／ Sub-specialty; Liaison Mental Health and Psychiatric Nursing】 1. 本実習について 本実習はサブスペシャリティ領域～エゾン精神看護領域の実習科目（2 単位）である。 学生はいずれのサブスペシャリティ領域にて実習を行なうかについて、あらかじめ教員と相談し選択する。 本実習の展開は、原則として右記の手順で行われる。但し、直接ケアの事例、また学生のニーズおよび達成度によって、進行の仕方に修正が加わる場合があり得る。 2. 本実習科目の履修の条件 本科目は精神看護学実習Ⅰ、精神看護学実習Ⅱの単位の取得（Ⅱについては取得見込を含む）を履修の条件とする。 3. 課題レポート 担当した直接ケアの事例 1 例のケースレポートを 2000 字程度で作成する。 4. 実習指導者 (1) 藤澤由里子（精神看護専門看護師･大阪医科薬科大学病院） (2) 山田顕子（リエゾン精神専門看護師・神戸市立西神戸医療センター）	【専攻分野：専攻分野：リエゾン精神看護／ Sub-specialty; Liaison Mental Health and Psychiatric Nursing】 1. 本実習の基本的な手順 1）リエゾン精神看護専門看護師と相談の上、直接ケアに関して学生が実践可能な事例を選び、これまで講義、演習、実習を通して学んだ理論、モデル、検査法、介入法等を活用しつつ、担当事例に対するアセスメント、計画立案、直接介入を行ない、実践活動の評価を行なう。 2）リエゾン精神看護専門看護師の指導のもとで、コンサルテーション、調整、倫理調整、教育などに携わり、サブスペシャリティ領域の専門看護師として必要な能力を養っていく。 2. 実習開始日時・期間 実習指導者と相談の上、決定する 3. 実習場所 サブスペシャリティに合わせて教員と相談の上、次の施設のいずれかとする。 (1) 大阪医科薬科大学病院 (2) 神戸市立西神戸医療センター 4. 予習および復習 1）予習：リエゾン精神看護専門看護師、教員より各実習日の前に提示される課題に取り組み、まとめる 2）復習：当該日の実習内容について整理し、リエゾン精神看護専門看護師、教員より提示された課題に取り組み、まとめる 5. 評価 実習における姿勢、実践内容、カンファレンス等におけるプレゼンテーション、実習記録に記載された内容、課題レポートなどで総合的に評価する。評価にあたっては、リエゾン精神看護専門看護師、教員が協議し、教員が評価する。	山岡 山内

授業科目名	老年看護学特論				
授業科目（英）	Theory of Gerontological Nursing				
教員名	樋上　容子、杣木　佐知子、石原　昌代（非）、上野山　恵子（兼）、関川加奈子（非）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期	開講曜日	木曜 6 限、木曜 7 限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	「老年期を生きる人」の価値観や信念を尊重した看護を実現するために、老年看護学で用いられる概念や理論、倫理的課題を探求し、老年看護を専門として活動していくための基盤を養う。また、専門看護師としての役割や機能（教育、相談、調整、倫理調整）について学ぶ。				
行動目標	1. 看護理論をもとに「老年期を生きる人」の特徴を捉えることができる 2. 高齢者に生じやすい倫理的課題についてまとめ、高齢者の尊厳を守るための看護支援について説明することができる 3. 専門看護師の役割や機能を説明することができる				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、教育実践力、課題探求・研究遂行力、高度な看護実践力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	授業中の参加度･発言頻度（20%）、授業時のプレゼンテーション（50%）、課題レポート（30%）を総合して評価する				
教科書	特に指定しない				
参考書	講義の中で適宜紹介する				
事前準備受講要件等	下記の項目に従い予習復習を行うこと 予習・復習は 60 分以上とする				
オフィスアワー	木曜日 16 時～17 時 30 分（随時メールで時間予約してください）				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～2	オリエンテーション、老年看護学で用いられる概念や理論（1）	オリエンテーション、様々な健康の概念とその特徴についてまとめる。 予習：スミスが分類した健康モデルについて調べる 復習：講義の内容から高齢者の健康の概念について理解する	樋上
3	老年看護学で用いられる概念や理論（2）	サクセスフルエイジングの考え方、意義をまとめる。 予習：サクセスフルエイジングの概要を調べる 復習：講義の内容からサクセスフルエイジングについて理解する	樋上
4	老年看護学で用いられる概念や理論（3）	ウェルネスアプローチの考え方、意義をまとめる。 予習：ウェルネスアプローチの概要を調べる 復習：講義の内容からウェルネスアプローチについて理解する	樋上
5	老年看護学で用いられる概念や理論（4）	セルフケア理論の考え方、意義をまとめる。 予習：セルフケア理論の概要を調べる 復習：講義の内容からセルフケア理論について理解する	杣木
6	老年看護学で用いられる概念や理論（5）	ライフストーリーの考え方、意義をまとめる。 予習：ライフストーリーの概要を調べる 復習：講義の内容からライフストーリーについて理解する	杣木

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
7	老年看護学で用いられる概念や理論（6）	エンパワメントの考え方、意義をまとめる。 予習：エンパワメントの概要を調べる 復習：講義の内容からエンパワメントについて理解する	樋上
8	老年看護領域における倫理的課題（1）	高齢者に生じやすい倫理的問題についてまとめる。 予習：高齢者特有の倫理的問題について調べる 復習：講義の内容から高齢者に生じやすい倫理的問題について理解する	上野山
9	老年看護領域における倫理的課題（2）	高齢者の尊厳を守るための看護支援についてまとめる。 予習：高齢者の尊厳を守るためのガイドラインについて調べる 復習：講義の内容から高齢者の尊厳を守るための看護支援について理解する	上野山
10	老年看護領域における倫理的課題（3）	高齢者終末期の意思決定における看護職の役割についてまとめる。 予習：終末期の高齢者意思決定支援における看護職の役割について発表の準備をする 復習：発表と討議の内容について理解する	関川
11	老人看護専門看護師の活動の実際	老人看護専門看護師の活動の現状について学び、専門看護師の役割について考える。 予習：専門看護師の活動について調べる 復習：講義の内容から専門看護師活動の現状をまとめる	石原
12～13	老人看護専門看護師としての役割と機能	老人看護専門看護師の役割や機能（教育、相談、調整、倫理調整）における課題について考える。 予習：老年看護専門看護師の役割と機能について調べる 復習：老年看護専門看護師の役割と機能についてまとめる	石原
14～15	まとめ	「老年期を生きる人」の価値観や信念を尊重した看護の実践についてまとめる。 予習：学習した内容について振り返りを行い、発表の準備をする 復習：発表と討議の内容についてまとめる	樋上

授業科目名	老年看護アセスメント論				
授業科目（英）	Gerontological Nursing Assessment				
教員名	樋上　容子、杣木　佐知子、上田　博司（非）、古谷　和紀（非）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期	開講曜日	火曜 6 限、火曜 7 限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	高齢者医療においては、高齢者と家族の視点にたって疾病及び生活機能障害を評価し、全人的アプローチを行う必要がある。応用化学である老年学の研究成果を活用し、加齢に伴い変化する身体的・精神的・社会的・霊的な加齢特性について科学的に捉え、包括的に評価する方法について探求する。				
行動目標	1. 高齢者の健康を身体的、精神的、社会的、霊的側面において包括的に評価することができる 2. 高齢者の健康生活評価の特徴について説明できる 3. 高齢者総合機能評価を習得し、その活用について検討することができる				
ディプロマポリシーのキーワード	論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、教育実践力、課題探求・研究遂行力、高度な看護実践力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	授業中の参加度･発言頻度（20%）、授業時のプレゼンテーション（50%）、課題レポート（30%）を総合して評価する				
教科書	特に指定しない				
参考書	講義の中で適宜紹介する				
事前準備受講要件等	下記の項目に従い予習復習を行うこと 予習・復習は 60 分以上とする				
オフィスアワー	木曜日 16 時～17 時 30 分（随時メールで時間予約してください）				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	老年看護学を理解するための基盤	社会・家族・文化等様々な側面から「老い」を考える。 予習：現代社会で「老い」がどのように捉えられているかを調べる 復習：講義内容から「老い」の意味を整理する	樋上
2～3	身体的側面からの健康評価	老年学の研究成果を活用して、脳神経系、呼吸器系、循環器系、消化器系、感覚器系、骨・運動器系等における加齢性変化についてまとめ、高齢者の生活に与える影響を身体的側面からアセスメントする 予習：身体的加齢変化について調べる 復習：講義の内容から身体的加齢変化と、その変化が高齢者の健康生活に与える影響について整理する	杣木
4～5	精神的側面からの健康評価	老年学の研究成果を活用して、精神・神経・心理機能における加齢性変化についてまとめ、高齢者の生活に与える影響を精神的側面からアセスメントする 予習：精神的加齢変化について調べる 復習：講義の内容から精神的加齢変化と、その変化が高齢者の健康生活に与える影響について整理する	樋上

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
6〜7	社会的・霊的側面からの健康評価	老年学の研究成果を活用して、加齢による社会的役割の変化、スピリチュアルな側面の加齢変化についてまとめ、高齢者の生活に与える影響を社会的役割、霊的側面からアセスメントする 予習：高齢者の社会的役割について現状を調べる 復習：講義の内容から社会的・霊的な加齢変化と、その変化が高齢者の健康生活に与える影響について整理する	上田
8〜9	高齢者の健康状態をアセスメントする	事例を用いて、主観的情報、フィジカルアセスメント、メンタルステイタスアセスメントから情報を統合・評価し、環境要因、社会生活に及ぼす影響も考慮して、高齢者の健康課題とその対策に役立つ強みを見出す 予習：高齢者のヘルスアセスメントのプロセスについて調べる 復習：講義の内容から高齢者のヘルスアセスメントとその看護について整理する	古谷
10〜11	高齢者の生活機能をアセスメントする	事例を用いて、 (1) ICF モデルの特徴と、ICF モデルを活用したアプローチを学ぶ (2) 家族機能を評価する (3) 介護力、介護負担感を評価する 予習：ICF モデル、介護負担感尺度について調べる 復習：講義の内容から高齢者の生活機能評価について整理する	古谷
12〜13	高齢者総合機能評価（CGA）の内容と評価の実際	高齢者の健康生活評価の特徴について事例を用いて CGA を学ぶ。 (1) 日常生活動作の評価（ADL、IADL） (2) 認知機能、情緒、気分、幸福度について (3) コミュニケーション、社会的環境（家庭環境、介護者、支援体制）について 予習：高齢者総合機能評価について調べる 復習：講義の内容から高齢者総合機能評価についてまとめる	上田
14〜15	まとめ	臨床で経験した評価法、あるいは関心のある評価法を選択し、学びを発表する。 予習：学習した内容について振り返りを行い、発表の準備をする 復習：発表と討議の内容についてまとめる	樋上

授業科目名	老年期病態治療論				
授業科目（英）	Gerontological Pathophysiology and Pharmacology				
教員名	樋上　容子、津田　泰宏、神出　計（非）、上田　博司（非）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期	開講曜日	月曜6限、月曜7限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	老年期の加齢性変化や発生頻度が高い疾患、その検査・治療（薬物療法も含む）について理解を深め、高齢者の療養生活を支援するための専門的知識に基づいた高度な看護判断ができる能力を養う。				
行動目標	1. 老年期の加齢性変化や発生頻度が高い疾患、またその検査や治療（薬物療法を含む）について説明できる。 2. 疾患や症候、検査・治療による高齢者への影響についてアセスメントする方略を探求することができる。 3. 老年期に発生頻度が多い疾患や症候、加齢性変化をあわせた病態を理解し、検査･治療（薬物療法を含む）を受ける高齢者への看護援助を理解することができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、課題探求・研究遂行力、高度な看護実践力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	出席状況、レポート、グループ討議の内容を総合的に評価する				
教科書	特に指定しない				
参考書	講義の中で適宜紹介する				
事前準備受講要件等	下記の項目に従い予習復習を行うこと 予習・復習は60分以上とする				
オフィスアワー	木曜日16時～17時30分（随時メールで時間予約してください）				
SDGsとの関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～2	老年メカニズムと老化制御	老化、酸化ストレス、テロメア・テロメラーゼと老化、寿命に関わる遺伝子、老化制御、センテナリアンの生物学 予習：ヒトの老化に関わる要因を事前学習し、議論したい点を整理しておく 復習：講義をふまえ、老化のメカニズムについて整理する	樋上
3～4	老年症候群	老年症候群（認知機能障害、フレイル、サルコペニア、老人性うつ、歩行障害、転倒・転落） 予習：老年症候群について調べる 復習：老年症候群に対する予防的看護について整理する	上田
5～6	臓器の加齢性変化	循環器系・呼吸器系・消化器系・脳神経系・内分泌代謝系・腎泌尿器系・血液免疫機能・骨運動器系・感覚器系・額口腔系の加齢変化 予習：臓器の加齢性変化について調べる 復習：高齢者の加齢に伴う臓器の変化をまとめる	津田

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
7～10	高齢者の薬物療法	老年期の薬物動態と薬物力学、処方上の注意点、薬効評価、服薬 予習：高齢者の薬物療法についての課題を事前学習し、議論したい内容を整理しておく 復習：講義をふまえ、高齢者の薬物療法における看護の役割をまとめる	津田
11～12	高齢者における主な疾患と検査、治療①	心不全、虚血性心疾患、脳血管障害、高血圧、肺炎、COPD 予習：高齢者に多い疾患の病態生理を調べる 復習：疾患を抱える高齢者の症状マネジメントについてまとめる	神出
13～14	高齢者における主な疾患と検査、治療②	糖尿病、慢性腎臓病、骨関節疾患、認知症、神経変性疾患 予習：高齢者に多い疾患の病態生理を調べる 復習：疾患を抱える高齢者の症状マネジメントについてまとめる	神出
15	高齢者の終末期医療	終末期における緩和ケア、全体のまとめ 予習：高齢者の終末期医療の現状と課題を調べる 復習：高齢者の終末期における看護の役割をまとめる	樋上

授業科目名	老年看護援助論				
授業科目（英）	Nursing Intervention for Elderly Patients				
教員名	樋上　容子、寺口　佐與子、杣木　佐知子、上田　博司（非）、 石原　昌代（非）、上野山　恵子（兼）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	後期	開講曜日	月曜 6 限、月曜 7 限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	高齢者と家族への倫理的な判断を含む高度な看護実践を行うための方法を学ぶ				
行動目標	1. 高齢者と家族の Quality of Life を多角的視野から捉えることができる 2. 高齢者の権利擁護について制度も含め説明することができる 3. 倫理的課題への対応や調整について意義を説明することができる				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、教育実践力、課題探求・研究遂行力、発信力、高度な看護実践力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	授業中の参加度･発言頻度（20%）、授業時のプレゼンテーション（50%）、課題レポート（30%）を総合して評価する				
教科書	特に指定しない				
参考書	講義の中で適宜紹介する				
事前準備受講要件等	下記の項目に従い予習復習を行うこと 予習・復習は 60 分以上とする				
オフィスアワー	木曜日 16 時～17 時 30 分（随時メールで時間予約してください）				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～2	複雑な健康問題を抱える高齢者とその家族に対する援助	オリエンテーション 複雑な健康問題を抱える高齢者とその家族に対する援助の特徴と課題について探求する 予習：老年症候群の特徴や症状について調べる 復習：講義の内容から老年症候群の特徴や症状についてまとめる	樋上
3	高齢者および家族の理解（1）	生活者としての高齢者と家族の理解。家族形態の変化に伴う家族の役割について考察する 予習：高齢者の世帯数の変化、家族構成の変化を調べる 復習：講義の内容から現代の家族の役割についてまとめる	上田
4	高齢者および家族の理解（2）	要介護高齢者とその家族の現状と問題点 予習：要介護高齢者の意識、実態とその問題点について調べる 復習：講義の内容から要介護高齢者の現状と問題点についてまとめる	上田
5	高齢者および家族の理解（3）	倫理原則による事例検討を行い、倫理的ジレンマと看護専門職としての意思決定について考察する 予習：4 つの倫理原則について調べる 復習：講義の内容から倫理原則に基づいた高齢者の意思決定支援についてまとめる	樋上

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
6	高齢者および家族への支援（1）	理論を用いて家族の発達を考慮したアセスメントと家族援助、あるいは家族全体をシステムとして捉えたアセスメントと家族援助について考察する。 予習：家族発達理論、家族システム理論について調べる 復習：講義の内容から家族発達理論、家族システム理論についてまとめる	樋上
7～8	高齢者および家族への支援（2）	身体拘束や高齢者虐待について原因を探求し、高齢者の権利擁護について考察する。 予習：現場で起こっている身体拘束や虐待について調べる。権利擁護のための制度について調べる 復習：講義の内容から高齢者の権利擁護についてまとめる	上野山
9～10	高齢者および家族への支援（3）	治療を要する健康障害をもつ高齢者と家族への包括的支援 予習：医療施設から退院する高齢者と家族の困難について調べる 復習：家族への包括的支援について整理する	杣木
11～12	急性期における高齢者への看護	先端医療を受ける高齢患者・家族の看護における倫理的課題を探求する 予習：先端医療における倫理的課題を抽出しておく 復習：先端医療における看護倫理をまとめる	寺口
13	倫理的課題への対応（倫理調整）(1)	事例および文献学習を通じて、疾患を持つ高齢者への看護実践に特有な倫理的課題をプレゼンテーションする 予習：プレゼンテーションの準備をする 復習：討議をまとめる	石原
14	倫理的課題への対応（倫理調整）(2)	倫理的課題への対応に向けた看護職者の倫理調整について討議する 予習：倫理的課題への対応に向けた看護職者の倫理調整について調べる 復習：討議の内容についてまとめる	石原
15	まとめ	高齢者の家族への援助について、臨床で経験した援助の実際について発表し、学びを共有する。 予習：学習した内容について振り返りを行い、発表の準備をする 復習：発表と討議の内容についてまとめる	樋上

授業科目名	老年看護サポートシステム論				
授業科目（英）	Gerontological Nursing Support System				
教員名	樋上　容子、杣木　佐知子、石原　昌代（非）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	後期	開講曜日	火曜 6 限、火曜 7 限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	「老年期を生きる人」の価値観や信念を尊重した看護を実現するために、超高齢社会に適合した制度やケアシステムについて発表と討議を通じて課題を探求する。高齢者が望む生活を支えるために多様な支援の方法を模索し、提案できる能力を養う。				
行動目標	1. 諸外国の高齢者に係る保健医療福祉制度や政策の変遷と動向、現状と課題について学び、超高齢社会である日本に適合した制度やケアシステムについて探求できる 2. 保健医療福祉専門職との連携について学び、高度な看護実践に活かす能力を養う 3. 高齢者を対象とした退院支援・退院調整、ケアマネジメントについて課題と具体的な支援の方法について説明できる				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、教育実践力、課題探求・研究遂行力、発信力、高度な看護実践力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	授業中の参加度･発言頻度（20%）、授業時のプレゼンテーション（50%）、課題レポート（30%）を総合して評価する				
教科書	特に指定しない				
参考書	講義の中で適宜紹介する				
事前準備受講要件等	下記の項目に従い予習復習を行うこと 予習・復習は 60 分以上とする				
オフィスアワー	火曜日 16 時～17 時 30 分（随時メールで時間予約してください）				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～2	高齢社会における保健医療福祉の現状と課題（1）	国内外の高齢者に関する保健医療福祉制度や政策の変遷と動向を学び、超高齢社会である日本に適合した制度やケアシステムについて探求する。また日本における高齢社会の様相を統計学的側面から理解する。 予習：諸外国と日本の高齢者保健医療福祉分野における法制度の変遷について調べる 復習：講義の内容から日本に適した高齢者保健医療福祉制度やケアシステムについて理解する	樋上
3～4	高齢社会における保健医療福祉の現状と課題（2）	介護保険制度を巡る現状と課題についてまとめる。 予習：介護保険制度について調べる 復習：講義の内容から介護保険制度の現状と課題について理解する	杣木
5～6	高齢社会における保健医療福祉の現状と課題（3）	高齢者を対象とした退院支援・退院調整、ケアマネジメントについてまとめる。 予習：退院支援・退院調整、多職種連携について調べる 復習：看護師によるケアマネジメントについて理解する	杣木

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
7～8	高齢社会における保健医療福祉の現状と課題（4）	地域包括ケアシステムの現状と課題についてまとめる。 予習：地域包括ケアシステムについて調べる 復習：地域包括ケアシステムにおける看護師の役割について理解する	樋上
9～10	高齢社会における保健医療福祉の現状と課題（5）	前回までの講義を踏まえて、日本の高齢者保健医療福祉分野における課題を抽出し、今後の動向に適した法制度やケアシステムの整備について探求する。 予習：今後の法制度やケアシステムの整備に向けての発表 復習：発表と討議の内容についてまとめる	樋上
11～12	高齢社会における保健医療福祉の現状と課題（6）	医療機関と地域との連携における困難事例についてプレゼンテーションする 予習：プレゼンテーションの準備をする 復習：討議の内容についてまとめる	樋上
13～14	高齢社会における保健医療福祉の現状と課題（7）	特別養護老人ホームや在宅で行われている多職種によるカンファレンスについて理解する。 予習：地域包括支援に関わる多職種の職務について学習する 復習：多職種連携の意義と看護師の役割についてまとめる	石原
15	まとめ	講義内容で関心のあるテーマを選択し、学びを発表する 予習：学習した内容について振り返りを行い、発表の準備をする 復習：発表と討議の内容についてまとめる	樋上

授業科目名	老年看護学演習Ⅰ				
授業科目（英）	Seminar of Gerontological Nursing Ⅰ				
教員名	樋上　容子、杣木　佐知子、久保田　正和（非）、田辺　順子（非）				
単位数	2	時間数	60	学年	1
開講期	通年	開講曜日	集中講義		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	複雑な健康問題を有して在宅療養する高齢者を支援するため、卓越した直接ケアを提供する訪問看護師の役割や機能、及び高齢の在宅療養者と家族を理解する際に必要な理論やモデル、地域で行われている支援について講義、演習する。				
行動目標	1. 在宅看護の役割や機能について学び、地域で生活する高齢者にとっての在宅看護の役割を理解する。 2. 在宅看護の変遷と動向、現状の課題を理解し、理論やモデルを活用して在宅療養者と家族を包括的にアセスメントする方略を探求することができる。 3. 街角デイハウスなど在宅療養する高齢者が参加するプログラムを見学し、高齢者を地域で支えるシステムについて理解することができる。 4. 訪問看護認定看護師の訪問に同行し、複雑な健康問題を有する高齢者のケアとキュアが統合された卓越した直接ケアを学ぶ。 5. 服薬管理や、高齢者終末期の意思決定支援における訪問看護師の役割を理解することができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、教育実践力、発信力、高度な看護実践力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	出席状況、レポート、グループ討議の内容を総合的に評価する				
教科書	特に指定しない				
参考書	講義の中で適宜紹介する				
事前準備受講要件等	下記の項目に従い予習復習を行うこと 予習・復習は 60 分以上とする				
オフィスアワー	木曜日 16 時～17 時 30 分（随時メールで時間予約してください）				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～3	在宅看護実践への理論の応用	生活モデル、ケアリング、病の軌跡、セルフケア・ストレスコーピングについて文献学習・討議・発表を通じて理解する 予習：在宅看護実践に活用できる理論について調べる 復習：講義で学んだ理論の事例適用をまとめる	樋上
4～5	老年期に精神障害のある療養者・家族への支援	在宅看護、デイケア、精神科訪問看護等の機能を充実させ入院中心から地域中心を推進する近年の動向 予習：近年の精神医療の動向について学習しておく 復習：学習内容に関する文献を購読し理解を深める	杣木
6～13	在宅における認知症の療養者と家族の支援	【学外演習：街角デイハウスでの演習】 認知症療養者と家族の地域生活を継続するために必要な症状マネジメント、生活支援、地域ネットワーク構築に向けた活動の在り方について街角デイハウスの活動を見学し、理解を深める 予習：課題事例への支援を検討する 復習：認知症療養者と家族への支援についてまとめる	樋上

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
14～17	複雑な健康問題を有する在宅療養高齢者の看護（1）	【学外演習：総合ケアステーションわかば】 複数の疾患を抱え治療を要するケース、老年症候群を抱えるケース等、複雑な健康問題を有する在宅療養高齢者のケアとキュアを統合し、直接ケアを提供する訪問看護師の活動について学ぶ 予習：訪問事例の課題と提供するケアの検討を行う 復習：訪問看護師のケア内容についてまとめる	田辺
18～21	複雑な健康問題を有する在宅療養高齢者の看護（2）	【学外演習：総合ケアステーションわかば】 複数の疾患を抱え在宅療養する高齢者は多剤服用しているケースが多い。在宅における多剤投与の現状と課題、在宅療養における服薬管理を学ぶ 予習：療養者の服薬アドヒアランスと影響要因を調べる 復習：在宅療養における服薬支援についてまとめる	田辺
22～23	在宅看護とエンドオブライフケア	【学外演習：総合ケアステーションわかば】 エンド・オブ・ライフへのアプローチ、エンド・オブ・ライフを支える在宅ケアシステム、グリーフケア 予習：在宅看取りの現状と課題を調べる 復習：在宅看取りにおける療養者と家族への支援をまとめる	田辺
24～25	地域包括ケアシステムの課題と対策について	【学外演習：高槻市地域包括ケア会議】 高槻市地域包括ケア会議を見学し、高齢者の医療や生活を取り巻く現状やその課題を把握し、高槻市の対策について考察する。また、他の市町村の対策についても調べ、有効な方策を探求する 予習：高槻市地域包括ケア会議について調べる 復習：他の市町村の高齢者対策について調べ有効な方策をまとめる	樋上
26～28	要介護認定の現状と課題	要介護認定の実際を見学し、介護上の課題がどのように抽出され、検討されているかを学ぶ。また、1次判定用のシートを用い、要介護認定の事例に沿って演習を行う。 予習：要介護認定の制度や仕組みについて調べる 復習：高槻市の要介護認定について、他の市町村と比較しながらまとめる	久保田
29～30	まとめ	講義内容で関心のあるテーマを選択し、学びを発表する 予習：学習した内容について振り返りを行い、発表の準備をする 復習：発表と討議の内容についてまとめる	樋上

授業科目名	老年看護学演習Ⅱ				
授業科目（英）	Seminar of Gerontological Nursing Ⅱ				
教員名	樋上　容子、杣木　佐知子、関川　加奈子（非）、白井　はる奈（非）				
単位数	2	時間数	60	学年	1
開講期	通年	開講曜日	集中講義		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	老年看護学分野において最重要課題である認知症の看護について講義、演習を行う。2015 年以降の国家戦略にも挙げられているように、今後の超高齢社会に向けて、認知症高齢者は「自身の意思が尊重され、住み慣れた地域社会で共生する」ことが望まれている。認知症看護の専門職として必須である認知症の原因疾患、治療法、看護技術などの知識について最新のエビデンスを学び、地域包括支援における認知症看護の役割について考察する。認知症の原因疾患、治療法、家族の介護負担軽減、看護技術などについて最新のエビデンスを学び、認知症高齢者とその家族への理解を深める。				
行動目標	1. 認知症の原因疾患における診断や治療法について最新のエビデンスを学び、理解する 2. 認知症高齢者とのコミュニケーションについて原則を踏まえたうえで個別性に応じたコミュニケーションスキルを習得する 3. 認知症高齢者の家族が陥りやすい心理状態を理解し、介護負担の軽減や虐待防止に向けた支援方法を提案することができる 4. 具体的な認知症ケアの手法を学び、原理への理解を深める 5. 認知症高齢者に対する看護アセスメントの視点を理解することができる				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、教育実践力、課題探求・研究遂行力、高度な看護実践力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	授業中の参加度･発言頻度（20%）、授業時のプレゼンテーション（50%）、課題レポート（30%）を総合して評価する				
教科書	特に指定しない				
参考書	講義の中で適宜紹介する				
事前準備受講要件等	下記の項目に従い予習復習を行うこと 予習・復習は 60 分以上とする				
オフィスアワー	木曜日 16 時～17 時 30 分（随時メールで時間予約してください）				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～2	認知症を持つ高齢者と家族への理解（1）	認知症の原因となる疾患について特徴をまとめる。 予習：認知症の原因疾患と症状について調べる 復習：講義の内容から認知症の原因疾患や症状について理解する	樋上
3	認知症を持つ高齢者と家族への理解（2）	認知症に対する薬物療法と非薬物療法についてまとめる。 予習：薬物療法と非薬物療法に分けて調べる 復習：講義の内容から薬物療法と非薬物療法のエビデンスをまとめる	杣木
4～5	認知症を持つ高齢者と家族への理解（3）	【学外演習：訪問看護ステーション　にしがも】 BPSD の評価、具体的な看護援助についてまとめる。 予習：BPSD に対する看護援助について調べる 復習：講義の内容から BPSD への看護援助について理解を深める	関川

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
6〜7	認知症を持つ高齢者と家族への理解（4）	【学外演習：訪問看護ステーション　にしがも】 認知症高齢者を持つ家族の介護負担軽減や虐待防止に向けた看護介入方法について文献学習を行い、発表する 予習：認知症高齢者家族の介護負担に関する現状を調べる 復習：講義の内容から家族の介護負担軽減のための看護援助について整理し発表する	関川
8〜9	認知症を持つ高齢者と家族への理解（5）	【学外演習：訪問看護ステーション　にしがも（倫理調整）】 認知症看護における現状と倫理的課題について文献学習を行い、発表する。 予習：認知症看護における倫理的な問題点について調べる 復習：講義の内容から認知症看護における倫理的課題について整理し発表する	関川
10〜12	認知症を持つ高齢者と家族への理解（6）	Person Centered Care とユマニチュードケアについて理解する。 予習：Person Centered Care とユマニチュードケアについて調べる 復習：講義の内容から Person Centered Care とユマニチュードに基づいた看護について整理する	樋上
13〜14	認知症を持つ高齢者と家族への理解（7）	認知症を引き起こす生活習慣や予防方法について文献学習を行い、発表する 予習：認知症を引き起こす可能性のある要因について最新の知見を調べる 復習：予防可能な認知症の原因と予防方法、可能な看護援助について整理し発表する	樋上
15〜16	高齢者の認知機能評価の種類と手法	複数の認知機能評価スケールを用いて演習し、それぞれの特徴を述べることができる。 予習：認知機能評価スケールについて調べる 復習：演習した内容について特徴をまとめる	樋上
17〜19	認知症高齢者へのケアと評価（1）	Person Centered Care と、認知症ケア現場の質の向上を目指して開発された Dementia Care Mapping（DCM）について学ぶ。 予習：DCM の文献を調べる。 復習：Person Centered Care と看護について考察する	白井
20〜21	認知症高齢者へのケアと評価（2）	DCM により評価された事例の文献を読み、Person Centered Care への実現について討議、考察する。 予習：DCM の文献を読む 復習：関連文献を読んでエビデンスに基づく看護について考察する	白井

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
22～24	認知症を持つ高齢者の家族への支援	【学外演習：認知症を理解し地域で支える会の活動を見学】 高槻市の「認知症を理解し地域で支える会」に参加し、認知症の人と家族を支えるネットワークについて学ぶ。介護保険制度ではカバーしきれていない家族への支援について理解する。 予習：地域で行われている認知症カフェや、家族会について実態を調べる 復習：認知症高齢者の家族を支える事業やネットワークの貢献とそこで果たす看護師の役割についてまとめる	樋上
25～27	施設における認知症看護	【学外演習：高槻けやきの郷での演習】 高槻市の施設で行われている認知症デイサービスに参加し、職員の配置やプログラムの特徴について学ぶ 予習：認知症デイサービスについて調べる 復習：認知症デイサービスに参加し、特徴や意義についてまとめる	樋上
28～30	まとめ	講義内容で関心のあるテーマを選択し、学びを発表する 予習：学習した内容について振り返りを行い、発表の準備をする 復習：発表と討議の内容についてまとめる	樋上

授業科目名	老年看護学実習Ⅰ				
授業科目（英）	Advanced Practicum of Gerontological Nursing Ⅰ				
教員名	樋上　容子、杣木　佐知子				
単位数	4	時間数	180	学年	1
開講期	後期	開講曜日	実習		
科目区分	選択	授業形態	実習		
一般目標	認知症の診断における臨床判断及び、治療決定におけるプロセスについて、必要な知識や技術を学ぶ。また、急性期から慢性期の治療を受ける認知症高齢者の身体管理及び治療計画、その評価における臨床診断プロセスについて理解し、高度実践看護への応用について学ぶ。認知症の診断を受け複雑な問題を抱えている高齢者及び家族に対して、学んだ専門知識及び臨床診断、看護ケア技術を用いて、倫理観に基づき、質の高いケアを提供する実践能力を養う。また認知症看護における相談、調整、倫理調整を行うことができる。				
行動目標	1）認知症の診断（問診、フィジカルアセスメント、画像診断、病理診断、検査データの解釈）における臨床判断について理解できる。 2）急性期治療や慢性期治療を受ける複数の疾患を抱える認知症高齢者の治療戦略の立て方や治療決定プロセスについて理解できる。 3）複雑な問題を抱えている認知症高齢者及びその家族に対して､専門知識及び的確な臨床診断、エビデンスに基づく看護ケア技術を用いて、患者及び家族の QOL の維持・向上をめざした看護を提供できる。 4）認知症高齢者及び家族に関わる多職種のスタッフと協働できる。 5）認知症高齢者及び家族やそれに関わるスタッフへの相談、調整、倫理調整のいずれかの役割を実施できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、高度な看護実践力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	実習評価は、各学年の実習終了後に行う。評価は、実習指導者の意見を加味して、教員が行う。評価は、実習における実践内容とカンファレンス、課題レポートで行い、学生の自己評価を参考にする。 看護実践記録Ⅰ（10%）、実践のまとめ（1 例）（30%）、ケースレポート（1 例）（30%）、プレゼンテーション資料／カンファレンスでの討議内容（30%）を総合的に評価し、到達目標の達成度を評価する。				
教科書	実習の中で適宜紹介する				
参考書	実習の中で適宜紹介する				
事前準備受講要件等	下記の項目に従い予習復習を行うこと　主体的に取り組むこと 予習は 60 分以上とする				
オフィスアワー	木曜日 16 時～17 時 30 分（随時メールで時間予約してください）				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～180時間	実習施設において、認知症の診断における臨床判断及び、治療決定におけるプロセスについて、必要な知識や技術を学ぶ。また、急性期から慢性期の治療を受ける認知症高齢者の身体管理及び治療計画、その評価における臨床診断プロセスについて理解し、高度実践看護への応用について学ぶ。 認知症の診断を受け複雑な問題を抱えている高齢者及び家族に対して、学んだ専門知識及び臨床診断、看護ケア技術を用いて、倫理観に基づき、質の高いケアを提供する実践能力を養う。また認知症看護における相談、調整、倫理調整を行うことができる。	1. 具体的な実習の進め方 【事前準備】 1）実習施設のその地域で果たす役割および施設の概要、専門職の配置、外来受診者および入院患者の概要について資料を読み、理解しておく。 2）教員の指導のもと、学生自らが到達目標を達成するための実習計画を立案し、実習施設の実習指導者と実習目的、実習計画、受け持ち患者、実習日程、カンファレンス日程などの打ち合わせを行う。 【治療診断実習】 1）外来の診察場面に同席し、医師の指導のもと、高齢者の患者の問診、フィジカルアセスメントの方法を学ぶ。また、問診、画像診断、病理検査、血液検査等の検査データを解釈し、認知症の診断プロセスにおける臨床判断を体験する。 2）臨床カンファレンスや回診に参加し、医師の指導のもと、複数の疾患を有す高齢患者や認知症患者の身体管理及び治療計画、その評価における臨床診断プロセスについて理解し、高度実践看護への応用について考察する。 【高度実践看護実習】 1）実習指導者及び教員の指導のもと、高度認知症の高齢者及びその家族をピックアップし、1名以上の受け持ち患者を選択する。 2）受け持ち患者の治療計画を理解した上で、身体的側面及び生活面、心理・社会的側面から包括的にアセスメントする。 3）高齢者及びその家族が抱えている課題を明確にし、課題に対してエビデンスに基づいた介入計画やセルフケア、セルフマネジメント支援の計画を立案する。 4）学んだ看護ケア技術を駆使し計画に基づきながら看護介入を行う。介入計画や看護介入においては、看護スタッフや他職種のスタッフと連携して実施する。 5）高齢者及び家族に実施した看護介入は、実習指導者及び看護師と共にカンファレンスで評価する。 【役割実習】 1）療養期の場面において、老人看護専門看護師がフロアのスタッフに実施している相談場面に参加し、対応を必要とした課題・問題の明確化や相談のプロセス、用いた相談技術・方略、成果を分析し考察する。 2）実習指導者及び教員の指導のもと、高度認知症患者に関わる看護師やスタッフが抱えている課題を明確にする。 3）明確にした課題について､どのような方法（相談、調整、倫理調整）で対応したらよいかについて計画を立案する。 4）立案した計画に基づいて、実践し評価する。実施の際には実習指導者及び教員のスーパーバイズを受ける。	樋上 杣木

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1〜180 時間	実習施設において、認知症の診断における臨床判断及び、治療決定におけるプロセスについて、必要な知識や技術を学ぶ。また、急性期から慢性期の治療を受ける認知症高齢者の身体管理及び治療計画、その評価における臨床診断プロセスについて理解し、高度実践看護への応用について学ぶ。 認知症の診断を受け複雑な問題を抱えている高齢者及び家族に対して、学んだ専門知識及び臨床診断、看護ケア技術を用いて、倫理観に基づき、質の高いケアを提供する実践能力を養う。また認知症看護における相談、調整、倫理調整を行うことができる。	2. 実習カンファレンス 1）適宜カンファレンスを行い、実習指導者や教員の助言を積極的に得られるようにする。また、当該部署の看護責任者及び受け持ち患者に関わる専門職者からも助言を得る。 2）実習最終週には、実習指導者及び教員の同席のもと、まとめのカンファレンスを実施する。 3）カンファレンスの運営は、学生が主体的に行う。 3. 実習記録と課題 1）事前の打ち合わせに基づく、到達目標や詳細な実習計画を記した実習計画を作成する。 2）日々の実習に関しては様式1を使用し、受け持ち患者のアセスメントには様式2、介入計画とその評価は様式3、4を用いて作成する。 3）指定されたレポート課題を作成する。課題レポートをまとめる際は、実習指導者及び教員のスーパーバイズを受ける。 ①認知症の診断及び治療決定における臨床判断：診断プロセス及び治療決定に至るプロセス、治療の評価における臨床診断プロセス、そして看護実践への応用について考察し課題レポートを作成する。 ②療養期の場面における看護実践記録を作成する。 ③療養期の場面における高度認知症患者に関わる看護師やスタッフが抱えている課題への相談、調整、倫理調整に関しては、様式5〜7を使用してレポートを作成する。	樋上 杣木

授業科目名	老年看護学実習Ⅱ				
授業科目（英）	Advanced Practicum of Gerontological Nursing Ⅱ				
教員名	樋上　容子、杣木　佐知子				
単位数	4	時間数	180	学年	2
開講期	前期	開講曜日	実習		
科目区分	選択	授業形態	実習		
一般目標	在宅で多様な疾患・障がいを抱えながら生活する高齢者とその家族への看護の実際を学び、エビデンスに基づいた質の高い看護実践とアセスメントの方法を理解する。特に、在宅復帰時に退院調整の必要な高齢者に対する看護について、最新の知識と技術を用いた看護実践を行う。また、訪問看護認定看護師に指導を受けながら、保健医療福祉チームの一員として、医療機関との協働（連携）や、看護師を含む在宅ケア提供者に対する教育、相談、他職種とのケアの調整技術および看護実践（実践・教育・相談・調整・倫理）の統合について学ぶ。				
行動目標	1）在宅療養中の高齢者を受け持ち、身体的、精神的、社会的機能について専門的なアセスメントを行う。高齢者が在宅療養生活を送るうえで起こり得る課題を予測し、生活を整えるための看護実践を考えることができる 2）在宅療養中の高齢者とその家族の健康課題に対し、高度な看護援助を提供し、その実践内容を評価できる。 3）訪問看護認定看護師による在宅ケア提供者への教育、相談活動や、医療機関、多職種間における連携、調整について学ぶ。 4）看護実践を通して、保健・医療・福祉サービスの実際を知り、活用することができる。 5）高齢者の療養の場が在宅へ移行する時に、訪問看護師が医療機関に求める情報や、アセスメントの視点を理解することができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、高度な看護実践力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	実習評価は、各学年の実習終了後に行う。評価は、実習指導者の意見を加味して、教員が行う。評価は、実習における実践内容とカンファレンス、課題レポートで行い、学生の自己評価を参考にする。 看護実践記録Ⅰ・Ⅱ（10%）、実践のまとめ（2例）（20%）、ケースレポート（1例）（40%）、プレゼンテーション資料／カンファレンスでの討議内容（30%）を総合的に評価し、到達目標の達成度を評価する。				
教科書	実習の中で適宜紹介する				
参考書	実習の中で適宜紹介する				
事前準備受講要件等	下記の項目に従い予習復習を行うこと　主体的に取り組むこと 予習は60分以上とする				
オフィスアワー	木曜日16時～17時30分（随時メールで時間予約してください）				
SDGsとの関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1〜180時間	在宅で多様な疾患・障がいを抱えながら生活する高齢者とその家族への看護の実際を学び、エビデンスに基づいた質の高い看護実践とアセスメントの方法を理解する。特に、在宅復帰時に退院調整の必要な高齢者に対する看護について、最新の知識と技術を用いた看護実践を行う。また、訪問看護認定看護師に指導を受けながら、保健医療福祉チームの一員として、医療機関との協働（連携）や、看護師を含む在宅ケア提供者に対する教育、相談、他職種とのケアの調整技術および看護実践（実践･教育･相談・調整・倫理）の統合について学ぶ。	1. 具体的な実習の進め方 【事前準備】 1）事前準備として、実習施設のその地域で果たす役割および施設の概要、専門職の配置、利用者の概要、訪問件数等について資料を読み、理解しておく。 2）事前準備として教員の指導のもと、学生自らが到達目標を達成するための実習計画を立案し、実習施設の実習指導者と実習目的、実習計画、受け持ち利用者、実習日程、カンファレンス日程などの打ち合わせを行う。 【高度実践看護実習】 1）実習指導者及び教員の指導のもと、継続的に医療管理が必要であり、かつ介護力が望めないような、複雑で多様な課題を抱えている高齢者及び家族をピックアップし、1名以上の受け持ち利用者を選択する。 2）受け持ち利用者を身体的側面及び生活面、心理･社会的側面から包括的にアセスメントする。 3）高齢者及び家族が抱えている課題を明確にし、課題に対してエビデンスに基づいた介入計画やセルフケア、セルフマネジメント支援の計画を立案する。 4）他職種との連携や、社会資源の利用を取り入れながら、計画に基づいた看護介入を行う。介入計画や看護介入においては、看護スタッフや他職種のスタッフと連携して実施する。 5）高齢者及び家族に実施した看護介入は、実習指導者及び看護師と共にカンファレンスで評価する。 6）退院時カンファレンスや外来カンファレンス、訪問診療医とのカンファレンスに参加し、認定看護師が行ったアセスメントの視点や多職種との情報共有・連携、課題への具体的なアプローチ技法、期待される成果について分析し、考察する。 7）認定看護師が看護スタッフに実施している相談場面に参加し、対応を必要とした課題・問題の明確化や相談のプロセス、用いた相談技術･方略、成果を分析し、考察する。 8）実習指導者及び教員の指導のもと、多様な疾患･障がいを抱えながら生活する高齢者及び家族を看護するスタッフの課題を明確にし、その課題について、どのような方法で対応したらよいかについて計画を立案する。 9）8）で立案した計画に基づいて、実践し、評価する。実施の際には実習指導者及び教員のスーパーバイズを受ける。	樋上 杣木

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1〜180時間	在宅で多様な疾患・障がいを抱えながら生活する高齢者とその家族への看護の実際を学び、エビデンスに基づいた質の高い看護実践とアセスメントの方法を理解する。特に、在宅復帰時に退院調整の必要な高齢者に対する看護について、最新の知識と技術を用いた看護実践を行う。また、訪問看護認定看護師に指導を受けながら、保健医療福祉チームの一員として、医療機関との協働（連携）や、看護師を含む在宅ケア提供者に対する教育、相談、他職種とのケアの調整技術および看護実践（実践･教育･相談・調整・倫理）の統合について学ぶ。	2. 実習カンファレンス 1）適宜カンファレンスを行い、実習指導者や教員の助言を積極的に得られるようにする。また、当該部署の看護責任者及び受け持ち利用者に関わる専門職者からも助言を得る。 2）実習最終週には、実習指導者及び教員の同席のもと、まとめのカンファレンスを実施する。 3）カンファレンスの運営は、学生が主体的に行う。 3. 実習記録 1）事前の打ち合わせに基づく、到達目標や詳細な実習計画を記した実習計画を作成する。 2）日々の実習に関しては様式1を使用し、受け持ち患者のアセスメントには様式2、介入計画とその評価は様式3を用いて作成する。 3）実習終了後に、高齢者に対する訪問看護の意義、認定看護師の役割、機能について考察する。	樋上 杣木

授業科目名	老年看護学実習Ⅲ				
授業科目（英）	Advanced Practicum of Gerontological Nursing Ⅲ				
教員名	樋上　容子、杣木　佐知子				
単位数	2	時間数	90	学年	2
開講期	前期	開講曜日	実習		
科目区分	選択	授業形態	実習		
一般目標	急性期病院において入院、治療が必要であり、特に認知機能低下やせん妄の症状を呈している高齢者の看護に焦点をあて、ケア提供者に対する教育、相談や他職種とのケアの調整技術および看護実践について学ぶ。				
行動目標	1）急性期病院において入院治療中である高齢者の、認知機能低下やせん妄症状が治療に与える影響を理解する。 2）高齢者とその家族の特徴と課題を理解し、チーム医療、他医療機関・地域との連携の調整を学ぶ。 3）専門看護師として看護職を含むケア提供者への教育、相談活動を学ぶ。 4）退院後の生活を見据え、高齢者が日常生活を送るうえで起こり得る課題を予測し、生活を整えるための看護実践を考えることができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、高度な看護実践力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	実習評価は、各学年の実習終了後に行う。評価は、実習指導者の意見を加味して、教員が行う。評価は、実習における実践内容とカンファレンス、課題レポートで行い、学生の自己評価を参考にする。 看護実践記録Ⅰ・Ⅱ（10%）、実践のまとめ（2例）（20%）、ケースレポート（1例）（40%）、プレゼンテーション資料／カンファレンスでの討議内容（30%）を総合的に評価し、到達目標の達成度を評価する。				
教科書	実習の中で適宜紹介する				
参考書	実習の中で適宜紹介する				
事前準備受講要件等	下記の項目に従い予習復習を行うこと　主体的に取り組むこと 予習は60分以上とする				
オフィスアワー	木曜日16時～17時30分（随時メールで時間予約してください）				
SDGsとの関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～90時間	慢性疾患看護専門看護師・認知症看護認定看護師に指導を受けながら、急性期病院のチーム医療の一員として、入院中の高齢者とその家族の特徴と課題を理解する。特に認知機能低下やせん妄の症状を呈している高齢者の看護に焦点をあて、ケア提供者に対する教育、相談や他職種とのケアの調整技術および看護実践（実践・教育・相談・調整・倫理）の統合について学ぶ。	1. 具体的な実習の進め方 【事前準備】 1）事前準備として、実習施設のその地域で果たす役割および施設の概要、専門職の配置、外来受診者および入院患者の概要について資料を読み、理解しておく。 2）事前準備として教員の指導のもと、学生自らが到達目標を達成するための実習計画を立案し、実習施設の実習指導者と実習目的、実習計画、受け持ち患者、実習日程、カンファレンス日程などの打ち合わせを行う。 【実習内容】 1）急性期治療の場面において、老人看護専門看護師や慢性疾患看護専門看護師、認知症看護認定看護師が外来や病棟の看護スタッフに実施している相談場面に参加し、対応を必要とした課題･問題の明確化や相談のプロセス、用いた相談技術・方略、期待される成果を分析し考察する。 2）急性期治療の場面において、認知機能低下やせん妄の状態にある高齢患者に関わっている外来あるいは病棟看護師のケア状況をアセスメントする。 3）認知機能低下やせん妄の状態にある高齢患者に関わっている外来や病棟看護師が抱えている課題を明確にする。 4）明確にした課題について、どのような方法で対応したらよいかについて計画を立案する。 5）立案した計画に基づいて、実践し、評価する。実施の際には実習指導者及び教員のスーパーバイズを受ける。 2. 実習カンファレンス 1）適宜カンファレンスを行い、実習指導者や教員の助言を積極的に得られるようにする。また、当該部署の看護責任者及び受け持ち患者に関わる専門職者からも助言を得る。 2）実習最終週には、実習指導者及び教員の同席のもと、まとめのカンファレンスを実施する。 3）カンファレンスの運営は、学生が主体的に行う。 3. 実習記録と課題 1）事前の打ち合わせに基づく、到達目標や詳細な実習計画を記した実習計画を作成する。 2）日々の実習に関しては、様式１等を使用して実習記録を作成する。 3）急性期病院で治療を受ける認知症やせん妄の状態にある高齢者に対し、病棟横断的に対応する看護師の役割、機能について考察する。	樋上 杣木

授業科目名	家族看護学特論				
授業科目（英）	Theory of Family Nursing				
教員名	鈴木　美佐、真継　和子、伊藤　真理、倉橋　理香、松本　修一（非）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期	開講曜日	火曜 6 限、火曜 7 限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	家族発達段階論、家族構造機能論、家族システム理論等諸理論を学び、小児が健全に育つ養育教育環境としての家族をアセスメントできる諸理論・概念を理解する。 現代社会における小児と家族を取り巻く社会の変動を理解し、健康障害をもった小児と家族の様々な状況における理論の応用が理解できる。				
行動目標	①現代社会における家族の問題を社会変貌に関連するデータ（エビデンス）を基に説明できる。 ②家族に関する諸理論（家族機能・構造論、家族システム論）を活用して家族関係を洞察できる。 ③家族エンパワメントモデルを活用し家族アセスメントから家族像を形成し家族の抱える健康課題を提示できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観　論理的・批判的思考力　柔軟な発想力　教育実践力				
評価並びにフィードバック法	授業への取り組み（20%）、レポート作成（50%）、プレゼンテーション・討論（30%）				
教科書	山崎あけみ・原礼子（2022），家族看護学　臨床場面と事例から考える　改定第 3 版，南江堂				
参考書	野嶋佐由美・中野綾美（2011），家族エンパワメントをもたらす看護実践，へるす出版 鈴木和子・渡邉裕子（2019），家族看護学　理論と実践　第 5 版，日本看護協会出版会				
事前準備受講要件等	予定されている講義内容について、関連文献の準備等、事前学習をした上で参加する 予習・復習は各 60 分程度とする。				
オフィスアワー	授業終了後の時間帯でアポイントメントをとってください				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	授業内容オリエンテーション 社会の変貌と家族	日本の家族を取り巻く社会構造の変化 小児の養育と家族機能、家族構造 予習：教科書第 3 章 2 の「現代日本の家族」を熟読し、現代における家族について調べる 復習：現代家族機能とよくみかける家族問題との関連を整理	鈴木
2	家族を理解するための理論（1）	家族発達理論、家族構造機能論 予習：家族周期について調べる 復習：授業で理解したことをまとめる	鈴木
3	家族を理解するための理論（2）	家族システム理論 予習：「家族システム」とは何か調べる 復習：授業を振り返り、身近な例で説明する	鈴木
4	家族を理解するための理論（3）	家族ストレス対処理論 予習：家族の 1 人が病気になったときの困りごとをあげてくる 復習：事前にあげた家族の困りごとをストレス対処理論で説明する	鈴木
5	家族を理解するための理論（4）	渡邉式家族アセスメントモデル 予習：テキストの渡邉式家族アセスメントモデルの特徴を調べる 復習：授業で理解したことをまとめる	松本 鈴木

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
6	理論を用いた家族の理解	渡邉式家族アセスメントモデルを用いた小児の家族への応用 予習：養育期の家族への関わりが困難だった事例をまとめておく 復習：様々なは発達段階の家族を渡邉式家族アセスメントモデルで説明する	松本 鈴木
7	家族を理解するための技法	ジェノグラムとエコマップ、家族像の把握 予習：テキストの該当ページを読んでおく 復習：複雑な関係にある家族の様相を描いてみる	鈴木
8	理論を用いた家族看護過程	家族エンパワメントモデルを用いた事例への適用 予習：提示された事例の家族の状況を把握しておく 復習：授業での学びをもとに家族像を描く	真継
9	理論を応用した養育期の在宅療養におけるリスクマネジメント	家族エンパワメントモデルを用いた事例への適用 健康障がいのある小児を養育する家族の在宅における安全管理・リスクマネジメントの説明 予習：訪問看護が必要な小児と家族について調べる 復習：在宅における安全管理・リスクマネジメントのポイントをまとめる	真継
10	医療的ケアが必要な小児と家族の理解	医療施設から在宅移行時の家族の特徴、家族の強み 予習：提示した事例を読んで医療的ケアを担う家族の課題をまとめる 復習：これまで学習した理論を用いて家族の説明をする	鈴木
11	長期療養中の小児を養育する家族の対処力（1）	慢性疾患の小児の家族に生じる課題と家族の対処力 予習：提示された事例を読んで家族の課題をまとめる 復習：授業内容をまとめる	鈴木
12	長期療養中の小児を養育する家族の対処力（2）	慢性疾患の小児の家族に生じる課題と家族の対処力事例への応用 予習：提示された事例を読んで家族の課題をまとめる 復習：長期的な課題に取り組む家族の対処力について考察する	鈴木
13	理論と事例への適用（1）	プレゼンテーション・討論 家族発達理論を用いた小児と家族の事例への適用、これまでに経験した事例を用いて検討 予習：家族発達理論を説明できる事例をまとめる 復習：討論・助言を受けて資料の修正	鈴木 真継 倉橋
14	理論と事例への適用（2）	プレゼンテーション・討論 家族構造機能論を用いた事例への適用 これまでに経験した事例を用いて検討 予習：家族構造機能論で説明できる事例をまとめる 復習：討論・助言を受けて資料の修正	鈴木 真継 倉橋
15	理論と事例への適用（3）	プレゼンテーション・討論 家族システム理論を用いた事例への適用についてプレゼンテーションする これまでに経験した事例を用いて検討 予習：家族システム理論で説明できる事例をまとめる 復習：討論・助言を受けて資料の修正	鈴木 真継 倉橋

授業科目名	周産期看護論				
授業科目（英）	Perinatal Nursing				
教員名	近澤　幸、間中　麻衣子、松枝　加奈子、山岡　繁夫（兼）、市川　百香里（非）、千葉　貴子（非）、番　聡子（兼）、藤田　太輔（兼）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期	開講曜日	金曜 6 限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	周産期の母子とその家族の健康問題をめぐる今日的話題をとりあげ、周産期看護援助のあり方を学ぶ。周産期医療ケアに関する最新知識・技術、ガイドラインについて学び、関連する最新エビデンスを獲得する方法を修得する。周産期ケアシステムとその組織化に関する理論、母子保健行政などについて学ぶ。周産期にあるハイリスク母子や家族の健康生活の特性や課題を追求し、周産期にある母子とその家族の査定に必要なアセスメント力と必要なケア、緊急時対応能力を修得する。				
行動目標	①周産期の母子とその家族の健康問題をめぐる今日的話題、周産期看護援助のあり方について説明できる。 ②周産期医療ケアに関する最新知識・技術、ガイドラインについて学び、関連する最新エビデンスを獲得する方法を説明できる。 ③周産期ケアシステムとその組織化に関する理論、母子保健行政などについて説明できる。 ④周産期にあるハイリスク母子や家族の健康生活の特性や課題を追求し、周産期にある母子とその家族の査定に必要なアセスメント力と必要なケア、緊急時対応能力について説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、看護実践活動、指導性や統率力、看護実践の発展に寄与				
評価並びにフィードバック法	授業への参加度、レポートおよび課題発表等を総合して評価する。 フィードバック：発表に対する質疑・解説を行う。				
教科書	特に使用しない				
参考書	産婦人科診療ガイドライン－産科編 2023，日本産婦人科学会				
事前準備受講要件等	アクティブラーニングの手法を用いる。授業時のテーマに沿って、文献を活用し、提示している講義内容に関して事前学習を行い、概要を把握しておく。新聞やインターネットなどで、テーマに関連した最新のトピックスについて情報収集しておく。講義のスライド内容、資料を参考書・文献等と照合し、理解を深める。事前学習により資料を整理し、視聴覚機器を使用してプレゼンテーションに臨む。 予習・復習は各 60 分以上とする。				
オフィスアワー	金曜日：17：00～18：00、メールにて時間予約してください。				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	母子保健行政および周産期医療の今日的課題と看護の役割	オリエンテーション 母子保健行政および周産期医療の今日的課題と看護の役割拡大について考察する。 予習：母子保健行政および周産期医療の健康課題についてまとめる。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	近澤
2	周産期におけるガイドライン	周産期における最新エビデンスをふまえたガイドラインについて理解を深める。 予習：周産期における最新エビデンスをふまえたガイドラインについてまとめる。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	間中

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
3、4	身体的ハイリスク妊産婦の看護援助と評価	身体的ハイリスク妊産婦・新生児（妊娠期：妊娠合併症、多胎、切迫早産、早産など、分娩期：分娩３要素の異常、羊水塞栓症、産科出血、産科手術など、産褥期の異常：子宮復古不全、産褥血栓症、乳腺炎など）の看護援助について評価する。 予習：身体的ハイリスク状態を一つあげ、病態、生理、検査、治療、看護について、ガイドライン等を活用し、まとめ、レポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	近澤
5	心理・社会的ハイリスク妊産婦の看護援助と評価	心理・社会的ハイリスク妊産婦・家族（高年・若年妊娠、未婚、未受診、産後うつ病、産褥精神病など）の看護援助について評価する。 予習：心理・社会的ハイリスク状態についてまとめる。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	間中
6、7	新生児期における救急時のフィジカルアセスメントと対応	新生児期における救急時のフィジカルアセスメントと対応に関する最新知見について理解する。 予習：新生児期のフィジカルアセスメントについてまとめる。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	山岡
8、9	ハイリスク新生児の看護援助と評価	ハイリスク新生児（異常徴候、呼吸循環障害、低出生体重児など）の看護援助について評価する。 予習：ハイリスク新生児（異常徴候、呼吸循環障害、低出生体重児など）の看護援助についてまとめる。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	番 松枝
10、11	長期に NICU に入院する児と家族へのケアと評価	NICU における親と子のきずなを強める実践と評価、虐待予防のための支援プログラムの構築について理解を深める。 予習：① NICU に入室する超低出生体重児の特徴及び身体的な熟成に関してまとめる。②近年の NICU での課題をまとめる。③クラウス・ケネル「親と子のきずな」を読んでおく。 復習：授業内容と討論を踏まえて、障害をもつ可能性のある子どもを自宅に迎える家族への看護援助をまとめる	市川
12	周産期医療システムとマネジメント	臨床における最新の周産期医療システムおよびマネジメントの現状と課題について理解を深める。 予習：自部署における周産期マネジメントの実際・特徴・課題をまとめプレゼンテーションの準備をする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	千葉
13	ペリネイタルロスへの専門看護師の支援	子どもを失った親・家族への専門看護師の支援について考察する。 予習：ペリネイタルロスへのグリーフケアについてまとめる。 復習：学習内容を確認し、さらに深める。	近澤

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
14	周産期看護と薬（妊娠・分娩・産褥・新生児期）	周産期看護と薬（妊娠・分娩・産褥・新生児期）に関する最新知見について理解する。 予習：妊娠高血圧症候群、切迫早産、糖尿病合併妊娠、胎盤異常（前置胎盤･常位胎盤早期剥離）、前期破水、弛緩出血、産褥血栓症の診断・検査・治療についてまとめる。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	藤田
15	妊娠・分娩・産褥期における救急時のフィジカルアセスメントと対応	妊娠・分娩・産褥期における救急時のフィジカルアセスメントと対応に関する最新知見について理解する。 予習：産科ショック・胎児機能不全の診断・検査・治療の実際についてまとめる。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	藤田

授業科目名	母性看護学特論				
授業科目（英）	Women's Health Nursing				
教員名	近澤　幸、間中　麻衣子、松枝　加奈子、笹野　奈菜、鳥嶋　雅子（非）、林　正美（兼）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期	開講曜日	月曜6限		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	次世代を育成する女性と家族をライフサイクルに沿って身体的、心理・社会的側面から包括的に理解する。周産期の母子・家族に影響を及ぼす因子を考慮した対象の生活反応・健康状態・適応状態などの臨床診断に必要な、遺伝学的知識、生殖内分泌学的知識、周産期医学的知識、愛着や親役割理論、発達危機理論などの知識を深める。				
行動目標	①次世代を育成する女性と家族をライフサイクルに沿って身体的、心理・社会的側面から包括的に説明できる。 ②周産期の母子・家族の臨床診断に必要な、遺伝学的知識、生殖内分泌学的知識、周産期医学的知識、愛着や親役割理論、発達危機理論などについて説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	授業への参加度、レポートおよび課題発表等を総合して評価する。 フィードバック：発表に対する質疑・解説を行う。				
教科書	特に使用しない。				
参考書	担当教員から適宜紹介する。				
事前準備受講要件等	アクティブラーニングの手法を用いる。授業時のテーマに沿って、文献を活用し、提示している講義内容に関して事前学習を行い、概要を把握しておく。新聞やインターネットなどで、テーマに関連した最新のトピックスについて情報収集しておく。講義のスライド内容、資料を参考書・文献等と照合し、理解を深める。 事前学習により資料を整理し、視聴覚機器を使用してプレゼンテーションに臨む。 予習・復習は各60分以上とする。				
オフィスアワー	月曜日：17：00～18：00、メールにて時間予約してください。				
SDGsとの関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	女性のライフサイクルと健康課題	オリエンテーション 女性のライフサイクルと健康課題に対する看護職の機能と役割について考察する。 予習：女性のライフサイクルと健康課題について学習する。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	間中
2	リプロダクティブヘルス／ライツ	リプロダクティブヘルス・ライツの概念と女性の健康問題について考察する。 予習：リプロダクティブヘルス・ライツの概念と女性の健康問題についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で深める。	松枝
3	セクシュアリティ・ジェンダー	セクシュアリティの概念と女性の健康課題について考察する。 予習：セクシュアリティの概念と女性の健康課題についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	松枝

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
4	ヘルスプロモーション、エンパワーメント	女性の健康問題に対応するためのヘルスプロモーション、エンパワーメント理論について考察する。 予習：ヘルスプロモーション、エンパワーメント理論についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	松枝
5	アタッチメント理論、発達危機理論	アタッチメント理論、発達危機理論と女性・家族の看護援助について考察する 予習：アタッチメント理論、発達危機理論と女性・家族の看護援助についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	間中
6	親役割理論、親性、親性準備性	親役割理論、親性、親性準備性の概念と女性･男性･家族の看護援助について考察する。 予習：親役割理論、親性、親性準備性の概念と女性･男性・家族の看護援助についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	近澤
7	セルフケア理論	女性の健康問題に対応するためのセルフケア理論について考察する。 予習：セルフケア理論についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	近澤
8	母性準備期（思春期）における健康課題	月経異常やSTI、人工妊娠中絶などの思春期女子の健康課題について考察する。 予習：月経異常やSTI、人工妊娠中絶などの思春期女子の健康課題についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	笹野
9	性成熟期における健康課題	不妊治療中の女性の健康課題や心理的特性と援助について考察する。 予習：不妊治療中の女性の健康課題や心理的特性と援助についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	近澤
10	妊娠・出産・育児期における健康課題	周産期医学的知識をふまえ、妊娠・出産・育児期の女性の健康課題の特性と援助について考察する。 予習：妊娠・出産・育児期女性の健康課題をひとつあげ、特性と援助についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	間中
11	遺伝学的知識と医療福祉制度、遺伝看護	母性看護専門看護師の実践に必要な遺伝学的知識、家族系疾患への対応、医療福祉制度、遺伝看護について理解を深める。 予習：遺伝学的知識、家族系疾患への対応、遺伝看護についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	鳥嶋

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
12	遺伝とカウンセリング	遺伝に関する問題を持つ母子・家族への遺伝カウンセリングの実際について理解を深める。 予習：遺伝に関する問題を持つ母子・家族への遺伝カウンセリングの実際について学習する。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	鳥嶋
13	生殖内分泌学的知識に関する最新知見	母性看護専門看護師の実践に必要な生殖内分泌学の最新知見について理解を深める。 予習：生殖内分泌学の最新知見について学習する。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	林
14	母性継承期（更年期・老年期）における健康課題	更年期障害の特徴や子宮頸・体がん、乳がん、骨粗しょう症などの健康課題について考察する。 予習：更年期障害の特徴と健康課題についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	間中
15	生殖内分泌学的知識に関する最新知見	母性看護専門看護師の実践に必要な生殖内分泌学の最新知見について理解を深める。 予習：生殖内分泌学の最新知見について学習する。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	林

授業科目名	ウィメンズヘルス看護論				
授業科目（英）	Reproductive Health Nursing				
教員名	近澤　幸、間中　麻衣子、松枝　加奈子、笹野　奈菜、峰　博子（非）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期	開講曜日	水曜 6 限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	思春期・成熟期・更年期・老年期にある女性の健康をめぐる今日的な問題を理解し、女性の健康支援について疾病中心の医療の観点に止まらず、広くヘルスプロモーションの視点から考察する。女性の健康問題を解決する援助に必要な、女性医学の知識・技術、ガイドライン、人間発達学的知識などについて最新のエビデンスに基づいて学び、ケアの在り方を考察する。エビデンスの女性の健康問題への適用、社会政策への参画の方法について学び、女性の健康問題解決を発展させるうえで、リーダーシップを発揮できる能力を養う。				
行動目標	①思春期・成熟期・更年期・老年期にある女性の健康をめぐる今日的な問題について説明できる。 ②女性の健康支援について疾病中心の医療の観点に止まらず、広くヘルスプロモーションの視点から考察できる。 ③女性の健康問題を解決する援助に必要な、女性医学の知識・技術、ガイドライン、人間発達学的知識などについて最新のエビデンスに基づいて説明でき、ケアの在り方を考察できる。 ④エビデンスの女性の健康問題への適用、社会政策への参画の方法について説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、高度な看護実践力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	授業への参加度、レポートおよび課題発表等を総合して評価する。 フィードバック：発表に対する質疑・解説を行う。				
教科書	産婦人科診療ガイドライン－産科編 2023，日本産婦人科学会、産婦人科診療ガイドライン－婦人科外来編 2023，日本産婦人科学会				
参考書	担当教員から適宜紹介する。				
事前準備受講要件等	アクティブラーニングの手法を用いる。授業時のテーマに沿って、文献を活用し、提示している講義内容に関して事前学習を行い、概要を把握しておく。新聞やインターネットなどで、テーマに関連した最新のトピックスについて情報収集しておく。講義のスライド内容、資料を参考書・文献等と照合し、理解を深める。 事前学習により資料を整理し、視聴覚機器を使用してプレゼンテーションに臨む。 予習・復習は各 60 分以上とする。				
オフィスアワー	水曜日：17：00～18：00、メールにて時間予約してください。				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	ウィメンズヘルス看護実践における評価と EBN	オリエンテーション ウィメンズヘルス看護実践における評価と EBN について理解を深める。 予習：ウィメンズヘルス看護実践における評価と EBN についてまとめる。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献をまとめる。	近澤
2	思春期女性・男性への看護援助	思春期女性・男性への看護援助のあり方について考察する。 予習：思春期女性・男性の健康課題をひとつあげ、看護援助のあり方についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献をまとめる。	近澤

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
3	成熟期女性・男性への看護援助	成熟期女性・男性への看護援助のあり方について考察する。 予習：成熟期女性・男性の健康課題をひとつあげ、看護援助のあり方についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献をまとめる。	笹野
4	更年期・老年期女性とその家族への援助	更年期・老年期女性とその家族への援助のあり方について考察する。 予習：更年期・老年期女性とその家族の健康課題をひとつあげ、援助のあり方についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献をまとめる。	間中
5	女性医療ケアシステムと政策 1	看護職者と政策、看護における政策の重要性について理解を深める。 予習：「少子超高齢社会に期待される看護の人材育成」として、関心のある点を取り上げてプレゼンテーションする。その後、討議をする。 参考文献：看護白書。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解をまとめる。	近澤
6	女性医療ケアシステムと政策 2	女性医療ケアシステム、保健政策、男女共同参画社会政策過程への参画のあり方について考察する。 予習：助産師としての、キャリアのあり方を、女性医療ケアシステムとの関係から討議し、考えを深める 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献をまとめる。	近澤
7	高度生殖補助医療の看護援助（1）	高度生殖補助医療を行う女性・男性・家族への看護援助のあり方について考察する。 予習：高度生殖補助医療を行う女性・男性・家族への看護援助のあり方についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献をまとめる。	近澤
8	高度生殖補助医療の看護援助（2）	高度生殖補助医療を行う女性・男性・家族への看護援助のあり方について考察する。 予習：高度生殖補助医療を行う女性・男性・家族への看護援助のあり方についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献をまとめる。	近澤
9	ドメスティックバイオレンスと看護援助	ドメスティックバイオレンスと看護援助のあり方について考察する。 予習：ドメスティックバイオレンスと看護援助のあり方についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献をまとめる。	松枝
10	女性と災害	災害時の女性に対する看護援助のあり方について考察する。 予習：災害時の女性に対する看護援助のあり方について学習する。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献をまとめる。	間中

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
11	子宮頸がんと看護援助	子宮頸がん予防・早期発見のための健康教育の実践と評価のあり方について考察する。 予習：子宮頸がん予防・早期発見のための健康教育の実践と評価のあり方について学習する。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献をまとめる。	間中
12	乳がんと看護援助	乳がん予防・早期発見のための健康教育の実践と評価のあり方について考察する。 予習：乳がん予防・早期発見のための健康教育の実践と評価のあり方について学習する。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献をまとめる。	間中
13	生涯を通じた女性の健康支援	生涯を通じた女性の健康支援について学びをまとめ発表する。 予習：生涯を通じた女性の健康支援について関心のあるテーマをひとつ設定しレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献をまとめる。	近澤
14	高齢妊産婦への看護援助	高齢妊産婦への看護援助のあり方について考察する。 予習：高齢妊産婦への看護援助のあり方についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献をまとめる。	峰
15	育児困難と看護援助	育児困難と看護援助のあり方について考察する。 予習：育児困難と看護援助のあり方についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献をまとめる。	峰

授業科目名	周産期看護援助論Ⅰ				
授業科目（英）	Nursing Intervention for Perinatal Women and Family Ⅰ				
教員名	近澤　幸、間中　麻衣子、松枝　加奈子、三宅　知里（非）、宮田　郁（兼）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期	開講曜日	木曜6限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	周産期の医療施設における家族の心理・社会的問題への援助方法を修得し、看護の質向上に向けたアプローチを学ぶ。周産期の母子と家族をめぐる心理・社会的問題や倫理的問題と家族のメンタルヘルスとの関連を学ぶ。周産期のさまざまな問題に対する家族の意思決定が適切に行われるようケア（相談、助言、倫理的調整）の提供方法をカウンセリング理論、危機介入理論に基づいて修得する。心理社会的問題を抱えた家族への適切なケア（相談、助言、倫理調整）や他職種との連携を行う実践能力を養う。母子と家族への心理・社会的援助を適切に実践するための組織内の教育活動やスタッフへのコンサルテーション、連携システムの構築など看護の質向上のためのアプローチを考察する。				
行動目標	①周産期の医療施設における家族の心理・社会的問題への援助方法を説明できる。 ②周産期の母子と家族をめぐる心理・社会的問題や倫理的問題と家族のメンタルヘルスとの関連を説明できる。 ③周産期のさまざまな問題に対する家族の意思決定が適切に行われるようケア（相談、助言、倫理的調整）の提供方法をカウンセリング理論、危機介入理論に基づいて説明できる。 ④心理社会的問題を抱えた家族への適切なケア（相談、助言、倫理調整）や他職種との連携について説明できる。 ⑤母子と家族への心理・社会的援助を適切に実践するための組織内の教育活動やスタッフへのコンサルテーション、連携システムの構築など看護の質向上のためのアプローチを考察できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、高度な看護実践力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	授業への参加度、レポートおよび課題発表等を総合して評価する。 フィードバック：発表に対する質疑・解説を行う。				
教科書	特に使用しない。				
参考書	担当教員から適宜紹介する。				
事前準備受講要件等	アクティブラーニングの手法を用いる。授業時のテーマに沿って、文献を活用し、提示している講義内容に関して事前学習を行い、概要を把握しておく。新聞やインターネットなどで、テーマに関連した最新のトピックスについて情報収集しておく。講義のスライド内容、資料を参考書・文献等と照合し、理解を深める。 事前学習により資料を整理し、視聴覚機器を使用してプレゼンテーションに臨む。 予習・復習は各60分以上とする。				
オフィスアワー	木曜日：17：00～18：00、メールにて時間予約してください。				
SDGsとの関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	周産期における母子と家族の心理・社会的問題	オリエンテーション 周産期における母子と家族の心理・社会的問題を考察する。 予習：周産期における母子と家族の心理・社会的問題をについてまとめる。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める	間中

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
2	コンサルテーションの概念･役割･機能	コンサルテーションの概念・役割・機能について理解を深める。 予習：コンサルテーションの概念・役割・機能についてまとめる。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	近澤
3	カウンセリング理論、危機介入理論に基づいたコンサルテーションに必要な面接技術	カウンセリング理論、危機介入理論に基づいたコンサルテーションの役割・機能・面接技術について理解を深める。 予習：カウンセリングの基本技術についてまとめる。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	近澤
4	心理社会的問題を抱えた母子と家族のアセスメントと看護援助（相談・助言・倫理的調整）	複雑・困難な心理社会的問題を抱えた母子と家族のアセスメントと看護援助（相談･助言･倫理的調整）を考察する。 予習：周産期の複雑・困難な問題を抱えた社会的ハイリスク家族についてまとめる。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	三宅
5	事例検討１　周産期の社会的ハイリスク家族の看護援助	周産期の複雑・困難な問題を抱えた社会的ハイリスク家族事例の看護援助について討議する。 予習：周産期の複雑・困難な問題を抱えた社会的ハイリスク家族の事例をレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	三宅
6	周産期の倫理的問題(出生前診断･人工妊娠中絶）における家族の意思決定と看護	周産期の複雑・困難な倫理的問題（出生前診断・人工妊娠中絶）における家族の意思決定と看護援助について考察する。 予習：出生前診断・人工妊娠中絶の倫理的問題についてまとめる。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	近澤
7	事例検討２　周産期の倫理的問題（出生前診断・人工妊娠中絶）への看護援助	周産期の複雑・困難な事例の倫理的問題（出生前診断・人工妊娠中絶）への看護援助について討議する。 予習：出生前診断・人工妊娠中絶の家族の意思決定と看護についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	近澤
8	周産期の倫理的問題（不妊治療）における家族の意思決定と看護	周産期の複雑・困難な倫理的問題（不妊治療）における家族の意思決定と看護援助について考察する。 予習：不妊治療の倫理的問題についてまとめる。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	松枝
9	事例検討３　周産期の倫理的問題（不妊治療）への看護援助	周産期の複雑･困難な事例の倫理的問題（不妊治療）への看護援助について討議する。 予習：不妊治療を受ける女性、家族の意思決定と看護についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	松枝

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
10	妊産褥婦のメンタルヘルスと看護援助	妊産褥婦の複雑・困難なメンタルヘルスの問題と看護援助について考察する。 予習：複雑・困難な事例のメンタルヘルスと看護援助についてまとめる。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	宮田
11	事例検討４　妊産褥婦のメンタルヘルスと看護援助	妊産褥婦の複雑・困難な事例のメンタルヘルスと看護援助について討議する。 予習：複雑・困難な事例のメンタルヘルスと看護援助についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	宮田
12	事例検討５　妊産褥婦およびその家族への援助の実際	妊産褥婦およびその家族への援助の実際（相談、助言、スタッフ間の調整、教育）について討議する。 予習：学生の勤務する臨床現場で実践可能な援助を１つ立案しレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	間中
13	周産期の医療施設における家族の心理・社会的問題への援助と母性看護専門看護師の役割	周産期の医療施設における家族の心理・社会的問題への援助と母性看護専門看護師の役割について考察する。 予習：母性看護専門看護師の役割についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	間中
14	周産期看護者へのコンサルテーション	周産期看護者へのコンサルテーションについて理解を深める。 予習：コンサルテーションについてまとめる。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	宮田
15	心理社会的な問題を抱えた困難事例を担当するスタッフへの相談、助言、調整の実際	心理社会的な問題を抱えた困難事例を担当するスタッフへの相談、助言、調整の実際について理解を深める。 予習：学生が体験した妊産褥婦の複雑・困難なメンタルヘルス事例（事例と介入・考察）についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	宮田

授業科目名	周産期看護援助論Ⅱ				
授業科目（英）	Nursing Intervention for Perinatal Women and Family Ⅱ				
教員名	近澤　幸、間中　麻衣子、松枝　加奈子、藤田　太輔（兼）、番　聡子（兼）、三宅　知里（非）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	後期	開講曜日	火曜 6 限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	講義で学んだ概念・理論を基盤として、母性看護専門看護師の実践に必要な、周産期における母子と家族のプライマリーケアおよび正常経過から逸脱した対象者に対する症状アセスメントや看護介入について学ぶ。周産期における母子のプライマリーケアと緊急事態に対応するための医療・援助方法（異常の診断と対応など）を修得する。				
行動目標	①母性看護専門看護師の実践に必要な、周産期における母子と家族のプライマリーケアおよび正常経過から逸脱した対象者に対する症状アセスメントや看護介入について説明できる。 ②周産期における母子のプライマリーケアと緊急事態に対応するための医療・援助方法（異常の診断と対応など）について説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、高度な看護実践力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	授業への参加度、レポートおよび課題発表等を総合して評価する。 フィードバック：発表に対する質疑・解説を行う。				
教科書	特に使用しない。				
参考書	日本版救急蘇生ガイドライン 2020 に基づく新生児蘇生法テキスト第 4 版, 細野茂春監修, メディカルビュー				
事前準備受講要件等	アクティブラーニングの手法を用いる。授業時のテーマに沿って、文献を活用し、提示している講義内容に関して事前学習を行い、概要を把握しておく。新聞やインターネットなどで、テーマに関連した最新のトピックスについて情報収集しておく。講義のスライド内容、資料を参考書・文献等と照合し、理解を深める。 事前学習により資料を整理し、視聴覚機器を使用してプレゼンテーションに臨む。 予習・復習は各 60 分以上とする。				
オフィスアワー	火曜日：17：00～18：00、メールにて時間予約してください。				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	周産期看護における母性看護専門看護師の役割と活動	オリエンテーション 周産期看護における母性看護専門看護師の役割と活動（実践、コンサルテーション、コーディネーション、倫理調整、教育、研究）について理解を深める。 予習：学生がこれまで関わった事例を理論やエビデンスを用い CNS の申請紙にまとめレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	三宅
2	母性看護専門看護師の実践活動の実際	母性看護専門看護師の実践活動における事例展開の実際について考察する。 課題発表に対する討論 予習：母性看護専門看護師の実践活動についてまとめる。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	三宅

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
3、4	ハイリスク妊産婦のアセスメントとケア（妊婦）	困難・複雑な問題をもつハイリスク妊婦のアセスメントとケアについて母性看護専門看護師の視点から考察する。 予習：学生がこれまで関わった事例を理論やエビデンスを用いCNSの申請紙にまとめレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	近澤
5、6	ハイリスク妊産婦のアセスメントとケア（産婦・褥婦）	困難・複雑な問題をもつハイリスク産婦・褥婦のアセスメントとケアについて母性看護専門看護師の視点から考察する。 予習：学生がこれまで関わった事例を理論やエビデンスを用いCNSの申請用紙にまとめレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	近澤
7、8	ハイリスク新生児における超音波診断法の判読と臨床的対応	超音波診断と胎児異常の判読と臨床的対応について最新知見を修得する。 予習：超音波診断と胎児異常の判読と臨床的対応についてまとめる。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	藤田 間中
9、10	ハイリスク新生児のアセスメントとケア	ハイリスク新生児のアセスメントとケアについて母性看護専門看護師の視点から考察する。 予習：学生がこれまで関わった事例を理論やエビデンスを用いCNSの申請用紙にまとめレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	間中
11～13	新生児蘇生法	新生児蘇生法の最新知見を修得する。 予習：新生児蘇生法についてまとめる。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	番 近澤
14	ハイリスク妊娠における胎児心拍数モニタリング（CTG）の判読と臨床的対応（1）	胎児心拍数モニタリング（CTG）の判読と胎児異常、臨床的対応について最新知見を修得する。 予習：胎児心拍数モニタリング（CTG）の判読と胎児異常、臨床的対応についてまとめる。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	近澤
15	ハイリスク妊娠における胎児心拍数モニタリング（CTG）の判読と臨床的対応（2）	胎児心拍数モニタリング（CTG）の判読と胎児異常、臨床的対応について最新知見を修得する。 予習：胎児心拍数モニタリング（CTG）の判読と胎児異常、臨床的対応についてまとめる。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	松枝

授業科目名	周産期看護演習Ⅰ				
授業科目（英）	Seminar of Perinatal Nursing Ⅰ				
教員名	近澤　幸、間中　麻衣子、松枝　加奈子、笹野　奈菜				
単位数	2	時間数	60	学年	1
開講期	後期～前期	開講曜日	2025 年度 後期（月曜 6 限、月曜 7 限）、2026 年度 前期（月曜 6 限、月曜 7 限）		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	わが国の周産期医療の課題を踏まえ、周産期医療提供システムにおける看護職の新たな働き方を創造する力を養う。わが国の周産期医療施設における妊産婦、新生児、家族の状況に応じた質の高いケアを探究する。周産期救急や社会的に複雑な事例に対応する実践、相談、調整、倫理調整能力を修得する。				
行動目標	①わが国の周産期医療施設における妊産婦、新生児、家族の状況に応じた質の高いケアを探究できる。 ②周産期救急や社会的に複雑な事例に対応する実践、相談、調整、倫理調整能力を修得できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、高度な看護実践力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	授業への参加度、レポートおよび課題発表等を総合して評価する。 フィードバック：発表に対する質疑・解説を行う。				
教科書	特に使用しない。				
参考書	担当教員から適宜紹介する。				
事前準備受講要件等	アクティブラーニングの手法を用いる。授業時のテーマに沿って、文献を活用し、提示している講義内容に関して事前学習を行い、概要を把握しておく。新聞やインターネットなどで、テーマに関連した最新のトピックスについて情報収集しておく。講義のスライド内容、資料を参考書・文献等と照合し、理解を深める。 事前学習により資料を整理し、視聴覚機器を使用してプレゼンテーションに臨む。 予習・復習は各 60 分以上とする。				
オフィスアワー	月曜日：17：00～18：00、メールにて時間予約してください。				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1、2	周産期医療統計、周産期医療対策整備事業、母体搬送の現状と課題	周産期医療統計、周産期医療対策整備事業、母体搬送の現状と課題について母性看護専門看護師の視点から考察する。 予習：周産期医療統計、周産期医療対策整備事業、母体搬送の現状と課題についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	近澤
3、4	周産期医療における医療訴訟	周産期医療における医療訴訟事例について考察する。 予習：周産期医療における医療訴訟についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める	間中
5、6	わが国と諸外国の周産期医療に関する看護・助産教育制度	わが国と諸外国の周産期医療に関する看護・助産教育制度について考察する。 予習：わが国と諸外国の周産期医療に関する看護・助産教育制度についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める	松枝

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
7、8	周産期医療における機能評価、医療安全に関わるシステム	周産期医療における機能評価、医療安全に関わるシステムについて考察する。 予習：周産期医療における機能評価、医療安全に関わるシステムについてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	近澤
9、10	周産期医療システムに関わる看護職の役割と機能（チーム医療・院内助産システム）	周産期医療システムに関わる看護職の役割と機能（チーム医療の推進、院内助産システム）について考察する。 予習：周産期医療システムに関わる看護職の役割と機能についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	近澤
11、12	周産期のハイリスク母子のプライマリーケアに必要な知識（保健相談）	保健相談に関する基本知識（ヘルスプロモーション、ヘルスカウンセリング）について修得する。 予習：保健相談に関する基本知識（ヘルスプロモーション、ヘルスカウンセリング）についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	間中
13、14	周産期のハイリスク母子のプライマリーケアに必要な理論（分娩期助産管理と科学的検証）	複雑・困難事例の分娩期助産管理と科学的検証について考察する。 予習：周産期のハイリスク母子のプライマリーケアに必要な理論についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	近澤
15	周産期のハイリスク母子のプライマリーケアに必要な理論（育児支援）	複雑・困難事例の育児支援に必要な理論について考察する。 予習：周産期のハイリスク母子のプライマリーケアに必要な理論についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	近澤
16～19	妊娠合併症をもつ妊産婦と家族への看護援助	妊娠合併症（HDP、妊娠糖尿病、心疾患、自己免疫疾患、血液疾患、婦人科疾患、精神・神経疾患、母子感染症、多胎、切迫早産、早産など）をもつ複雑・困難な妊産婦と家族への実践、相談、調整、倫理調整について討議する。 予習：妊娠合併症をもつ妊産婦と家族への看護援助についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	松枝
20～23	分娩異常の産婦と家族への看護援助	分娩異常（娩出力の異常、胎児および附属物の異常、産道の異常、分娩時損傷、産科 DIC、羊水塞栓症、HELLP 症候群、産科出血、産科手術など）をもつ複雑・困難な産婦と家族への実践、相談、調整、倫理調整について討議する。 予習：分娩異常の産婦と家族への看護援助についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	近澤

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
24～26	産褥期異常の褥婦と家族への看護援助	産褥異常（産後うつ病、緊急帝王切開、乳房トラブルなど）をもつ複雑・困難な褥婦と家族への実践、相談、調整、倫理調整について討議する。 予習：産褥期異常の褥婦と家族への看護援助についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	間中
27	先天異常児の出産・死産を体験した母親・家族への看護	先天異常児の出産・死産を体験した母親・家族への看護について考察する。 予習：先天異常児の出産・死産を体験した母親・家族への看護についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	笹野
28～30	エビデンスに基づく周産期の看護援助に関する研究	国内外の周産期の看護援助に関する文献をクリティークし、エビデンスに基づく母性看護専門看護師としての看護援助のあり方について考察する。 予習：エビデンスに基づく周産期の看護援助に関する研究についてレポートする。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	間中

授業科目名	周産期看護演習Ⅱ				
授業科目（英）	Seminar of Perinatal Nursing Ⅱ				
教員名	近澤　幸、間中　麻衣子、藤田　太輔（兼）、大西　舞子（非）、三宅　知里（非）、西村　美津子（非）、番　聡子（兼）、担当者				
単位数	2	時間数	60	学年	1
開講期	1年後期～2年前期	開講曜日	2025年度 後期（火曜6限､火曜7限）､2026年度 前期（火曜6限、火曜7限）		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	講義・演習で学んだ理論・知識・技術をふまえ、周産期の母子援助に関する演習を行う。周産期の母子援助を実践し、理論を用いた検証方法を学ぶことで、自己の看護ケアにおける課題を明確にする。具体的には、1）母子のプライマリーケアと緊急時に対応するための応用方法について学ぶ。2）研究や業務・政策参画を通し、母子援助を発展させるためのリーダーシップ能力を養う。3）周産期カンファレンスに参加し、産科救急の問題について考察する。				
行動目標	①周産期の母子援助を実践し、理論を用いた検証方法を学ぶことで、自己の看護ケアにおける課題を明確にできる。 ②母子のプライマリーケアと緊急時に対応するための応用方法について説明できる。 ③研究や業務・政策参画を通し、母子援助を発展させるためのリーダーシップ能力を養うことができる。 ④周産期カンファレンスに参加し、産科救急の問題について考察できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、高度な看護実践力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	授業への参加度、レポートおよび課題発表等を総合して評価する。 フィードバック：発表に対する質疑・解説を行う。				
教科書	特に使用しない。				
参考書	担当教員から適宜紹介する。				
事前準備受講要件等	アクティブラーニングの手法を用いる。周産期の母子援助を実践し、理論を用いた検証方法を学ぶことで、自己の看護ケアにおける課題を明確化する。資料を整理し、視聴覚機器を使用してプレゼンテーションに臨む。 予習・復習は各60分以上とする。				
オフィスアワー	火曜日：17：00～18：00、メールにて時間予約してください。				
SDGsとの関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～4	母子のプライマリーケアの実際5日間の集中演習（1）	①スタッフの行う母子の看護ケアに参加し、プライマリーケア展開上の課題を明確化する。 ②スタッフの行う母子の看護ケアに参加し、母性看護専門看護師としての教育・相談・調整のあり方と自己課題を考察する。 ③指導者・担当教員と共に、プライマリーケア展開上の課題・看護管理システム・スタッフ教育について討議する。 予習：母子のプライマリーケアの実際についてまとめる。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	近澤 間中 担当者

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
5、6	母子のプライマリーケアと理論の科学的検証	体験した看護事例に基づき、明確化した課題について理論を用いた検証を行う。 予習：母子のプライマリーケアと理論についてまとめる。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	間中 近澤
7	母子のプライマリーケアと理論：科学的検証の実際（討議と発表）	母子のプライマリーケアと理論における科学的検証の実際について討議と発表を行う。 予習：母子のプライマリーケアと理論に関する発表準備を行う。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	近澤 大西
8～12	ハイリスク妊娠の健康管理の実際 大学病院におけるハイリスク妊娠の医学的管理・治療場面に参加し、看護者としての連携を考察する。 （5 日間の集中演習）（2）	①ハイリスク妊婦の健診・超音波診断・羊水分析診断・分娩管理・ケースカンファレンスに参加し、医学的管理のエビデンスを考察する。 ②医療面接場面からインフォームドコンセントについて考察し、看護者の説明責任を考える ③ハイリスク妊婦の外来保健相談を見学し、保健相談の要点を整理する。臨床場面における医師と助産師とのやり取りから看護連携・協働の方法を考察する。 ④ハイリスク妊婦の医学的管理に関する課題について討議し、看護の視点から提言する。 ⑤外来保健相談における他職種との連携事例について説明を受け、周産期ケアチームコーディネートについて考察する。 予習：ハイリスク妊娠の健康管理についてまとめる。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	間中 近澤 担当者
13～14	ハイリスク妊娠の健康管理の実際 （討議と発表）	ハイリスク妊娠の健康管理の実際について考察する。 予習：ハイリスク妊娠の健康管理について発表準備する。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	近澤 間中 三宅
15～18	ハイリスク妊娠のプライマリーケアの実際 ・ハイリスク妊産褥婦の看護ケアについて考察する。 ・産科救急における看護について考察する。 ・NICU における看護の実際から周産期ケアの課題を考察する。 （4 日間の集中演習）（3）	①スタッフの行う母子の看護ケアに参加し、異常の診断と援助方法を考察する。 ②救急搬送例や緊急処置場面でスタッフの行う母子の看護ケアに参加し、リーダーシップの考察する。 ③産科病棟・NICU 看護リーダー間の情報交換場面や NICU 医療管理ミーティングに参加することで、看護ケア継続のための連携・協働について考察する。 ④ NICU における看護の実際から周産期ケアの課題について考察する 予習：ハイリスク妊娠のプライマリーケアについてまとめる。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	近澤 間中 番 担当者

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
19～20	母子のプライマリーケアと理論：科学的検証の実際（討議と発表）	体験した看護事例に基づき、ハイリスク妊娠における看護ケアについて理論を用いて考察する。 予習：母子のプライマリーケアと理論について発表準備する。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める	近澤 間中 大西
21、22	周産期センターの役割と看護システム	①周産期センターの看護機能と課題について講義を受け、周産期センターにおける看護者の役割について学ぶ。 予習：周産期センターの役割と看護システムについてまとめる。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	近澤 間中
23、24	早期産児の成育特性と周産期ケアのアカウンタビリティ	①早期産児の生育特性と医療管理 ②未熟児デイケアにおける看護 ③来所する母親から育児について話を聞くことで、周産期ケアのアカウンタビリティを考察する。 予習：早期産児の生育特性と医療管理、看護についてまとめる。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	近澤 間中 番
25、26	周産期救急システムの実際 助産所の妊産婦管理とケアの実際、緊急時における取り組みを見学し、地域連携に基づく周産期救急システムについて考察する。	①助産所の妊産婦管理とケアの実際を見学し、産科異常予防のための自主管理規定と緊急事態への取り組みについて考察する。 予習：助産所の妊産婦管理とケアの実際と緊急時における取り組みについてまとめる。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める	近澤 間中 西村
27～29	周産期ケア・救急システムについて	大学病院産科医局の臨床事例検討会へ出席することでの自己研鑽や他施設との連携診療による妊産婦管理の実際を学び、地域連携に基づく、周産期ケアや周産期救急システムについて考察する。 予習：周産期ケア・救急システムについてまとめる。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める。	藤田
30	周産期ケアと周産期救急システムの実際（討議と発表）	周産期ケアと周産期救急システムの実際について考察する。	近澤 間中

授業科目名	小児看護学特論				
授業科目（英）	Theory of Pediatric Nursing				
教員名	鈴木　美佐				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期	開講曜日	火曜 6 限、火曜 7 限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	小児の成長・発達に影響する環境との相互作用を理解し、小児と家族を理解する発達理論、セルフケア理論、ストレス・コーピング理論等を学ぶ。現代の乳児期・幼児期・学童期・思春期における小児の成長・発達と家族の生活について理論を用いて説明することができる。				
行動目標	①子どもを取り巻く社会状況や小児看護実践における課題を説明できる。 ②健康障害のある子どもの生活が成長発達に及ぼす課題と強みを検討できる。 ③小児看護の基盤となる主要な理論や概念について理解できる。 ④学んだ理論や概念の小児看護実践への応用を考察できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、教育実践力、課題探求・研究遂行力				
評価並びにフィードバック法	授業への取り組み（20%）、レポート作成（50%）、プレゼンテーション・討論（30%）				
教科書	片田範子編（2019），こどもセルフケア看護理論，医学書院				
参考書	エリク・H・エリクソン（著），西平直，中島由恵（訳）（2015），アイデンティティとライフサイクル，誠信書房，東京 リチャード・S・ラザルス，スーザン・フォルクマン（著），本明寛他（訳）（1991），ストレスの心理学　認知的評価と対処の研究，実務教育出版，東京 Ann B. Hamric, Charlene M. Hanson, Mary Fran Tracy, Eileen T. O'Grady（著），中川美鈴，江川幸二（訳）（2017），高度実践看護～統合的アプローチ，へるす出版，東京 J. ボウルヴィ（1991），母子関係の理論Ⅰ．Ⅱ．Ⅲ，岩崎学術出版，東京				
事前準備受講要件等	提示された予習・復習課題を行って授業に臨むこと 予習・復習は各 60 分程度とする				
オフィスアワー	火曜日：17：00～18：00				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	オリエンテーション： 小児看護師の役割と特性	小児看護の歴史と今日的課題 小児と家族をめぐる健康課題に対する看護職の機能と役割 予習：小児看護の変貌を示すデータを調べる 復習：現在の子どもの健康課題を１つあげ、看護職が果たす役割を考察する	鈴木
2	小児の成長・発達と生活（1）	乳児期の成長・発達と生活 形態的変化、各機能の発達、認知発達、発達の評価、養育環境 予習：乳児期の発達について調べる 復習：乳児の養育に関する現代の課題をまとめる	鈴木
3	小児の成長・発達と生活（2）	幼児期の成長・発達と生活 携帯的変化、各機能の発達、認知発達、発達の評価、社会性の発達 予習：発達の評価について調べる 復習：社会性の発達の影響する要因を考察する	鈴木

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
4	小児の成長・発達と生活（3）	学童期の成長・発達と生活 形態的変化、各機能の発達、認知発達、学校生活、セルフケア機能への働きかけ 予習：現代の学童期における運動機能について調べる 復習：学童期のセルフケア機能の獲得を促進する要因をまとめる	鈴木
5	小児の成長・発達と生活（4）	思春期の成長・発達と生活 形態的変化、各機能の発達、アイデンティティの確立 予習：思春期特有の形態的変化を調べる 復習：思春期の健康課題について整理する	鈴木
6	発達理論（1）	プレゼンテーション・討論 フロイト（自我）心的構造論 予習：イド、自我、超自我、自我の発達段階について資料作成 復習：討論、助言をもとに資料を修正	鈴木
7	発達理論（2）	プレゼンテーション・討議 ピアジェ認知発達理論 予習：提示したピアジェの認知発達理論を読んでくる 復習：討論、助言をもとに資料を修正	鈴木
8	発達理論（3）	プレゼンテーション・討論 ボウルビー愛着理論 予習：ボウルビーの愛着理論の特徴をまとめる 復習：討論・助言をもとに資料を修正	鈴木
9	発達理論（4）	プレゼンテーション・討論 エリクソンの心理社会的発達理論 予習：エリクソンの発達段階と課題をまとめる 復習：討論と助言をもとに資料を修正	鈴木
10	ストレス・コーピング理論	ストレス・コーピング理論モデルの小児看護への適用 予習：ストレス・コーピング理論の特性をまとめる 復習：子どもへの適用を考える	鈴木
11	セルフケア理論の小児看護への活用	セルフケア理論を用いた小児と家族のアセスメント 予習：子どものセルフケア看護理論を読んでくる 復習：子どものセルフケア理論で説明できる看護現象をまとめる	鈴木
12	理論の事例への適用（1）	プレゼンテーション・討論 これまでに経験した事例を用いてフロイトもしくはエリクソンの理論で説明する。 予習：プレゼンテーション資料の作成 復習：討論・助言を受けて資料の修正	鈴木
13	理論の事例への適用（2）	プレゼンテーション・討論 これまでに経験した事例を用いてピアジェの理論で説明する。 予習：プレゼンテーション資料の作成 復習：討論・助言を受けて資料を修正	鈴木

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
14	理論の事例への適用（3）	プレゼンテーション・討論 これまでに経験した事例を用いてボウルビーの理論で説明する。 予習：プレゼンテーション資料の作成 復習：討論・助言を受けて資料の修正	鈴木
15	理論の事例への提要（4）	プレゼンテーション・討論 これまでに経験した事例を用いてセルフケア理論で説明する。 予習：プレゼンテーション資料の作成 復習：討論・助言を受けて資料の修正	鈴木

授業科目名	小児と病気				
授業科目（英）	Pediatrics Disease				
教員名	鈴木　美佐、芦田　明（兼）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期	開講曜日	火曜 5 限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	小児期の代表的疾患の診断のプロセスと病態生理、検査とその解釈法、治療法（栄養療法、薬物療法、療育等）、症状マネジメントについて理解する。症状と徴候の出現をどのように診断し確定していくかの診断のプロセスと治療の実際について理解し、専門的な援助を提供するために、事例を取り上げて考察する。				
行動目標	1. 小児と家族に対し、フィジカルアセスメント技術を用いて病状が把握できる。 2. 診断の手がかりに必要な問診や検査について説明できる。 3. 診察場面やカンファレンスに同席し、症状マネジメントの方法を説明できる。 4. 病態や発達による治療選択の相違を把握できる。 5. 治療効果の判定や変更に関する判断について説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、高度な看護実践力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	授業への取り組み（20%）、レポート作成（50%）、プレゼンテーション・討論（30%）				
教科書	児玉 和彦（2018），症状でひらめく こどものコモンディジーズ：診察が楽しくなる！面白くなる！病歴聴取と身体診察のコツとヒケツ，MC メディカ出版，大阪.				
参考書	関連する小児医学図書（図書館に整備している）				
事前準備受講要件等	予定されている講義内容について、関連文献の準備等、事前学習をした上で参加する 予習・復習は各 60 分程度とする。				
オフィスアワー	各自メールにてアポイントメントをとってください				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	オリエンテーション 小児の代表疾患について 課題学習の説明	オリエンテーション 小児の代表的疾患と診察技術・観察の確認 予習：小児の代表的疾患を発達段階別に整理しておく 復習：小児のフィジカルアセスメントを DVD で振り返りレポートする	鈴木
2	低出生体重児の診断と治療	低出生体重児の疾患、治療 在胎日数と低出生体重児の症状 予習：胎児・新生児の成長発達を調べる 復習：授業内容をレポートし考察を加える	芦田
3	低出生体重児の救命治療	低出生体重児の集中治療（救命処置、薬物療法、人工呼吸器）、検査、モニター管理 予習：低出生体重児の生理機能をまとめる 復習：授業内容をレポートし考察を加える	芦田
4	小児の神経疾患の診断と治療	小児の代表的な神経疾患 診断、治療（薬物療法）および合併症、症状マネジメント、療育の考え方 予習：乳幼児の脳神経の成長発達を振り返る 復習：授業内容をレポートし考察を加える	芦田

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
5	小児の感染症の診断と治療	小児の代表的な感染症 検査、治療、感染対策 予習：小児期特有の感染症を調べる 復習：小児病棟、外来における感染対策を考案する	芦田
6	小児の腎・泌尿器疾患の治療と診断	小児の代表的な腎・泌尿器疾患 病態生理、検査、治療（栄養療法、薬物療法） 予習：小児期の代表的な腎・泌尿器疾患について調べる 復習：検査についてまとめる	芦田
7	小児の代謝性疾患の診断と治療	小児の代表的な代謝性疾患 病態生理、検査、治療（栄養療法、薬物療法、自己注射）、症状マネジメント 予習：1 型糖尿病について調べる 復習：授業内容をレポートする	芦田
8	課題学習	プレゼンテーション・討論 これまでの講義を振り返り、診断と治療を看護に活かす方法を検討する 予習：疾患を 1 つ選択しプレゼンテーション資料を作成する 復習：討論の意見や助言を基に加筆・修正する	鈴木
9	小児の消化器疾患の診断と治療	小児の代表的な消化器疾患 病態生理、検査、治療（栄養療法、薬物療法）、症状マネジメント 予習：潰瘍性大腸炎、クローン病を調べる 復習：体調維持のための留意点をまとめる	芦田
10	小児の呼吸器疾患の診断と治療	小児の代表的な呼吸器疾患 病態生理、検査、治療（薬物療法）、症状マネジメント 予習：小児期に多い呼吸器疾患を調べる 復習：呼吸機能の査定についてまとめる	芦田
11	小児の循環器疾患の診断と治療	小児の代表的な循環器疾患 病態生理、検査、治療（薬物療法、手術療法）、症状マネジメント 予習：先天性心疾患について調べる 復習：疾患を 1 つ選択し治療計画についてまとめる	芦田
12	小児の代表的な悪性新生物の診断と治療	小児の代表的な悪性新生物 病態生理、検査 予習：小児期の悪性新生物に関する統計資料を調べる 復習：診断のための検査結果の解釈をまとめる	芦田
13	小児の悪性固形腫瘍の診断と治療	小児の代表的な悪性固形腫瘍 治療（薬物療法、手術療法）、症状マネジメント 予習：神経芽腫について調べる 復習：治療の選択方法についてまとめる	芦田
14	小児の血液疾患の診断と治療	小児の代表的な血液疾患 病態生理、検査、治療（薬物療法、放射線療法）、症状マネジメント 予習：白血病について調べる 復習：薬剤の選択方法、治療効果の判断についてまとめる	芦田

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
15	まとめ	事例分析によるプレゼンテーションと討論 臨床で経験した事例を用いて症状マネジメントについて考察する 予習：プレゼンテーション資料の作成 復習：意見や助言を基に修正しレポートとして提出	鈴木

授業科目名	発達障害看護論				
授業科目（英）	Theory and Intervention of Child with Developmental Disorders				
教員名	鈴木　美佐、中原　洋子、玉川　あゆみ（非）、橋倉　尚美（非）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期（偶数年度開講）	開講曜日	月曜 6 限、月曜 7 限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	発達障害、自閉スペクトラム症、重症心身障害のある小児と家族への介入困難な事例に対する援助方法に関して、事例分析を通して評価し、実践・コーディネーション・コンサルテーション・倫理調整を学ぶ。家庭・学校・地域・医療施設など様々な場にある小児と家族の健康保持増進、健康課題の解決に向けた支援を関係職種とコーディネーションを含め、新しい支援を創造し、小児看護専門看護師としての役割を理解する。				
行動目標	①国際生活機能分類（ICF）の精神を理解し、障害のある子どもの療養環境を考察できる。 ②障害（知的・肢体・自閉症スペクトム）の種類による対応の違いを説明できる。 ③子どもの健康障害（身体、精神、慢性疾患等）に関する政策・施策・法律を説明できる。 ④発達障害のある子どもが医療を受けるときの支援について、事例を用いて計画できる。 ⑤障害児への虐待がある事例を用いて、家族のアセスメントと調整を計画できる。 ⑥在宅重症心身障害のある子どもと家族の長期的視点から包括的支援を考えられる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、教育実践力				
評価並びにフィードバック法	授業への取り組み（20%）、レポート作成（50%）、プレゼンテーション・討論（30%）				
教科書	別途指定する				
参考書	冨田 和巳，加藤 敬（2006） 多角的に診る発達障害～臨床からの提言，診断と治療社				
事前準備受講要件等	予定されている講義内容について、関連文献の準備等、事前学習を行う。 予習・復習は各 60 分程度とする。				
オフィスアワー	月曜日：16：00～18：00				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	授業オリエンテーション 障害のある子どもと家族への支援の展望	障害（知的・肢体・自閉スペクトラム症・発達障害）の種類による対応の違い、包括的支援の視点 予習：障害の種類と概要を調べる 復習：障害児への医療の変遷をまとめる	鈴木
2	発達障害のある小児と家族への地域での支援の実践（1）	発達障害のある小児のスクリーニング、施策 予習：発達障害者支援法を調べる 復習：授業での学びをまとめる	中原
3	発達障害のある小児と家族への地域での支援の実践（2）	発達障害のある小児の関係機関との連携・調整の取り組み 地域支援システムの実際 課題：発達障害のある子どもの関係機関を調べる 復習：未就学児を例に関係機関との調整の具体をまとめる	中原
4	医療機関における自閉スペクトラム症のある小児と家族への支援（1）	発達障害のある小児の受診に関する課題 自閉スペクトラム症の小児 予習：発達障害のある子どもと家族関わった事例をまとめておく 復習：発達障害のある子どもに対する医療者の関わり方を検討する	玉川

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
5	医療機関における自閉スペクトラム症のある小児と家族への支援(2)	発達障害のある小児の受診に関する看護の実践 自閉スペクトラム症のある小児 予習：自閉スペクトラム症のある小児の受診上の課題を調べる 復習：授業を通して学んだことをまとめる	玉川
6	自閉スペクトラム症のある小児をめぐる関係機関とのコーディネーション（1）	発達障害のある小児への関わり 地域、教育機関へのコーディネーション 予習：発達障害のある小児にかかわる専門職を調べる 復習：次回のプレゼンテーション資料の作成	玉川
7	自閉スペクトラム症のある小児をめぐる関係機関とのコーディネーション（2）	プレゼンテーション・討論 発達障害のある小児への関わり 家族へのアプローチ 予習：プレゼンテーション資料の作成 復習：討論・助言を受けて資料の修正	玉川
8	障害児への虐待（1）	障害児をもつ家族の虐待のリスク、関係機関との連携の実際 予習：障害児の虐待のに関する文献または記事に目を通す 復習：高リスク群への予防的介入についてまとめる	橋倉
9	障害児への虐待（2）	虐待がある障害児と家族の倫理調整の実際 介入困難な事例への高度実践 予習：障害児の虐待に関する文献または記事に目を通す 復習：高リスク群への予防的介入についてまとめる	橋倉
10	障害児への虐待がある事例におけるコーディネーション（1）	討論 障害児への虐待に関する事例検討 家族への対応 予習：課題レポートに取り組む 復習：討論・助言を受けてレポートの修正	橋倉
11	障害児への虐待がある事例におけるコーディネーション（2）	討論 障害児への虐待に関する事例検討 関係機関とのコーディネーションの実際 予習：課題レポートに取り組む 復習：討論・助言を受けてレポートの修正	橋倉
12	肢体不自由・重症心身障害のある小児と家族への支援	肢体不自由・重症心身障害のある小児と家族のアセスメント、保健・医療・福祉・教育との連携 予習：重症心身障害児に対する福祉サービスを調べる 復習：これまでに経験した事例のアセスメントをまとめる	鈴木
13	医療依存度の高い小児と家族の倫理調整（1）	経年変化による体調悪化 治療に対する意思決定支援 予習：医療的ケアを要する子どもの健康課題を調べる 復習：意思決定支援の具体を計画してみる	鈴木
14	医療依存度の高い小児と家族の倫理調整（2）	討論 医療的ケアのある小児と家族の倫理調整 予習：治療の意思決定に葛藤がある事例の倫理課題をまとめる 復習：討論・助言を受けて資料の修正	鈴木

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
15	小児看護専門看護師としての役割	プレゼンテーション・討論 障害のある小児の療養生活を豊かにするために小児看護専門看護師として考えた介入方法について考察する 課題：これまでに経験した事例をもとに上記についてレポートしプレゼンテーションを行う	鈴木

授業科目名	小児看護アセスメント論				
授業科目（英）	Theory of Pediatrics Nursing Assessment				
教員名	鈴木　美佐、平山　五月（非）、市川　雅子（非）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	後期	開講曜日	月曜6限、月曜7限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	子どもの成長・発達と生活環境・生活習慣を理解し、小児と家族の健康をフィジカルアセスメント、心理・社会面から包括的なアセスメントをするための方略や技術・技法を学ぶ。問診・観察・診察、発達検査を用いて小児と家族に関する情報を収集し、分析、考察する。小児の発達段階や状況に応じたコミュニケーション技術、アセスメントに適用する遊びの技法が理解できる。 問診・観察・診察、発達の理解については、フィールドワーク、事例検討をもとにレポートを提出し、討論を通して小児と家族に関する情報収集技術、アセスメント、評価の方法について学ぶ。				
行動目標	①系統的なヘルスアセスメント手法を用いてアセスメントができる。 ②主訴から子どもと家族から病歴の聴取と身体診察ができる。 ③症状（咳、発熱、発疹）の鑑別の方法を説明できる。 ④事例を通して子どもと家族の包括的アセスメントの方法を説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、高度な看護実践力、教育・調整力、課題解決力、発信力				
評価並びにフィードバック法	授業への取り組み（20%）、レポート作成（50%）、プレゼンテーション・討論（30%）				
教科書	別途指定する				
参考書	別途指定する				
事前準備受講要件等	予定されている講義内容について、関連文献の準備等、事前学習をした上で参加する。 予習・復習は各60分程度とする。				
オフィスアワー	授業日の16：00～18：00				
SDGsとの関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	小児と家族の包括的アセスメント(1)	包括的アセスメントの意義と特徴 健康障害の特性や病態の把握、問診・観察を用いた健康歴の聴取、子どもと家族の生活習慣に関する情報の系統的レビュー 予習：小児の系統レビューを確認しておく 復習：授業を振り返りまとめる	鈴木
2	小児と家族の包括的アセスメント(2)	フィジカルアセスメント、心理・社会的発達のアセスメントによる情報の統合と判断、情報の共有 予習：小児の疾患をひとつ取り上げ、病態を含めたアセスメント項目をレポートする 復習：情報の判断に関して気づいた点をまとめる	鈴木
3	小児と家族の包括的アセスメント(3)	健康問題の複雑性に関するアセスメント 予習：これまでの経験から関わりが困難だった事例をまとめる 復習：助言を受けてレポートの修正を行う	鈴木

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
4	小児と家族の包括的アセスメント（4）	プレゼンテーション・討論 発達段階に応じた健康状態の把握 これまでに経験した事例を用いた検討（発達段階、健康問題に関連したアセスメント） 予習：修正した事例を使用し、プレゼンテーションの準備を行う 復習：演習を通して気づいた点をまとめる	鈴木
5	専門看護師が行う小児と家族へのアセスメント（1）	小児と家族への問診・診察技術の実際 予習：疾患を想定して問診項目をまとめておく 復習：専門家としての高度な技術についてを考察する	平山
6	専門看護師が行う小児と家族へのアセスメント（2）	小児と家族への治療的コミュニケーション技術 予習：小児の発達段階や病状を考慮したコミュニケーションいついて考えをまとめておく 復習：授業を振り返りコミュニケーション技術についての学びをまとめる	平山
7	専門看護師が行う小児と家族へのアセスメント（3）	プレゼンテーション・討論 提供した事例の検討 発達段階、健康問題によるアプローチ 予習：課題事例についてプレゼンテーションの準備 復習：事例に対するアセスメントについて追加修正する	平山
8	小児の発達と特徴に適したアセスメント技法（1）	アセスメントに適用する遊びの技法 発達段階に適した技法 予習：発達段階による遊びの発展についてまとめる 復習：授業内容を振り返り学んだ点をまとめる	市川
9	小児の発達と特徴に適したアセスメント技法（2）	アセスメントに適用する遊びの技法 病状による技法 予習：発達段階による遊びの発展についてまとめる 復習：授業内容を振り返り学んだ点をまとめる	市川
10	健康障害のある小児へのアセスメント技法（1）	健康障害のある乳児期の小児への介入技術を用いた提供事例の展開 オレムのセルフケア理論をベースに展開する 予習：提供事例を展開しアセスメントをまとめる 復習：討論・助言を受けて資料の修正	鈴木
11	健康障害のある小児へのアセスメント技法（2）	健康障がいのある幼児期の小児への介入技術を用いた提供事例の展開 オレムのセルフケア理論をベースに展開する 予習：提供事例を展開しアセスメントをまとめる 復習：討論・助言を受けて資料の修正	鈴木
12	健康障害のある小児へのアセスメント技法（3）	健康障害のある学童期の小児への介入技術を用いた提供事例の展開 オレムのセルフケア理論をベースに展開する 予習：提供事例を展開しアセスメントをまとめる 復習：討論・助言を受けて資料の修正	鈴木
13	健康障害のある小児へのアセスメント技法（4）	健康障害のある思春期の小児への介入技術を用いた提供事例の展開 オレムのセルフケア理論をベースに展開する 予習：提供事例を展開しアセスメントをまとめる 復習：討論・助言を受けて資料の修正	鈴木

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
14	フィールドワーク	小児科外来の待合室で、これまで学んだ内容をもとにアセスメントの技法を用いて小児と家族にかかわる 課題：待合室にいる小児と家族に受診目的を尋ね、症状に対する問診あるいは家庭での健康管理等を情報収集しアセスメントする。 留意点：勤務先をもたない場合は教員が大学病院と交渉する。また、収集した情報は病院の担当者に伝え、個人情報は担当教員・小児科外来以外に漏らさない。	鈴木
15	包括的アセスメントの開発	プレゼンテーション・討論 小児と家族の包括的アセスメントの技術、技法の開発 発達段階及び健康の段階に着目した方法 予習：包括的アセスメントのために必要な技術、技法についてプレゼンテーション資料を作成 復習：討論・助言をもとにレポートとしてまとめる	鈴木

授業科目名	小児看護学演習				
授業科目（英）	Seminar of Pediatrics Nursing				
教員名	鈴木　美佐、平山　五月（非）、中山　美由紀（非）、馬場　恵子（非）、石浦　光世（非）、赤松　志麻（兼）、水島　道代（兼）、中島　真希（非）、澤本　さおり（兼）				
単位数	2	時間数	60	学年	1
開講期	後期～前期	開講曜日	2025 年度 後期（月曜 6 限、月曜 7 限）、2026 年度 前期（月曜 6 限、月曜 7 限）		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	小児看護専門看護師の役割を理解し、様々な健康レベルにある小児と家族に対し、倫理的判断および臨床判断を基盤とし、状況に応じた高度な看護実践を行うための方法を学ぶ。				
行動目標	小児の権利を守り、小児看護専門看護師としての役割を理解し、臨床判断に基づいた高度な看護実践、倫理的判断、スタッフへのコンサルテーション、教育、多職種との連携、コーディネーションについて理解する。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、高度な看護実践力、教育・調整力、課題解決力、課題探求・研究遂行力、発信力				
評価並びにフィードバック法	授業への取り組み（20%）、レポート作成（50%）、プレゼンテーション・討論（30%）				
教科書	①東京都立小児総合医療センター編（2018）帰してはいけない小児外来患者 2　診断へのアプローチ，医学書院				
参考書	ドロシア　E. オレム，小野寺杜紀監訳（2012），オレム看護論　看護実践における基本概念第 4 版，医学書院 ニコー・M・デニス，小野寺杜紀（2007），オレム看護論入門，医学書院				
事前準備受講要件等	予定されている講義内容について、予習を行った上で参加する。 予習・復習は各 60 分程度とする。				
オフィスアワー	授業前後の 30 分				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	オリエンテーション 小児の権利と擁護	治療を受ける小児の療養環境 小児の権利擁護 予習：子どもの権利条約について整理しておく 復習：これまでの実践事例の倫理的課題の整理	鈴木
2	専門看護師の活動	小児と家族への看護実践・コーディネーション・倫理調整・コンサルテーション・教育・研究機能を発揮した活動 予習：専門看護師の活動を調べてくる 復習：本授業の学びをまとめる	石浦
3	専門看護師の役割と機能	倫理調整を必要とした実践事例の検討 予習：これまでに経験した倫理的課題について話題提供できるようまとめておく 復習：考えが深まった点を整理する	石浦
4	検査処置を受ける小児と家族への説明	小児へのインフォームド・アセントとは 小児の納得と検査を受ける力を引き出すプレパレーション 予習：インフォームド・アセントの事例をまとめておく 課題：事例の改善点を加筆する	鈴木

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
5	プレパレーションの看護職への指導	検査処置を受ける小児と家族へのプレパレーションの普及・教育 予習：前回授業の内容を参考にプレパレーション場面の例を考えておく 復習：授業を振り返り教育例を考案する	鈴木
6	専門看護師の倫理調整・倫理的判断	小児の権利を守る支援の実際、専門看護師の視点と倫理的判断の根拠 予習：小児の医療における倫理的課題をあげてくる 復習：授業内容のまとめと考察	赤松
7	専門看護師のコンサルテーション(1)	コンサルテーションの役割と機能、コンサルテーション関係の基本特性 予習：指定されたテキストを読んでくる 復習：授業内容を考察する	中山
8	専門看護師のコンサルテーション(2)	コンサルテーションの目標の設定と評価 予習：指定されたテキストを読んでくる 復習：授業内容を考察する	中山
9	介入困難な事例へのコンサルテーション（1）	介入困難な事例の家族へのコンサルテーションの技法を用いた介入の検討 予習：コンサルテーションの基礎知識を復習する 復習：授業を踏まえて自分の考えをまとめる	赤松
10	介入困難な事例へのコンサルテーション（2）	討論 プライマリー看護師からのコンサルテーション事例への対応 複数の疾患を持つ小児の事例 予習：コンサルテーション技法をまとめておく 復習：討論をとおして考察を深める	赤松
11	専門看護師の高度実践（1）	高度な看護実践を要する小児と家族がもつ課題、分析、臨床判断 予習：提示された課題について意見をまとめておく 復習：事例についてまとめる	平山
12	専門看護師の高度実践（2）	高度な看護実践を要する小児と家族がもつ課題に対する援助の実際 予習：実践事例をあげる 復習：プレゼンテーションの準備をする	平山
13	専門看護師の高度実践の分析と介入（1）	プレゼンテーション・討論 提示した事例への高度な実践事例の介入 予習：プレゼンテーションの準備 復習：意見交換を振り返り考察する	平山
14	専門看護師の高度実践の分析と介入（2）	プレゼンテーション・討論 高度な実践事例の介入、評価 予習：プレゼンテーションの準備 復習：授業を振り返り、介入方法をまとめ直す	平山
15	課題学習	倫理的課題の事例検討 治療をめぐる価値の対立 予習：前回までの授業内容をもとに事例をレポートする 復習：助言を受けて修正する	鈴木

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
16	緊急時の高度実践（1）	緊急時の初期対応と危機介入の多職種のコーディネーション 医療的ケアを要する在宅重症心身障害児の緊急搬送の備えの実際 予習：トリアージについて調べておく 復習：課題事例をまとめる	馬場
17	緊急時の高度実践（2）	救急事例での実践事例の検討 救急搬送された小児の事例 予習：提示された 課題をまとめる 復習：専門看護師の視点をまとめる	馬場
18	急性期にある小児と家族への介入	感染症に罹患した小児と家族への介入 症状緩和、感染対策、家族への指導 予習：小児の感染症についてまとめる 復習：個人への看護や関係者への感染対策をまとめる	澤本
19	専門看護師の教育企画（1）	実習病院または勤務病院の現状分析を行い、課題を明確化する 予習：SWOT 分析について調べておく 復習：課題を絞りこむ	鈴木
20	専門看護師の教育企画（2）	実習病院または勤務病院の課題に対する教育企画を立案する 予習：取り組む課題を絞り込む 復習：教育企画のプレゼンテーション案を作成する	鈴木
21	専門看護師の教育企画（3）	教育企画のプレゼンテーションと討論 予習：プレゼンテーション案を作成してくる 復習：他の課題に対する教育企画も考案する	鈴木
22	慢性期、長期療養を要する小児と家族への看護実践・コンサルテーション・コーディネーション（1）	介入困難な事例に対する実践・家族へのコンサルテーション・コーディネーション 1 型糖尿病の小児の健康課題 予習：提示された課題をまとめる 復習：看護の展開を検討する	水島
23	慢性期、長期療養を要する小児と家族への看護実践・コンサルテーション・コーディネーション（2）	看護師へのコンサルテーション・コーディネーションに関する事例展開 1 型糖尿病の小児の健康課題 予習：提示された課題をまとめる 復習：事例への介入についての学びをまとめる	水島
24	医療的ケアを要する小児と家族への看護実践・コンサルテーション、コーディネーション（1）	神経難病のある小児の健康課題 病状の進行に伴う症状への介入 予習：神経難病の経年変化についてまとめる 復習：介入方法について学んだことをまとめる	中島
25	医療的ケアを要する小児と家族への看護実践･コンサルテーション･コーディネーション（2）	神経難病のある小児の健康課題 医療的ケアを実施する家族への介入 予習：医療的ケアをめぐる課題についてまとめる 復習：授業を振り返って学びをまとめる	中島
26	事例分析と発表（1）	プレゼンテーション オレムのセルフケア理論を用いた事例展開（コンサルテーション） これまでに経験した事例を用いる 予習：事例の展開をする 復習：助言を踏まえて展開方法を洗練させる	鈴木

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
27	事例分析と発表（2）	プレゼンテーション オレムのセルフケア理論を用いた事例展開（コーディネーション） 予習：事例を展開する 復習：助言をふまえて展開方法を洗練させる	鈴木
28	終末期にある小児への臨床判断、高度実践	小児がんの子どもの健康課題 終末期にみられる症状の緩和、QOL 向上に向けた臨床判断、高度実践 予習：難治性の小児がんを取り上げ治療と病気の進行についてまとめる 復習：終末期における専門看護師の役割について考察する	赤松
29	終末期の小児をもつ家族への高度実践	小児がんの子どもの健康課題 治療をめぐる医師とのコラボレーション、家族への介入 予習：小児がんの治療中に起こり得る課題をまとめる 復習：家族への看護について考察する	赤松
30	重篤な状況にある小児と家族への介入	看取りの状態にある小児と家族への看護 治療の意思決定、家族への援助 予習：看取りの時期にある小児の身体機能の変化をまとめる 復習：意思決定支援のあり方を考察する	鈴木

授業科目名	小児看護学実習Ⅰ				
授業科目（英）	Advanced Practicum of Pediatric Nursing Ⅰ				
教員名	鈴木　美佐				
単位数	2	時間数	90	学年	1
開講期	後期	開講曜日	実習		
科目区分	選択	授業形態	実習		
一般目標	小児の診断と治療について、担当事例について医師の臨床カンファレンス及び回診に参加するなど、診断手がかりから診断プロセスを追い、症状と治療法を関連づけて考察する能力を養う。治療に伴う小児の諸症状の変化を把握し、健康問題と発達段階、個別性、家族の状況を含み、症状のマネジメントなど必要な看護について包括的に計画を立案する。小児の病態・症状から診断手がかりを把握できるように数事例は同様の症状の事例を繰り返し担当する。事例をレポートし、カンファレンス等にかけ、10 事例以上のケースの討論を重ねる。				
行動目標	1. 担当事例の治療的過程や薬剤の投与について医師の診断プロセスを理解し､根拠となる病態･状態を理解する。 2. 症状・状態の変化に伴う病態の的確な判断ができ、症状のマネジメント、治療の変更を計画できる。 3. 診断に必要な事前協議を医師と行い、必要な検査・フィジカルアセスメントが実施できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、高度な看護実践力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	実習への取り組み（30%）、カンファレンス（30%）、実習記録（40%）				
教科書	適時、紹介する。				
参考書	適時、紹介する。				
事前準備受講要件等	科目「小児と病気」の内容を復習して臨むこと 日々の予習・復習は各 60 分程度とする				
オフィスアワー	各自メールにてアポイントメントをとってください				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1〜90 時間		実習場所 大阪医科薬科大学病院　小児病棟･周産期センター･関連外来 実習指導：小児科医師　芦田　明 小児看護専門看護師　赤松　志麻 実習時期：1 年次後期 9 月〜11 月 実習内容 1. 実習開始後は、小児看護専門看護師のシャドーイングにより、組織の理解と医師との連携方法を把握する 2. 指導医師の指導のもと、学生の希望を調整し担当事例をいくつか決め、担当医師の診察に同行し、診察、検査、処置、治療を見学し診断のプロセスを把握する 3. 受診する小児の健康歴の聴取、発達の評価を見学し、許可を得てその一部を実施する 4. 継続して受診している小児の治療に伴う諸症状の変化をカルテ等で把握し、治療方針の変更や継続の必要性、および症状マネジメントの実際を理解する 5. 小児科医師のカンファレンスに参加し、担当する小児の疾患に関する病態を把握し、薬物療法、放射線治療、栄養療法等の治療方針について学ぶ。また、小児と家族へのインフォームド・コンセント、インフォームド・アセントの場に同席する 6. 外来患児や新入院患児への健康歴の聴取、発達の評価、健康診査を実施し、フィジカルアセスメントにより診断を試み､担当医師とディスカッションし、指導を受ける 7. 担当した事例を通して看護への活用を検討する 8. 担当した事例は、事例レポートとして 10 例以上まとめ、討論を行う 実習指導・助言 1. 実習施設で、適宜カンファレンスなどを行い、指導医師の助言を積極的に受ける 2. 担当教員のスーパービジョンは実習場および大学において適宜行う 3. 実習計画書の作成および修正は、実習学生、実習指導者および教員で行う 4. 別途実習要項を提示する	鈴木

授業科目名	小児看護学実習Ⅱ				
授業科目（英）	Advanced Practicum of Pediatric Nursing Ⅱ				
教員名	鈴木　美佐				
単位数	6	時間数	270	学年	1
開講期	後期～前期	開講曜日	実習		
科目区分	選択	授業形態	実習		
一般目標	小児看護専門看護師として、小児と家族の健康の保持・増進および健康問題の解決のための高度実践に重点を置いた実習とし、高度な看護実践を提供する能力を修得する。併せて、担当事例を通して小児看護専門看護師の指導のもと、倫理調整、コンサルテーション、コーディネーション、教育の役割を遂行できる能力を培う。				
行動目標	担当事例に対し、これまで学んだ理論を根拠とした看護実践を行い、事例にかかわる倫理的課題を明確にし、指導を受けながら倫理的調整、スタッフへのコンサルテーションを行う。また、小児と家族の問題解決に必要とされる多職種とのコーディネーションを図る。さらに、実践の場で見出した教育的課題に取り組む。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、高度な看護実践力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	実習への取り組み（30%）、カンファレンス（30%）、実習記録（40%）				
教科書	適時、紹介する。				
参考書	適時、紹介する。				
事前準備受講要件等	専門看護師の役割・機能を見直しておくこと 日々の予習・復習は各 60 分程度とする				
オフィスアワー	実習日毎にアポイントメントをとる。				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～270 時間		実習場所 愛仁会高槻病院　小児病棟、NICU、PICU 実習指導：小児看護専門看護師　橋倉尚美 大阪医科薬科大学病院　小児病棟、小児科外来 実習指導：小児看護専門看護師　赤松　志麻、水島　道代 滋賀県立小児保健医療センター　病棟、外来 実習指導：小児看護専門看護師　馬場　恵子 上記施設から2か所以上を選択する 実習時期 1年次後期12月～2年次前期5月 実習内容 1. 小児看護専門看護師と行動を共にし、専門看護師としての活動を見学し、専門看護師の役割を学ぶ。 2. 実習施設の概要を把握した後、高度な看護実践を要する事例を選定し、小児および家族に対してこれまで習得した理論やモデルを根拠として健康問題をする看護を展開する。 3. 複雑な問題を抱える事例にかかわる中で、その実践事例に関する倫理的課題を明確にする。 4. 実習指導者の指導を受けて倫理調整を計画し実施する。 5. 健康問題のある小児と家族に対する看護に関して、スタッフからの相談を受け、指導を受けてコンサルテーションを実施する。 6. 病棟および外来看護におけるスタッフ教育に関する課題を分析し、指導を受けて教育プログラムを立案・実施し、評価する。 7. 担当事例の健康問題の解決に向けた多職種（リハビリテーションスタッフ、栄養士等との連携の必要性を明らかにし、指導を受けてコーディネーションの計画を立てる。 8. 小児病棟、NICU等における退院支援、ケースカンファレンス、インフォームド・コンセント、インフォームド・アセントに参加し、小児と家族の問題解決や連携協働方法の具体を学ぶ。 9. 上記の実践は5事例以上､教育･コンサルテーション･倫理調整に関して､各項目2例以上､コーディネーションは1事例以上をまとめ、レポートを提出する。 実習指導・助言 1. 実習施設で、適時カンファレンスなどを行い、実習指導者の助言を積極的に受ける。また、病棟看護師長および事例にかかわる多職種からも助言を受ける。 2. 担当教員のスーパービジョンは実習場及び大学において週1回以上行う。 3. 実習計画書の作成及び修正は、実習学生、実習指導者および教員で行う。 4. 別途実習要項を提示する。	鈴木

授業科目名	小児看護学実習Ⅲ				
授業科目（英）	Advanced Practicum of Pediatric Nursing Ⅲ				
教員名	鈴木　美佐				
単位数	2	時間数	90	学年	2
開講期	通年	開講曜日	実習		
科目区分	選択	授業形態	実習		
一般目標	小児看護専門看護師として、小児と家族に対する高度な実践をもとに、倫理調整、コンサルテーション、多職種とのコーディネーションなどの役割を自立して行うことができる能力を修得する。				
行動目標	小児看護専門看護師と相談しながら、介入困難な健康問題をもつ小児と家族の看護について、看護スタッフからのコンサルテーション、倫理調整、多職種とのコーディネーションを主体的に実施する。特に強化したい役割について事例をまとめる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、高度な看護実践力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	実習への取り組み（30%）、カンファレンス（30%）、実習記録（40%）				
教科書	適時、紹介する。				
参考書	適時、紹介する。				
事前準備受講要件等	小児看護学実習Ⅰ，Ⅱを受講していること 日々の予習・復習は各 60 分程度とする。				
オフィスアワー	各自メールにてアポイントメントをとってください				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～90 時間		実習場所 愛仁会高槻病院　小児病棟、NICU、PICU 実習指導：小児看護専門看護師　橋倉　尚美 大阪医科薬科大学病院　小児病棟、小児科外来 実習指導：小児看護専門看護師　赤松　志麻 上記施設から１施設を選択する。 実習時期 ２年次通年７月～10 月 実習内容 1. 介入困難な事例にかかわる看護スタッフのコンサルテーションについて、相談された内容を整理して問題を明確にし、これまでに習得した技法を用いて主体的にコンサルティに働きかけ、成果を評価し、考察する。 2. 病棟、外来での実践の場において、介入困難な事例に対する倫理的課題を見出し、かかわり方について計画し、指導者と相談しながら倫理調整を行い、成果について評価し考察する。 3. 多職種との連携が必要な小児と家族の事例に対し、指導を受けながら多職種とのコーディネーションの必要性を見出し､指導者と共にコーディネーションの展開を行う。 4. 上記にかかわる実践・コンサルテーション・倫理調整・コーディネーションに関して１例以上レポート等にまとめ、提出する。 5. 実習Ⅱをふまえ、特に強化したい専門看護師としての役割を１事例まとめる。 実習指導・助言 1. 実習場で、適時カンファレンスなどを行い、実習指導者の助言を受ける。また、病棟看護師長および事例にかかわる多職種からも助言を受ける。 2. 担当教員のスーパービジョンは実習場及び大学において週１回以上行う。 3. 実習計画書の作成及び修正は、実習学生、実習指導者及び教員で行う。 別途実習要項を提示する。	鈴木

授業科目名	地域母子保健論				
授業科目（英）	Theory of Community Maternal and Child Health Nursing				
教員名	草野　恵美子、中原　洋子、廣金　和枝（非）、中山　祐一（非）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期（奇数年度開講）	開講曜日	月曜 6 限、月曜 7 限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	小児と家族にかかわる保健・医療・福祉や教育の環境および政策・制度の現状を把握し、小児と家族の健康の保持・増進、予防的支援に向けた諸制度の活用・調整方法・実践および新たな制度や政策の必要性を理解する。また医療的ケアを必要とする小児への教育保障と療養環境の整備、必要な支援の構築を考察するとともに、新たな方略の創造・開発をめざす。さらに、地域における全ての親子の健康を支えるために必要な方策を包括的な視点をもって検討できるよう創造する。				
行動目標	1. 子どもと家庭に関わる保健・医療・福祉・教育に関する政策及び制度の現状や課題について考察できる。 2. 講義を通じて、自身の研究課題や実践活動等との関連について考察できる。 3. 地域における母子保健における自身の研究課題やや実践活動等の位置づけを考察しできる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力				
評価並びにフィードバック法	授業への取り組み、レポートまたは発表内容により総合的に評価する。事前課題や疑問等へのフィードバックは適宜、講義の中で行っていく。 授業への取り組み（20%）、レポート作成（50%）、プレゼンテーション・討論（30%）				
教科書	別途指定する				
参考書	別途指定する				
事前準備受講要件等	予定されている講義内容について、関連文献の準備等、事前学習をした上で参加する。 （予習 30 分以上、復習 30 分以上） プレゼンテーションなど一部アクティブ・ラーニングを行う。				
オフィスアワー	月曜日 17：00～18：00				
SDGs との関連	3, 4, 16				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	オリエンテーション 小児を取り巻く保健医療福祉環境の概括	小児にかかわる保健医療福祉制度の変遷 社会の変貌と母子保健制度の変遷 現状と課題の明確化 予習：現代の子ども・子育てに関わる保健医療福祉に関して整理しておく。 復習：講義をふまえ、看護の役割について考察する。	草野
2	小児・子育て世代の健康課題	現代の小児・子育て世代が抱える健康課題について理解し、看護の役割 予習：現代の子ども・子育てに関わる課題に関して議論したい点を整理しておく。 復習：講義をふまえ、看護の役割について考察する。	草野

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
3	次世代育成期、小児への支援施策	主にポピュレーション・アプローチの考え方を活用し、これらのライフステージにある人々における地域全体の健康レベルの向上に向けた方策についての探究 予習：ハイリスクアプローチとポピュレーション・アプローチについて予習しておく。 復習：講義を踏まえ、地域の母子保健全体のレベル向上に向けた方策について考察し、レポート課題につなげる。	草野
4	乳幼児期における保健医療福祉の諸制度の活用･調整とその方策(1)	健常児に対する支援システム 予習：健常児への支援策を調べておく 復習：それぞれの支援施策をまとめ課題を整理する。	中原
5	乳幼児期における保健医療福祉の諸制度の活用･調整とその方策(2)	低出生体重児・ハイリスク児に対する支援システム 予習：低出生体重児・ハイリスク児に対する支援策を調べておく 復習：それぞれの支援施策をまとめ課題を整理する。	中原
6	地域全体で取り組む小児・子育て世代の健康づくり（1）	地域の中で同じ健康課題やニーズを抱える小児・子育て世代をつなぎ、セルフ・ヘルプグループなどを育成することによる小児・子育て世代の健康づくりの方策についての議論 予習：地域における親子の健康づくりに関する取り組みを調べておく。 復習：講義をふまえ、グループ支援を通した親子の健康づくりへの支援策について整理する。	草野
7	地域全体で取り組む小児・子育て世代の健康づくり（2）	子育てを地域全体の課題として認識し、地域組織などによる支援など社会的努力を通じて小児・子育て世代の健康づくりに発展させる方策についての議論 予習：地域組織活動を通じた親子の健康づくりに関する取り組みを調べておく。 復習：講義をふまえ、地域全体で取り組むべき親子の健康課題とそれに対応する施策について整理する。	草野
8	学童期、思春期における保健医療福祉教育の施策・制度（1）	学童期における健康の保持・増進、予防的支援の諸制度の活用と調整 予習：学童期に関する現代の健康課題について調べておく。 復習：学童期の健康課題に関する看護職の役割と関係機関との連携について考察する。	廣金
9	学童期、思春期における保健医療福祉教育の施策・制度（2）	思春期における健康の保持・増進、予防的支援の諸制度の活用と調整 予習：思春期に関する現代の健康課題について調べておく。 復習：思春期の健康課題に関する看護職の役割と関係機関との連携について考察する。	廣金
10	障害児医療福祉教育の制度の変遷と課題（1）	障害のある小児と家族への法制度の活用 予習：障害児医療福祉教育の制度に関するプレゼンテーションの準備 復習：課題をまとめる	中山

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
11	障害児医療福祉教育の制度の変遷と課題（2）	障害児・者に対する制度・施策：自治体による施策の違い 予習：障害のある小児と家族への自治体による施策に関するプレゼンテーションの準備 復習：課題をまとめる	中山
12	医療的ケアが必要な小児への支援（1）	医療的ケアを必要とする小児と家族に対する諸制度と活用：教育の場での医療の課題 予習：医療的ケアを調べる 復習：授業を振り返り教育の場での医療の課題を整理する	中山
13	医療的ケアが必要な小児への支援（2）	学校における連携協働体制：看護職の立場 予習：教育の場での医療的ケアに関する課題を整理しておく 復習：授業を振り返り学校での看護のありかたをレポートする	中山
14	地域における包括的な母子保健サービスの提供	健康課題の種類に応じた法制度の活用と調整・創造 予習：地域における母子保健サービスの包括性に関する課題を整理しておく 復習：授業を振り返り、母子保健サービスの包括性に必要な要素について考察する。	草野
15	社会全体で解決が必要な親子の健康課題への対応 まとめ	社会全体で解決が必要な親子の健康課題解決に向けた創造的な取り組みと多職種連携 予習：これまでの講義を踏まえ、社会全体で解決が必要な親子への健康課題に対して自身がどのように貢献することができるかについてのプレゼンテーションの準備をする。 復習：プレゼンテーションを踏まえ、社会全体で解決が必要な親子への健康課題に対する看護職としての貢献についてレポートにまとめる。	草野

授業科目名	地域看護学特論				
授業科目（英）	Advanced Community Health Nursing				
教員名	草野　恵美子、土手　友太郎、山埜　ふみ恵、中原　洋子				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期	開講曜日	月曜6限、月曜7限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	地域看護学の変遷と概念および必要な諸理論を理解し、看護学における実践の場の健康特性とそれぞれの場の特性に応じた看護の役割や課題について探求する。広域的な健康課題に対応する保健所や住民に身近な対応と地域づくりを基盤とする市町村保健活動や産業保健分野における保健活動の現状と健康課題や看護の役割について探求する。				
行動目標	1. 地域保健活動をヘルスプロモーションの視点から考察できる。 2. 地域における母子保健活動や成人保健活動などを自身の実践活動から考察できる。 3. 地域保健活動のなかで研究課題を探求することができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	論理的・批判的思考力、高い倫理観				
評価並びにフィードバック法	授業への参加度および貢献度、プレゼンテーション、レポートなど総合的に判断する。 事前課題やレポート等の疑問へのフィードバックは講義の中で行っていく。				
教科書	適時、紹介する。				
参考書	適時、紹介する。				
事前準備受講要件等	予定されている講義内容について、関連文献の準備や事前学習をした上で参加する。 予習・復習は60分以上とする。				
オフィスアワー	月曜日　16時～17時、メールにて予約してください。				
SDGsとの関連	3, 4, 16				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～2	オリエンテーション 地域看護学の概念	地域看護学の変遷と概念の整理を行い、地域看護の特性や看護職に求められるものを論議する。地域看護研究の目的と意義、地域看護領域の研究課題と研究方法について講義する。 予習：地域看護学に関わる課題について論議したい点を整理しておく。 復習：講義をふまえ、地域看護学の特性や看護職の役割について考察する。	草野
3	地域看護学領域の現状と課題（ディスカッション）	ヘルスプロモーションと日本の健康政策の現状と課題を社会情勢の変遷と生活や環境の変化に伴う健康課題と看護職の役割を議論する。 予習：地域看護学領域において現状および課題について論議したい点を整理しておく。 復習：講義をふまえて、今後の地域看護学のあり方について考察する。	草野
4～5	地域看護学領域の現状と課題	地域看護領域のおける健康危機管理と人権問題に関わるこどもや高齢者の虐待を取り上げ、看護職の役割を議論する。 予習：虐待の問題に関して調べ課題を整理しておく。 復習：講義をふまえて、看護職の役割を考察する。	中原

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
6〜7	地域看護学領域における諸理論の活用（プレゼンテーション・ディスカッション）	地域看護学領域で活用できる諸理論について理解する。 地域看護学領域で活用できる諸理論の効果的な活用法について、事例をもとにプレゼンテーションし、議論する。 予習：保健行動について調べておく。 復習：討議をふまえて事例検討の結果をまとめる。	草野 山埜 中原
8〜9	地域を基盤とする健康推進活動	住民に身近な健康課題に対応する市町村保健活動等をとりあげ、一次予防を重視した健康推進活動における看護の役割について議論する。地域を基盤とする住民主体の健康づくり活動をとりあげ、看護職の役割および住民との協働について議論する。 予習：市町村保健センターの健康増進活動について調べておく。 復習：講義をふまえ、健康増進や住民主体の健康づくり活動における看護職の役割について考察する。	山埜
10〜11	産業衛生分野の健康課題	成人期の生活習慣病、メンタルヘルスの特徴を理解し、健康の維持増進と快適な労働状況の両立のための産業保健を理解する。 予習：産業衛生分野の健康課題に関して調べておく。 復習：講義の内容をふまえて、法的根拠や健康増進活動についてまとめておる。	土手
12〜13	産業保健分野における保健活動	産業保健分野における健康教育、保健指導、健康相談などの健康増進に向けた保健活動の実践的方法を思考する。 予習：労働者の健康管理について調べておく。 復習：講義の内容をふまえて、保健指導や看護職の役割についてまとめる。	土手
14〜15	まとめ	関心領域の現状と課題を討議する。 予習：関心領域の現状と課題をプレゼンテーションする。 復習：討議した内容をふまえて、解決策をレポート提出する。	草野 山埜 中原

授業科目名	地域ケアシステム特論				
授業科目（英）	Advanced Community Health Care System				
教員名	草野　恵美子、山埜　ふみ恵、中原　洋子、土手　友太郎				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	後期	開講曜日	月曜6限、月曜7限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	地域全体のQOLの向上を目指した様々な地域ケアおよび支援体制の仕組みやケアシステム構築に必要な理論と発展過程について理解する。また、地域ケアシステム構築に必要な地域特性の分析や、地域保健活動において健康関連資料の情報収集、健康特性の分析や保健活動の計画・評価に必要な疫学的調査方法および解析・評価方法について習得する。				
行動目標	1. 地域看護活動における地域ケアシステムの構築と看護職の役割を考察できる。 2. 地域の健康課題を明確にするための情報収集と分析方法を習得できる。 3. 地域の健康課題を解決するための計画立案と評価方法について考察できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	論理的・批判的思考力、高い倫理観				
評価並びにフィードバック法	授業への参加度および貢献度、プレゼンテーション、レポートなど総合的に判断する。事前課題や疑問等へのフィードバックは、講義の中で解説を行っていく。				
教科書	適時、紹介する				
参考書	適時、紹介する				
事前準備受講要件等	予定されている講義内容について関連文献の準備、事前学習した上で参加する。 予習・復習は60分以上とする。 一部、プレゼンテーションなどアクティブ・ラーニングを行う。				
オフィスアワー	月曜日　17時～18時				
SDGsとの関連	3, 4, 16				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～2	地域ケアシステム概論 ネットワーク構築と看護職の役割	地域ケアシステムの変遷と理念と目的や理論と看護職の役割について議論する。事例を通して、具体的なネットワークの展開方法と評価および発展過程と看護職の役割について議論する。 予習：地域ケアシステムの取り組みについて調べておく。 復習：地域ケアシステムにおける看護職の役割について考察する。	草野
3～4	グループ育成と組織化における看護の役割 コミュニティ・エンパワメント	グループの育成と自主化への支援、さらに地域の健康課題解決に向けた組織化への支援について理解する。地域組織の発展を支援するための基盤となる理論の1つとしてコミュニティ・エンパワメントをとりあげ、具体的事例を用いてその考え方の活用方法について議論する。 予習：地域におけるグループ活動について調べておく。 復習：討議の内容をふまえ、グループや組織活動における看護職の役割を整理する。	山埜

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
5～6	地域組織の発展過程と看護の役割	潜在的健康課題が、地域全体の顕在的健康課題として住民によって意識化され、住民自身が実行にうつす意思決定をするまでの過程について理解するとともに、看護の役割について講義する。地域組織が活動を開始し、より主体性の高い活動へ展開され、地域全体への波及効果を及ぼす過程について理解し、看護の役割および地域組織との協働について議論する。 予習：地域組織の種類や内容等調べておく。 復習：地域組織の活動目的と発展過程および看護職の役割について整理する。	中原
7～9	地域組織による健康への効果・地域ケアシステムの施策化に関するプレゼンテーションとディスカッション	地域組織が及ぼす健康づくりへの効果や地域ケアシステムの施策化に関してディスカッションし、理解を深める。 受講者の専門分野に関して必要とされる地域ケアシステムに関するプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。 予習：地域における総合計画や保健計画等を調べておく。 復習：講義をふまえ、地域ケアシステムの位置づけをまとめる。	草野 山埜 中原
10～11	健康関連資料の情報収集と分析および地域保健活動の計画・評価方法に関するプレゼンテーションとディスカッション	地域保健活動を立案し、計画を実践するため、先行研究や関連資料から地域ケアシステムの状況、効果および問題点を把握する。地域住民の健康上の利益を目的とする保健活動計画とその評価方法について、保健、医療、福祉に関する地域ケアの視点から思考する。 受講者の専門分野に関して必要とされる保健活動計画とその評価に関するプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。 予習：地域ケアシステムに関する文献を検索し、読んでおく。 復習：文献や講義をふまえて地域ケアシステムに関する課題をまとめる。	草野 山埜 中原
12～13	疫学的調査方法 調査結果の解析・評価方法	個人情報保護や利益相反などの疫学調査の原則に基づき、調査に必要な対象選択の方法と調査方法に関する統計学の知識と技術について理解を深める。 調査結果から対象集団の特徴の把握と母集団へ推定のために必要な標本抽出方法、記述統計学、推測統計学、多変量解析法の活用などを修得する。 予習：地域看護研究における調査研究の位置づけを明確にしておく。 復習：講義をふまえて、復習をしておく。	土手
14～15	プレゼンテーション、まとめ	以上の学修を通して、地域全体の QOL の向上に向けた方法や看護職の役割について、課題と対策について討議する。 予習：地域ケアについて、現状と課題をまとめておく。 復習：討議内容をまとめてレポートを提出する。	草野 山埜 中原

授業科目名	地域看護学演習				
授業科目（英）	Advanced Community Health Nursing Practice				
教員名	草野　恵美子、土手　友太郎、中原　洋子、山埜　ふみ恵				
単位数	2	時間数	60	学年	1
開講期	後期～前期	開講曜日	2025 年度 後期（火曜 6 限、火曜 7 限）、2026 年度 前期（火曜 6 限、火曜 7 限）		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	国内外の最近の研究動向や看護における現状と課題やトピックスについての文献検討を行い、各自の研究テーマと関連させ、そのテーマを検証する方法を探求する。 行政や職域など地域看護活動のフィールドワークを通して、地域看護活動の現状と課題についてまとめ、対策について考究する。また、必要時には関連分野の教員がアドバイザーとなって参加する。				
行動目標	1. 地域看護学領域における関心領域の文献検討から現状と課題について考察できる。 2. 関心領域の系統的文献検討およびクリティークから研究テーマを精選できる。 3. 研究テーマに関連したフィールドにて情報収集を行い、現状と課題を考察する。				
ディプロマポリシーのキーワード	看護実践の発展への寄与、倫理観				
評価並びにフィードバック法	授業への取り組み、レポートまたは発表内容より総合的に行う。事前課題や疑問等へのフィードバックは、演習の中で解説を行っていく。				
教科書	適時、紹介する。				
参考書	適時、紹介する。				
事前準備受講要件等	予定されている内容について、関連文献の準備や事前学習をした上で参加する。 予習・復習は 60 分以上とする。 アクティブラーニングにより行う。				
オフィスアワー	月曜日　16 時～17 時				
SDGs との関連	3, 4, 16				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～2	オリエンテーション 地域看護の基本理念と研究の動向	地域看護の基本理念と最近の研究動向について、論議する。 予習：地域看護領域の研究動向を文献で調べる。 復習：討議内容をふまえて、さらに関連文献で理解を深める。	草野 山埜 中原
3～4	地域看護学における関心領域の健康課題の文献検討	地域住民の発達段階と健康レベルに応じ対象特性、健康課題および支援方法について、国内外の文献を収集し、分析しディスカッションを行う。 予習：関心領域の文献を準備 復習：討議内容をふまえ、さらに関連文献で理解を深める。 行政領域：草野 産業領域：土手	土手 草野 山埜 中原
5～8	関心領域の健康課題や重要な課題の抽出	関心領域における健康課題について系統的文献検討を行い、健康課題を分析、抽出する。 予習：関心領域の文献の収集 復習：討議内容をふまえ、さらに関連文献で理解を深める。	土手 草野 山埜 中原

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
9～10	研究課題の精選	各自関心領域の健康課題に関連する系統的文献検討を行い、クリティークを行う。 研究テーマを絞り込む。 予習：クリティークの準備 復習：討議をふまえ、さらに関連文献等で理解を深める。	土手 草野 山埜 中原
11～13	研究課題に適した研究対象・方法の検討	各自の研究課題と研究枠組みを明確にするための討議を行う。 予習：討議内容の準備 復習：討議をふまえて、関連文献等でレポートする。	土手 草野 山埜 中原
14～16	研究に必要な諸条件の整備	演習や研究が実践できるように地域や対象との調整を行う。 予習：研究課題の対象を理解するための情報収集をする。 復習：学習内容を確認し、連絡調整を行う。	土手 草野 山埜 中原
17～22	関心領域の関係機関を選定し、フィールドにおける演習	演習先の保健所、保健センター、地域包括支援センター、企業の健康管理部門、・医療機関の地域医療部門･連携部門、健診センター、訪問看護ステーションなどの現状を把握するための既存資料の収集と事業への参加および組織管理者と看護職等からの情報収集を行い考察する。 予習：演習目的を理解し、その目的を達成するための準備をする。 復習：演習で得た結果をまとめる。	土手 草野 山埜 中原
23～26	フィールドにおける演習結果の分析を通して、地域で実践されている看護技術や健康支援技術および分析検討	各自関心があるテーマに対して、文献検討、フィールド演習を通して得た知見を統合し、地域看護における看護実践や、地域看護技術の改善、ヘルスプロモーション活動や保健医療福祉のネットワークやシステム構築などについて発展的に討論する。 予習：演習で得た結果を分析し、報告する。 復習：討論で得た結果をまとめ、考察する。	土手 草野 山埜 中原
27～30	プレゼンテーションと討議	各自の研究課題と研究枠組みを明確にするため討議を行う。 予習：プレゼンテーションの準備をする。 復習：討議で得た結果をまとめ、考察する。	土手 草野 山埜 中原

授業科目名	在宅看護学特論Ⅰ				
授業科目（英）	Theory of Home Care Nursing Ⅰ				
教員名	真継　和子、伊藤　真理、大橋　尚弘				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期	開講曜日	火曜6限、火曜7限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	在宅看護の変遷と課題、在宅看護の役割・機能について探究する。さらに、在宅療養者と家族を理解する際に必要となる概念や理論、モデルを学び、その適用と限界について考究し、在宅看護実践における新たな理論開発への視点を養う。また、在宅療養者と家族をとりまく保健医療福祉制度や在宅看護実践の現状と課題について探究し、在宅看護の質向上に向けた方略について検討する。				
行動目標	①在宅医療をとりまく社会状況と在宅看護の役割・機能について概説できる。 ②在宅療養者と家族を支援するための基盤となる概念、理論、モデルを説明できる。 ③在宅医療における多職種連携・協働の必要性と看護職の役割について説明できる。 ④在宅医療をとりまく制度について概説するとともに、在宅療養者やその家族が直面している状況や課題を考察できる。 ⑤在宅看護の質向上に向けての課題と方策について考察できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、教育実践力、課題探求・研究遂行力				
評価並びにフィードバック法	プレゼンテーション、レポート、クラス討議での貢献度により総合的に評価する。 フィードバックはその都度、講義内で行う。				
教科書	配布資料				
参考書	適宜紹介する				
事前準備受講要件等	学習内容を確認し、関連文献の準備、事前学習をしたうえで参加してください。プレゼンテーションとディスカッションを行います。予習、復習時間は60分以上とします。				
オフィスアワー	火曜日 18:00～21:00（随時、メール予約可）				
SDGsとの関連	3, 16, 17				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～2	在宅医療・ケアにおける法的規制と制度の現状と課題	在宅医療・ケアの歴史的・社会的変遷、在宅看護の目的・意義、在宅看護実践における課題 予習：在宅看護実践における課題、議論したい点を整理しておく 復習：議論をふまえ、社会の変化を見据え求められる在宅看護の役割について考察する	真継
3～4	在宅医療・ケアにおける法的規制と制度の現状と課題	少子超高齢社会における社会保障制度、地域包括ケアシステムの動向と課題、特定地域における地域課題及びニーズと課題解決に向けた提案 予習：関心ある地域の地域課題びニースを査定し、地域包括ケア推進に向けた現状と課題を整理しておく 復習：議論をふまえ、地域包括ケアにおける看護職の役割と機能について考察する	真継

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
5	在宅医療・ケアにおける多職種連携・協働（1）	在宅ケアにおける多職種連携実践（IPW）・多職種協働（IPC）、多職種連携教育（IPE）の歴史的背景、定義、IPW/IPC に必要となるコンピテンシー 予習：IPW/IPC/IPE の定義、IPW/IPC に必要となるコンピテンシーについて調べる 復習：在宅ケアにおける多職種連携・協働の意義と看護職の果たす役割についてまとめる	大橋
6	在宅医療・ケアにおける多職種連携・協働（2）	地域包括ケアシステムにおける地域連携とチームアプローチ、多職種連携の実際と課題、課題解決に向けた方略 予習：在宅ケアにおける多職種連携・協働を関連した事例を調べる 復習：討議をふまえ､在宅ケアにおいて多職種連携･協働を行う上での課題の解決方法を考察しまとめる	大橋
7～8	在宅療養者と家族の現状と課題	在宅療養者とその家族がかかえる課題と支援 予習：在宅療養者と家族がかかえる問題について整理しておく 復習：講義をふまえて、看護職の役割について考察しまとめる	真継
9	在宅看護実践への理論の応用（1）	医療モデルと生活モデル､国際生活機能分類（ICF） 予習：医療モデルと生活モデルについて調べ整理しておく 復習：生活モデルの事例適用をまとめる	真継
10～11	在宅看護実践への理論の応用（2）	ケアリングの定義、ケアの要素、看護実践とケアリング 予習：ケアリングの概念、ケアにおける要素について整理しておく 復習：ケアリングの概念、理論を用いた文献を読み理解を深め、事例適用についてまとめる	伊藤
12	在宅看護実践への理論の応用（3）	オレムのセルフケア理論 予習：セルフケア理論について整理しておく 復習：セルフケア理論の事例適用をまとめる	伊藤
13	在宅看護実践への理論の応用（4）	ヘルスビリーフモデル、行動変容ステージモデル 予習：保健行動理論について整理しておく 復習：ヘルスビリーフモデル、行動変容ステージモデルの事例適用をまとめる	真継
14	在宅看護実践への理論の応用（5）	ストレングス、レジリエンス 予習：ストレングス、レジリエンスについて整理しておく 復習：ストレングス、レジリエンスの事例適用をまとめる	真継
15	在宅看護実践への理論の応用（6）	エンパワメント、セルフエフィカシー、パートナーシップ 予習：エンパワメント、セルフエフィカシー、パートナーシップについて整理しておく 復習：討議をふまえ､エンパワメント､セルフエフィカシー、パートナーシップについて理解を深め、看護職のあり方について整理する	真継

授業科目名	在宅看護学特論Ⅱ				
授業科目（英）	Theory of Home Care Nursing Ⅱ				
教員名	真継　和子、伊藤　真理、大橋　尚弘、原田　かおる、中村　敏明（兼）、 平山　五月（非）、西　依見子（非）、守屋　有紀子（非）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	後期	開講曜日	火曜 6 限、火曜 7 限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	在宅療養者の療養生活を支援するために必要な知識と理論を活用し、在宅療養者と家族を包括的にアセスメントするための方略と援助方法を探求する。在宅療養者の代表的な疾患、障害を中心に、治療と管理、援助方法について理解し、在宅看護の役割や多職種連携と調整における看護の役割を探求する。				
行動目標	①在宅療養者とその家族を理解するための理論やモデルについて概説できる。 ②在宅療養者の代表的な疾患の病態、治療、基本的な看護について説明できる。 ③在宅療養者とその家族がかかえる問題を特定し、問題解決に向けた調整、方策を検討し提示できる。 ④社会状況をふまえエンド・オブ・ライフケアやアドバンスト・ケア・プランニングのあり方と看護の役割について考察できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、教育実践力、課題探求・研究遂行力				
評価並びにフィードバック法	プレゼンテーション、レポート、クラス討議への貢献度により総合的に評価する。フィードバックはその都度、講義内で行う。				
教科書	配布資料、適宜紹介する				
参考書	適宜紹介する				
事前準備受講要件等	学習内容を確認し、関連文献の準備、事前学習をしたうえで参加してください。プレゼンテーション、ディスカッションで進めます。予習、復習時間は 60 分以上とします。				
オフィスアワー	火曜日 18:00～21:00（随時、メール予約可）				
SDGs との関連	3, 17				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～2	オリエンテーション 長期介護が必要となった療養者と家族の理解と支援	在宅看護の特徴、介護の長期化がもたらす療養者及び家族への影響、ケアの社会化 予習：家族介護者をとりまく現状と課題について整理し、議論したい点についてまとめておく 復習：討議をふまえ、長期介護が必要とされる療養者と家族への支援について考察しまとめる	真継
3～4	難病療養者と家族の理解と支援	難病の理解（定義、難病対策の変遷）、難病療養者を支える在宅ケアシステム、難病療養者と家族への看護（病状進行と療養者の心理、意思決定支援、緩和ケア、セルフケア等）、地域ネットワーク構築にむけた活動のあり方 予習：難病療養者の在宅ケアシステムの現状と課題を整理し、議論したい点についてまとめておく 復習：討議をふまえ、難病療養者と家族の支援について考察しまとめる	守屋

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
5～6	認知症療養者と家族の理解と支援	認知症の症状アセスメント、認知症の特性や病態、認知症療養者の心理・社会面、生活面からのアセスメント、認知症療養者と家族の地域生活を継続するために必要な症状マネジメント､生活支援､地域ネットワーク構築にむけた活動のあり方 予習：課題事例のアセスメントをする 復習：討議をふまえ事例を整理し、認知症療養者と家族への支援について考察しまとめる	原田
7～8	重症心身障害児と家族の理解と支援	重症心身障害児と家族の理解、重症心身障害児の看護の基本と合併症に対する看護、重症心身障害児を支える在宅ケアシステム、在宅移行支援、家族支援 予習：重症心身障害児とは、親の障害受容のプロセス、家族の生活への影響、重症児を支えるケアシステム、社会資源について整理する 復習：討議をふまえ事例を整理し、重症心身障害児と家族の在宅移行に向けた看護の役割について考察しまとめる	平山
9～10	精神障害のある療養者と家族への支援	精神障害の理解、精神障害者を支える在宅ケアシステム、精神障害者ケア 予習：精神障害者を支える制度について調べる 復習：討議をふまえ事例を整理し、精神障害のある療養者と家族への訪問看護の役割と機能について整理する	大橋
11～12	摂食・嚥下障害のある高齢者と家族への支援	摂食・嚥下機能のアセスメントと栄養評価、摂食・嚥下に関連した多職種連携とチームアプローチ 予習：摂食嚥下機能に関するアセスメントについて調べ、提示した事例の健康課題についてまとめる 復習：討議をふまえ、摂食嚥下障害を有する療養者と家族への支援についてまとめる	西
13	在宅における服薬管理の現状と課題	在宅における多剤投与の現状と課題、在宅療養における服薬支援 予習：療養者の服薬アドヒアランスと影響要因を調べる 復習：在宅療養における服薬支援について整理する	中村
14	がん療養者と家族への支援	がん療養者に特有な症状および緩和ケア、在宅におけるがん看護の特徴と看護の役割 予習：がん患者に特有な症状について整理するとともに、在宅がん療養者をめぐる課題についてまとめておく。 復習：討議をふまえ、在宅がん療養者と家族への支援についてまとめる	守屋
15	在宅看護とエンド・オブ・ライフケア	エンド・オブ・ライフへのアプローチ、エンド・オブ・ライフを支える在宅ケアシステム、アドバンスト・ケア・プランニング、グリーフケア 予習：在宅看取りにおける看護の役割について整理する 復習：在宅看取りの現状と課題について整理する	伊藤

授業科目名	在宅看護学演習				
授業科目（英）	Seminar of Home Care Nursing				
教員名	真継　和子、伊藤　真理、大橋　尚弘、原田　かおる、寺井　美峰子（非）				
単位数	2	時間数	60	学年	1
開講期	後期～前期	開講曜日	集中講義		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	在宅看護に関する国内外の研究動向、在宅看護実践や保健医療福祉システム等の現状について文献検討を行い、在宅看護の現状と課題、対策について考究する。さらに、各自の関心ある在宅看護実践の現象について、フィールドワークを通じてその現象の意味や看護実践のあり方、研究課題を検討し、研究方法と研究を進めるための能力を養う。				
行動目標	①在宅医療、在宅看護に関する文献をクリティークできる。 ②在宅看護をとりまく現状と課題について概説できる。 ③関心ある在宅看護実践の現象について概念化できる基礎的能力を身につける。 ④課題探求におけるフィールドワークの展開について概説できる。 ⑤自己の研究課題の明確化と探究方法について言語化できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、教育実践力、課題探求・研究遂行力				
評価並びにフィードバック法	プレゼンテーション､レポート､クラス討議への参加度により総合的に評価する。フィードバックはその都度、講義内で行う。				
教科書	配布資料、適宜紹介する				
参考書	長江弘子編集．生活と医療を統合する継続看護マネジメント 第２版．医歯薬出版株式会社．2018 その他、適宜紹介する				
事前準備受講要件等	講義内容を確認し、関連文献の準備、事前学習をしたうえで参加してください 予習・復習時間は 60 分以上とします				
オフィスアワー	講義内容を確認し、関連文献の準備、事前学習をしたうえで参加してください				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	オリエンテーション 在宅看護における研究動向	演習のすすめ方、在宅看護の研究動向、フィールドワークにおける課題の明確化 予習：在宅看護の研究動向を概観し、在宅看護場面において関心のある現象を整理する 復習：自己の関心ある現象を概念化する	真継
2～4	継続看護マネジメント	継続看護マネジメントの概念、構成要素、継続看護マネジメント適用場面と実践のポイント、看護基礎教育・現任教育への適用 予習：概念開発に関する資料を熟読するとともに、継続看護マネジメントの目的と意義を整理する 復習：討議内容をふまえ、看護実践および教育実践への活用を考察しまとめる	伊藤
5～6	在宅での意思決定支援	在宅療養における治療と療養場所の選択、療養者と家族の意思決定支援と課題 予習：在宅療養者と家族の意思決定に関する研究論文を探し、プレゼンテーションの資料を作成する 復習：在宅療養者と家族の意思決定支援のおける看護の役割について整理する	伊藤

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
7～8	在宅看護を担う人材育成における現状と課題	在宅看護をとりまく状況と人材確保に向けた施策及び、現状と課題、人材育成に向けた取り組みの実際 予習：在宅看護を担う人材確保における現状と課題について整理し、議論したい点を整理しておく 復習：討議内容をふまえ、人材育成及び確保に向けた方策を考察しまとめる	原田
9～10	在宅療養者と家族の生活体験（1）	他者の体験を知ることの意味とその方法、フィールドワークの計画立案 予習：体験とは何かについて文献を用いて整理する 復習：方法論の理解を深め、計画を修正する	真継
11～13	在宅療養者と家族の生活体験（2）	計画書に沿ったフィールドワークとまとめ 予習：フィールドワークの発表準備 復習：討論をふまえ、フィールドワークのレポートをまとめる	真継
14～16	在宅看護の質評価	看護の質評価と枠組み、質評価に関する各機関と評価方法の特徴，質の評価・測定と改善 予習：看護の質評価の意義と評価方法をまとめる 復習：討議をふまえ提示事例について理解を深め、質改善や改革に向けた方策についてまとめる	寺井
17～18	在宅療養者の療養支援に関する研究課題の明確化	在宅療養者の療養支援に関する研究のクリティーク、概念／理論の探求・分析 予習：在宅療養者の療養支援が焦点となる文献クリティーク 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で深める	大橋
19～20	在宅における家族支援に関する研究課題の明確化	在宅療養者の家族支援に関する研究のクリティーク、概念／理論の探求・分析 予習：在宅療養者の家族が焦点となる文献クリティーク 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で深める	真継
21～22	自己の研究課題に関する論文のクリティーク（1）	自己の課題学習とプレゼンテーション 予習：在宅看護、在宅看護学研究に関する関心領域の文献を検索し、論文クリティークをしてプレゼンテーションの準備をする 復習：論文の課題をまとめる	真継
23～24	自己の研究課題に関する論文のクリティーク（2）	自己の課題学習とプレゼンテーション 予習：在宅看護、在宅看護学研究に関する関心領域の文献を検索し、論文クリティークをしてプレゼンテーションの準備をする 復習：論文の課題をまとめる	真継
25～26	ケアマネジメントの現状と課題	ケアマネジメントの定義、ケアマネジメントの現状と課題、ケアマネジメントにおける看護の役割、ケアプランの作成 予習：ケアマネジメントについて調べる 復習：講義内容をふまえ提示事例のケアプランを追加修正する	大橋

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
27～28	在宅での住環境整備	居住環境と療養生活、住居と住まい方、住環境改善と制度 予習：在宅療養者にとっての望ましい住環境の条件について整理する 復習：療養環境と療養者および家族の QOL の関係について整理する	真継
29～30	自己の研究課題に関するプレゼンテーション	自己の研究課題に関するプレゼンテーション 予習：プレゼンテーションの準備をする 復習：討議をふまえ研究課題についてまとめる	真継

授業科目名	ヘルスプロモーション論				
授業科目（英）	Health Promotion				
教員名	草野　恵美子、真継　和子、鈴木　美佐、寺口 佐與子、山埜　ふみ恵、 中原　洋子、上杉　裕子（非）、西原　望（兼）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期	開講曜日	月曜 6 限、月曜 7 限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	ヘルスプロモーションの概念、その活動方法とプロセスについて理解し、疾病予防管理および健康づくりにおけるヘルスプロモーションの展開方法を学修する。また、地域特性や健康課題をふまえた看護実践活動において、ヘルスプロモーションの方法論を活用したさまざまな実践の場におけるヘルスプロモーションの展開と特徴を理解するとともに、実践していくうえでの看護の役割や課題について探究する。				
行動目標	1. ヘルスプロモーションの歴史的・理論的背景、基本的な考え方について説明できる。 2. 地域における健康増進、疫学、疾病予防の必要性について説明できる。 3. ヘルスプロモーションの具体的な展開方法とその特徴を説明できる。 4. ヘルスプロモーションにおけるナースプラクティショナーとしての役割と機能について考察できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、高度な看護実践力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	クラス討議への参加度および貢献度、プレゼンテーション、レポートなどにより総合的に評価する。				
教科書	適宜紹介する				
参考書	適宜紹介する				
事前準備受講要件等	予習と復習を行うこと、予習・復習は 60 分以上とする 一部、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを行う。				
オフィスアワー	授業日の 12～13 時および授業後				
SDGs との関連	3, 17				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	健康の概念とヘルスプロモーションの基本的な考え方	健康の概念とヘルスプロモーションの基本的な考え方 1. 健康の概念と健康へのアプローチの変遷 2. 健康になるための戦略としてのヘルスプロモーション 予習：健康への対策の変遷について調べる 復習：学習内容に関連する文献で理解を深める	草野
2	※オンデマンド形式で実施 ヘルスプロモーションの概念	ヘルスプロモーションの概念 1. ヘルスプロモーションの定義と概念 2. わが国におけるヘルスプロモーションの取り組み 予習：ヘルスプロモーションの概念について調べる 復習：学習内容に関連する文献で理解を深める	草野
3	ヘルスプロモーションの実現のための戦略	ヘルスプロモーションの実現のための戦略 1. オタワ憲章における基本戦略 2. ヘルスプロモーションの実現をはかるアプローチ方法 予習：ヘルスプロモーションの戦略について調べる 復習：学習内容に関連する文献で理解を深める	山埜

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
4	ヘルスプロモーションの実現のための活動	ヘルスプロモーションの実現のための活動 1. ヘルスプロモーションの活動領域 2. ヘルスプロモーションと看護活動 予習：ヘルスプロモーションの活動領域について調べる 復習：学習内容に関連する文献で理解を深める	中原
5	※オンデマンド形式で実施 ヘルスプロモーション活動の展開	ヘルスプロモーション活動の展開方法 1. ヘルスプロモーション活動に活用可能なモデルや理論 2. アセスメントと計画の立案 予習：PRECEDE-PROCEED モデルや保健行動に関する理論について調べる 復習：学習内容に関連する文献で理解を深める	草野
6	ヘルスプロモーションの評価	ヘルスプロモーションの評価と指標 1. 評価の目的と種類 2. 評価方法と指標 予習：ヘルスプロモーションの評価指標について調べる 復習：学習内容に関連する文献で理解を深める	草野
7	ヘルスプロモーションと健康増進・疾病予防（1）	ヘルスプロモーションの視点にもとづいた健康増進、疾病予防 1. 健康教育と行動変容 2. 感染症と一次予防、防災対策 予習：行動変容理論、予防の概念について調べる 復習：ヘルスプロモーションの視点から提示事例の課題を整理する	山埜
8	ヘルスプロモーションと健康増進・疾病予防（2）	ヘルスプロモーションの視点にもとづいた健康増進、疾病予防 1. 生活習慣と疾病予防 2. 生活習慣病と慢性疾患の管理 予習：高度実践看護師の役割機能について調べる 復習：ヘルスプロモーションの視点に基づき、提示事例の課題を整理する	西原
9	ヘルスプロモーションと健康格差（1）	健康格差の現状分析とその生成プロセス 1. 健康格差の現状とその背景 2. ライフコースからみた健康格差 予習：世界に起きている健康格差について調べる 復習：学習内容に関連する文献で理解を深める	上杉
10	ヘルスプロモーションと健康格差（2）	健康格差の現状分析とその生成プロセス 1. 健康の社会的決定要因の構造と健康格差 2. 健康格差への対応（WHO、健康格差対策の 7 原則） 予習：健康格差対策の 7 原則について調べる 復習：健康格差に関する提示課題を考察しレポートをまとめる	上杉

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
11	ヘルスプロモーションの実際（1）	ライフステージに応じたヘルスプロモーションの実際 1. 乳幼児期･学童期･思春期におけるヘルスプロモーションと保健指導 2. 発達段階に応じたセルフケアの獲得と教育機関との連携 予習：発達段階と小児期に多い健康障害を調べる 復習：慢性疾患のある学童の自己管理についてまとめる	鈴木
12	ヘルスプロモーションの実際（2）	ライフステージに応じたヘルスプロモーションの実際 1. 成人の検診と保健指導 2. がん検診と保健指導 予習：成人の検診、がん検診それぞれの種類と指導内容を調べる 復習：学習内容を整理し、理解を深める	寺口
13	ヘルスプロモーションの実際（3）	ライフステージに応じたヘルスプロモーションの実際 1. 高齢者と生きがい 2. 高齢者における住民主体の健康づくり 3. アドバンスト・ケア・プランニングの推進と課題 予習：高齢者の地域での生活ニーズとヘルスニーズについて整理する 復習：ヘルスプロモーションの視点にたった高齢者への健康的支援、環境的支援について理解を深める	真継
14	ヘルスプロモーションの実際（4）	受講者それぞれの興味のあるテーマに沿って、地域（組織）で実際に取り組まれている健康づくり計画や活動を取り上げ、ヘルスプロモーションの理念に基づいて現状と課題を明らかにし、改善策を検討する。 予習：文献検索し、プレゼンテーションの準備をする 復習：発表と討議の内容をまとめる	草野 真継 寺口
15	まとめ	ナースプラクティショナーが活動する際に、ヘルスプロモーションの考え方や技法がどのように活用できるかディスカッションし、ナースプラクティショナーとしての役割や機能についてまとめる。 予習：プレゼンテーションの準備をする 復習：発表と討議をもとにナースプラクティショナーとしての役割・機能を考察しレポートにまとめる	草野 真継 寺口

授業科目名	医療の質保証と安全管理				
授業科目（英）	Quality Assurances in Healthcare and Patient Safety				
教員名	真継　和子、飛田　伊都子、寺井　美峰子（非）、松上　美由紀（兼）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	通年	開講曜日	前期（木曜6限、木曜7限）、後期（木曜6限、木曜7限）		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	質の高い医療、ケアを提供するための医療倫理、医療安全の基本や体系的な取り組み、リスクマネジメントの理論と対策について学び、プライマリケア看護における高度実践看護者としての質の高い看護実践と評価、安全管理について考察する。				
行動目標	1. 医療の質保証における医療倫理の必要性について説明できる。 2. 医療の質評価、看護の質評価の歴史を理解する。 3. 質評価に関する主要な指標と評価方法及び評価組織について理解する。 4. 医療の質と患者アウトカム、医療経済との関係を理解する。 5. 医療安全（安全管理）におけるリスクとリスクマネジメントについて説明できる。 6. 医療の質保証と医療安全（安全管理）の観点から、プライマリケア看護におけるナースプラクティショナーとしての質の高い看護実践と評価、安全管理について説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	クラス討議への参加度および貢献度、プレゼンテーション、レポートなどにより総合的に評価する。				
教科書	Avedis Donabedian: 医療の質の定義と評価方法，認定 NPO 法人健康医療評価研究機構、2007.				
参考書	随時、紹介				
事前準備受講要件等	予習、復習は 60 分以上。				
オフィスアワー	授業日の 12～13 時と授業後				
SDGs との関連	3，8				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	医療・看護の質評価（1）	医療・看護の質評価 1. 質とは何か 2. 医療の質保証と医療倫理 3. 医療・看護の質評価の歴史 4. チーム医療と質評価 予習：教科書を読む 復習：レポートをまとめる	飛田
2	医療・看護の質評価（2）	医療・看護の質評価 1. 医療の質 2. 看護の質（看護の可視化と質評価） 予習：教科書、提供した資料を読む 復習：レポートをまとめる	飛田
3	質評価の指標	質評価の指標とその作成プロセス 1. 質評価指標とは 2. 質評価指標の作成プロセス 予習：提供した資料を読む 復習：レポートをまとめる	飛田
4	質評価の評価方法	質評価の枠組み 予習：質評価の”評価方法”について情報収集を行う 復習：質評価の枠組み、”評価方法”について理解したことを整理する	寺井

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
5	医療・看護の質の測定と改善（1）	医療・看護の質評価に関する機関と評価方法の特徴 1. 臨床指標を用いた質評価 2. 日本医療機能評価機構 予習：質評価に関する各機関と評価方法の特徴について、情報収集を行う 復習：質評価に関する各機関と評価方法の特徴、質の評価・測定と改善の方策について、理解したことを整理する	寺井
6	医療・看護の質の測定と改善（2）	医療・看護の質評価に関する機関と評価方法の特徴 1. 米国 AHRQ（Agency for Healthcare Research and Quality） 2. 米国質評価組織 JC（Joint Commission） 予習：質評価に関する各機関と評価方法の特徴について、情報収集を行う 復習：・質評価指標を用いたベンチマークと改善について、理解したことと整理する。医療・看護の質の測定・評価と改善について、所属組織の実際の取組み状況を確認する	寺井
7	医療の場における事故と質評価（1）	事故発生の背景と医療・看護の質評価 1. インシデント／アクシデントとは 2. インシデント／アクシデント発生の背景 予習：組織の医療安全システム、事故発生の背景についてまとめる 復習：インシデント・アクシデント　用語の定義、ハインリッヒの法則について理解を深める	松上
8	医療の場における事故と質評価（2）	事故発生の背景と医療・看護の質評価 1. インシデントと医療・看護の質評価の関係 予習：自施設（部署）の安全文化について意見をまとめる 復習：安全文化醸成についてまとめる	松上
9	安全管理とリスクマネジメント（1）	リスクマネジメントの考え方とリスク関連指標 1. リスクアセスメント 2. リスク関連指標と指標の解釈 予習：リスクマネジメントの関連指標について整理する。ヒューマンエラーに関連する定義についてまとめる 復習：ヒューマンエラー、人間の特性についてまとめる	松上
10	安全管理とリスクマネジメント（2）	リスクマネジメントの考え方とリスク関連指標 1. リスクマネジメントとその必要性 2. リスクマネジメントの原則と指針 3. リスクマメジメントのプロセス 予習：チーム医療が医療安全にどのように貢献できるか整理する。患者が医療に参加する意味について、自身の考えをまとめる 復習：チーム医療に関する考え方、スキルについてまとめる	松上

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
11～12	事例検討	インシデント・アクシデントの分析と対応 1. RCA（Root Cause Analysis）による分析 2. 因果関係図作成のポイント 3. 対策の立案 予習：「RCA 分析」について整理する。演習問題について整理する 復習：RCA 分析について理解を深める	松上 真継
13	看護の質評価と実際（1）	質評価手法の開発に関する文献のクリティークと活用 1. 臨床現場で活用しやすい評価結果・評価データに関する文献の紹介とクリティーク 2. 関心領域における活用の検討 予習：看護の質評価に関する文献をクリティークする 復習：ディスカッション内容をふまえ、臨床への応用と課題についてまとめる	真継
14	看護の質評価と実際（2）	質評価と臨床への応用（リコメンデーションと変革） 1. 指標の読み取り 2. 改善のためのリコメンデーションにおける基本的姿勢 予習：提示資料を分析し、改善点をまとめる 復習：看護の質改善に向けた評価、リコメンデーションについて理解を深める	真継
15	まとめ	ナースプラクティショナーの役割としての質改善とその方法（医療の質向上に向けた臨床倫理問題への対応と体制整備、組織コンサルテーションなど）について学ぶ。 予習：講義内容をふまえ、課題レポートを作成する 復習：ディスカッションをふまえ、レポートをまとめる	真継

授業科目名	プライマリケア看護学特論Ⅰ				
授業科目（英）	Theory of Primary Care Nursing Ⅰ				
教員名	真継　和子、寺口　佐與子、大橋　尚宏、橋本　スティーブン（非）、 松本　陽子（非）、中村　泉美（非）、守屋　有紀子（非）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期	開講曜日	月曜6限、月曜7限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	プライマリ・ケアの理念と機能、わが国の保健・医療システムにおけるプライマリ・ケアの位置づけについて学ぶとともに、国内外におけるナースプラクティショナーをめぐる背景とそれぞれの実践活動から、わが国の高度実践看護師としてのナースプラクティショナーに求められる能力・役割について探究する。また、プライマリケア看護の基盤となる主要な理論や概念、多職種連携・協働、社会資源の活用について理解し、ナースプラクティショナーとしての看護実践への応用について考察する。				
行動目標	1. わが国の医療をとりまく現状をふまえ、プライマリ･ケアの定義、理念について説明できる。 2. 保健・医療・介護制度におけるプライマリ・ケアの位置づけと役割について説明できる。 3. 多職種連携・協働が発展した背景をふまえ、プライマリ・ケアにおける多職種連携・協働の必要性と必要となるコンピテンシーについて説明できる。 4. プライマリケア看護の基盤となる理論やモデルについて説明できる。 5. 国内外におけるナースプラクティショナー誕生の背景と活動の実際を知る。 6. わが国における医療の現状から、高度実践看護師としてのナースプラクティショナーの必要性と役割・機能、必要なコンピテンシーについて説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、柔軟な発想力、高度な看護実践能力、課題解決能力				
評価並びにフィードバック法	クラス討議への参加度および貢献度、プレゼンテーション、レポートなどにより総合的に評価する フィードバックは最終講義日に行う				
教科書	指定なし				
参考書	随時、紹介				
事前準備受講要件等	プレゼンテーションとディスカッションを中心に進めるため、予習を必ずして参加すること 予習、復習時間は60分以上				
オフィスアワー	授業日の12～13時と授業後				
SDGsとの関連	3, 16, 17				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	オリエンテーション 高度実践看護師制度の変遷と現状・社会的展望	高度実践看護師制度の変遷と展望 1. 高度実践看護師制度の歴史的・社会的・政策的な変遷 2. 高度実践看護師の役割と必要なコンピテンシー 3. 高度実践看護師の活動と展望 予習：高度実践看護師制度と高度実践看護師の役割について調べる 復習：関連文献を読み、高度実践看護師の役割、機能について理解を深める	真継

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
2	プライマリ・ケアの定義と理念	プライマリ・ケアの変遷と定義、理念 1. プライマリ・ケアの歴史的・社会的変遷 2. プライマリ・ケアの定義、理念 3. 諸外国を含めたプライマリ・ケアの現状と課題 予習：学習課題 1.2 について調べる 復習：プライマリ・ケアの必要性とともに、プライマリ・ケア領域における NP の役割について考察する	真継
3	プライマリ・ケアと看護	プライマリ・ケアにおける看護師の機能と役割 1. プライマリ・ケアにおける看護サービスの重要性 2. プライマリ・ケアを担う看護師の役割と機能 予習：第 2 回の講義内容をふまえ、プライマリ・ケアにおける NP の役割・機能について自らの考えをまとめる 復習：ディスカッション内容を振り返り、NP としての役割機能の理解を深める	真継
4	医療システムとプライマリ・ケア	わが国における医療システムとプライマリ・ケア 1. 社会保障制度、地域包括ケアシステムの動向と課題 2. わが国におけるプライマリ・ケアの必要性とその位置づけ 3. 地域包括ケアシステムとプライマリ・ケアの関係 予習：わが国におけるヘルスケアシステムの現状について調べる 復習：我が国におけるヘルスケアシステムの課題を検討し、NP の役割機能について理解を深める	真継
5	プライマリ・ケアにおける多職種連携・協働（1）	プライマリ・ケアにおける多職種連携・協働 1. 多職種連携実践（IPW）・多職種協働（IPC）、多職種連携教育（IPE）の歴史的背景 2. IPW・IPC、IPE の定義 3. IPW/IPC に必要となるコンピテンシー 4. プライマリ・ケアにおける IPW/IPC/IPE の位置づけ 予習：IPW/IPC/IPE の定義、IPW/IPC に必要となるコンピテンシーについて調べる 復習：プライマリ・ケアにおける多職種連携・協働の「意義」、「看護師の果たすべき役割」についてまとめる	大橋
6	プライマリ・ケアにおける多職種連携・協働（2）	プライマリ・ケアにおける多職種連携・協働 1. 地域包括ケアシステムのなかでの地域連携とチーム医療 2. 都市部での多職種連携の実際 予習：プライマリ・ケアにおける多職種連携・協働の事例を調べる 復習：プライマリ・ケアにおいて多職種連携・協働を行う上での課題や課題解決方法を考察し、まとめる	大橋

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
7	プライマリ・ケアの基盤となる理論やモデル（1）	プライマリ・ケアの基盤となる理論やモデルとその活用 1. パートナーシップ 2. 健康信念モデル（ヘルス・ビリーフ・モデル） 3. 自己効力感（セルフ・エフィカシー） 4. パートナーシップ、健康信念モデル（ヘルス・ビリーフ・モデル）自己効力感（セルフ・エフィカシー）いずれかのモデルを活用した事例分析 予習：提示した理論、モデルについて調べ、実践事例を分析する 復習：講義内容をふまえ、理論やモデルの理解を深める	寺口
8	プライマリ・ケアの基盤となる理論やモデル（2）	プライマリ・ケアの基盤となる理論やモデルとその活用 1. エンパワメント 2. 変化のステージモデル 3. ローカス・オブ・コントロール 4. エンパワメント、変化のステージモデル、ローカス・オブ・コントロールのモデルを活用した事例分析 予習：提示した理論、モデルについて調べ、実践事例を分析する 復習：講義内容をふまえ、理論やモデルの理解を深める	寺口
9	諸外国におけるナースプラクティショナーの機能と役割	諸外国におけるナースプラクティショナーの機能と役割 1. カナダにおけるナースプラクティショナー誕生の背景 2. カナダにおけるナースプラクティショナーの機能と役割 3. ナースプラクティショナーを取り巻く課題 予習：興味のある国のプライマリーケアに関する文献を一つ探し、日本の現状との相違点を考えておく（授業でディスカッションをします） 復習：学修内容を振り返り、理解を深める	橋本
10	諸外国におけるナースプラクティショナーの実践	諸外国におけるナースプラクティショナーの実践 1. カナダバンクーバー州における実践活動 2. 課題と展望 予習：海外でのプライマリーケアにおける NP の活用を踏まえ、日本での NP の活用に際し簡単なプログラムプロポーザルを考えておく 復習：学修内容を振り返り、理解を深める	橋本
11	プライマリ・ケアにおけるナースプラクティショナーの機能と役割	プライマリ・ケアにおけるナースプラクティショナーの役割 1. 日本におけるナースプラクティショナー誕生の背景 2. プライマリ･ケアにおけるナースプラクティショナーの機能と役割 3. ナースプラクティショナーに求められるコンピテンシー 予習：学習課題 1.2 についてまとめる 復習：ディスカッション内容をふまえ、わが国における NP としての課題と展望を考察する	真継 寺口 橋本

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
12	プライマリ・ケアの実践（1）	ナースプラクティショナーの活動の実際 1. 訪問看護におけるナースプラクティショナーの実践活動 2. 実践活動からみえてきた課題と展望 予習：これまでの学修内容を振り返り、在宅における NP（診療看護師）の役割と機能についてまとめる 復習：講義をふまえ、NP をとりまく課題について整理する	松本
13	プライマリ・ケアの実践（2）	ナースプラクティショナーの活動の実際 1. 地域におけるナースプラクティショナーの実践活動 2. 実践活動からみえてきた課題と展望 予習：これまでの学修内容を振り返り、NP の役割･機能について整理しておく 復習：授業内容の理解を深める	守屋
14	プライマリ・ケアの実践（3）	ナースプラクティショナーの活動の実際 1. 日常外来におけるナースプラクティショナーの実践活動 2. 実践活動からみえてきた課題と展望 予習：厚労省 HP より「特定行為に係る看護師の研修制度について」を読んでおくこと。糖尿病合併管理料について調べ理解しておくこと 復習：NP 外来設立する為のプロセス及び NP 外来診療における NP の役割について整理し理解しておく	中村
15	まとめ	都市部の特性をふまえたプライマリケア看護におけるナースプラクティショナーとしての機能と役割 1. 都市部におけるナースプラクティショナーとしての活動の場 2. 都市部の特性をふまえたプライマリケア看護の特徴 予習：これまでの講義を振り返り、自らのフィールドにおいて期待される NP の活動についてまとめる 復習：課題レポートを作成する	真継 寺口

授業科目名	プライマリケア看護学特論Ⅱ				
授業科目（英）	Theory of Primary Care Nursing Ⅱ				
教員名	津田　泰宏、安田　稔人、金沢　徹文（兼）、真継　和子、寺口　佐與子				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期	開講曜日	水曜 6 限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	あらゆるライフステージにある人々を対象としたプライマリケア看護における典型的な症状の病態、診断、治療を理解し、臨床推論、鑑別診断、臨床検査、臨床判断の手法を学ぶとともに、症状に対する包括的アセスメントと症状マネジメントのための薬物及び非薬物療法の実施方法に関する専門的な知識と高度実践看護及び技術を修得する。				
行動目標	1. 日常外来や在宅の場で一般的にみられる症状の臨床判断・検査・治療（薬物・非薬物）について説明できる。 2. さまざまな症状について、看護の視点から包括的アセスメントを行い、症状マネジメントに方略について説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、論理的・批判的思考力、発想力、看護実践力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	クラス討議への参加度および貢献度、プレゼンテーション、レポートなどにより総合的に評価する。				
教科書	指定なし 適宜、授業資料を配布する				
参考書	フィジカルアセスメント　ナースに必要な診断の知識と技術［第 4 版］　編集　日野原重明（医学書院） また、以下のテキストなども参考に。 看護学テキスト NiCE、病態・治療論［2］、呼吸器疾患　編集　石原英樹、竹川幸恵　南江堂 看護学テキスト NiCE、病態・治療論［3］、循環器疾患　編集　八尾厚史、落合亮太　南江堂 看護学テキスト NiCE、病態・治療論［4］、消化器疾患　編集　津田泰宏、鈴木久美　南江堂				
事前準備受講要件等	講義は資料を配布し、スライドを用いて講義を行いつつ、途中にディスカッションを入れる形式となる。 予習と復習（各 1 時間程度）を行うことが必要である。				
オフィスアワー	授業日の 17～18 時と授業後				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	症状アセスメントとマネジメント（1）	症状の臨床判断・検査・治療（薬物療法・非薬物療法）と症状マネジメント 1. 意識障害 予習：特に上記の症状に関して病態や鑑別診断を調べておく。 復習：授業で出た症状に対するマネージメントについてまとめる。	津田
2	症状アセスメントとマネジメント（2）	症状の臨床判断・検査・治療（薬物療法・非薬物療法）と症状マネジメント 1. 脱水 2. 浮腫 予習：特に上記の症状に関して病態や鑑別診断を調べておく。 復習：授業で出た症状に対するマネージメントについてまとめる。	津田

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
3	症状アセスメントとマネジメント(3)	症状の臨床判断・検査・治療（薬物療法・非薬物療法）と症状マネジメント 1. 摂食障害 2. 嚥下障害 予習：特に上記の症状に関して病態や鑑別診断を調べておく。 復習：授業で出た症状に対するマネージメントについてまとめる。	津田
4	症状アセスメントとマネジメント(4)	症状の臨床判断・検査・治療（薬物療法・非薬物療法）と症状マネジメント 1. 呼吸困難 2. チアノーゼ 予習：特に上記の症状に関して病態や鑑別診断を調べておく。 復習：授業で出た症状に対するマネージメントについてまとめる。	津田
5	症状アセスメントとマネジメント(5)	症状の臨床判断・検査・治療（薬物療法・非薬物療法）と症状マネジメント 1. 不整脈 2. 胸痛 予習：特に上記の症状に関して病態や鑑別診断を調べておく。 復習：授業で出た症状に対するマネージメントについてまとめる。	津田
6	症状アセスメントとマネジメント(6)	症状の臨床判断・検査・治療（薬物療法・非薬物療法）と症状マネジメント 1. 発熱 2. 血糖異常（低血糖・高血糖） 予習：特に上記の症状に関して病態や鑑別診断を調べておく。 復習：授業で出た症状に対するマネージメントについてまとめる。	津田
7	症状アセスメントとマネジメント(7)	症状の臨床判断・検査・治療（薬物療法・非薬物療法）と症状マネジメント 1. 麻痺（運動障害） 2. 知覚障害 予習：特に上記の症状に関して病態や鑑別診断を調べておく。 復習：授業で出た症状に対するマネージメントについてまとめる。	安田
8	症状アセスメントとマネジメント(8)	症状の臨床判断・検査・治療（薬物療法・非薬物療法）と症状マネジメント 1. ロコモティブシンドローム 予習：特に上記の症状に関して病態や鑑別診断を調べておく。 復習：授業で出た症状に対するマネージメントについてまとめる。	安田

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
9	症状アセスメントとマネジメント(9)	症状の臨床判断・検査・治療（薬物療法・非薬物療法）と症状マネジメント 1. 疼痛（頭痛、腹痛、関節痛など） 予習：特に上記の症状に関して病態や鑑別診断を調べておく。 復習：授業で出た症状に対するマネージメントについてまとめる。	津田
10	症状アセスメントとマネジメント(10)	症状の臨床判断・検査・治療（薬物療法・非薬物療法）と症状マネジメント 1. 食欲不振 2. 悪心・嘔吐 予習：特に上記の症状に関して病態や鑑別診断を調べておく。 復習：授業で出た症状に対するマネージメントについてまとめる。	津田
11	症状アセスメントとマネジメント(11)	症状の臨床判断・検査・治療（薬物療法・非薬物療法）と症状マネジメント 1. 便秘 2. 下痢 3. 尿失禁 予習：特に上記の症状に関して病態や鑑別診断を調べておく。 復習：授業で出た症状に対するマネージメントについてまとめる。	津田
12	症状アセスメントとマネジメント(12)	症状の臨床判断・検査・治療（薬物療法・非薬物療法）と症状マネジメント 1. 吐血 2. 下血 予習：特に上記の症状に関して病態や鑑別診断を調べておく。 復習：授業で出た症状に対するマネージメントについてまとめる。	津田
13	症状アセスメントとマネジメント(13)	症状の臨床判断・検査・治療（薬物療法・非薬物療法）と症状マネジメント 1. 発疹 2. 掻痒感 予習：特に上記の症状に関して病態や鑑別診断を調べておく。 復習：授業で出た症状に対するマネージメントについてまとめる。	津田
14	症状アセスメントとマネジメント(14)	症状の臨床判断・検査・治療（薬物療法・非薬物療法）と症状マネジメント 1. 不眠 2. ストレス 予習：特に上記の症状に関して病態や鑑別診断を調べておく。 復習：授業で出た症状に対するマネージメントについてまとめる。	金沢

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
15	まとめ	関心領域における実践事例から、ナースプラクティショナーとしてのアプローチについてまとめる。 予習：自身の関心領域に関して、よく遭遇しうる症状は何か、それに対する病態や鑑別は何かについて考えておく。 復習：ナースプラクティショナーとしての自分自身のアプローチについて授業後に再度まとめ直す。	津田 真継 寺口 赤澤 安田

授業科目名	プライマリケア看護学特論Ⅲ				
授業科目（英）	Theory of Primary Care Nursing Ⅲ				
教員名	津田　泰宏、安田　稔人、金沢　徹文（兼）、新田　雅彦（兼）、真継　和子、寺口　佐與子				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	後期	開講曜日	月曜6限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	あらゆるライフステージにある人々を対象としたプライマリケア看護領域において一般的にみられる疾患の病態、診断・検査のすすめ方や診療ガイドラインにもとづいた治療戦略とともに、臨床推論、鑑別診断、臨床検査、臨床判断の手法を学ぶ。また、疾病の治療のための薬物及び非薬物療法の実施方法に関する専門的な知識と高度実践看護及び技術を修得し、疾病予防から疾病管理までの方略法を修得する。				
行動目標	1. 日常外来や在宅の場で一般的にみられる疾患の臨床判断・検査・治療（薬物療法・非薬物療法）について説明できる。 2. さまざまな訴えを手がかりとしながら、看護の視点から包括的アセスメントを行い、疾病予防や疾病管理の方略について説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、論理的・批判的思考力、発想力、看護実践力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	クラス討議への参加度および貢献度、プレゼンテーション、レポートなどにより総合的に評価する。				
教科書	指定なし 授業資料を配布する。				
参考書	看護学テキストNiCE、病態・治療論［1］、病態・治療総論　編集　石松伸一、林　直子、鈴木久美　南江堂 看護学テキストNiCE、病態・治療論［2］、呼吸器疾患　編集　石原英樹、竹川幸恵　南江堂 看護学テキストNiCE、病態・治療論［3］、循環器疾患　編集　八尾厚史、落合亮太　南江堂 看護学テキストNiCE、病態・治療論［4］、消化器疾患　編集　津田泰宏、鈴木久美　南江堂 など				
事前準備受講要件等	講義は資料を配布し、スライドを用いて講義を行いつつ、途中にディスカッションを入れる形式となる。 予習と復習（各1時間程度）を行うことが必要である。				
オフィスアワー	授業日の17～18時と授業後				
SDGsとの関連	3, 12				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	循環器疾患（1）	循環器疾患の臨床判断・検査・治療と予防・管理 1. 狭心症／心筋梗塞 2. 心不全 予習：特に上記の疾患について病態や症状を調べておく。 復習：授業で出た疾患に対する検査、治療、予防・管理などについてまとめる。	津田

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
2	循環器疾患（2）	循環器疾患の臨床判断・検査・治療と予防・管理 1. 不整脈 2. 心臓弁膜症 3. 大動脈瘤 4. 閉塞性動脈硬化症 予習：特に上記の疾患について病態や症状を調べておく。 復習：授業で出た疾患に対する検査、治療、予防・管理などについてまとめる。	津田
3	呼吸器疾患	呼吸器疾患の臨床判断・検査・治療と予防・管理 1. 肺がん 2. 拘束性肺疾患（肺炎） 3. 閉塞性肺疾患（COPD、気管支喘息、気管支炎） 予習：特に上記の疾患について病態や症状を調べておく。 復習：授業で出た疾患に対する検査、治療、予防・管理などについてまとめる。	津田
4	先端医療	先端医療としての移植・再生医療 1. 臓器移植 2. 再生医療 予習：特に上記の治療について適応や方法を調べておく。 復習：授業で出た治療に関係する検査、治療、予防・管理などについてまとめる。	津田
5	血液・造血器疾患	血液・造血器疾患の臨床判断・検査・治療と予防・管理 1. 貧血 2. 白血球系・造血器腫瘍疾患（白血病、悪性リンパ腫） 予習：特に上記の疾患について病態や症状を調べておく。 復習：授業で出た疾患に対する検査、治療、予防・管理などについてまとめる。	津田
6	腎・泌尿器系疾患	腎・泌尿器系疾患の臨床判断・検査・治療と予防・管理 1. 尿路感染症 2. 腎炎 3. ネフローゼ 4. 慢性腎不全 5. 腎結石 予習：特に上記の疾患について病態や症状を調べておく。 復習：授業で出た疾患に対する検査、治療、予防・管理などについてまとめる。	津田

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
7	骨・関節疾患	骨・関節疾患の臨床判断・検査・治療と予防・管理 1. 変形性関節症 2. 腰椎椎間板ヘルニア 3. 脊柱管狭窄症 4. 骨粗鬆症 予習：特に上記の疾患について病態や症状を調べておく。 復習：授業で出た疾患に対する検査、治療、予防・管理などについてまとめる。	安田
8	膠原病・皮膚疾患	膠原病・皮膚疾患の臨床判断・検査・治療と予防・管理 1. 慢性関節リウマチ 2. 熱傷 3. 褥瘡 4. 皮膚炎 予習：特に上記の疾患について病態や症状を調べておく。 復習：授業で出た疾患に対する検査、治療、予防・管理などについてまとめる。	津田
9	代謝・内分泌疾患	代謝・内分泌疾患の臨床判断・検査・治療と予防・管理 1. 糖尿病 2. 内分泌疾患 予習：特に上記の疾患について病態や症状を調べておく。 復習：授業で出た疾患に対する検査、治療、予防・管理などについてまとめる。	津田
10	消化器疾患（1）	消化器疾患の臨床判断・検査・治療と予防・管理 1. 上部消化管疾患（胃・十二指腸潰瘍、胃がん、食道癌） 2. 下部消化管疾患（大腸ポリープ、大腸癌、炎症性腸疾患、腸閉塞、感染性腸炎） 予習：特に上記の疾患について病態や症状を調べておく。 復習：授業で出た疾患に対する検査、治療、予防・管理などについてまとめる。	津田
11	消化器疾患（2）	消化器疾患の臨床判断・検査・治療と予防・管理 1. 肝疾患（肝障害、肝炎、肝硬変、肝がん） 2. 胆膵疾患（胆管炎、膵炎、膵臓がん） 予習：特に上記の疾患について病態や症状を調べておく。 復習：授業で出た疾患に対する検査、治療、予防・管理などについてまとめる。	津田

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
12	脳・神経系疾患	脳・神経系疾患の臨床判断・検査・治療と予防・管理 1. 脳出血 2. 脳梗塞 3. 神経変性疾患（アルツハイマー病、パーキンソン病、神経難病） 予習：特に上記の疾患について病態や症状を調べておく。 復習：授業で出た疾患に対する検査、治療、予防・管理などについてまとめる。	津田
13	精神疾患	精神疾患の臨床判断・検査・治療と予防・管理 1. 神経症性障害 2. うつ病 3. 統合失調症 4. アルコール依存症 5. PTSD（心的外傷後ストレス障害） 予習：特に上記の疾患について病態や症状を調べておく。 復習：授業で出た疾患に対する検査、治療、予防・管理などについてまとめる。	金沢
14	小児科疾患	小児科疾患の臨床判断・検査・治療と予防・管理 1. 咽頭結膜熱 2. 麻しん、風しん 3. 感染性胃腸炎 4. 水痘 5. 突発性発疹 6. 流行性耳下腺炎 予習：特に上記の疾患について病態や症状を調べておく。 復習：授業で出た疾患に対する検査、治療、予防・管理などについてまとめる。	新田
15	まとめ	関心領域における日常の疾病管理の現状と課題、ナースプラクティショナーとしてのアプローチについてまとめる。 予習：自身の関心領域に関して、疾患管理の現状や課題を考えておく。 復習：ナースプラクティショナーとしての自分自身のアプローチについて授業後に再度まとめ直す。	津田 真継 赤澤 寺口 安田

授業科目名	プライマリケア看護学特論Ⅳ（小児）				
授業科目（英）	Theory of Primary Care Nursing Ⅳ（Pediatric）				
教員名	鈴木　美佐、橋倉　尚美（非）、水島　道代（兼）、馬場　恵子（非）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	通年	開講曜日	前期（火曜6限、火曜7限）、後期（火曜6限、火曜7限）		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	小児の成長発達に影響する環境との相互作用を理解し、小児と家族を理解する諸理論を学ぶ。現代の乳幼児期、学童期、青年期を発達的視点からとらえ、プライマリケアニーズを予測した健康増進に向けた教育指導方法、また、小児期に起こる一般的な健康問題及び小児の健全な育成に関する高度な看護実践に必要な知識と技術を修得する。				
行動目標	1. 小児の発達、障害に関する諸理論や権利を説明できる。 2. 小児を取り巻く社会状況や小児看護実践における課題を説明できる。 3. 小児期にある人の健康問題を解決するために必要な知識・技術について説明できる。 4. 小児の子育て環境整備に関する行動計画や保健事業施策について説明できる。 5. 多職種間の連携による育児支援、発達支援、健康増進、疾病予防活動について説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、高度な看護実践力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	クラス討議への貢献度、プレゼンテーション、レポートなどにより総合的に評価する。				
教科書	適宜紹介				
参考書	エリク・H・エリクソン（著），西平直，中島由恵（訳）(2015)，アイデンティティとライフサイクル，誠信書房，東京 J. ボウルヴィ（1991），母子関係の理論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，岩崎学術出版，東京 リチャード・S・ラザルス，スーザン・フォルクマン（著），本明寛他（訳）(1991)，ストレスの心理学　認知的対処の研究，実務教育出版，東京				
事前準備受講要件等	シラバスで示された予習・課題を行って授業に臨むこと。 予習・復習は各60分程度とする。				
オフィスアワー	火曜日 17～18 時				
SDGsとの関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	小児看護の役割と特性	1. 小児看護の歴史と今日的課題 2. 現代における子どもと家族をめぐる健康問題 予習：小児看護の変遷を示すデータを調べる 復習：現在の子どもの健康課題を1つあげ、解決の方策をレポートする	鈴木
2	子どもの成長発達と生活（1）	子どもの各期の成長発達と生活 1. 成長発達段階の特徴（心理的・社会的・身体的）と生活 2. 小児の健康づくりに関連する保健事業 予習：現代の子どもの成長発達について資料を基にレポートする 復習：学童期・思春期の生活と子どもの発達への課題をまとめる	鈴木
3	子どもの成長発達と生活（2）	1. 乳児期・幼児期・学童期・思春期に生じやすい健康問題 2. 子どもを養育する親への支援と疾病予防 予習・復習は前回講義での指示に準じる	鈴木

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
4	小児の権利と看護	子どもの権利を守る看護 1. インフォームドアセントの概念 2. 小児を対象とする倫理的判断 予習：インフォームドアセントの用語の誕生の経緯を調べる 復習：実践事例から子どもの看護の倫理的問題を整理する	鈴木
5	発達理論（1）	プレゼンテーション：子どもの自我と認知の特徴 1. フロイト（自我） 2. ピアジェの認知発達理論 予習：課題の理論をレポートする 復習：ピアジェの発達認知理論を用いた文献を読み、臨床への活用をまとめる	鈴木
6	発達理論（2）	プレゼンテーション：乳児の愛着形成 1. ボウルヴィの愛着理論 2. エリクソンの心理社会的発達理論 予習：課題の理論をレポートする 復習：ボウルヴィの愛着理論を用いて、愛着剥奪症候群の子どもの問題と是正策を検討する	鈴木
7	ストレス・コーピングモデルの小児看護への適用	プレゼンテーション：ストレス・コーピングモデルの小児看護への適用 1. ストレスおよびコーピングの概念 2. ストレス対処理論 3. ストレス対処と健康の保持 予習：ラザルスのストレス・コーピングについてまとめる 復習：ストレス・コーピング理論を用いるとわかりやすい子どもの状況を列挙する	鈴木
8	医療的ケアが必要な子どもに対する重症化予防（1）	1. 医療依存度の高い子どもと家族を取り巻く課題 2. 医療依存度の高い子どもと家族のヘルスアセスメント 予習：医療依存度の高い子どもと家族を取り巻く現状・課題について調べる 復習：：医療依存度の高い子どもの課題への介入について、問題解決に向けた実践計画を立案する。	馬場
9	医療的ケアが必要な子どもに対する重症化予防（2）	1. 医療依存度の高い子どもと家族の理解 2. 気管切開や呼吸器を装着している子どもの医療的ケアの実際 予習：医療的ケアが必要な子どもの実際のケアについて、病院と在宅の違いを調べる 復習：授業内容を振り返り、医療依存度の高い子どもの重症化を予防する支援について考察する	馬場
10	外来及び地域のプライマリケアの場におけるトリアージ	1. 外来でのトリアージ、救急の判断 2. 緊急の初期対応と危機介入、他職種の調整 3. 子どもの緊急搬送への備えと整備の実際 予習：成人と小児のトリアージの違いについて調べる 復習：ケーススタディを用いて、トリアージ順と看護介入についてレポートする。	馬場

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
11	慢性疾患をもつ子どもと家族への支援（1）	1. 慢性疾患をもつ子どもと家族の理解 2. セルフケア理論の小児看護への応用 予習：経験した実践事例をセルフケア理論を基にレポートする 復習：レポートの修正を行う	水島
12	慢性疾患をもつ子どもと家族への支援（1）	1. 家族介護力・育児力向上に向けたホームケア指導の実際 予習：課題を提示する 復習：授業内容をレポートする	水島
13	虐待がある子どもと家族への支援(1)	1. 現代社会における虐待の背景 2. 家族と虐待のリスク 3. 関係機関との連携、倫理調整 予習：海外・日本における子ども虐待対応の歴史をまとめる　2. 子ども虐待とは何か（定義も含め）をまとめる　3. 子ども虐待の現代の状況を調べる　4. 関係機関の役割をまとめる 復習：子ども虐待対応に関する経験を想起し、事例介入から医療機関における対応と転帰までをまとめ、医療機関以外の役割を明確にする。	橋倉
14	虐待がある子どもと家族への支援(2)	1. 虐待がある子どもと家族への支援の実際 予習：子ども虐待における医療機関の役割、看護の役割の文献検索を行いまとめる。 復習：子ども虐待対応に関する経験を想起し医療機関の役割、看護の役割を明確にし、どの機関と連携を行い、そのためにはどのような支援が必要かを明確にする。	橋倉
15	まとめ	1. 特殊なニーズを持つ子どもと家族への支援 2. 医療依存度の高い子どもの理解と家族の発達段階をふまえた治療、ケア 3. 地域での多職種との連携 予習：これまでの経験から上記に該当する子どもと家族の事例をまとめる 復習：授業を振り返り子どもと家族の健康と発達を支援する看護のあり方を考察する	鈴木

授業科目名	プライマリケア看護学特論Ⅴ（成人）				
授業科目（英）	Theory of Primary Care Nursing Ⅴ（Adult）				
教員名	寺口　佐與子、伊波　早苗（非）、八尾　みどり（兼）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期	開講曜日	木曜 6 限、木曜 7 限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	成人とその家族の特徴を発達的視点から理解し、成人期に起こる一般的な健康問題（予防、急性期、慢性期、終末期）を中心に、健康増進から生活習慣病のアセスメントの発生予防、重症化予防、疾病のアセスメントと多職種連携を含む高度な看護実践の方略について学修する。さらに女性の健康問題に関する看護援助方略を学修する。				
行動目標	1. 成人を取り巻く社会の変化及び一般的な健康課題について理解できる。 2. 成人期の健康課題を解決するための主要な理論や概念について理解できる。 3. 多職種連携で成人の課題をサポートできるシステムの調整ができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	実践能力、課題解決力、課題発見力、判断力				
評価並びにフィードバック法	クラス討議への参加度および貢献度、プレゼンテーション、レポートなどにより総合的に評価する。				
教科書	適宜紹介				
参考書	適宜紹介				
事前準備受講要件等	予習、復習への取り組み、実施 予習・復習時間 60 分以上とする				
オフィスアワー	授業日の 12～13 時と授業後				
SDGs との関連	3，5				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	成人期を取り巻く状況と健康問題 1	成人期の特徴と各病期の特徴 成人を取り巻く社会の変化 予習：成人期の特徴と各病期について調べる 復習：現代社会における成人期の特徴と病期についてまとめる	寺口
2	成人期を取り巻く状況と健康問題 2	成人期の特徴と各病期の特徴 成人期の発達課題と病気の特徴 予習：成人期の発達課題と病気の特徴について調べる 復習：発達課題をふまえて成人期の病気についてまとめる	寺口
3	成人期における健康課題を解決するために必要な看護理論 1	成人看護で用いられる理論とその活用 危機理論とは 危機理論を用いた事例検討 予習：危機理論を用いて実践例をまとめる 復習：討議の内容をもとに危機理論の活用に関してまとめる	寺口
4	成人期における健康課題を解決するために必要な看護理論 2	成人看護で用いられる理論とその活用 病みの軌跡理論とは 病の軌跡理論を用いた事例検討 予習：病の軌跡理論を用いて実践例をまとめる 復習：討議の内容をもとに病の軌跡理論の活用に関してまとめる	寺口

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
5	成人期における健康課題を解決するために必要な看護理論３	成人看護で用いられる理論とその活用 ストレス・コーピング理論とは ストレス・コーピング理論を用いた事例検討 予習：ストレス・コーピング理論を用いて実践例をまとめる 復習：討議の内容をもとにストレス・コーピング理論の活用に関してまとめる	寺口
6	成人期の健康課題１	成人期における疾患の特徴 急性疾患の特徴と看護援助についての事例検討 予習：事例をもとに急性疾患の特徴についてまとめる 復習：急性疾患の特徴と看護援助について討議内容を焦点化する	寺口
7	成人期の健康課題２	成人期における疾患の特徴 慢性疾患の特徴と看護援助についての事例検討 予習：事例をもとに慢性疾患の特徴についてまとめる 復習：慢性疾患の特徴と看護援助について討議内容を焦点化する	寺口
8	成人期の健康課題３	成人期における疾患の特徴 がんの特徴と看護援助についての事例検討 予習：事例をもとにがんの特徴についてまとめる 復習：がんの特徴と看護援助について討議内容を焦点化する	寺口
9	成人期の健康課題４	成人期女性の疾患の特徴と支援 ウイメンズヘルスとセルフケア支援の方略 予習：成人期女性の健康課題について調べる 復習：成人期女性の健康課題と支援についてまとめる	寺口
10～11	慢性疾患看護専門看護師の役割と機能	専門看護師の実践例から活動と組織の整備における専門看護師の役割・機能 予習：慢性疾患専門看護師の役割と機能について調べる 復習：専門看護師の役割と機能をふまえて慢性疾患患者への NP の専門性を考察する	伊波
12～13	急性・重症患者看護専門看護師の役割と機能	急性・重症専門看護師の実践例から活動と組織の整備における専門看護師の役割・機能 予習：急性・重症専門看護師の役割と機能について調べる 復習：専門看護師の役割と機能をふまえて急性・重症患者における NP の専門性を考察する	八尾
14	緩和ケアと終末期における患者・家族・遺族に対するサポート	成人期特有の健康問題を抱えた患者・家族に対する多職種連携 予習：終末期における患者・家族への多職種連携の実践例をまとめる 復習：終末期の多職種連携についてまとめる	寺口
15	まとめ　ケースレポート	ケースレポートのプレゼンテーション 締め切り日は、別途知らせる 予習：プレゼンテーションの準備 復習：授業から討議の焦点をまとめる	寺口

授業科目名	プライマリケア看護学特論Ⅵ（老年）				
授業科目（英）	Theory of Primary Care Nursing Ⅵ（Gerontology）				
教員名	真継　和子、大橋　尚弘、原田　かおる、今戸　美奈子（非）、 西　依見子（非）、丹生　淳子（非）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	後期	開講曜日	木曜 6 限、木曜 7 限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	高齢者の特徴を発達的視点から理解するとともに、高齢者看護に関連する諸理論を学ぶ。また、加齢がもたらす一般的な健康問題及び疾病の予防と治療、ならびにエンド・オブ・ライフケアをめぐる諸問題に対応し、高齢者の健康的な生活と QOL を維持するための高度な看護実践の方略について学修する。				
行動目標	1. 多様な視点から老い（エイジング）について検討し、高齢者の特徴と健康問題について説明できる。 2. 高齢者が抱える健康問題を解決するために必要となる理論や概念について説明できる。 3. 高齢者の健康維持･増進、コモンディジーズをはじめとする疾病予防と管理、エンド･オブ･ライフケアについて説明できる。 4. 高齢者のニーズに沿ったアセスメントとその看護実践について説明できる。 5. 高齢者の生活を支える多職種連携とサポートシステムについて説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、高度な看護実践力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	クラス討議への貢献度、プレゼンテーション、レポートなどにより総合的に評価する フィードバックは最終講義日、及びレポートの返却によって行う				
教科書	適宜紹介				
参考書	眞茅みゆき監修、池亀俊美（編集）. 心不全ケア教本第 2 版. メディカルサイエンスインターナショナル. 2019. 眞茅みゆき. 進展ステージ別に理解する心不全看護. 医学書院. 2020. 中島紀恵子監修・編集. 認知症の人びとの看護. 第 3 版. 医歯薬出版株式会社. 2017. 正木治恵、真田弘美編. 老年看護学概論「老いを生きるを支えることとは」改訂第 3 版. 南江堂. 2020. その他、適宜紹介				
事前準備受講要件等	プレゼンテーションとディスカッションを中心に進めるため、予習をしてくること 予習、復習時間は 60 分以上				
オフィスアワー	授業日の 12～13 時と授業後				
SDGs との関連	3, 17				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	高齢者の特徴と健康問題	1. ライフサイクルからみた高齢者の特徴 2. 老いとは何か（心理学、社会学、看護学） 3. 加齢による身体的・認知的機能変化と健康問題 4. 加齢による心理・社会的変化と健康問題 予習：加齢にともなう変化と高齢者の健康生活への影響をまとめる 復習：加齢にともなう健康問題への支援についてまとめる	真継

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
2	高齢者看護に関わる理論・概念	1. セルフケア理論 2. 移行理論 3. エンパワーメント・アプローチ・モデル 4. ストレングスモデル 予習：提示した理論について調べ、理論を活用し実践事例を分析する 復習：高齢者のプライマリケア実践への理論の適用についてまとめる	真継
3	高齢者の機能と評価	1. 高齢者の健康状態のアセスメント（国際生活機能分類：ICF） 2. 包括的な機能のアセスメント（高齢者総合機能評価：CGA、ADL と IADL、障害高齢者の日常生活自立度判定基準） 3. 認知機能のアセスメント（認知症高齢者の日常生活自立度判定基準） 4. 生活行動モデル 5. QOL と評価 予習：高齢者の機能評価指標について調べる 復習：実践事例をとりあげ、評価指標にもとづきアセスメントする	真継
4	高齢者の健康問題と看護支援（1）	高齢者の健康問題と看護支援 1. 老化と老化症候群 2. 骨・関節系 3. 皮膚・感覚器系 予習：提示した高齢者の健康問題とその特徴、ニーズについて調べる 復習：高齢者の健康問題への支援策をまとめる	真継
5	高齢者の健康問題と看護支援（2）	高齢者の健康問題と看護支援 1. 認知症 2. 内服管理 3. 多職種協働によるチームアプローチ 予習：提示した高齢者の健康問題とその特徴、ニーズについて調べる 復習：高齢者の健康問題への支援策をまとめる	真継
6	高齢者をとりまく倫理的問題と対応	1. 高齢者の権利擁護（アドボカシー） 2. 高齢者差別、高齢者虐待とその防止 3. 高齢者の意思決定を巡る問題と対応 予習：実践事例を振り返り、意思決定において高齢者とその家族が直面する課題についてまとめる 復習：高齢者とその家族の意思決定支援についてまとめる	真継
7	呼吸器障害のある高齢者と家族への支援	1. 高齢者の呼吸器疾患の特徴と課題 2. 呼吸機能の評価と呼吸器疾患に関する検査・治療による高齢者への影響と支援 3. 呼吸器障害のある高齢者･家族への支援の実際(事例検討) 予習：高齢者に多い呼吸器疾患および検査・治療の特徴について調べる 復習：呼吸器障害のある高齢者・家族への支援についてまとめる	今戸

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
8	循環器障害のある高齢者と家族への支援	1. 高齢者の循環器疾患の特徴と課題 2. 循環機能の評価と循環器疾患に関する検査・治療による高齢者への影響と支援 3. 心不全のある高齢者・家族への支援の実際（事例検討） 予習：高齢者に多い循環器疾患について、高齢心不全患者の特徴について調べ、まとめる 復習：講義での学習内容をふまえ過去に対応した高齢心不全患者のアセスメント、ケア計画を立案する	丹生
9	摂食・嚥下障害のある高齢者と家族への支援（1）	1. 高齢者の摂食・嚥下機能のアセスメント 2. 高齢者の栄養評価方法 3. 摂食・嚥下に関連した多職種連携とチームアプローチ 予習：高齢者の摂食嚥下機能に関するアセスメントについて調べる 復習：高齢者の摂食嚥下機能に関するアセスメントをふまえた支援策をまとめる	西
10	摂食・嚥下障害のある高齢者と家族への支援（2）	1. 摂食・嚥下障害のある高齢者・家族への支援の実際（事例検討） 予習：提示した高齢者・家族の問題について調べる 復習：摂食嚥下障害の支援についてまとめる	西
11	運動機能障害のある高齢者と家族への支援（1）	1. 高齢者の運動器系疾患の特徴と課題 2. 運動器疾患に関する検査・治療の高齢者への影響と支援 予習：高齢者に多い運動器疾患に関連した検査・治療について整理をする 復習：検査・治療に伴う高齢者と家族への影響を考慮した支援の方法について考察する	大橋
12	運動機能障害のある高齢者と家族への支援（2）	1. 運動機能障害のある高齢者・家族への支援の実際（事例検討） 予習：運動機能障害のある高齢者・家族への支援の実際について事例を整理する 復習：運動機能障害のある高齢者・家族への療養の場に応じた支援の方法について考察する	大橋
13	認知機能障害のある高齢者と家族への支援（1）	1. 認知症の理解 2. 認知症高齢者と家族への看護 3. 認知症高齢者を支えるケアシステム 予習：認知症の基本的知識と看護について整理する。認知症高齢者を支える地域のケアシステムについて調べる 復習：認知症高齢者の看護における自己の課題をまとめる	原田
14	認知機能障害のある高齢者と家族への支援（2）	1. 認知症高齢者・家族への支援の実際（事例検討） 予習：認知症高齢者・家族へ実践した事例をまとめる 復習：事例検討における気づきを整理し今後の課題をまとめる	原田

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
15	高齢者とエンド・オブ・ライフケア	1. 高齢者のエンド・オブ・ライフケアをめぐる課題 2. アドバンスト・ケア・プランニング 3. 高齢者の看取りと家族への支援（事例検討） 予習：エンド・オブ・ライフにおける高齢者とその家族がかかえる課題について調べる 復習：アドバンス・ケア・プランニングにおける支援についてまとめる	真継

授業科目名	プライマリケア看護学特論Ⅶ（メンタルヘルス）				
授業科目（英）	Theory of Primary Care Nursing Ⅶ（Mental Health）				
教員名	山岡　由実、山内　彩香、新田　和子（非）、三井　督子（非）、 松岡　純子（非）、丸本　典子（非）、小山　達也（非）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	通年	開講曜日	前期（火曜6限、火曜7限）、後期（火曜6限、火曜7限）		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	心身相関の視点、精神看護に関連する理論、アセスメントを応用し、あらゆる発達段階にある人々の精神的健康問題を理解し、精神科リハビリテーションの考え方に基づき、代表的な精神疾患を持つ人々が地域で継続して暮らすための包括的なアセスメント及び看護援助の方略を学修する。				
行動目標	1. 精神保健の特徴と課題を理解できる。 2. 地域に暮らす人々の精神的健康問題の早期発見・早期治療について理解できる。 3. 精神的健康問題をもつ対象のアセスメントと看護について理解できる。 4. 精神的健康問題の解決に向けた個人と家族へのアプローチ方法を理解できる。 5. 精神的健康問題をもつ人びとが地域において継続的に保健・医療・福祉サービスを享受できる方法を理解できる。 6. 精神的健康問題をもつ人びとを取り巻く地域ネットワークの重要性を理解し、多職種連携・協働のありかたを理解できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	講義への参加度、プレゼンテーションやレポートなどを総合して評価する。				
教科書	適宜紹介				
参考書	1. エドナ・B・フォア，テレンス・M・キーン，マシュー・J・フリードマン，ジュディス・A・コーエン編，飛鳥井望監訳：PTSD 治療ガイドライン 第2版，金剛出版. 2. 金吉晴：心的トラウマの理解とケア　第2版，じほう，2006. 3. 資料：「PTSD の薬物療法ガイドライン：プライマリケア医のために」ダウンロード可 その他、適宜紹介				
事前準備受講要件等	各回、予習と復習を行って主体的に学習に取り組むこと。予習と復習の目安となる時間は各90分。				
オフィスアワー	授業日の12～13時と授業後				
SDGsとの関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	精神保健医療福祉に関する歴史と法制度	1. 精神障がいと治療の歴史 2. 患者の処遇に関する歴史的変遷 3. 精神保健に関する法制度の歴史的変遷 4. 精神保健福祉法 予習：当時の社会状況を踏まえて、精神障害者の処遇、福祉に関する法律を概観する 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める	山岡 山内

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
2	発達段階別にみた精神的諸問題とその背景	1. 子どもの精神衛生の諸問題の特徴と背景 2. 青年期の精神衛生の諸問題の特徴と背景 3. 成人期の精神衛生の諸問題の特徴と背景 4. 向老期、老年期の精神衛生の諸問題の特徴と背景 予習：エリクソンの漸成的発達理論について調べる 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める	山岡
3	精神看護に関する理論とモデル(1)	1. シュヴィングによる患者への人間的接近の試み 2. ペプロウによる患者～看護師関係の発展過程 3. ヒューマニティックアプローチにもとづいた人間関係論 予習：シュビングとペプロウの知見について調べる 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める	山岡 山内
4	精神看護に関する理論とモデル(2)	1. オレム・アンダーウッドのセルフケア論 2. ストレス適応モデル 予習：セルフケア理論とストレスコーピング理論について調べる 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める	山岡 山内
5	精神力動的アセスメント	1. 自我、不安、防衛からとらえた状態像 2. ボディイメージ論からとらえた状態像 3. 愛着理論、対象関係論からとらえた状態像 予習：自我、不安、防衛、自己概念について調べる 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める	山岡
6	心的活動のアセスメント	1. 知覚の観点からとらえた状態像 2. 思考の観点からとらえた状態像 3. 記憶、意識の観点からとらえた状態像 4. 意欲、感情の観点からとらえた状態像 5. 人格、気質の観点からとらえた状態像 予習：精神機能（知覚、思考、記憶、意識、意欲、感情、人格、気質）について調べる 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める	新田
7	心身相互作用のアセスメント	1. 心理社会的な生活環境面（災害、事故を含む）からとらえた状態像 2. 身体・心理・社会の相互作用からかとらえた状態像 予習：心身症について調べる 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める	新田
8	メンタルヘルス・エグザミネーション	1. 面接 2. 参加観察 3. 面接・参加観察による総合的評価 予習：2～7回までの講義内容について復習する 復習：学習内容に関する文献を講読し理解を深める	山岡 山内

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
9	アルコール・薬物依存症の患者のアセスメントとケアの実際	1. 依存症とは 2. アルコール・薬物依存症の患者のアセスメント 3. アルコール・薬物依存症の患者と家族への支援の実際 予習：依存症に関連するような報道や youtube 等をチェックし、社会や看護、生活における依存症（アディクション）に関連する問題意識を整理しておく 復習：講義内容を振り返り、自身の問題意識について再度検討する	三井
10	統合失調症をもつ患者のアセスメントとケアの実際	1. 統合失調症とは 2. パーソナルリカバリーとリカバリー志向の支援 3. ストレングスモデルに基づく看護 4. 統合失調症をもつ患者と家族への支援の実際 予習：統合失調症の病態およびパーソナルリカバリーの概念について確認しておくこと 復習：授業資料を再確認する	松岡
11	うつ状態にある患者のアセスメントとケアの実際（1）	1. 気分障害とは 2. 抑うつ状態とうつ病 3. 抑うつ状態と治療 予習：気分障害の診断と治療について調べる 復習：講義内容及び文献を通して理解を深める	山岡
12	うつ状態にある患者のアセスメントとケアの実際（2）	1. 心理教育 2. 生活技能訓練（SST） 3. 統合失調症・抑うつ状態にある患者と家族への支援の実際 予習：学習課題に沿って予習する 復習：講義内容をふまえ理解を深める	丸本
13	強い不安・自殺企図のある患者のアセスメントとケアの実際	1. 不安とは 2. ストレスとは 3. 自殺をめぐる社会的背景 4. 地域における自殺予防とその実際 予習：国内と自身が住む地域（市町村或いは県）における自殺者数の推移や自殺対策について調べ、自殺者低減に向けた課題を抽出する 復習：議論内容をもとに、本邦の自殺予防の在り方についてレポートをまとめる	小山
14	PTSD の患者のアセスメントとケアの実際（1）	1. PTSD とは 2. PTSD の治療と看護（概論） 予習：提示資料を読み、PTSD を発症しうる状況についてまとめる 復習：これまで関わった PTSD の患者や家族への介入について、レポートをまとめる	小山
15	PTSD の患者のアセスメントとケアの実際（2）	1. PTSD の患者と家族への支援の実際 予習：提示事例を分析する 復習：議論内容をもとにレポートを再考する	小山

授業科目名	プライマリケア看護学演習Ⅰ				
授業科目（英）	Seminar of Primary Care Nursing Ⅰ				
教員名	真継　和子、寺口　佐與子、大橋　尚弘、塗　隆志（兼）				
単位数	2	時間数	60	学年	1
開講期	前期	開講曜日	金曜6限、金曜7限		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	あらゆるライフステージにある人々を対象としたプライマリケア看護領域における典型的な事例を用いた演習により、臨床推論に基づく包括的なアセスメント、必要な検査の選択、エビデンスに基づく治療やケアの選択、ケアの調整、多職種との協働、倫理的意思決定に関する一連の高度な実践力を修得する。				
行動目標	1. 事例展開を通して外来機能、在宅支援機能、組織のマネジメント役割機能について理解し、日常外来や在宅の場で一般的にみられる疾患や再生医療分野での移植・再生医療など特定の健康課題への臨床判断・検査・治療（薬物療法・非薬物療法）について理解できる。 2. 事例を通してさまざまな訴えを手がかりとしながら、看護の視点から包括的アセスメントを行い、疾病予防や疾病管理の方略について理解できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、高度な看護実践力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	クラス討議への参加度および貢献度、プレゼンテーション、レポートなどにより総合的に評価する。				
教科書	指定なし				
参考書	随時、紹介				
事前準備受講要件等	予習、復習時間は60分以上とする プレゼンテーションとディスカッションを中心にすすめる				
オフィスアワー	授業日の12〜13時と授業後				
SDGsとの関連	3，12，17				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	オリエンテーション アクティブラーニング	IBL、PBLについて 典型事例からの探索、推論の基礎を学ぶ 予習：これまでの講義内容から典型事例の現象の論点を整理しておく 復習：分担した項目を調べる	寺口
2	外来支援事例のアセスメント①	外来支援場面の典型事例について探索、臨床推論により包括的アセスメントを行い、外来支援の場面での方策を立案する。 ・コモンディジーズ・コモンシンプトムへの対応 ・患者と家族のライフステージに合わせた支援 ・早期発見・対処、優先順位 ・疾病管理 予習：探索した内容の発表準備をしておく 復習：共有した内容をまとめておく	寺口
3	外来支援事例のアセスメント②	臨床推論による包括的アセスメントとは 予習：発表準備をしておく 復習：臨床推論を活用して共有内容をまとめておく	寺口

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
4	外来支援事例のアセスメント③	外来支援事例の探索結果を発表する。外来支援事例②について探索する 予習：発表準備をしておく 復習：内容をまとめておく	寺口
5	外来支援事例のアセスメント④	外来支援事例の方策を立案する。事例②全体像の発表 予習：さらに必要な情報取集のための項目を抽出しておく 復習：得られた情報を整理しておく	寺口
6	外来支援事例のアセスメント⑤	外来支援事例の立案した方策をまとめる。外来支援事例③④について探索する 予習：発表準備をしておく 復習：内容をまとめておく	寺口
7	外来支援事例のアセスメント⑥	外来支援場面での方策を発表する。事例③④全体像と方策の発表 予習：発表準備をしておく 復習：討論の焦点化をふまえて修正した内容をまとめる	寺口
8	在宅支援事例のアセスメント①	在宅支援場面の典型事例について探索、臨床推論により包括的アセスメントを行い、在宅支援の場面での方策を立案する。 ・チーム連携 ・社会資源の把握と調整 ・社会資源の必要性の判断 予習：在宅療養支援におけるプロトコールの意義について整理する 復習：プロトコールの作成過程と構成について理解を深める	真継
9	在宅支援事例のアセスメント②	在宅支援事例の探索結果をまとめる。 予習：在宅療養支援のための一般的なプロトコールにもとづき、提示事例のアセスメントを行う 復習：ディスカッション内容をふまえアセスメントを深める	真継
10	在宅支援事例のアセスメント③	在宅支援事例の探索結果を発表する。 予習：プレゼンテーションの準備をする 復習：事例のアセスメントを深め、支援の方向性を提示する	真継
11	在宅支援事例のアセスメント④	在宅支援事例への方策を立案する。 （プレゼンテーション、方略の立案） 予習：方策検討に必要となる文献、エビデンスを整理する 復習：ディスカッション内容の理解を深め、関連文献を探索する	真継 大橋
12	在宅支援事例のアセスメント⑤	在宅支援事例の方策をまとめる。 予習：方策の検討、立案を行う 復習：ディスカッションをもとに方策の追加修正を行う	真継 大橋

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
13	在宅支援事例のアセスメント⑥	在宅支援事例の方策を発表する。 予習：プレゼンテーションの準備をする 復習：ディスカッション内容の理解を深め、方策を洗練させレポートを作成する	真継 大橋
14	組織のマネジメント事例のアセスメント①	組織のマネジメントの事例について探索、推論により包括的アセスメントを行い、組織マネジメントの方策を立案する。 ・リスク管理 ・組織分析 ・人材育成とマネジメント ・ケアの質評価 予習：学習課題に沿って探索した内容をまとめる 復習：ディスカッション内容をふまえ学習課題に対する理解を深める	真継
15	組織のマネジメント事例のアセスメント②	組織のマネジメント事例について探索結果をまとめる。 予習：組織マネジメントに関連する事例を分析する 復習：ディスカッション内容の理解を深め、方策を立案する	真継
16	組織のマネジメント事例のアセスメント③	組織のマネジメント事例について探索した結果を発表する。 予習：プレゼンテーションの準備をする 復習：関連する文献を読み、講義内容の理解を深める	真継
17	特定の健康課題を抱える患者移植医療のアセスメント①	移植に至る慢性臓器不全患者の事例をもとに、推論による包括的アセスメントを行い、特定の健康課題を探索する。 予習：慢性臓器不全患者の病態と移植医療について調べておく 復習：移植を受ける患者の健康課題をまとめる	寺口
18	特定の健康課題を抱える患者移植医療のアセスメント②	移植に至る慢性臓器不全患者の事例をもとに、探索結果を発表し、外来での継続管理について考察する。 予習：プレゼンテーションの準備をする 復習：移植後レシピエントの外来での継続管理についてまとめる	寺口
19	特定の健康課題を抱える患者再生医療のアセスメント③	再生医療（リンパ浮腫における外科的治療）における臨床判断・検査・治療（薬物療法・非薬物療法）を考察する。 予習：再生医療（リンパ浮腫）について調べておく 復習：リンパ浮腫の鑑別診断と治療についてまとめる	塗
20	自己の領域事例の包括的アセスメント①	自己の領域における事例と方略について探索する。まとめ、グループディスカッションする。 予習：関心のある現象を整理しておく 復習：グループ内で分担した項目を調べる	寺口 真継
21	自己の領域事例の包括的アセスメント②	自己の領域における事例と方略についてまとめる。 予習：探索した内容の発表準備をしておく 復習：共有した内容をまとめておく	寺口 真継

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
22	自己の領域事例の包括的アセスメント③	自己の領域における事例のアセスメントと方略について発表し、ディスカッションする。 予習：発表準備をしておく 復習：内容をまとめておく	真継 寺口
23	災害事例のアセスメント①	災害時におけるプライマリ・ケア 地域の特徴をふまえた災害支援を想定し、要支援者への方策を立案できる。 予習：災害支援における関心のある現象を整理しておく 復習：グループ内で分担した項目を調べる	寺口
24	災害事例のアセスメント②	災害事例の包括的アセスメントと方略についてまとめる 予習：探索した内容の発表準備をしておく 復習：共有した内容をまとめておく	寺口
25	災害事例のアセスメント③	災害事例の包括的アセスメントと方略について発表し、ディスカッションする。 予習：プレゼンテーションの準備をする 復習：ディスカッション内容の理解を深め、アセスメントと方略を洗練させる	寺口 大橋
26	プライマリケア領域の倫理的課題①	倫理的課題と倫理的意思決定支援の方略について探索する。 予習：関心領域でおこりうる倫理的課題とそれに対する意思決定支援の方略について調べてくる 復習：ディスカッション内容を整理し、学習課題に対する理解を深める	真継 大橋
27	プライマリケア領域の倫理的課題②	倫理的課題と倫理的意思決定支援の方略についてまとめる。 予習：事例のアセスメント、方略についてエビデンスを調べる 復習：ディスカッション内容をふまえ、方略の具体策を検討する	真継 大橋
28	プライマリケア領域の倫理的課題③	倫理的課題と意思決定支援の方略について発表し、ディスカッションする。 予習：プレゼンテーションの準備をする 復習：ディスカッション内容の理解を深め、方略を洗練させレポートにまとめる	真継 大橋
29	急性期医療と協働・連携	急性期医療における協働・連携についてまとめる。 予習：急性期医療において関心のある現象を整理しておく 復習：討論を焦点化してまとめる	寺口
30	まとめ	関心領域における日常の疾病管理の現状と課題、ナースプラクティショナーとしてのアプローチについてまとめる。 予習：プレゼンテーションの準備をする 復習：討論を焦点化してまとめる	真継 寺口 大橋

授業科目名	プライマリケア看護学演習Ⅱ				
授業科目（英）	Seminar of Primary Care Nursing Ⅱ				
教員名	寺口　佐與子、真継　和子、大橋　尚弘、津田　泰宏、安田　稔人、 河口　美幸（兼）、萩原　邦子（非）、中村　敏明（兼）				
単位数	2	時間数	60	学年	1
開講期	後期	開講曜日	金曜 6 限、金曜 7 限		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	あらゆるライフステージにある人々を対象としたプライマリケア看護領域において求められる医療技術の提供のために、関連法規の理解をもとにプロトコールを作成し、プロトコールに基づく実施（技術演習）とその評価・修正の一連のプロセスを修得する。				
行動目標	1. 日常外来や在宅の場で一般的にみられる事例の課題解決に向けた臨床判断・検査・治療（薬物療法・非薬物療法）について説明できる。 2. 移植・リンパ浮腫など特定の健康課題をかかえる事例の課題解決に向けた臨床判断・検査・治療について説明できる。 3. 外来、在宅支援、組織のマネジメントの役割・機能を遂行するために必要な技術が習得できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、高度な看護実践力、教育・調整力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	クラス討議への参加度および貢献度、プレゼンテーション、レポートなどにより総合的に評価する。				
教科書	指定なし				
参考書	随時、紹介				
事前準備受講要件等	予習、復習時間は 60 分以上				
オフィスアワー	授業日の 12〜13 時と授業後				
SDGs との関連	3，4，12				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	外来指導の技術①	典型事例を用いて､外来支援場面における臨床判断･検査・治療と予防・管理のための高度な技術を習得する。 1. EBP に基づいたプロトコールの作成 2. 一般診療情報に加えて、画像診断やエコーを用いての診断技術 3. 血糖コントロールのためのインスリンの投与量の調整 4. 小児喘息の外来指導の実際 5. 障がいのある対象への情報収集や検査の進め方 6. 感染症へのトリアージ対応 予習：外来支援場面において関心のある現象を整理する 復習：EBP に基づいたプロトコールを作成する	寺口
2	外来指導の技術②	外来での典型事例を用いて EBP に基づいたプロトコールを作成する。 予習：作成したプロトコールの発表内容を整理する 復習：プロトコールを修正する	寺口
3	外来指導の技術③	作成したプロトコールに基づき演習を行い、評価・修正する。 予習：プロトコールに基づき物品等準備する 復習：実践した内容を評価・修正する	寺口

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
4	外来指導の技術④	外来での典型事例において画像診断やエコーを用いて、鑑別診断の実際を習得する。 予習：画像診断の知識を整理する 復習：外来指導場面でにおける NP の臨床判断技術についてまとめる	津田
5	在宅支援の技術①	典型事例を用いて、在宅での支援場面における臨床判断・検査・治療と予防・管理のための高度な技術を習得する。 1. EBP に基づいたプロトコールの作成 2. 栄養管理技術、血糖コントロール関連技術 3. 腹腔ドレーン管理技術、ろう孔管理技術 4. 関連機関へのコンサルテーション技術 予習：在宅支援場面において関心のある現象を整理する 復習：EBP に基づいたプロトコールを作成する	真継 大橋
6	在宅支援の技術②	在宅での典型事例を用いて EBP に基づいたプロトコールを作成する。 予習：作成したプロトコールの発表内容を整理する 復習：プロトコールを修正する	真継 大橋
7	在宅支援の技術③	作成したプロトコールに基づき、演習を行い、評価･修正する。 予習：プロトコールに基づき物品等準備する 復習：実践した内容を評価・修正する	真継 大橋
8	在宅支援の技術④	在宅高齢者の関節・筋肉の簡易検査の方法とエコー等を用いて、鑑別診断の実際を習得する。 予習：画像診断の知識を整理する 復習：在宅場面における NP の臨床判断技術についてまとめる	安田
9	薬剤投与関連の管理技術①	薬剤投与管理（服薬管理含む） 1. 在宅での薬剤調整と急性期病院との連携の実際 2. EBP に基づいた服薬指導の実際:麻薬、抗がん剤、免疫抑制剤、精神疾患薬剤、循環動態関連薬剤 予習：薬剤調整の必要な在宅支援場面における現象を整理する 復習：EBP に基づいたプロトコールを作成する	中村
10	薬剤投与関連の管理技術②	服薬管理のプロトコールを作成する。 予習：作成したプロトコールの発表内容を整理する 復習：プロトコールを修正する	中村
11	薬剤投与関連の管理技術③	作成したプロトコールに基づき演習を行い、評価・修正する。 予習：プロトコールに基づき物品等準備する 復習：実践した内容を評価・修正する	中村
12	薬剤投与関連の管理技術④	感染兆候がある者に対する薬剤投与の技術 脱水症状に対する輸液による補正 予習：感染兆候のある対象への薬剤について調べる 復習：感染兆候や脱水症状等の薬剤投与調整のポイントをまとめる	中村

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
13	創傷管理関連技術①	在宅における創傷管理関連 1. 褥瘡または慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去 2. 創傷に対する陰圧閉鎖療法 3. EBP に基づいたプロトコールの作成 4. エビデンスに基づく創傷管理技術 予習：在宅支援場面において関心のある現象を整理する 復習：EBP に基づいたプロトコールを作成する	河口 寺口
14	創傷管理関連技術②	在宅支援場面での創傷管理のプロトコールを作成する。 予習：作成したプロトコールの発表内容を整理する 復習：プロトコールを修正する	河口 寺口
15	創傷管理技術③	作成したプロトコールに基づき技術演習を行い、評価・修正する。 予習：プロトコールに基づき物品等準備する 復習：実践した内容を評価・修正する	寺口
16	特定の健康課題をかかえる患者への看護援助①	移植医療を受ける患者の理解と看護援助のエビデンス 1. 慢性臓器不全患者の移植に辿る過程 2. 移植・再生医療を受けた患者の自己管理 予習：移植医療、移植看護について知識を整理する 復習：レシピエントが移植に辿る過程と移植後の自己管理についてまとめる	寺口
17	特定の健康課題をかかえる患者への看護援助②	慢性臓器不全患者の事例を用いて術前・術後のプロトコールを作成し、外来での術前の初期対応、術後外来での継続管理を検討する。 予習：移植後レシピエントに必要な外来支援のプロトコールを作成する 復習：作成したプロトコールを修正する	寺口
18	特定の健康課題をかかえる患者への看護援助③	移植施設における移植後レシピエントの継続管理の実際を理解する。 予習：移植後レシピエントへの外来支援についてまとめる 復習：実際の継続支援場面でのアセスメントをふりかえる	萩原
19	特定の健康課題をかかえる患者への看護援助④	移植医療におけるレシピエントコーディネーターのコーディネーション技術を考察する。 予習：レシピエントコーディネーターの役割についてまとめる 復習：レシピエントコーディネーターと NP の協働について考察する	萩原
20	特定の健康課題へのケア技術①	リンパ浮腫ケアの援助方法のエビデンス 1. リンパ浮腫の事例 2. エビデンスに基づくリンパ浮腫ケア方法の実際 3. 関連機関への照会に関するコーディネーション技術 予習：リンパ浮腫を抱える対象に必要な支援について調べる 復習：EBP に基づくリンパ浮腫ケアについてまとめる	寺口

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
21	特定の健康課題へのケア技術②	リンパ浮腫看護外来でエビデンスに基づくリンパ浮腫ケアの実際を理解する。 予習：リンパ浮腫を抱える対象に必要なケアについてまとめる 復習：EBP に基づくリンパ浮腫ケアについて考察する	寺口
22	特定の健康課題へのケア技術③	リンパ浮腫ケアを受ける患者の継続指導について考察する。 予習：リンパ浮腫の自己管理のポイントについてまとめる 復習：リンパ浮腫の自己管理と継続指導について考察する	寺口
23	特定の健康課題へのケア技術④	医師・理学療法士等他職種との協働・連携および関連機関への照会について理解する 予習：リンパ浮腫ケアと多職種連携の現状について調べる 復習：リンパ浮腫を抱える対象への多職種連携の課題についてまとめる	寺口
24	長期呼吸療法に関連する技術①	1. 在宅における酸素療法 2. 呼吸状態に応じた酸素投与量と薬剤調整の技術 3. 呼吸管理についてのコンサルテーション技術 予習：在宅酸素療法が必要な人への支援場面を整理する 復習：EBP に基づいたプロトコールを作成する	真継
25	長期呼吸療法に関連する技術②	在宅酸素療法指導におけるプロトコールを作成する。 予習：作成したプロトコールの発表内容を整理する 復習：プロトコールを修正する	真継
26	長期呼吸療法に関連する技術③	作成したプロトコールに基づき、評価・修正する。 予習：プロトコールに基づき物品等準備する 復習：実践した内容を評価・修正する	真継
27	災害時の初期救急対応技術①	災害時におけるプライマリ・ケアのシミュレーション 1. 院外でのトリアージ 2. 救急外来での初期対応 3. 地域の特徴をふまえた災害要支援者への対応 予習：災害時のプライマリ・ケアの介入場面を整理する 復習：EBP に基づいたプロトコールを作成する	寺口
28	災害時の初期救急対応技術②	災害事例のシナリオに基づきプライマリ・ケアのプロトコールを作成する。 予習：作成したプロトコールの発表内容を整理する 復習：プロトコールを修正する	寺口
29	災害時の初期救急対応技術③	文献を用いて災害時の現状と課題を考察し、ナースプラクティショナーの役割をディスカッションする。 予習：文献を読み意見をまとめてくる。 復習：共有した内容を深める	大橋
30	まとめ	関心領域におけるナースプラクティショナーとしてのアプローチについてまとめ、プレゼンテーションする。 予習：発表準備をする 復習：討議内容を焦点化してまとめる	寺口 真継 大橋

授業科目名	プライマリケア看護学実習Ⅰ				
授業科目（英）	Advanced Practicum of Primary Care Nursing Ⅰ				
教員名	真継　和子、寺口　佐與子、大橋　尚弘				
単位数	2	時間数	90	学年	1
開講期	後期	開講曜日	実習		
科目区分	選択	授業形態	実習		
一般目標	あらゆるライフステージにある個人・家族の診断と治療のプロセスを学ぶとともに、対象の健康課題を明らかにするための初期対応を学ぶ。おもに外来の総合診療科やクリニックにおいて、担当事例について医師の診察や臨床カンファレンス等に参加し、診断手がかりから診断プロセスを追い、症状と検査や治療法を関連付けて考察できる臨床推論、臨床判断能力を養う。さらに、保健医療福祉の全体像を把握し、ナースプラクティショナーとしての役割と課題を考察する。				
行動目標	1. 担当事例の問診、フィジカルアセスメント、画像診断、病理診断、検査データの解釈など一連の診断プロセス、臨床判断について理解できる。 2. 担当事例の病態、状態を理解し、治療戦略や治療決定プロセスを理解できる。 3. 診断に必要な検査、フィジカルアセスメントが実施できる。 4. さまざまな症状や状態の変化を手がかりとしながら病態の的確な判断とともに、看護の視点から包括的アセスメントを行い、疾病予防や症状のマネジメントをはじめとする疾病管理の方略を計画できる。 5. コモン・ディジーズを基盤とし、あらゆる健康レベル（予防、急性期、回復期、慢性期、終末期）にある人々へのプライマリ・ケアについて説明できる。 6. わが国の医療をとりまく現状をふまえ、対象とする地域における保健医療福祉の現状と課題について考察できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、高度な看護実践力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	実習での実践内容とレポート、面接で行う。日々の実習記録（40%）、課題レポート（30%）、プレゼンテーション資料／カンファレンスでの討議内容（30%）を総合的に評価し、到達目標の達成度を評価する。				
教科書	指定なし				
参考書	随時、紹介				
事前準備受講要件等	既習学習の内容を復習して臨むこと 予習・復習時間は 120 分				
オフィスアワー	授業日				
SDGs との関連	3，17				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1〜45回	初期対応に関する臨床判断	【実習内容】 ・外来の総合診療科、内科等の場において、あらゆるライフステージにある患者の多様な症状や徴候から臨床推論に基づくコモン・ディジーズの診断と疾病予防や疾病管理までの方略について学ぶ。 ・外来等の診察場面に同席し、医師の指導のもと、患者の問診、フィジカルアセスメントを実施する。 ・画像診断、病理診断、検査データをもとにした臨床判断プロセスを学ぶ。 ・疾病管理や症状マネジメントの方略について学ぶ。 ・問診、フィジカルアセスメント、画像診断、病理診断、検査データをもとにした診断プロセス、治療決定にいたるプロセスについてまとめ、考察する。さらに、看護実践への応用について考察する。 ・実習施設では、適時カンファレンスを行い、担当医の助言を積極的に受ける。 【実習場所と実習指導者】 1. 大阪医科薬科大学病院 鈴木 富雄（総合診療科 医師） 2. 医療法人 東和会グループ 第一東和会病院 津田 泰宏（大阪医科薬科大学看護学部　教授 消化器内科 医師、第一東和会病院　非常勤医師） 【教員】 真継 和子 寺口 佐與子 大橋 尚弘 【実習期間】 10 月〜11 月のうち週 2〜3 日を原則として、4 週間実習を行う。 【実習施設との連携】 ・適宜カンファレンスを行い、実習指導者や教員の助言を積極的に得られるようにする。また、当該部署の看護責任者及び受け持ち患者に関わる専門職者からも助言を得る。 ・教員を交え、実習の進捗状況並びに問題点、事例分析等について定期的に討議検討する。 ・実習最終週には、実習指導者及び教員の同席のもと、まとめのカンファレンスを実施する。	真継 寺口 大橋

授業科目名	プライマリケア看護学実習Ⅱ				
授業科目（英）	Advanced Practicum of Primary Care Nursing Ⅱ				
教員名	寺口　佐與子、真継　和子、大橋　尚弘				
単位数	2	時間数	90	学年	1
開講期	後期	開講曜日	実習		
科目区分	選択	授業形態	実習		
一般目標	自己の専門とするフィールド以外の多様な場で、ライフステージや健康レベルに応じた人々への高度実践看護師の看護実践を通して、複雑な健康課題を明らかにしていくプロセスを学ぶとともに、プライマリ・ケアの役割や健康課題の解決のための実践活動について理解できる。特に、対象となる人々の困難な課題に対して高度実践看護師が実践している多職種との連携・調整・相談活動の方略について理解し、ナースプラクティショナーとしての課題を明確にできる。				
行動目標	1. あらゆる発達段階にある個人・家族の生活を把握し、健康課題との関連および病態、治療と生活との関連について理解できる。 2. 小児、成人、老人、精神領域から選択した領域の専門看護師の実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究に関する役割・機能について理解できる。 3. 小児、成人、老人、精神領域から選択した領域の専門看護師が実践、相談、調整、倫理調整、教育で用いている専門知識、臨床判断、熟練したケア技術等のあらゆる介入技術について理解できる。 4. あらゆる発達段階にある個人・家族の困難な課題に対する高度実践看護師の看護実践から、多職種との連携・調整・相談活動の方略を学び、ナースプラクティショナーの課題を考察できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、論理的・批判的思考力、課題発見・課題解決能力、看護実践能力				
評価並びにフィードバック法	評価は、実習における実践内容とカンファレンス、課題レポートで行い、学生の自己評価を参考にする。日々の実習記録（30%）、課題レポート（実践のまとめ2例）（40%）、プレゼンテーション資料／カンファレンスでの討議内容（30%）を総合的に評価し、到達目標の達成度を評価する。				
教科書	指定なし				
参考書	随時、紹介				
事前準備受講要件等	既習学習の内容を復習して臨むこと 予習・復習時間は120分				
オフィスアワー	授業日				
SDGsとの関連	3, 17				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～45回	＊選択した領域の専門看護師の看護実践を学ぶ	【実習内容】 ・4領域の中から1領域を選択する。 小児看護専門看護師、慢性看護専門看護師、老人看護専門看護師、精神看護専門看護師の役割機能について学ぶ ・専門看護師の相談、調整、倫理調整、教育場面に参加し、対応を必要とした問題や課題の明確化、方略（具体的アプローチ）、評価について分析し、それぞれの役割、機能を考察する。 1. 小児領域 1）小児看護専門看護師の実践する活動に一緒に参加し、プライマリ・ケアの役割を考察する。	寺口 真継 大橋

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～45回	＊選択した領域の専門看護師の看護実践を学ぶ	2）外来や病棟において複雑な問題を抱えている患児及び家族への援助について小児看護専門看護師とともに参加し、小児看護専門看護師がどのような専門的知識や臨床判断、看護ケア技術を用いて実践しているかについて考察する。 3）患児および家族がかかえる課題についてプライマリ・ケアの場における支援を考察する。 2. 慢性領域 1）慢性疾患看護専門看護師の実践する活動に一緒に参加し、プライマリ・ケアの役割を考察する。 2）外来や病棟において複雑な問題を抱えている患者及び家族への援助について慢性疾患看護専門看護師とともに参加し、慢性疾患看護専門看護師がどのような専門的知識や臨床判断、看護ケア技術を用いて実践しているかについて考察する。 3）患者および家族がかかえる課題についてプライマリ・ケアの場における支援を考察する。 3. 老人領域 1）老人看護専門看護師の実践する活動に一緒に参加し、プライマリ・ケアの役割を考察する。 2）外来や病棟において複雑な問題を抱えている患者及び家族への援助について老人看護専門看護師とともに参加し、老人看護専門看護師がどのような専門的知識や臨床判断、看護ケア技術を用いて実践しているかについて考察する。 3）患者および家族がかかえる課題についてプライマリ・ケアの場における支援を考察する。 4. 精神領域 1）精神看護専門看護師の実践する活動に一緒に参加し、プライマリ・ケアの役割を考察する。 2）外来や病棟において複雑な問題を抱えている患者及び家族への援助について精神看護専門看護師とともに参加し、精神看護専門看護師がどのような専門的知識や臨床判断、看護ケア技術を用いて実践しているかについて考察する。 3）患者および家族がかかえる課題についてプライマリ・ケアの場における支援を考察する。 【実習場所と実習指導者】 1. 社会医療法人愛仁会高槻病院 橋倉 尚美（小児看護専門看護師） 2. 独立行政法人 堺市立病院機構 堺市立総合医療センター 田中 順也（慢性疾患看護専門看護師） 3. 日本赤十字社 高槻赤十字病院 今戸 美奈子（慢性疾患看護専門看護師） 4. 日本赤十字社 高槻赤十字訪問看護ステーション 原田 かおる（老人看護専門看護師）	寺口 真継 大橋

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～45回	＊選択した領域の専門看護師の看護実践を学ぶ	5. 医療法人清心会 八尾こころのホスピタル 庄司 寛子（精神看護専門看護師） 【教員】 寺口 佐與子 真継 和子 大橋 尚弘 【実習期間】 2～3月。週5日を原則とし、2週間実施する。 【実習施設との連携】 ・適宜カンファレンスを行い、実習指導者や教員の助言を積極的に得られるようにする。また、当該部署の看護責任者及び受け持ち利用者に関わる専門職者からも助言を得る。 ・実習最終週には、実習指導者及び教員の同席のもと、まとめのカンファレンスを実施する。	寺口 真継 大橋

授業科目名	プライマリケア看護学実習Ⅲ				
授業科目（英）	Advanced Practicum of Primary Care Nursing Ⅲ				
教員名	寺口　佐與子、真継　和子、大橋　尚弘				
単位数	4	時間数	180	学年	2
開講期	前期	開講曜日	実習		
科目区分	選択	授業形態	実習		
一般目標	自己の専門とするフィールドにおいて、あらゆるライフステージにある個人・家族を対象に予防期から終末期までの健康課題を解決するために必要な高度看護実践能力、教育能力、相談能力、調整能力、研究能力、倫理的判断能力を修得する。				
行動目標	1. 自己の専門とするフィールドにおいてあらゆる健康レベル（予防、急性期、回復期、慢性期、終末期）にある人々のアセスメント・計画・看護実践・処置・検査など対象のニーズに応じたプライマリケア領域での高度な看護実践が理解できる。 2. プライマリケア領域における看護実践、教育、相談、調整、研究、倫理的判断に関する役割・機能について理解できる。 3. 実習指導者とともに複雑な健康課題をかかえる対象への初期対応、関係機関への調整が実施できる。 4. 実習指導者とともに相談、調整、倫理調整の役割を実施できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	倫理観、論理的・批判的思考力、課題発見・課題解決能力、看護実践能力				
評価並びにフィードバック法	評価は、実習における実践内容とカンファレンス、課題レポートで行い、学生の自己評価を参考にする。日々の記録（10%）、課題レポート（実践のまとめ 4 例）（40%）、ケースレポート（1 例）（20%）、プレゼンテーション資料／カンファレンスでの討議内容（30%）を総合的に評価し、到達目標の達成度を評価する。				
教科書	指定なし				
参考書	随時、紹介				
事前準備受講要件等	既習学習の内容を復習して臨むこと 予習・復習時間は 120 分				
オフィスアワー	授業日				
SDGs との関連	3, 17				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1〜90回	プライマリケア領域における臨床判断の実際	【実習内容】 1. 自らの専門とするフィールド（外来、在宅、後方支援病院等）で展開されるコモン・ディジーズを基盤とした様々な健康レベルにある小児から高齢者への看護援助、健康予防・増進活動など実習指導者のもとで実践する。 ・施設の概要と組織の把握、病棟あるいは外来、在宅の概要の把握、患者・家族の全体的な把握をする。 ・チームに入り、患者の疾患及び治療の状況を理解する。 ・スタッフとの人間関係をつくり、実習場へのコミットを図る。 ・実習指導者の指導のもと、受け持ち患者を決定し、患者の同意を得る。 ・受け持ち患者の包括的なアセスメント及び課題を明確にする。 ・週の最終日は週のまとめの週間カンファレンスを行う。	寺口 真継 大橋

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1〜90回	プライマリケア領域における臨床判断の実際	・2週目の最終日は中間カンファレンスを実施し、後半の実習課題を明確にする。 【実習場所と実習指導者】 1. 京都大学医学部附属病院 2. 大阪大学医学部附属病院 3. 大阪医科薬科大学病院 形成外科リンパ浮腫看護外来 寺口 佐與子（大阪医科薬科大学看護学部　准教授　看護師） 4. 社会医療法人愛仁会高槻病院 橋倉 尚美（小児看護専門看護師） 5. 独立行政法人 堺市立病院機構 堺市立総合医療センター 田中 順也（慢性疾患看護専門看護師） 6. 日本赤十字社 高槻赤十字病院 今戸 美奈子（慢性疾患看護専門看護師） 7. 日本赤十字社 高槻赤十字訪問看護ステーション 8. 医療法人清心会 八尾こころのホスピタル 庄司 寛子（精神看護専門看護師） 9. 社会医療法人高清会 高井病院 徳川奉樹（リンパ浮腫療法士） 【教員】 寺口 佐與子 真継 和子 大橋 尚弘 【実習期間】 5〜6月。週5日を原則とし、2週間実施する。 【実習施設との連携】 ・適宜カンファレンスを行い、実習指導者や教員の助言を積極的に得られるようにする。また、当該部署の看護責任者及び受け持ち患者に関わる専門職者からも助言を得る。 ・実習最終週には、実習指導者及び教員の同席のもと、まとめのカンファレンスを実施する。	寺口 真継 大橋

授業科目名	プライマリケア看護学実習Ⅳ				
授業科目（英）	Advanced Practicum of Primary Care Nursing Ⅳ				
教員名	真継　和子、寺口　佐與子、伊藤　真理、大橋　尚弘				
単位数	2	時間数	90	学年	2
開講期	前期	開講曜日	実習		
科目区分	選択	授業形態	実習		
一般目標	高度実践看護師の機能のうち、特に他職種機関との連携・協働、調整、スタッフ及び家族への相談などの役割を学び、それらの役割を発揮するための高度看護実践の基礎的能力を修得できる。専門看護師の指導のもと、自らの専門とするフィールドにおいてあらゆる健康レベルにある個人・家族への健康課題を解決するために、保健医療福祉にかかわる人々と連携・協働し、プライマリ・ケアを基盤とした看護を計画し、実践できる。実習を通して、実践、教育、相談、調整、倫理調整などを含めた高度な看護援助の工夫や開発技法を修得し、ナースプラクティショナーの役割を明確にできる。さらに、行った看護を批判的に分析することで、看護上の課題に対する探求力と解決能力を養う。				
行動目標	1. 自らの専門とするフィールドにおいて、キュアとケアを必要とする患者と家族への看護を計画し、実践できる。 2. 患者の問診、フィジカルアセスメント、画像所見、病理所見、各種検査データをもとに、患者の身体的側面および、生活面、心理・社会的側面からアセスメントできる。 3. 患者や家族が抱える顕在的および潜在的な健康課題を明らかにし、エビデンスにもとづいた看護計画を立案し、実習指導者の指導のもと実践できる。 4. 他職種との連携・協働のもと、チームアプローチや地域連携の実際を分析し、患者や家族のケアマネジメントを実施できる。 5. 事例を通して、相談、調整、倫理調整などを含めた高度看護実践技術を活用する。 6. 批判的思考から看護を考察し、看護上の課題解決への取り組みができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、高度な看護実践能力、教育・調整力、課題解決力、				
評価並びにフィードバック法	実習での実践内容と実習記録、レポート、学生の自己評価、面接で行う。日々の実習記録（30%）、課題レポート（実践のまとめ2例）（40%）、プレゼンテーション資料／カンファレンスでの討議内容（30%）を総合的に評価し、到達目標の達成度を評価する。				
教科書	指定なし				
参考書	随時、紹介				
事前準備受講要件等	既習学習の内容を復習して臨むこと 予習・復習時間は120分				
オフィスアワー	授業日				
SDGsとの関連	3, 12, 17				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～45回	・プライマリ・ケア領域においてキュアとケアを必要とする患者および家族に対する専門的知識および臨床判断、看護技術を用いた高度な看護実践 ・課題解決のための他職種との連携と協働 ・プライマリ・ケア領域の患者・家族およびそこにかかわるスタッフへの相談、調整、教育の実施	【実習内容】 自らの専門とするフィールドで専門看護師等の指導のもと、キュアとケアを必要とする患者・家族に対して、専門的知識および臨床判断、看護ケア技術を用いて看護実践する。さらに、他職種との連携・協働のもと、チームアプローチや地域連携の実際について学ぶ。 ・病棟、外来および訪問看護ステーションにおいて、キュアとケアを必要とする患者を受け持ち、看護を実践する。 ・患者の問診、フィジカルアセスメント、画像所見、病理所見、各種検査データをもとに、患者の身体的側面および生活面、心理・社会的側面からアセスメントする。 ・患者や家族が抱える顕在的および潜在的な課題を明らかにし、エビデンスにもとづいた介入計画を立案し、スタッフとともに実践する。 ・他職種との連携・協働のもと、チームアプローチや地域連携の実際を分析し、患者や家族のケアマネジメントを実施する。 ・実施した看護について、専門看護師とともにカンファレンスで評価する。 専門看護師の指導のもと、プライマリ・ケア領域の患者・家族およびそこにかかわるスタッフへの相談、調整、教育のいずれかの役割を実施する。 ・患者および家族の実践を通して、患者にかかわっている病棟、外来もしくは訪問看護ステーションの看護師に対して相談、調整、教育のいずれかの役割を実施する。 ・患者や家族にかかわる看護師のケアの状況をアセスメントする。 ・看護師が抱える課題を明らかにし、課題解決に向けた計画を立案し、実施する。この際に、相談、調整、教育のどういった視点でかかわるかを明確にする。 ・実践を専門看護師とともに評価する。	真継 寺口 伊藤 大橋

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1〜45回	・プライマリ・ケア領域においてキュアとケアを必要とする患者および家族に対する専門的知識および臨床判断、看護技術を用いた高度な看護実践 ・課題解決のための他職種との連携と協働 ・プライマリ・ケア領域の患者・家族およびそこにかかわるスタッフへの相談、調整、教育の実施	【実習場所と実習指導者】 1. 京都大学医学部附属病院 宇都宮 明美（急性・重症患者看護専門看護師） 2. 大阪大学医学部附属病院 萩原 邦子（移植コーディネーター） 3. 大阪医科薬科大学病院 形成外科リンパ浮腫看護外来 寺口 佐與子（大阪医科薬科大学看護学部　准教授　看護師） 4. 社会医療法人愛仁会高槻病院 橋倉 尚美（小児看護専門看護師） 5. 独立行政法人 堺市立病院機構 堺市立総合医療センター 田中 順也（慢性疾患看護専門看護師） 6. 日本赤十字社 高槻赤十字病院 今戸 美奈子（慢性疾患看護専門看護師） 7. 天理よろづ相談所病院 丹生 淳子（慢性疾患看護専門看護師） 8. 医療法人清心会 八尾こころのホスピタル 庄司 寛子（精神看護専門看護師） 9. 訪問看護リハビリステーションたもつ 堀 友紀子（急性・重症患者看護専門看護師） 10. いなだ訪問看護クリニック 守屋 有紀子（ナースプラクティショナー（JANPU-NP）） 【教員】 真継 和子 寺口 佐與子 伊藤 真理 大橋 尚弘 【実習期間】 9月。週5日を原則とし、2週間実施する。 【実習施設との連携】 ・適宜カンファレンスを行い、実習指導者や教員の助言を積極的に得られるようにする。また、当該部署の看護責任者及び受持ち患者に関わる専門職者からも助言を得る。 ・教員を交え、実習の進捗状況並びに問題点、事例分析等について定期的に討議検討する。	真継 寺口 伊藤 大橋

授業科目	特別研究				
授業科目（英）	Master's Thesis Research Ⅰ				
教員名	主指導：池西　悦子、小林　道太郎、寺口　佐與子、鈴木　久美、飛田　伊都子、山岡　由実、樋上　容子、安田　稔人、津田　泰宏、鈴木　美佐、草野　恵美子、真継　和子、土手　友太郎、川北　敬美、二宮　早苗、谷水　名美、南口　陽子、伊藤　真理、大橋　尚弘、佐々木　綾子（嘱託教員） 副指導：近澤　幸、森　瞳子、間中　麻衣子、中原　洋子、杣木　佐知子				
単位数	8	時間数	120	学年	1～2
開講期	通　年	開講曜日	月・火曜５限　※２年前期のみ月曜５限		
科目区分	選　択	授業形態	演　習		
一般目標	特別研究は、関心のある看護学領域において、文献検討や現状分析を行うことで研究課題を明らかにし、科学的な研究プロセスに沿って研究能力を養う。				
行動目標	1. 関心のある看護現象や取り組みたい課題を説明できる。 2. リサーチクエッションを見出せる 3. 関心のある領域の現状分析を行い、文献検討から研究課題及び研究方法を明確にできる。 4. 研究計画書を作成することができる。 5. 文献検討を行い、主論文の必要性を説明できる。 6. 研究計画書に沿ってデータ収集および分析ができる。 7. データ分析を通して、研究目的に即した研究結果を導きだすことができる。 8. 科学的な方法に沿って得られたデータを分析し､分析結果を考察して研究論文を執筆できる。 9. 論理性・整合性・一貫性をもった研究論文を作成することができる				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探求・研究遂行力、論理的・批判的思考力、高い倫理観				
評価並びにフィードバック法	研究課題の明確化、テーマの前提となる文献研究、テーマと論旨の一貫性、研究のプロセスでの取り組み等を総合的に評価する。				
教科書	適宜提示する				
参考書等	適宜提示する				
事前準備・受講要件等	「看護理論」「看護学研究方法論」の受講				
オフィスアワー（曜日／時間）	担当教員毎に確認する				
SDGsとの関連	3				

回	学習課題	内容並びに方法 / 予習と復習 予習は 180 分以上とする。	担当教員
120 （時間）	【授業の進め方】 1. 関心のある看護現象や取り組みたい領域について、文献検討や現状分析を行い研究課題を及び方法論を明確にする。 2. 研究計画書を作成し、倫理審査委員会に提出し、研究倫理審査を受ける。 3. 研究倫理審査の結果を受けて、研究計画書に沿って研究を進める。 4. 文献検討を行い、主論文の必要性を明確にする。 5. 文献研究論文をまとめる。 6. 科学的な方法に沿って得られたデータを分析し､分析結果を考察して研究論文を執筆する。 【研究指導体制】 1. 基本的にはグループ指導体制をとる。 2. セメスター毎に２回程度実施するが、その間には指導教員の指導を受ける。 3. 研究計画の発表を行い、助言を得る。 予習：毎回の授業の課題を主体的に確認し、準備資料を準備する。 復習：指導毎の内容を振り返り、研究計画、研究スケジュールを確認し、課題を行う。		全員

授業科目	課題研究				
授業科目（英）	Master's Thesis Research Ⅱ				
教員名	主指導：鈴木　久美、飛田　伊都子、山岡　由実、樋上　容子、鈴木　美佐、寺口　佐與子、真継　和子、南口　陽子、伊藤　真理、大橋　尚弘 副指導：安田　稔人、津田　泰宏、土手　友太郎、川北　敬美、二宮　早苗、谷水　名美、近澤　幸、森　瞳子、間中　麻衣子、杣木　佐知子				
単位数	4	時間数	60	学年	1～2
開講期	1年後期～2年後期	開講曜日	月曜5限　※2年後期のみ月・火曜5限		
科目区分	選　択	授業形態	演　習		
一般目標	課題研究は、学生が専門とする看護領域での経験や実習中に見出した特定の課題に対して、研究的に取り組み、看護実践の発展に寄与する研究能力を養う。				
行動目標	1. 特定の課題が研究の前提となる現状分析を行い、研究の目的、意義を説明できる。 2. 研究計画を作成する。 3. 研究のプロセスに沿って調査を実施できる。 4. 科学的な方法に沿って得られたデータを分析し､分析結果を考察して研究論文を執筆できる。 5. 看護実践への応用及び示唆を提示できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題解決力、論理的・批判的思考力、高い倫理観				
評価並びにフィードバック法	研究課題の明確化、テーマと論旨の一貫性、研究のプロセスでの取り組み等を総合的に評価する。				
教科書	適時、紹介する。				
参考書等	適時、紹介する。				
事前準備・受講要件等	適時、紹介する。				
オフィスアワー（曜日／時間）	担当教員毎に確認する。				
SDGsとの関連	3				

回	学習課題	内容並びに方法	担当教員
60 （時間）	【授業の進め方】 1. 特定の課題が研究の前提となる現状分析を行い、研究の目的、意義を明らかにする。 2. 研究計画を作成する。 3. 研究計画書を倫理審査委員会に提出し、研究倫理審査を受ける。 4. 研究倫理審査の結果を受けて、研究のプロセスに沿って看護実践研究に取り組む。 5. 科学的な方法に沿って得られたデータを分析し、分析結果を考察して研究論文を執筆する。 6. 研究論文に高度看護専門職としての実践への示唆を得ることができる。 【研究指導体制】 1. 指導教員を中心として、複数の教員による指導体制をとる。 2. 研究計画の発表を行い、助言を得る。		全員

大阪医科薬科大学大学院看護学研究科看護学専攻
博士前期課程学位論文について

Ⅰ．指導体制とスケジュール

1. 趣旨

２年間（長期履修者は３年間）の正規の修業年限内に学位論文を提出し，修士の学位を取得できるように指導体制を整えている．指導教員は３名（主指導教員１名，副指導教員２名）とし，相互に綿密な連携をとりつつ適切な指導体制を組織する．なお，主指導教員，副指導教員の他，科目担当教員や補助教員についても大学院担当教員として必要となる教育業務を行う．

2. 学年次ごとのスケジュール

下記に基本的なスケジュールを示す．

【正期履修者用】

〈特別研究〉

1）第１年次

第１年次中に研究計画書を作成する．

２月：研究計画書の発表，研究科教授会への研究計画書の提出

３月：研究科教授会承認後，倫理審査申請書提出

2）第２年次

５月：大阪医科薬科大学研究倫理委員会（以後，研究倫理委員会とする）の承認後に研究の実施

１月：修士論文（主論文および文献研究論文）の提出

２月：論文審査，修士論文発表会，修正版修士論文提出

３月：学位授与可否決定，学位記授与式

〈課題研究〉

1）第１年次

10 月：課題研究の授業開始，研究計画書の作成を開始

２月：研究計画書の発表（早期から研究の実施を必要とする場合）

研究科教授会への研究計画書の提出

３月：研究科教授会承認後，倫理審査申請書提出（早期）

2）第２年次

４月：研究計画書の発表（通常）

５月：研究科教授会への研究計画書の提出

研究科教授会承認後，倫理審査申請書提出

５月：倫理審査（早期），研究倫理委員会の承認後に研究の実施（早期）

倫理審査申請書提出（通常）

７月：高度実践コース実習報告会，倫理審査（通常），研究倫理委員会の承認後に研究の実施（通常）

1月：修士論文の提出

2月：論文審査，修士論文発表会，修正版修士論文提出

3月：学位授与可否決定，学位記授与式

【長期履修者用】

〈特別研究〉

1）第2年次

4月：研究計画書の作成開始

11月：研究計画書の発表（早期），研究科教授会への研究計画書の提出

研究科教授会承認後，倫理審査申請書提出（早期）

1月：倫理審査（早期），研究倫理委員会の承認後に研究の実施（早期）

2月：研究計画書発表会（通常）

3月：研究科教授会への研究計画書の提出及び承認後，倫理申請書提出（通常）

2）第3年次

5月：倫理審査（通常），倫理委員会の承認後に研究の実施（通常）

1月：修士論文（主論文および文献研究論文）の提出

2月：論文審査，修士論文発表会，修正版修士論文提出

3月：学位授与可否決定，学位授与式

〈課題研究〉

1）第2年次

10月：課題研究の授業開始，研究計画書の作成を開始

2月：研究計画書の発表（早期），研究科教授会への研究計画書の提出（早期）

3月：研究科教授会承認後，倫理審査申請書提出（早期）

2）第3年次

4月：研究計画書の発表（通常），研究科教授会への研究計画書提出（通常）

5月：倫理審査（早期），研究倫理委員会の承認後に研究の実施（早期）

7月：高度実践コース実習報告会，倫理審査（通常），倫理委員会の承認後に研究の実施（通常）

1月：修士論文の提出

2月：論文審査，修士論文発表会，修正版修士論文提出

3月：学位授与可否決定，学位記授与式

修士論文・課題研究論文作成等のながれ

時期		教育研究コース	教育研究コース（長期履修）	高度実践コース	高度実践コース（長期履修）
M1	4月	「特別研究開始」			
	7月	グループ指導			
	10月			「課題研究開始」	
	11月	グループ指導		グループ指導	
	2月	グループ指導 研究計画発表会 研究計画書の提出		グループ指導 研究計画発表会（早期）	
	3月	倫理申請書の提出		倫理申請書の提出（早期）	
M2	4月		「特別研究開始」	研究計画発表会（通常） 研究計画書の提出（通常）	「課題研究開始」
	5月	倫理審査		倫理審査（早期） 倫理申請書の提出（通常）	
	6月	グループ指導	グループ指導		
	7月			実習報告会 グループ指導 倫理審査（通常）	
	9月	グループ指導	グループ指導	グループ指導	
	11月	修士論文タイトル提出	研究計画発表会（早期） 研究計画書の提出（早期） 倫理申請書の提出	修士論文タイトル提出	グループ指導
	12月	グループ指導	グループ指導	グループ指導	
	1月	修士論文提出	倫理審査（早期）	修士論文提出	
	2月	修士論文発表会 修正版修士論文提出	研究計画発表会（通常） 研究計画書の提出（通常）	修士論文発表会 修正版修士論文提出	研究計画発表会（早期） 研究計画書の提出（早期）
	3月	学位授与可否審議	倫理申請書の提出	学位授与可否審議	グループ指導 倫理申請書の提出（早期）
M3	4月				研究計画発表会（通常） 研究計画書の提出（通常）
	5月		倫理審査（通常）		倫理審査（早期） 倫理申請書の提出（通常）
	7月		グループ指導		実習報告会 グループ指導 倫理審査（通常）
	9月		グループ指導		グループ指導
	10月				
	11月		グループ指導 修士論文タイトル提出		グループ指導 修士論文タイトル提出
	1月		修士論文提出		修士論文提出
	2月		修士論文発表会 修正版修士論文提出		修士論文発表会 修正版修士論文提出
	3月		学位授与可否審議		学位授与可否審議

Ⅱ．研究計画書と研究計画発表会

・修士論文・課題研究論文研究計画書は主指導・副指導教員による指導のもと作成し，研究計画発表会での発表を経た後，看護学研究科教授会の承認を得て，研究倫理審査を受けることを原則とする．

1．研究計画書の作成

1）様式

・表紙に学位（修士）論文研究計画書申請書（様式 1）を貼付する．

・枚数は 6 ページ程度とする（表紙は除く，図表は含める）．

・Ａ 4 サイズ　40 字× 40 行，上下マージン 30-35㎜　横書きとする．

・見出しと区分の記載はⅦ．学位（修士）論文執筆要領　6．見出しと区分と同様とする．

2）提出期限・提出場所・提出部数

提出期限：指定された日時までに提出する．

提出場所：学務部看護学事務課（以後，看護学事務課とする）

提出方法：

・学位（修士）論文研究計画書申請書（様式 1）

原本を窓口にて提出もしくは看護学事務課宛のメールアドレスにファイルを添付する．指導教員サイン欄への押印により，複数枚（3 枚）となっても構わない．（学生記入欄はすべて記入すること）

・研究計画書

看護学事務課宛のメールアドレスにファイルを添付する．研究計画発表会終了後，修正した箇所は下線を付すこと．

3）研究計画書の構成

研究計画書はおおむね以下の内容で構成されるものとする．

（1）研究課題

具体的な研究課題の紹介（何について研究するのか？）

（2）研究の背景

研究の動機：なぜその研究課題に興味・関心を持ったのか？

研究課題への興味・関心：その研究課題にどのような理論的興味や関心があるのか？

研究課題の重要性：その問題はなぜ・どのような点で重要なのか？

（3）これまでの研究の概要

研究の状況：研究課題に関する既存の研究はどのようになっているのか？

既存の研究の分析・評価：既存の研究をどのように吟味しているのか？

（4）研究の目的・意義

研究の目的：何を問題にして，何を明らかにしようとしているのか？

研究の意義：その研究の価値は何か？その研究はどのような事柄に貢献するか？

（5）研究の方法

研究の具体的な方法の説明（段階を追って記述する）

研究対象の選定基準は何か？

どのような方法を用いて行い，どのように分析するのか？この方法がなぜこの研究に適しているのか？

(6) 倫理的配慮

「人を対象とする研究」は研究倫理委員会の研究倫理審査を受けること

(7) 期待される研究成果

(8) 研究の限界

(9) 参考文献

引用文献／参考文献一覧を最終ページに記すこと

文献の記載はⅦ.学位（修士）論文執筆要領 9.引用形式と同様とする

ただし，研究計画発表会では参考文献の記載は省略すること

2. 研究計画発表会について

・研究計画発表会は，原則として 2 月，4 月，11 月に開催する．

・発表会では資料として研究計画書のコピーを配布する．ただし，参考文献は省略とする．発表会終了後に資料は回収する．

・検討時間は一人 30 分程度を目安とし，15 分程度の学生による発表の後，質疑応答・意見交換を行う．

・発表は原則としてパワーポイントを用いる．

・研究計画発表会には本学の看護学部教員および看護学研究科の学生は参加できる．なお，学生については，研究倫理に関する研究計画発表会参加同意書の提出を求められることがある．

3. 高度実践コース実習報告会について

・高度実践コース実習報告会は，高度実践コースの学生が実習での学びを報告するものとし，原則として 7 月に開催する．

・報告会では資料として要旨（指定様式）を配布する．報告会終了後に資料は回収する．

・報告は 1 件につき発表時間 15 分、質疑応答 10 分とする．

・報告は原則としてパワーポイントを用いる．

・高度実践コース実習報告会には本学の看護学部教員および実習指導者，看護学研究科の学生は参加できる．なお，学生については，研究倫理に関する同意書の提出を求められることがある．

Ⅲ．研究倫理教育について

研究活動を行う際には，研究倫理はもちろんのこと研究者自身の規律が重要視されている．そこで，本学では，研究者が研究活動を行うにあたり，以下の研究倫理教育の受講が求められている．

1. 本学研究倫理委員会主催の「臨床研究教育研修会」の受講

この研修会は，研究活動を行っている期間中，毎年 1 回の受講が必要になる．また，人を対象とする研究を行う際には，研究開始前に必ず受講しておく必要がある．なお，同研修会に代わり，別途研究推進課から案内される eAPRIN もしくは ICR-Web の受講も可とする．

2.「研究活動における不正行為への対応等のための研究倫理教育」および「公的研究費の不正使用防止のためのコンプライアンス教育」の受講

研究活動における不正行為（発表された研究成果の中に示されたデータや調査結果等の捏造、改ざん及び盗用など）が社会的に大きく取り上げられる事態が起こっている．そこで，文部科学省「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」および公的研究費の不正使用等の防止のための文部科学省「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に基づき，教育研修を実施する．研究者は３年に１回の受講が必要であるため，原則として入学初年度に受講すること．尚，すでに所属機関で受講している大学院生は，受講していることを証明する書類を看護学事務課に提出すること．

Ⅳ．研究倫理審査の受審について

・研究計画発表会後，研究計画書を看護学研究科教授会に提出する．教授会で承認を得た後，研究計画書に基づいて倫理審査申請書を作成し，本学の研究倫理委員会に倫理審査申請を行う．
・研究倫理審査申請書は，ホームページ「研究倫理委員会」の「倫理審査申請システム」から電子申請を行う．倫理申請の際には，原則として本学の「臨床研究教育研修会」を受講しておく必要がある．詳細については UNIVERSAL PASSPORT の各種資料「倫理申請手順」を確認すること．
・学位論文の倫理的配慮の項目に通知番号を明記する．

Ⅴ．学位（修士）論文について

・学位（修士）論文（特別研究）は，文献研究論文および主論文から構成され，それぞれの論文が学位論文の審査対象となる．
・学位（修士）論文（課題研究）は，主論文が学位論文の審査対象となる．
・主論文は，和文または英文とする．

Ⅵ．学位（修士）論文申請要領

1．学位（修士）申請資格

下記の１，２の両方を満たすものは学位（修士）の申請を行うことができる．

1）博士前期課程に２年以上在学し，所定の単位を修得したもの，あるいは，修得見込みの者
2）学位（修士）論文の研究計画書が計画発表会での発表を終了し，看護学研究科教授会において承認を得た者

2．学位（修士）審査申請書・学位（修士）論文の提出

1）提出方法

学位（修士）の申請資格を有し学位（修士）の審査を希望するものは，大阪医科薬科大学 学位規程に基づき学位審査手続料を納付の上，定められた期日までに以下のものを看護学事務課まで提出する．なお，定められた手続きをした上での郵送受け付けも行う．所定の日時を過ぎた学位（修士）論文および関係書類は受け付けない．学位（修士）論文を提出した者に，学位（修士）論文受領書を発行する．

2）提出物

提出するものは下記のとおりとする.

(1) 学位（修士）審査申請書（様式 2）	1 部
(2) 学位（修士）論文	4 部（任意のファイル 4 冊に綴じること）
(3) 審査手続料（5 万円）の振込済証明書のコピー	1 部

3. 学位（修士）論文の綴じ方

学位（修士）論文執筆要領の項を参照のこと

4. 修正した学位（修士）論文の提出

論文審査，口頭試問および修士論文発表会の後，論文の修正の必要を認める場合，定められた期日までに看護学事務課に提出する．提出するものは下記のとおりとする.

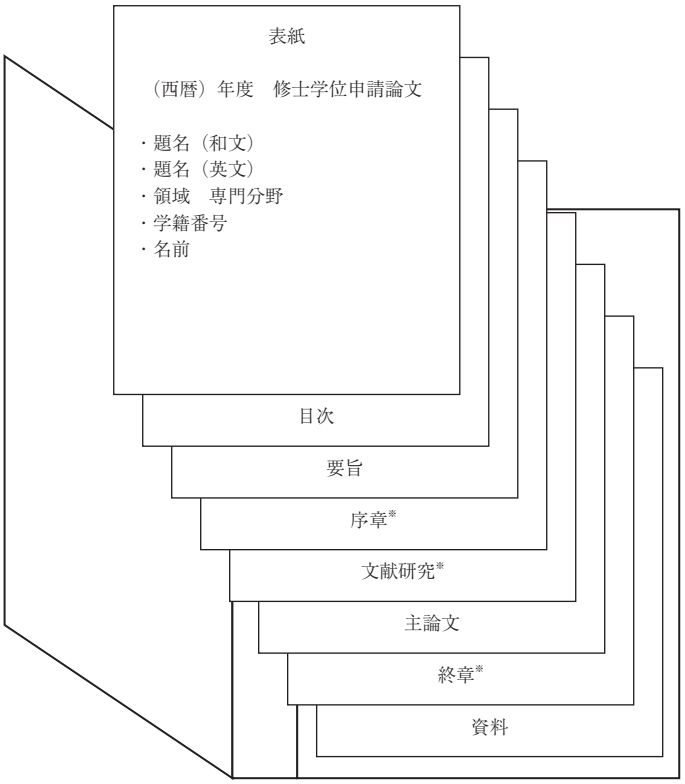
1）学位（修士）論文提出申請書（様式 3）	1 部
2）修正済みの修士論文	4 部（任意のファイル 4 冊に綴じること）
3）要旨（和文，様式は論文発表会に準ずる）	1 部（看護学事務課宛のメールアドレスにファイルを添付する）

Ⅶ. 学位（修士）論文執筆要領

1. 論文全体の構成

・学位（修士）論文は，表紙，目次，要旨，序章，文献研究，主論文，終章，資料で構成される．なお課題研究の場合，上記の文献研究ならびに序章，終章は不要である．なお，学位（修士）論文を申請する折には，下記の要領で任意のファイルに綴じる．

・要旨，序章，終章は，主論文と文献研究を踏まえて新たに文章を作成する．



※課題研究の場合，文献研究ならびに序章，終章は不要

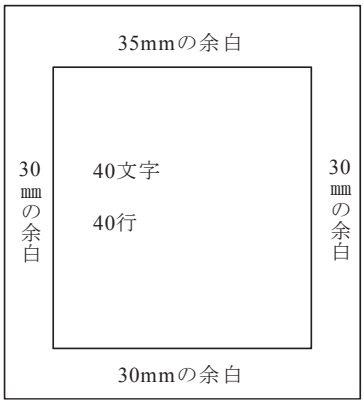
2. 論文の形式

・A4 版横書き 40 文字× 40 行，英文はダブルスペース（行と行の間にスペースが 1 行分入るように行間を空けること）とする．

・上余白は 35㎜，その他（左・右・下）の余白は 30㎜とする．

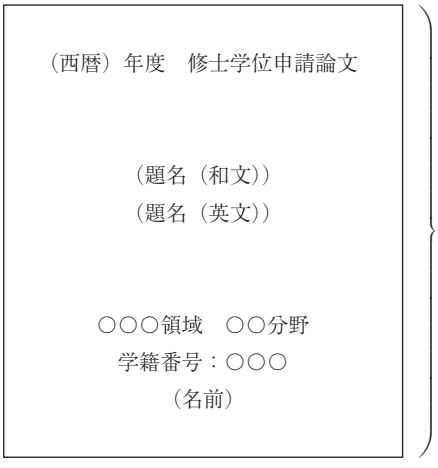
・文字の大きさは，論文全体にわたり，MS 明朝体の 10.5 ポイントを使用する．

・必ずページ数を中央下に挿入する．



3. 論文の表紙

・論文の表紙は下記のとおりとする．



表紙のポイントの大きさは MS 明朝体の 10.5 ポイントとする．
（　）内の名称は削除する．

・題名（英文）は，文頭および前置詞，冠詞，接続詞以外の単語の最初の文字を大文字とする．

4. 要旨

・学位（修士）論文の表紙，目次に続く頁に和文あるいは英文で要旨を記載する（原則として，主論文が和文の場合は和文要旨，主論文が英文の場合は英文要旨を記載する）.

・要旨の下に論文の内容を的確に表現しうるキーワードを，3 ～ 5 語記載する.

（例）キーワード：産後うつ，認知症，移植

Key words：postpartum depression，dementia，transplantation

・字数はキーワードを含め，和文は 1,600 字程度，英文はダブルスペースとし 600 ～ 800words とする .

・なお，特別研究の場合，英文要旨をつけるのがのぞましい．原則として「Times New Roman」を用い，ダブルスペースで記載する．英文要旨は，ネイティブまたは専門的知識のある人の校正を経たものでなければならない.

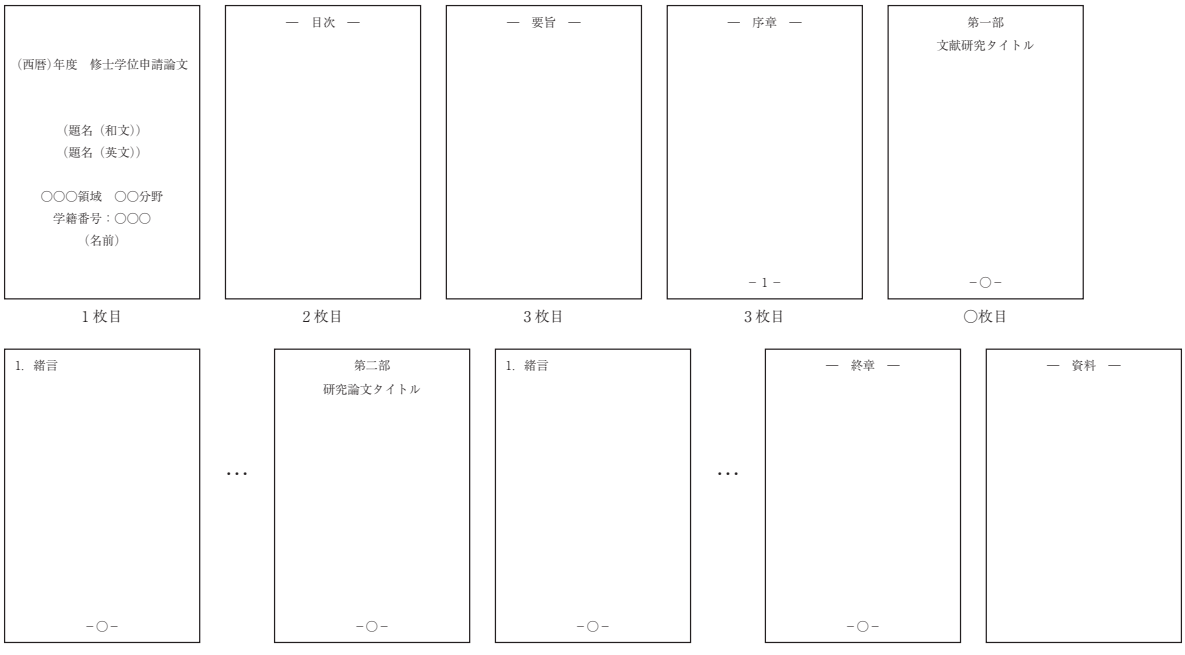
5. 論文の内容

・論文の内容は，文献研究，主論文ともに，原則として以下の事項の順に配列されるように作成する.

Ⅰ．緒言　あるいは　はじめに
Ⅱ．研究方法
Ⅲ．結果
Ⅳ．考察
Ⅴ．結論
謝辞
文献（引用文献）
図表

・頁は，学位（修士）論文の全体にわたって，通しの頁を記入する．序章を第 1 頁とし，終章の最後を最終頁とする（「論文の構成」を参照，資料にページ数は不要）．記入は，- 1 - ，- 2 - ，- n - のように記し，記入場所は下中央とする．課題研究の場合，文献研究ならびに序章，終章は不要である.

・図表については，論文ごとに一括して，文献の後に配列する．なお，図表の挿入箇所は，原稿の右側余白に図表番号を朱書きする．但し，最終提出論文は，朱書きを削除すること.



6. 見出しと区分

・見出しは「MS ゴシック」体を用い，外国語・数字には「Times New Roman」を用いる．

・見出しと区分は，Ⅰ，1，1），(1），①の順序とする．

（例）（1）見出しが多い場合

Ⅰ．
A.
1.
a.
1）
(1)
①
(a)

（2）見出しが少ない場合

Ⅰ．
1.
1）
(1)
①

7. 図表

・表はひとつずつ A4 判用紙に配置し，最上段左端に，出現順に「表 1」のように通し番号を振り，そのあとに全角スペース分空けてからタイトル名を簡潔に示す．

・表の罫線は必要な横罫線だけにとどめ，縦罫線はなるべく使用せず（横の罫線の太さは 0.5pt），縦罫線のかわりに十分な空白を置く．各列・行内の文字は左寄せとする．

・図はひとつずつ A4 版用紙に配置し，最下段左端に，出現順に「図 1」のように通し番号を振り，そのあとに全角スペース分空けてからタイトル名を簡潔に示す．

8. 文体ならびに句読点

・文章は簡潔でわかりやすく記述する．看護学は理系・文系にまたがるところがあるが，文体は「である調」を基本とする．

・和文において，外国語はカタカナとし，外国人名，日本語訳が定着していない学術用語などは原則として活字体の原綴で書く．

・和文中の句読点は「．（ピリオド)」と「，（コンマ)」を用い，数字とアルファベットは半角とする．

・論文にしばしば繰り返される語は略語を用いて差し支えないが，初出の時は完全な用語を用い，以下に略語を使用することを明記する．

・本文や図表中（文献は除く）で用いられる数字（「二者択一」や「一朝一夕」のような数量を表す意味で用いられているものではないものを除く）および欧文については，原則として半角文字を使用する．

・整数部分が 0 で理論的に 1 を超えることのない数値は，たとえば，相関係数 r やクロンバックの α 係数では「.82」のように小数点以下だけを表現し，縦に揃える場合は小数点の位置で揃える．

9. 引用形式

記載方法は下記に従うこと．（大阪医科薬科大学看護研究雑誌投稿規定より）

①本文中の文献表示方法

引用文献は，引用箇所に著者名（姓），発行年次（西暦）を括弧表示する．著者が複数の場合，表示する著者名は 1 名のみとし，「他」（欧文文献の場合は「et al.」）をつけて略する．

同一著者に同一発行年次の文献が複数ある場合は，発行年次の後に小文字のアルファベット（a，b，c…）を付して区別する．

②文献欄の記載方法

筆頭著者名（姓）のアルファベット順に列記する．共著者は 3 名まで表記し，それ以上の場合は「他」（欧文文献の場合は「et al.」）をつけて省略する．同一著者の文献が複数ある場合には，発行年次の早い順に記載する．同一年次に同一著者による文献が複数ある場合には，本文中の表示に添付した小文字のアルファベット順に並べる．

【雑誌掲載論文】

著者名（発行年次）：表題名，掲載雑誌名，号もしくは巻（号），最初のページ数 - 最後のページ数.

Author A, Author B (year): Title of article, Title of Journal, vol.(No.), pp-pp.

【単行本】

著者名（発行年次）：書名（版数 初版は省略可），出版社名，発行地.

Author A (year): Title of Book (edition), Publisher, Location.

著者名（発行年次）：論文の表題，編者名，書名（版数），ページ数，出版社名，発行地.

Author A (year): Title of article, Editor A, Editor B (eds.), Title of Book (edition), pp-pp, Publisher, Location.

【翻訳書】

原著者名（原書の発行年次）／訳者名（翻訳書の発行年次）：翻訳書の書名（版数），出版社名，発行地.

【ウェブページ】

著者名（発行年次）：ウェブページや記事のタイトル，ウェブサイト名，URL（参照年月日）.

Author A (year): Title of page or article, Website Name, URL (access date).

10. 資料

資料は，終章のあとに挿入し，研究で使用した説明文書や同意書，質問紙，インタビューガイド等に関する資料を入れる．

Ⅷ. 学位（修士）論文の審査

・提出された学位（修士）論文について，看護学研究科教授会にて 1 名の主査と 2 名の副査が決定され，学位（修士）論文の審査ならびに口頭試問が行われる．
・学生は論文審査および口頭試問の終了後，主査および副査の意見，ならびに修士論文発表会（下記）での助言を踏まえ，修正の必要があると考えられる箇所を修正する．

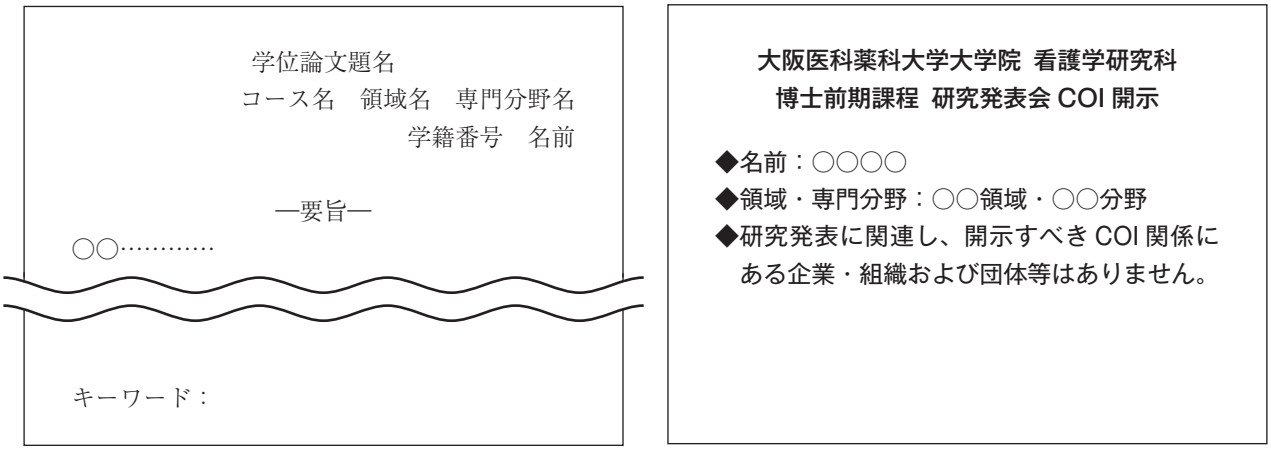
Ⅸ. 修士論文発表会と修正した論文の提出

1. 修士論文発表会

・修士論文発表会は，学生が論文の内容の吟味を深めることを目的として，修正した修士論文を提出するまでの期間内に行われる．開催日は看護学事務課から公示される．
・発表会では要旨等，資料を配布する．
・発表者が資料を作成する様式は，【博士前期】教育要項の「4. 要旨」に記載された様式に基づくこと．（－要旨－の上 1 行あけ，学位論文題名（中央寄せ），コース名，領域名，専門分野名，学籍番号，名前（以上右寄せ）を記載する．（以下の例参照）

・スライド 1 枚目に利益相反（COI）に関する報告を提示すること（以下の例参照）

（例）



・詳細は別途，案内する．

・検討時間は一人 30 分程度を目安とし，20 分程度の学生による発表の後，質疑応答・意見交換を行う．

・発表は原則としてパワーポイントを用いる．発表会終了後に資料の回収はしない．

・修士論文発表会には，本学看護学部教員および看護学研究科の学生は参加できる．

2. 修正した論文の提出

・学生は，修士論文発表会後に学位（修士）論文提出申請書（様式 3）1 部，修正した学位（修士）論文 4 部，要旨（和文，様式は論文発表会に準ずる，データを提出）1 部を提出期限内に看護学事務課に提出する．

3. 学位（修士）論文製本の提出

・審査終了後，修士論文を看護学事務課が配布するファイルで製本し，2 部提出する．表紙に学位論文題名，年月及び名前を印刷する．

〈製本用の表紙〉

大阪医科薬科大学大学院
看護学研究科
修士論文

（題名（和文））
（題名（英文））

（西暦）年 3 月

○○領域　○○分野

（名前）

X．課程の修了

・博士前期課程の修了は，教授会において議決し，学長が決定する．

・博士前期課程の修了者には，「修士（看護学）」の学位が授与される．

様式１

学位（修士）論文研究計画書申請書

年　月　日

看護学研究科長　様

研究課題名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

指導教員サイン

主指導教員	
副指導教員	
副指導教員	

上記の通り指導教員の許可を得ましたので，研究計画書を提出します．

学籍番号＿＿＿＿＿＿＿＿

名前（自筆）＿＿＿＿＿＿＿＿

看護学事務課 印

様式２

学位（修士）審査申請書

年　月　日

大阪医科薬科大学大学院看護学研究科長　様

看護学専攻　　領域　　分野
学 籍 番 号
名　　前　　印

大阪医科薬科大学　学位規程第４条に基づき、修士論文の審査及び最終試験を受けたいので申請します．

記

修士論文　　４部

投稿予定雑誌：

指導教員サイン

主指導教員	
副指導教員	
副指導教員	

※申請書と共に審査手続料の振込済証明書のコピーを提出すること（学位規程施行細則参照）

修士論文受領書

名　前（自筆）＿＿＿＿＿＿＿＿

看護学事務課 印

様式３

年　月　日

看護学研究科長　様

博士前期課程　学位（修士）論文提出申請書

題名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（題名に修正があった場合は記載のこと）

指導教員サイン

主指導教員	

上記の通り指導教員の許可を得ましたので、学位（修士）論文の再提出をします．

学籍番号＿＿＿＿＿＿＿＿

名前（自筆）＿＿＿＿＿＿＿＿

看護学事務課 印

学位論文審査評価表（修士課程用）

日付　　年　　月　　日
コース名（教育研究，高度実践）
分野名（　　）
審査者＿＿＿＿＿＿＿＿　審査対象者＿＿＿＿＿＿＿＿

Ⅰ　学位論文の評価

ア．研究目的の合理性
５　４　３　２　１　　特記事項

イ．研究の独創性
５　４　３　２　１　　特記事項

ウ．研究計画や研究方法の妥当性
５　４　３　２　１　　特記事項

エ．結果の分析の厳密性や精度
５　４　３　２　１　　特記事項

オ．得られたデータに基づく論理的展開
５　４　３　２　１　　特記事項

カ．結果の発展性
５　４　３　２　１　　特記事項

キ．研究成果の学術上及び応用面での意義
５　４　３　２　１　　特記事項

Ⅱ　最終試験の評価

ア．研究課題の背景や意義についての十分な知識
５　４　３　２　１　　特記事項

イ．研究進行における対象者への倫理的配慮の実施の確認
５　４　３　２　１　　特記事項

ウ．研究結果について質疑への明晰な応答
５　４　３　２　１　　特記事項

Ⅲ　総合評価

合格　不合格　保留　　特記事項

注意

・合格は全ての項目において「３」以上である。
・「不合格」「保留」とした際には、具体的に特記事項に記載する。
・主査と副査２名の合意により最終評価を行う。

博士後期課程

教育課程について

博士後期課程は、「実践支援看護学領域」「療養生活支援看護学領域」「地域家族支援看護学領域」の３つの領域で構成する。

領　域	概　要
実践支援 看護学	実践支援看護学領域では、看護学各領域における実践の基盤となる看護実践能力の開発をめざして、看護専門職者の発達や育成、看護の教育的機能の開発、さらに看護技術のエビデンスの開発に関わる課題を探究し、さらに理論的、実践的に追求する。 また、専門的な看護技術と教育方法の評価や、看護専門職の発達課題の特異性・普遍性に応じた支援方法の探究を通して、専門領域における知識体系の構築のための研究能力を培う。
療養生活支援 看護学	療養生活支援看護学領域では、病院および外来の医療を中心として、療養生活を営む大人を中心とする個人と家族の健康問題・課題の探究と援助方法について理論的、実践的にさらに追究する。また、療養生活支援に必要な専門的な看護技術、看護援助方法、教育方法などの看護実践評価や教育評価の探究を通して、看とり、疾病回復、リハビリテーション、疾病予防の健康レベルの視点を重視した専門領域における知識体系の構築のための研究能力を培う。
地域家族支援 看護学	地域家族支援看護学領域では、病院および外来から在宅、地域へと移行して生活をする人々や組織活動等集団を対象として、特にヘルスプロモーションの視点から課題の探究と支援方法について理論的、実践的にさらに追究する。具体的には、発達段階を踏まえて個人・家族、あるいは、家族が居住する地域や組織等の健康課題の特異性・不変性を明確にし、支援方策の探究を通して、専門領域における知識体系の構築のための研究能力を培う。

博士後期課程 カリキュラム表

区分		授業科目	配当年次	実践支援看護学領域			療養生活支援看護学領域			地域家族支援看護学領域		
				単位数			単位数			単位数		
				必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択
基盤科目		看護科学研究論	1前	2			2			2		
		看護学研究法応用論（保健統計）	1後		1			1			1	
		看護学研究法応用論（実験法）	1後		1			1			1	
		看護学教育開発論	1前		2			2			2	
		英語論文演習	1前		1			1			1	
		異文化看護論	前（隔・偶数年度）		1			1			1	
専門科目	実践支援看護学	実践支援看護学特論	1後	2					2			2
		実践支援看護学演習	2通	1					1			1
	療養生活支援看護学	療養生活支援看護学特論	1後			2	2					2
		療養生活支援看護学演習	2通			1	1					1
	地域家族支援看護学	地域家族支援看護学特論	1後			2			2	2		
		地域家族支援看護学演習	2通			1			1	1		
特別研究		特別研究	1～3通	8			8			8		
合計				13	6	6	13	6	6	13	6	6

〈修了要件〉

3年以上在学して所定の単位（14単位以上）を修得するとともに必要な研究指導を受け、学位論文を提出し、かつ最終試験に合格すること。

〈履修方法〉

指導教員の指導のもと履修科目を選択し履修すること。

専攻領域の必修科目をすべて履修し、かつ選択必修科目から1科目1単位以上を履修する。

博士後期課程
シラバス

授業科目名	看護科学研究論				
授業科目（英）	Nursing Science and Research Methodology				
教員名	鈴木　久美、小林　道太郎				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期	開講曜日	土曜 3 限、土曜 4 限		
科目区分	必修	授業形態	講義		
一般目標	看護学の歴史的発展過程から看護科学としての学問的基盤を理解する。また，理論開発の要素・アプローチ・方法，自己の扱おうとしている現象を理解し，看護現象の明確化（概念探求）から理論化へのプロセスを学ぶ。さらに，多様な研究方法の造詣を深め，あらゆる課題を探求する能力及び分析・統合する能力を養う。また，科学者としての行動規範について理解を深める。				
行動目標	1. 看護科学の発展過程から看護学の知識開発について考察できる。 2. 自己が扱おうとしている看護現象を説明できる。 3. ある現象の構成概念について考察し，概念分析の必要性の可否を説明できる。 4. 各自の研究に関連ある概念を選択し，概念分析ができる。 5. 科学者としての行動規範について説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探求力，教育・研究開発力				
評価並びにフィードバック法	授業の討議への参加度および貢献度，プレゼンテーション，レポートなどにより総合的に評価する。				
教科書	① Lorraine Olszewski Walker（著），中木高夫・川﨑修一（訳）（2008）．看護における理論構築の方法，医学書院. ②野島良子（2009），看護科学のパラダイム転換：質的研究はいつ、なぜ登場したのか．へるす出版. ③ Beth L. Rodgers, Kathleen A. Knafl（著），近藤麻理，片田範子（監訳）（2023）．看護における概念開発，医学書院. ④北素子・谷津裕子（2009）．質的研究の実践と評価のためのサブストラクション，医学書院.				
参考書	⑤ Beth L. Rodgers & Kathleen A. Knafl（2000）．Concept Development in Nursing, 2nd ed.Sanders.				
事前準備受講要件等	予習，復習への取り組み，実施 予習・復習の時間：60 分				
オフィスアワー	授業日の授業終了後				
SDGs との関連	3，4				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1〜2	看護理論の概観 科学者としての行動規範	オリエンテーション 看護理論に関する用語の確認（現象，概念，理論，モデル等） 看護理論開発の概要について 科学者としての責務・公正な研究・法令の遵守などについて 予習：看護理論の発展を振り返る。教科書①第 1 章と第 2 章を熟読する 復習：理論，立言，概念の関係をまとめる	鈴木
3〜4	科学哲学からみた看護学	学問論・科学哲学の観点から看護研究の対象と方法論を考える。論理，概念，検証，パラダイムとは 予習：「科学的」とはどういうことか各自考える。 復習：関連文献を読む。	小林

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
5〜6	看護科学のパラダイム転換	新しいパラダイムの方向性と質的研究法 質的研究の意味と看護科学 ＊上記の内容についてプレゼンテーションを行う。 予習：教科書②を熟読し，プレゼンテーションの準備を行う 復習：看護理論と方法論の発展過程を見直す	鈴木
7〜8	概念分析 1	看護における知の概念と概念開発 Rodgers の概念分析の方法の理解 ＊上記の内容についてプレゼンテーションを行う。 予習：教科書③の第 3 章と第 6 章を熟読し，プレゼンテーションの準備を行う 復習：Rodgers の概念分析の方法をまとめる	小林 鈴木
9	概念分析 2	Walker & Avant の概念分析の方法の理解 ＊上記の内容についてプレゼンテーションを行う。 予習：教科書①の第5章を熟読し，プレゼンテーションの準備を行う 復習：Wilson 概念分析の方法を振り返る	鈴木 小林
10	概念分析 3	自己の扱おうとしている概念の明確化 ＊各自が扱う現象および概念についてプレゼンテーションを行う。 予習：プレゼンテーションの準備を行う 復習：プレゼンテーションの内容を振り返る	鈴木 小林
11	サブストラクション 1	サブストラクションによる分析と統合 予習：教科書③及び提示した文献（質的研究のサブストラクション）を読んでおく 復習：サブストラクションの理解を深める	鈴木
12〜13	サブストラクション 2	サブストラクションによる分析と統合 ＊選択した論文を分析し，プレゼンテーションを行う。 予習：研究論文を分析し，プレゼンテーションの準備を行う 復習：研究計画書作成のためにサブストラクションを考える	鈴木
14〜15	まとめ　概念分析の理解	＊各自で行った概念分析のプレゼンテーション 予習：概念分析のプレゼンテーションの準備を行う 課題：授業の討論やアドバイスを踏まえ，レポートを作成する 締め切り日は，別途知らせる	鈴木 小林

授業科目名	看護学研究法応用論（保健統計）				
授業科目（英）	Nursing Research Methodology: Statistical Analysis				
教員名	土手　友太郎　草野　恵美子				
単位数	1	時間数	15	学年	1
開講期	後期	開講曜日	土曜１限、土曜２限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	保健医療情報における統計学の必要性を認識し、個々のデータの種類と特性、収集および分類の手法、集団における分布の種類と特性を理解する。さらに統計量から母集団の状況を把握し、分析の手法および結果の解釈について習得する。				
行動目標	基礎的な疫学指標、分析および評価について説明できる。健康水準や健康ニーズの分析、活動計画、評価の看護活動に必要な知識・技術について説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探究力				
評価並びにフィードバック法	評価は授業への出席・参加状況（15%）および授業中に ICT を用いて実施するテスト（85%）による。なお、出席回数が少なく、学習課題の理解が不十分であると推測される場合には、評価を受けることができない。フィードバック法は授業冒頭にて前回のテストの振り返りを適宜行う。				
教科書	事例問題から学ぶ　看護疫学・保健統計学　医歯薬出版株式会社				
参考書	適時、紹介する。				
事前準備受講要件等	授業前はシラバスを確認し, 予習を 30 分間行う。授業支援システムおよび双方向コミュニケーションツールを活用した授業を行う。授業支援システムにより小テストを実施する。復習を 30 分間行う。				
オフィスアワー	金曜日　16：00～18：00				
SDGs との関連	4				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	リスク評価と予防対策１	授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどの ICT を用いて授業中に小テストを実施する。コホート研究・ケースコントロール研究について学習する。 予習：テキスト第Ⅰ部に関する基礎的事項を調べる。 復習：本日の学習項目についてまとめる。	土手
2	リスク評価と予防対策２	授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどの ICT を用いて授業中に小テストを実施する。コホート研究・ケースコントロール研究について学習する。 予習：テキスト第Ⅰ部および前回の講義内容を確認する。 復習：不正解であった回答について復習する。	土手

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
3	スクリーニング検査による判定と保健指導のあり方１	オンデマンド授業で生活習慣病予防対策の評価について学習する。 授業録画の配信を見ながら授業支援システムを用いて問題に回答する。スクリーニング検査結果の評価と保健指導について学習する。 授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどの ICT を用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：テキスト第㈣部に関する基礎的事項を調べる。 復習：本日の学習項目についてまとめる。	土手
4	スクリーニング検査による判定と保健指導のあり方２	オンデマンド授業で生活習慣病予防対策の評価について学習する。 授業録画の配信を見ながら授業支援システムを用いて問題に回答する。スクリーニング検査結果の評価と保健指導について学習する。 授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどの ICT を用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。 予習：テキスト第㈣部に関する基礎的事項を調べる。 復習：不正解であった回答について復習する。	土手
5	保健統計学１	授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどの ICT を用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。疫学指標と年齢調整、交絡要因と中間変数疾病統計指標について学習する。 予習：テキスト第Ⅲ部に関する基礎的事項を調べる。 復習：本日の学習項目についてまとめる。	土手
6	保健統計学２	授業支援システムおよび同時双方向コミュニケーションアプリなどの ICT を用いて授業中に小テストを授業毎に実施する。疫学指標と年齢調整、交絡要因と中間変数疾病統計指標について学習する。 予習：テキスト第Ⅲ部に関する基礎的事項を調べる。 復習：不正解であった回答について復習する。	土手
7～8	看護活動と健康情報の収集と分析	地域ケアサービスの現状を保健医療情報から把握し、住民の健康水準や健康ニーズの分析、活動計画、評価の看護活動に必要な知識・技術について学習する。 予習：ヘルスプロモーションの概念について調べておく。 復習：学習内容をふまえて、看護職の役割を考察する。	草野

授業科目名	看護学研究法応用論（実験法）				
授業科目（英）	Nursing Research Methodology: Experimental Study				
教員名	飛田　伊都子、二宮　早苗、矢野　貴人（兼）				
単位数	1	時間数	15	学年	1
開講期	後期	開講曜日	土曜 3 限、土曜 4 限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	看護実践の科学的根拠を明らかにするための実験、準実験デザインによる研究の実際について学び、生体で起こる現象を論理的・科学的に理解する能力と研究方法を理解する。看護の対象者や看護の効果を検証するための理論、感情、生体反応・ケア効果に関連した実験・準実験方法の実際について教授する。				
行動目標	看護の対象者や看護の効果を検証するための理論、感情、生体反応･ケア効果に関連した実験･準実験方法の実際について説明できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	教育・研究開発力、グローバル力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	授業への参加度、レポートおよび課題発表等を総合して評価する。 フィードバック：発表に対する質疑・解説を行う。				
教科書	特に使用しない。				
参考書	担当教員から適宜紹介する。				
事前準備受講要件等	アクティブラーニングの手法を用いる。授業のテーマに沿って、文献を活用し事前学習を行い、概要を把握しておく。予習・復習は 60 分以上とする。				
オフィスアワー	土曜日：13：00 ～ 14：00、メールにて時間予約してください。				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～4	看護学における実験・準実験研究の重要性、実験研究デザイン 看護ケアの効果判定のための行動測定法（小型デバイス・Bluetooth によるデータ収集）	オリエンテーション 看護学における実験・準実験研究の重要性、実験研究デザインについて理解する。 看護ケアの効果判定のための測定の実際について理解する。 生活体力維持・向上のための床上運動における行動測定法(小型デバイス･Bluetooth によるデータ収集)の実際について理解する。 予習：看護ケアの効果を検証する際に用いられる実験法について学習する。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で深める。	飛田
5～6	医療系研究における生体反応測定のための実験研究法	医療系研究における生体反応（運動ストレス負荷とアミラーゼ活性）測定のための実験研究法について理解する。 予習：医療系研究における生体反応測定のための実験研究法について学習する。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で深める。	矢野
7～8	看護師による指導の有効性を検証するための準実験・実験方法（骨盤底筋群の筋力評価法）	看護師による指導の有効性を検証するための準実験・実験方法（骨盤底筋群の筋力評価法）の実際について理解する。 予習：指導やケアの評価に関する準実験・実験方法の実際について学習する。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で深める。	二宮

授業科目名	看護学教育開発論				
授業科目（英）	Theory of Nursing Education Development				
教員名	池西　悦子、川北　敬美、大西　弘高（非）、川上　ちひろ（非）				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	前期	開講曜日	土曜 1 限、土曜 2 限		
科目区分	選択	授業形態	講義・演習		
一般目標	社会が大きく変動する中で、教育実践の方法も変化が求められている。看護学教育における効果的な教育実践と継続的な教育改善・発展につなげるために、看護専門職の熟達、実践力育成を目指した教育方法、教育評価等について、理論を踏まえて現状と課題を検討する。また、看護基礎教育および継続教育において教育担当者に求められる教育的機能を探求する。				
行動目標	1. 看護専門職の熟達理論を踏まえて看護基礎教育､継続教育の現状と課題について考察できる。 2. 看護実践力の開発を目指した教育方法、教育評価等について、現状と課題が考察できる。 3. 文献検討､討議を通して看護学教育を担う者に必要な教育的機能と課題について考察できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探究、教育・研究開発力				
評価並びにフィードバック法	プレゼンテーション，討議への参加・貢献，課題レポートを総合して評価する。				
教科書	教科書は指定しない				
参考書	・J.S. ブルーナー著，鈴木祥蔵，佐藤三郎訳：教育の過程，岩波書店，2014. ・奥宮暁子他監訳：看護を教授すること 第 4 版～大学教員のためのガイドブック，医歯薬出版，2014. ・杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学 第 6 版，医学書院，2016. ・グレッグ美鈴，池西悦子編著：看護教育学～看護を学ぶ自分と向き合う～ , 南江堂，2024. ・柳沢昌一他監訳：省察的実践者の教育，プロフェッションスクールの実践と理論，第 2 版，鳳書房，2018. その他　適宜紹介する				
事前準備受講要件等	事前に提示する課題・資料を自己学習して授業に臨むこと。 予習・復習は 60 分以上とする。				
オフィスアワー	土曜日　12：00 ～ 13：00				
SDGs との関連	3，4				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	看護学教育を取りまく社会の変化と看護学教育の現状と課題	看護学教育への社会的要請と課題 予習：看護学教育学への社会的要請と看護学教育の課題について、自分の考えをまとめ、資料を作成する 復習：関連文献を調べ学習内容の理解を深める	池西
2～4	看護学教育における省察的実践家の育成と課題	看護における省察的実践家の育成の現状と課題 2 回目：省察的実践家の特徴と教育に関するディスカッション 3・4 回：グループリフレクション 予習：2 回目：省察的実践家の特徴と教育について調べ，資料を作成する 3 回目：リフレクションシートに沿って自身の気がかりな事例をまとめてくる 復習：関連文献を調べ学習内容の理解を深める	池西

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
5〜6	看護学教育における教育課程の変遷と課題	看護学教育における教育課程の変遷と課題 予習：授業テーマについて関連文献を調べ，自己の見解を整理する 復習：学習内容の理解を深める	池西
7〜8	ダイバーシティとインクルージョン	看護基礎教育における発達障害特性のある学生の理解と教育的支援の現状と課題 予習：学習内容について調べ，資料を作成する 復習：学習内容の理解を深める	川上
9〜10	教育に関する諸理論からみた看護学教育の現状と課題①	臨床推論の教育学教育における展開と課題 予習：授業テーマについて関連文献を調べ、自分の見解を整理する 復習：学習内容の理解を深める	大西
11〜12	教育に関する諸理論からみた看護学教育の現状と課題②	学習評価、プログラム評価の現状と課題 予習：授業テーマについて関連文献を調べ，自己の見解を整理する 復習：学習内容の理解を深める	大西
13〜14	教育に関する諸理論からみた看護学教育の現状と課題③	アクティブ・ラーニングと教材化 予習：授業テーマについて関連文献を調べ，自己の見解を整理する 復習：学習内容の理解を深める	川北
15	まとめ	看護学教育担当者に求められる教育的機能 予習：授業テーマについて，自己の見解を整理する 復習：学習内容の理解を深める	池西

授業科目名	英語論文演習				
授業科目（英）	Academic Writing: English Paper of Nursing				
教員名	草野　恵美子、樋上　容子、佐藤　文子（非）				
単位数	1	時間数	30	学年	1
開講期	前期	開講曜日	土曜 3 限、土曜 4 限		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	英語による看護研究論文の執筆から発表・投稿までの基礎知識を習得する。看護研究論文を英語で書き、海外の学会や学術誌で発表する重要性と意義、英語論文の構成、表現法のポイント、文献検索法、整理法など書くための準備について教授する。また、抄録作成法、学会発表する際に必要な知識とスキル、英語論文を学会誌や学術誌へ投稿する際の基礎的かつ実践的な知識について教授する。				
行動目標	1. 英語での論文投稿や国際学会発表の意義について説明できる。 2. 英語による看護研究論文を執筆する際の留意点について理解できる。 3. 英語での国際学会発表に向けて抄録・ポスター作成・プレゼンテーションができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	グローバル力				
評価並びにフィードバック法	授業への参加度、レポートおよび課題発表等を総合して評価する。課題や質問等へのフィードバックは講義中に行う。				
教科書	特に使用しない。				
参考書	担当教員から適宜紹介する。				
事前準備受講要件等	授業のテーマに沿って、文献を活用し事前学習を行い、概要を把握しておく。アクティブラーニングの手法を用いる。 （予習 30 分以上、復習 30 分以上）				
オフィスアワー	木曜 15：00 ～ 17：00				
SDGs との関連	3, 4, 16				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～2	3 限： オリエンテーション 看護研究論文を英語で書く重要性と意義演習説明 4 限： 看護英語論文の構成、表現法のポイント	看護研究論文を英語で書き、海外の学会や学術誌で発表する重要性と意義について理解する。 看護英語論文の構成、表現法のポイントについて理解する。 予習：これまでの自身の英語での学会・論文発表について振り返る。 復習：今後の英語での学会・論文発表に活かすためにポイントを整理する。	草野 樋上
3～4	※オンデマンド形式で実施 看護英語論文を書くための準備 英語で学会発表する際に必要なスキルと知識 国際学会の活用	看護英語論文検索法、整理法など書くための準備について理解する。 英語で学会発表する際に必要なスキルと知識について理解する。 国際学会の活用方法について自身の専門分野の国際学会を探索する 予習：自身の専門分野の国際学会について調べておく。 復習：国際学会発表にあたっての疑問点を整理しておく。	草野

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
5～7	英語論文抄読	英語論文抄読を行う。 予習：自身の研究課題に関連する英語論文を１つ選んでおく。 復習：抄読のポイントについて整理する。	草野 樋上
8～9	英語論文を学会誌や学術誌へ投稿する際の基礎的かつ実践的な知識	英語論文を学会誌や学術誌へ投稿する際の基礎的かつ実践的な知識について理解する。 海外での看護活動等について見識を広げる。 予習：英語論文を学会誌や学術誌へ投稿する際の疑問点について整理しておく。 復習：英語論文を学会誌や学術誌へ投稿する際のポイントについて整理する。	佐藤
10	看護研究英語論文抄録の作成方法	看護研究における英語論文抄録作成について理解する。 予習：英語論文抄録作成についての疑問点を整理しておく。 復習：自身の専門分野または興味のある国際学会を１つ決定し、その演題登録規程を確認しておく。（次回以降の演習では、その学会への演題登録をすると仮定して進めていく）	草野
11	看護研究論文抄録の作成の実際	看護研究論文抄録を実際に作成する。 予習：抄録作成に必要な研究資料を整理しておく。 復習：抄録を完成させる	草野
12	※オンデマンド形式で実施 国際学会発表の実際（1）	国際学会発表ポスターを作成する。 予習：演習で対象とする国際学会のポスター作成要領について確認しておく。 復習：ポスターを完成させる。	草野
13～14	国際学会発表の実際（2）	国際学会発表ポスターをプレゼンテーションする。 予習：プレゼンテーションの準備をする。 復習：受けた質問を整理する。	草野 樋上
15	※オンデマンド形式で実施 国際学会発表の実際（3）	プレゼンテーションの振り返り。 まとめ 予習：プレゼンテーションの準備をする。 復習：受けた質問を整理する。今後の研究活動への活かし方を整理する	草野 樋上

授業科目名	異文化看護論				
授業科目（英）	Transcultural Nursing				
教員名	飛田　伊都子				
単位数	1	時間数	15	学年	1
開講期	前期（偶数年度開講）	開講曜日	土曜 1 限、土曜 2 限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	文化人類学の知識と考えを基盤とし、世界の人々の健康課題、看護職の役割、社会的仕組みについて、グロバールかつ文化的な視点から考察する。異なる文化（価値観、生活様式、風習等）を持つ人々の健康維持・増進、疾病のコントロール、その人らしい最期を迎える看護実践や看護研究を自立して創造的に展開する能力が養われるように教授する。				
行動目標	文化人類学的視点から看護の対象を捉える必要性が理解できる。 異文化背景をもつ人々に対する文化的感受性を高め、異文化を重んじる行動が取れる。 世界中の人々の健康における看護職の役割をグロバール的な視点から考察し、それに関する問題や解決策について研究的アプローチが取れる。				
ディプロマポリシーのキーワード	高い倫理観、論理的・批判的思考力、柔軟な発想力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	授業への参加度、レポートおよび課題発表等を総合して評価する。 フィードバック：発表に対する質疑・解説を行う。				
教科書	授業時、適時紹介する				
参考書	研究社出版　原沢伊都夫著「異文化理解入門」 中山書店　南裕子監修「国際看護学　グローバル・ナーシングに向けての展開」 日本放射線技師会出版会　守本とも子監修「国際看護への学際的アプローチ」				
事前準備受講要件等	提示された予習・復習を行って授業に臨むこと。 予習・復習は各 60 分以上とする。				
オフィスアワー	水曜日 12:10～13:00				
SDGs との関連	3，4，5				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	オリエンテーション、導入	異文化看護の基本的な概念枠組み・考えについて論議する 予習：異文化看護の必要性、基本的な概念について調べる 復習：講義の内容をまとめる	飛田
2～3	異なる文化圏の人々の健康について	多文化背景をもつ人々の健康について、講義や文献レビューを通して論議する 予習：アメリカ、オーストラリア、スイス、シンガポール等の人々の健康に関連する文化背景・医療システムについての文献を読み、自分の考えをまとめる 復習：講義の内容を踏まえたうえで、自分の考えを整理し、まとめる	飛田

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
4〜5	異なる文化圏の人々の健康と看護について	多文化背景をもつ人々の健康と看護について、講義や文献レビューを通して論議する 予習：アメリカ、オーストラリア、スイス、シンガポール等の人々の健康看護に関連する文化背景・医療システムについての文献を読み、自分の考えをまとめておく 復習：講義の内容を踏まえたうえで、自分の考えを整理しまとめる	飛田
6〜7	フィールドワーク	異文化背景をもつ人々の健康課題と看護を考察するために、フィールドワーク（国際学会への参加も含む）を行う 予習：既習した概念に基づき、フィールドワークの準備を行う 復習：フィールドワークの内容をまとめる	飛田
8	まとめ・発表	フィールドワークをまとめ、パワーポイントを使用し発表する。教員およびピア・レビューにて評価する 予習：発表の準備を行う 復習：発表内容に授業で討議した内容を加えて、総合的にまとめる	飛田

授業科目名	実践支援看護学特論				
授業科目（英）	Theory of Education and Skills for Nursing Practice				
教員名	池西　悦子、小林　道太郎、二宮　早苗、川北　敬美				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	後期	開講曜日	土曜 3 限、土曜 4 限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	実践支援看護学に関わる課題を探求し、理論的、実践的に追求する。また、専門領域における知識体系を構築し、教育・研究の基盤となる能力を培う。				
行動目標	1. 実践支援看護学に関わる主要概念・理論の要点が説明できる。 2. 実践支援看護学における課題について、討議を通して明確化できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探究、教育・研究開発力				
評価並びにフィードバック法	レポート、プレゼンテーションの内容で総合的に判断する フィードバック：課題に関して授業で解説を行う				
教科書	指定しない				
参考書	適宜提示する				
事前準備受講要件等	各回の予習に示した内容について自己学習をして授業に臨む。 予習・復習は 60 分以上とする。				
オフィスアワー	土曜日				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1〜5	オリエンテーション 看護教育学に関する課題の明確化	看護基礎教育・看護継続教育における課題に関する研究のクリティーク、概念／理論の探求・分析 予習：課題の発表資料を準備をする 復習：提示課題をまとめる	池西 川北
6〜10	人文社会学に関する課題の明確化	人文社会学における課題に関する研究のクリティーク、概念／理論の探求・分析 予習：課題の発表資料を準備する 復習：課題について整理する	小林
11〜15	看護技術開発学に関する課題の明確化	看護技術開発学における課題に関する研究のクリティーク、概念／理論の探究・分析 予習：課題の発表資料を準備する 復習：課題について整理する	二宮

授業科目名	実践支援看護学演習				
授業科目（英）	Seminar of Education and Skills for Nursing Practice				
教員名	池西　悦子、小林　道太郎、二宮　早苗、川北　敬美				
単位数	1	時間数	30	学年	2
開講期	通年	開講曜日	集中講義		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	関心領域における研究指導方法を学ぶために、研究指導場面への参加を通して教育指導能力を養う。また、関心領域における研究課題の文献レビューと議論を通して研究課題、および課題に応じた研究方法の明確化についての能力を養う。				
行動目標	1. 研究における教育指導のポイントが説明できる。 2. 関心領域における文献レビューを通して研究課題を絞り込むことができる。 3. 研究課題に応じた研究方法を明確にすることができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探究、教育・研究開発力				
評価並びにフィードバック法	レポート、プレゼンテーションの内容で総合的に判断する				
教科書	指定しない				
参考書	適宜提示する				
事前準備受講要件等	各回の予習、復習を行い参加する。 予習・復習は 60 分以上とする。				
オフィスアワー	土曜日				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	オリエンテーション	研究教育指導方法の理解 予習：提示文献・参考書を読みまとめる 復習：指導方法のポイントを整理する	全員
2〜3	研究指導法 1	博士前期課程の研究指導場面への参加 予習：指導の準備を行う 復習：指導を振り返り、学びと課題を整理する	全員
4	研究指導法 2	研究指導についての討論 予習：有効な研究指導について自分の考えを まとめる 復習：研究指導における自身の課題を整理する	全員
5〜14	セミナー A：看護基礎教育・看護継続教育・看護職者のキャリア開発に関する研究課題の焦点化と方法論の検討 セミナー B：看護技術の生理学的検証・看護技術開発・看護用具の開発に関する研究課題の焦点化と方法論の検討 セミナー C：人文社会学に関する研究課題の焦点化と方法論の検討	セミナー A，B，C のいずれかを選択し、文献レビューを行い、課題の明確化を図り、研究方法について検討する。	全員
15	まとめ	文献レビューの発表 予習：発表の準備を行う 復習：文献レビューを整理する。	全員

授業科目名	療養生活支援看護学特論				
授業科目（英）	Theory of Nursing Care in Medical Treatment Life				
教員名	山岡　由実、寺口　佐與子、樋上　容子、鈴木　久美、飛田　伊都子、南口　陽子				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	後期	開講曜日	土曜１限、土曜２限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	病院・外来から在宅・地域へと移行して療養生活を営む個人と家族の健康問題・課題の探究と援助方法について看護を理論的、実践的にさらに追究する。また、療養生活支援に必要な専門的な看護援助・教育方法や、そのアプローチに向けた手法を適用した看護実践評価や教育評価を行い、疾病予防、疾病回復、リハビリテーション、看とり等の健康レベルの視点を重視した専門領域における看護学の構築と教育・研究を遂行できる教育研究能力を培う。				
行動目標	特定の疾患を持つ人や家族の援助に必要な主要概念・理論の要点を説明できる。 特定の疾患を持つ人の生活の質の向上を目指して、看護実践に活用できる主要概念・理論について討議できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探求力、教育・研究開発力				
評価並びにフィードバック法	レポートとプレゼンテーションの内容で総合的に評価する。 フィードバック：課題については授業中に解説を行う。				
教科書	特に指定しない。				
参考書	適宜提示する。				
事前準備受講要件等	各教員から提示された課題がある場合は事前に準備する。 予習・復習は 60 分以上とする。				
オフィスアワー	土曜日：13:00 ～ 14:00				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1～2	リンパ浮腫患者や移植・再生治療（臓器移植や造血幹細胞移植等）など先端医療を受ける患者の療養生活支援に関する課題の明確化	移植患者やリンパ浮腫患者の看護援助に関する研究のクリティーク、概念／理論の探求・分析 予習：ゼミ発表の準備をする。 復習：理論構築のための視点を整理する。	寺口
3～4	高齢者や高齢者を支える家族の療養生活支援に関する課題の明確化	病院や在宅における高齢者の療養生活支援に関する研究のクリティーク、概念／理論の探求・分析 予習：ゼミ発表の準備をする。 復習：提示課題をまとめる。	樋上
5～8	がん患者の療養生活支援に関する課題の明確化①	がん患者の看護援助に関する研究のクリティーク、概念／理論の探求・分析 予習：提示した課題の発表資料を準備する。 復習：提示課題をまとめる。	鈴木
9～10	がん患者の療養生活支援に関する課題の明確化②	がん患者の看護援助に関する研究のクリティーク、概念／理論の探求・分析 予習：提示した課題の発表資料を準備する。 復習：提示課題をまとめる。	南口

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
11～12	慢性疾患患者の療養生活支援に関する課題の明確化	セルフケア支援教育に関する研究のクリティーク、概念／理論の探求・分析 予習：代表的なセルフケア支援教育に関する概念・理論に関して文献レビューをする。 復習：セルフケア支援教育に関する概念／理論の整理をする。	飛田
13～14	精神疾患患者の療養生活支援とメンタルヘルスに関する課題の明確化	メンタルヘルスに関する研究のクリティーク、概念／理論の探求・分析 予習：メンタルヘルスに関連する概念／理論を一つ選んで学習し、発表準備をする。 復習：メンタルヘルスに関連する概念／理論と自身の研究との接点について整理しておく。	山岡
15	まとめ	研究課題のプレゼンテーション 予習：プレゼンテーションの準備をする。 復習：療養生活支援看護学構築のために重要な概念や理論を整理する。	担当者

授業科目名	療養生活支援看護学演習				
授業科目（英）	Seminar of Nursing Care in Medical Treatment Life				
教員名	山岡　由実、寺口　佐與子、樋上　容子、鈴木　久美、飛田　伊都子、南口　陽子				
単位数	1	時間数	30	学年	2
開講期	通年	開講曜日	集中講義		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	関心領域における研究指導方法などについて、指導場面に参加し、教育指導能力を養う。また、関心領域における研究課題について、文献レビュー、課題の明確化、研究方法に関する演習を行い、研究能力を養う。方法は、先行研究、実践報告のレビューを行い、ゼミ形式で討論する。				
行動目標	1. 教育指導法及び研究指導法について理解できる。 2. 博士前期課程の学生の指導場面に参加し，助言・指導できる。 3. 関心領域における研究課題を明確化できる。 4. 研究課題に関連した文献レビューを行い，発表・討論できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	課題解決力、教育・開発力				
評価並びにフィードバック法	レポート及びプレゼンテーションの内容で総合的に評価する。				
教科書	特に指定しない。				
参考書	適宜提示する。				
事前準備受講要件等	予習復習を行う。 予習・復習は 60 分以上とする。				
オフィスアワー	土曜日：13:00 ～ 14:00				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	オリエンテーション	教育指導法と研究指導方法についての概説 予習：提示した文献・参考書を読んでおく。 復習：指導方法について整理する。	全員
2～3	研究指導法 1	博士前期課程学生の指導に参加 予習：指導の準備をする。 復習：指導方法の課題を整理する。	全員
4	研究指導法 2	研究の絞り方への助言・研究指導について討論 予習：指導の準備をする。 復習：指導方法の課題を整理する。	全員

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
5～14	セミナーA：移植など先端治療を必要とする急性・重症患者の療養生活支援の看護援助に関する研究課題の焦点化と方法論の検討 セミナーB：慢性病をもつ患者のセルフケア支援教育に関する研究課題の焦点化と方法論の検討 セミナーC：がん患者の療養生活支援の看護援助に関する研究課題の焦点化と方法論の検討 セミナーD：認知症や糖尿病などの疾患をもつ高齢者が在宅で生活を維持できるための療養生活支援に関する研究課題の焦点化と方法論の検討 セミナーE：精神疾患をもつ患者の療養生活支援とメンタルヘルスに関する研究課題の焦点化と方法論の検討	セミナーA，B，C，D，Eのいずれかを選択し、文献レビューを行い、課題の明確化を図り、研究方法について検討する。 予習：文献レビュー、課題の明確化、研究方法を明確化する。 復習：文献レビュー（文献研究）を整理する。	全員
15	まとめ	文献レビューの発表 予習：発表の準備をする。 復習：文献レビューを整理する。	全員

授業科目名	地域家族支援看護学特論				
授業科目（英）	Theory of Nursing Care in Community and Family Health				
教員名	真継　和子、土手　友太郎、草野　恵美子、鈴木　美佐、近澤　幸、大橋　尚弘、伊藤　真理				
単位数	2	時間数	30	学年	1
開講期	後期	開講曜日	土曜１限、土曜２限		
科目区分	選択	授業形態	講義		
一般目標	病院および外来から地域、在宅へと移行して生活する個人と家族、および組織活動等集団を対象として、ヘルスプロモーションの視点から健康問題・課題を探求し、支援方法について理論的、実践的に追究する。また、地域・在宅における療養生活支援活動、家族支援活動、健康推進活動に必要とされる看護援助、教育方法やそのアプローチに向けた手法を適用した看護実践評価や教育評価を行い、専門領域における看護学の構築と、教育・研究を遂行できる教育研究能力を培う。				
行動目標	地域・在宅で生活、療養する個人とその家族、および集団を対象とし、生活の質向上をめざした看護実践に活用できる主要概念・理論について討議できる。 個人とその家族、および集団の健康問題・課題の特異性、普遍性を整理するとともに、課題解決に向けたアプローチ法を探求、提示できる。				
ディプロマポリシーのキーワード	教育・研究開発力、指導・統率力、グローバル力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	レポート、プレゼンテーション、授業への貢献 フィードバック：レポート、発表に対する質疑・解説を行う。				
教科書	適時、紹介する				
参考書	適時、紹介する				
事前準備受講要件等	アクティブラーニングの手法を用いる。適時、紹介する。 予習・復習は各 60 分以上とする。				
オフィスアワー	土曜日：13：00 ～ 14：00、メールにて時間予約してください。				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	地域家族支援看護学とは	オリエンテーション 授業方法と課題の提示、学生の関心領域の明示 予習：学生の関心領域について説明できるよう準備する。 復習：学習内容を確認する。	全員
2	Research Question と研究方法	自己の Clinical Question を Research Question にする。Research Question に対する研究方法の選択 予習：クリニカルクエッションからリサーチクエッションにしたプロセスを説明する準備を行う。 復習：授業内容を振り返る整理する。	全員
3	母子保健活動における予防的支援に関する研究の課題の明確化	母子保健活動における予防支援に関する研究のクリティーク、概念／理論の探究・分析 地域母子保健における健康課題の分析について ・関連文献のクリティーク ・地域づくりと子育て中の親の健康との関連についての教員の研究紹介 予習：地域母子保健における関心のある文献のクリティークを行う。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で深める。	草野

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
4	親となる人々への看護に関する課題の明確化	障害のある子どもの親支援・調査研究、介入研究等の教員の研究紹介 予習：障害のある子どもの親支援・調査研究、介入研究に関する文献を確認する。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で深める。	草野
5～6	健康障がいのある人と家族に関する研究の焦点	健康障がいのある人と家族に関する研究の使用概念の明確化 予習：論文を検索し研究が取り扱っている概念を明確にする。 復習：授業内容を振り返り、キー概念を定義する。	鈴木
7	障がいと共に生きる子どもと家族に関する研究の焦点	障がいのある子どもとその家族に関する研究課題の明確化 予習：発達障がいの子どもと家族が焦点となる文献のクリティーク 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で深める。	担当者（小児）
8	親となる人々への看護に関する課題の明確化	親となる人々への看護（事故防止）に関する教員の研究紹介 予習：親となる人々への看護（事故防止）に関する文献を確認する。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で深める。	近澤
9	健康障がいのある人と家族に関する研究の焦点	腎不全を有する在宅療養者と家族が焦点となる文献クリティーク、研究紹介 予習：腎不全を有する在宅療養者とその家族が焦点となる文献のクリティーク 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で深める。	大橋
10	健康障がいのある人と家族に関する研究の焦点	心不全を有する在宅療養者と家族が焦点となる文献クリティーク、研究紹介 予習：心不全を有する在宅療養者とその家族が焦点となる文献のクリティーク 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で深める。	伊藤
11～12	健康指標及び健康影響に関する研究の明確化	疫学・保健統計手法の研究課題への適用（情報処理室） 予習：基本的な疫学・保健統計手法について調べておく。 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で深める。	土手
13～14	地域包括ケアと看護職の役割に関する課題の明確化	地域包括ケアにおける看護職の役割に関する研究、教員の研究紹介 予習：地域包括ケアにおける看護職の役割に関する文献のクリティーク 復習：学習内容を確認し、さらに関連文献で理解を深める	真継
15	プレゼンテーション	学生の研究課題の明確化とまとめについてプレゼンテーションを行う 予習：これまでの授業から関心テーマの焦点化と探求方法についてまとめる	全員

授業科目名	地域家族支援看護学演習				
授業科目（英）	Seminar of Nursing Care in Community and Family Health				
教員名	真継　和子、草野　恵美子、鈴木　美佐、伊藤　真理、佐々木　綾子（嘱託教員）				
単位数	1	時間数	30	学年	2
開講期	通年	開講曜日	集中講義		
科目区分	選択	授業形態	演習		
一般目標	地域家族支援看護学における研究指導法を多角的視点から学ぶために大学院前期課程の指導に参加し、実際の場面から研究指導の教育方法について教授する。 次に地域家族支援看護学の範囲で行われた研究を文献レビューし、課題に対する研究方法論を議論し、多様な手法を用いて研究できる能力を養う。				
行動目標	①研究テーマの絞り込み、目的と方法論の一致など研究指導のポイントを理解できる。 ②指導の受け手に分かりやすい説明の方法を理解できる。 ③関心領域のあるテーマについて焦点を当てて概観し、研究課題とアプローチ法を見出すことができる。				
ディプロマポリシーのキーワード	教育・研究開発力、指導・統率力、グローバル力、課題解決力				
評価並びにフィードバック法	プレゼンテーション・レポート 発表内容に対する助言を授業時に行う				
教科書	適時提示する				
参考書	授業中に紹介する				
事前準備受講要件等	適時提示する 予習・復習は 60 分以上とする				
オフィスアワー	土曜日：13：00～14：00、メールにて時間予約してください。				
SDGs との関連	3				

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
1	オリエンテーション	教育指導法と研究指導方法について概説する。	真継 草野 鈴木 伊藤 佐々木
2～3	研究指導法 1	研究指導方法について学ぶ。 前期課程の指導に参加する。	真継 草野 鈴木 伊藤 佐々木
4	研究指導法 2	研究テーマの絞り方、研究方法の選択に適切性・妥当性を吟味し、研究指導方法について討論する。	真継 草野 鈴木 伊藤 佐々木

回数	学習課題	内容並びに方法／予習と復習	担当教員
5～14	セミナーA： 地域看護活動における予防的支援、および公衆衛生における健康影響に関する研究課題の焦点化と方法論の検討 セミナーB： 親となる人々への看護に関する研究課題の焦点化と方法論の検討 セミナーC： 健康障がいのある人と家族に関する研究課題の焦点化と方法論の検討 セミナーD： 在宅で療養する人と家族に関する研究課題の焦点化と方法論の検討	セミナーA、B、C、Dのいずれかを選択し、文献レビューを行い、課題の明確化を図り、課題に適合した研究方法論について議論する。	真継 草野 鈴木 伊藤 佐々木
15	まとめ	学生の研究課題に適合した研究方法についてプレゼンテーションする。	真継 草野 鈴木 伊藤 佐々木

授業科目	特別研究				
授業科目（英）	Doctoral Dissertation Research				
教員名	主指導：池西　悦子、小林　道太郎、寺口　佐與子、鈴木　久美、飛田　伊都子、山岡　由実、樋上　容子、安田　稔人、津田　泰宏、鈴木　美佐、草野　恵美子、真継　和子、土手　友太郎、二宮　早苗、伊藤　真理、佐々木　綾子（嘱託教員） 副指導：川北　敬美、谷水　名美、南口　陽子、大橋　尚弘				
単位数	8	時間数	180	学年	1〜3
開講期	通　年	開講曜日	月・火曜 6〜7 限・土曜日は学年により異なる		
科目区分	必　修	授業形態	演　習		
一般目標	特別研究の目的は、将来教育研究者として、活躍できるために、課題を分析・解決するための企画・立案能力を身につけること、研究者養成の最終段階として研究に関する応用能力を身につけることである。 個々の学生の専門領域に従って、まず、研究領域の文献レビュー等研究の前提となる基盤を明らかにすること、次にテーマの選定、研究の目的、概念枠組の明確化、研究計画の立案、研究方法の選択、データの収集、結果の分析、考察など研究の一連のプロセスを踏み研究実践能力を養う。				
行動目標	1. リサーチクエッションを見出せる。 2. 関心のある領域の現状分析を行い、文献検討から研究課題及び研究方法を明確にできる。 3. 研究課題の概念枠組み、理論背景を明確できる。 4. 課題に即した研究計画書を作成できる。 5. 文献検討を行い、主論文の必要性を説明できる。 6. 研究計画書に沿ってデータ収集および分析ができる。 7. データ分析を通して、研究目的に即した研究結果を導きだすことができる。 8. 科学的な方法に沿って得られたデータを分析し､分析結果を考察して研究論文を執筆できる。 9. 論理性・整合性・一貫性をもった研究論文を作成できる				
SDGs との関連	3				
ディプロマポリシーのキーワード	課題探求力、教育・研究開発力				
評価並びにフィードバック法	討議、発表とレポートで総合的に評価する				
教科書	適時、紹介する				
参考書等	適時、紹介する				
事前準備・受講要件等	適時、紹介する				
オフィスアワー（曜日／時間）	担当教員毎に確認する				

回	学習課題	内容並びに方法 / 事前学習と復習	担当教員
180 （時間）	【授業の進め方】 1. 関心領域における課題について、先行研究、実践報告のレビュー、フィールドワークから研究課題および方法論の明確化を図り、研究計画書を作成する。 2. 研究計画書の審査および研究倫理審査の結果を受けて、研究の実施に向けての具体的準備を進める。 3. 研究課題に即した文献検討あるいは、事前研究論文を作成する。 4. 研究の進捗状況に応じて、文献的裏づけなども行いながら、計画を進める。 5. 得られたデータの分析するなかから、結果の解釈を深める。 6. 結果をまとめていく作業を通して、あらためて研究テーマを確認し、考察のための理論的枠組みを再考する。 7. 研究論文の執筆を行う。 【研究指導体制】 1. 基本的にはグループ指導体制をとる。 2. セメスター毎に 1〜2 回程度実施するが、その間には主指導教員の助言を受け、研究プロセスを着実に進めておく。 3. 研究計画の発表を行い、助言から研究計画を洗練させる。 4. 研究の途中経過の発表を行い、研究の進捗状況への助言を得る 予習：リサーチクエッションを明確にするために、看護現象と構成する概念を明確にし、文献研究を行う。 復習：指導毎の内容を振り返り、課題を行う。		全員

大阪医科薬科大学大学院看護学研究科看護学専攻
博士後期課程学位論文について

Ⅰ．指導体制とスケジュール

1. 趣旨

3年間（長期履修者は4年間）の正規の修業限度内に学位論文を提出し，博士の学位を取得できるように指導体制を整えている．指導教員は3名（主指導教員1名，副指導教員2名）とし，相互に綿密な連携をとりつつ適切な指導体制を組織する．なお，主指導教員，副指導教員の他，科目担当教員や補助教員についても大学院担当教員として必要となる教育業務を行う．

2. 学年次ごとのスケジュール

下記に基本的なスケジュールを示す．

1）第1年次

第1年次中に研究計画書を作成する．主論文の前提となる副論文の作成に着手する．

研究計画書の発表の機会は3回（11月，2月，2年次4月等）とする．いずれかで報告する．

11月：研究計画発表会（早期）

看護学研究科教授会への研究計画書の提出および審議，承認後に倫理審査申請書提出（早期）

1月：大阪医科薬科大学研究倫理委員会（以後，本学研究倫理委員会とする）での審査，承認後に研究の開始（早期）

2月：研究計画書発表会（通常①）

2～3月：看護学研究科教授会への研究計画書の提出および審議，承認後に倫理審査申請書提出（通常①）

2）第2年次

4月：研究計画発表会（通常②）

4～5月：看護学研究科教授会への研究計画書の提出および審議，承認後に倫理審査申請書提出（通常②）

5月：本学研究倫理委員会での審査，承認後に研究の実施（通常①）

7月：本学研究倫理委員会での審査，承認後に研究の実施（通常②）

3）第3年次

4月：中間発表会

1月：博士論文（主論文および副論文）の提出

2月：論文審査，博士論文発表会，修正版博士論文提出

3月：学位授与可否決定，学位記授与式

〈重要〉

博士論文の提出までには，（1）副論文の執筆・投稿・採択（副論文は主論文の前提となる研究論文である），（2）主論文の執筆・投稿・採択の両方を完了させておく．

博士論文作成のながれ（履修モデル）

時期		
D1	7月	グループ指導
	11月	研究計画書（倫理申請）の提出のためのグループ指導 研究計画書の発表・提出（早期） 倫理審査申請書の提出（早期） グループ指導
	1月	倫理審査（早期）
	2月	研究計画書（倫理申請）の提出のためのグループ指導 研究計画書の発表・提出（通常①）
	3月	倫理申請書の提出（通常①）
D2	4月	研究計画書の発表・提出（通常②）
	5月	倫理審査（通常①）
	7月	倫理審査（通常②） グループ指導
	9月	グループ指導
	12月	グループ指導
	2月	グループ指導
D3	4月	中間発表
	5月	グループ指導
	7月	グループ指導
	9月	グループ指導
	11月	博士論文タイトル提出
	12月	グループ指導
	1月～	博士論文の提出 審査・発表会　修正版博士論文の提出　学位授与可否決定　学位授与式

※長期履修制度適用者は主指導教員と相談すること

Ⅱ．研究計画書について

・学位（博士）論文研究計画書は主指導・副指導教員による指導のもと作成し，研究計画発表会での発表を経た後，看護学研究科教授会で承認され研究倫理審査を受けることを原則とする．

1．研究計画書の作成

1）様式

・表紙に学位（博士）論文計画書申請書（様式4）を貼付する．

・枚数は10ページ程度とする（表紙は除く，図表は含める）．

・A4サイズ　40字×40行，上下マージン30–35㎜　横書きとする．

・見出しと区分の記載はⅨ．学位論文執筆要領　6．見出しと区分と同様とする．

2）提出期限・提出場所・提出部数

提出期限：指定された日時までに提出する．

提出場所：学務部看護学事務課（以後，看護学事務課とする）

提出方法：

・学位（博士）論文研究計画書申請書（様式 4）

原本を窓口にて提出もしくは看護学事務課宛のメールアドレスにファイルを添付する．指導教員サイン欄への押印により，複数枚（3 枚）となっても構わない．（学生記入欄はすべて記入すること）

・研究計画書

看護学事務課宛のメールアドレスにファイルを添付する．研究計画発表会終了後，修正した箇所は下線を付すこと．

3）研究計画書の構成

研究計画書はおおむね以下の内容で構成されるものとする．

（1）研究課題

具体的な研究課題の紹介（何について研究するのか？）

（2）研究の背景

研究の動機：なぜその研究課題に興味を持ったのか？

研究課題への興味・関心：その研究課題にどのような理論的興味や関心があるのか？

研究課題の重要性：その問題はなぜ・どのような点で重要なのか？

（3）これまでの研究の概要

研究の状況：研究課題に関する既存の研究はどのようになっているのか？

既存の研究の分析・評価：どのように吟味しているのか？

（4）研究の目的・意義

研究の目的：何を問題にして，何を明らかにしようとしているのか？

研究の意義：その研究の価値は何か？その研究はどのような事柄に貢献するか？

（5）研究の方法

研究の具体的な方法の説明（段階を追って記述する）

研究対象の選定基準は何か？

どのような方法を用いて行い，どのように分析するのか？

この方法がなぜこの研究に適しているのか？

（6）倫理的配慮

「人を対象とする研究」は本学研究倫理委員会の倫理審査を受けること

（7）期待される研究成果

（8）研究の限界

（9）参考文献

引用文献／参考文献一覧を最終ページに記すこと

文献の記載はⅨ．学位（博士）論文執筆要領 9. 引用形式と同様とする

ただし，研究計画発表会では参考文献の記載を省略すること

Ⅲ．研究計画発表会について

・研究計画発表会は，原則として第 1 年次の 11 月および 2 月，翌年の 4 月に開催する．

・発表会では資料として研究計画書のコピーを配布する．ただし，参考文献は省略とする．発表会終了後に資料は回収する．
・検討時間は一人 40 分程度を目安とし，20 分程度の学生による発表の後，質疑応答・意見交換を行う．
・発表は原則としてパワーポイントを用いる．
・研究計画発表会には，本学の看護学部教員および看護学研究科の学生は参加できる．なお，参加する学生は，研究倫理に関する同意書の提出を求められることがある．

Ⅳ．研究倫理教育について

研究活動を行う際には，研究倫理はもちろんのこと研究者自身の規律が重要視されている．そこで，本学では，研究者が研究活動を行うにあたり，以下の研究倫理教育の受講が求められている．

1．本学研究倫理委員会主催の「臨床研究教育研修会」の受講

この研修会は，研究活動を行っている期間中，毎年 1 回の受講が必要になる．また，人を対象とする研究を行う際には，研究開始前に必ず受講しておく必要がある．なお，同研修会に代わり，別途研究推進課から案内される eAPRIN もしくは ICR-Web の受講も可とする．

2．「研究活動における不正行為への対応等のための研究倫理教育」および「公的研究費の不正使用防止のためのコンプライアンス教育」の受講

研究活動における不正行為（発表された研究成果の中に示されたデータや調査結果等の捏造、改ざん及び盗用など）が社会的に大きく取り上げられる事態が起こっている．そこで，文部科学省「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」および公的研究費の不正使用等の防止のための文部科学省「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準)」に基づき，教育研修を実施する．研究者は 3 年に 1 回の受講が必要であるため，原則として入学初年度に受講すること．尚，すでに所属機関で受講している大学院生は，受講していることを証明する書類を看護学事務課に提出すること．

Ⅴ．研究倫理審査の受審について

・研究計画発表会後，研究計画書を看護学研究科教授会に提出する．教授会で承認を得た後，研究計画書に基づいて倫理審査申請書を作成し，本学研究倫理委員会に倫理審査申請を行う．
・研究倫理審査申請は，ホームページ,「研究倫理委員会」の「倫理審査申請システム」から電子申請を行う．倫理申請の際には，原則として本学の「臨床研究教育研修会」を受講しておく必要がある．詳細については UNIVERSAL PASSPORT の各種資料「倫理申請手順」を確認すること．
・学位論文の倫理的配慮の項目に通知番号を明記する．

Ⅵ．学位（博士）論文について

・学位（博士）論文は，主論文および副論文から構成され，それぞれの論文が審査対象となる．
・学位（博士）論文の申請にあたっては, 主論文の公表および副論文の公表が必要となる（掲載予定を含む）．
・主論文および副論文は，和文または英文とする．

Ⅶ. 中間発表会について

・中間発表会は，原則として 3 年 4 月に行う．進捗状況によっては，前後の機会に行う．
・発表会では資料を用意する．ただし参考文献は省略とする．発表会終了後に資料は回収する．
・資料には，研究計画の概要（目的，意義，方法など），研究進捗状況（予備調査やこれまでの分析データを含めること），今後の予定を含み必要に応じて項目を追加する．
　計画の変更を行った場合は，その理由等を説明する．
・枚数は 10 枚（10 ページ）程度とする（表紙は不要，図表は含める）．
・持ち時間は一人 30 分程度を目安とし，20 分程度の発表の後，質疑応答，意見交換を行う．
・発表は原則としてパワーポイントを用いる．
・発表会には，本学の看護学部教員および看護学研究科の学生は参加できる．なお，参加する学生は，研究倫理に関する同意書の提出を求められることがある．

Ⅷ. 学位（博士）論文申請要領

1. 学位（博士）申請資格

下記の 1）～ 3）のすべての条件を満たすものは学位（博士）の申請を行うことができる．なお，学位規則（昭和二十八年四月一日文部省令第九号）により，博士の学位を授与された者は，学位を授与された日から 1 年以内に博士論文の全文をインターネット上に公表することが義務づけられている．大阪医科薬科大学リポジトリ（https://ompu.repo.nii.ac.jp/）において公表を行うため，学位申請者は予め別紙「博士論文の公表について」を確認すること．

1）博士後期課程に 3 年以上在学し，所定の単位を修得したもの，あるいは，修得見込みの者
2）学位（博士）論文の研究計画書が研究計画発表会での発表を経た後，看護学研究科教授会において承認され，中間発表会での発表を終了している者
3）下記 2 の学位（博士）論文を申請できる基準（公表条件の基準）を満たしている者

2. 博士学位論文を申請できる基準（公表条件の基準）

学位（博士）論文の申請にあたっては，主論文および副論文の公表が必要となる（掲載予定を含む）．
公表の条件，下記の 1），2）のすべて満たしている必要がある．

1）主論文の公表の条件は（1）～（3）の 3 つである．注 1）
　（1）掲載学会誌は日本学術会議の「日本学術会議協力学術研究団体」に登録されている雑誌，あるいは，大阪医科薬科大学医学会「大阪医科薬科大学医学会雑誌」，大阪医科薬科大学英文雑誌「Bulletin of Osaka Medical and Pharmaceutical University」であること．なお，上記以外の学術雑誌に掲載を希望する場合は別途，研究科教授会で審議する．粗悪な学術誌ではないことを十分に確認し，注意すること．
　（2）2 名以上の査読システムをとっている学会誌であること
　（3）論文の種類は，原著論文であること．注 2）

注 1：海外雑誌の場合については，Original article であること，および，投稿規程並びに 2 名以上の査読システムであることが証明できる書類を添付する必要がある．
注 2：単著論文，もしくは，共著論文の筆頭論文であること．なお，共著論文の筆頭論文を主論文として申請する場合の要件については，下記の 3. の規程に従う．

2）副論文の公表の条件は下記の（1）（2）である.

（1）主論文を作成する必要性が示されている論文内容であること

（2）掲載雑誌は 2 名以上の査読システムをとっている学術雑誌であること，但し，論文の種類は問わない.

3. 共著論文の筆頭論文を主論文・副論文として申請する場合の要件

下記の 1）2）の条件を全て満たしていることが条件となる.

1）他の共著者が，次に掲げる事項について承諾書を提出していること

（1）学位（博士）論文申請者が当該論文を学位論文として本学に提出すること

（2）他の共著者が当該論文を自己の学位（博士）論文として使用しないこと

2）下記の書類を全て提出していること

（1）共著者による承諾書（様式 5）

共著者が複数の場合，各共著者について承諾書が必要となる.

（2）指導教員による確認書（様式 6）

4. 学位（博士）審査申請書・学位（博士）論文の提出

1）提出方法

学位（博士）の申請資格を有し，学位の審査を希望する者は，大阪医科薬科大学 学位規程に基づき学位審査手続料を納付の上，定められた期日までに，以下のものを看護学事務課まで提出する．なお，定められた手続きをした上での郵送受け付けも行う．所定の日時を過ぎた学位（博士）論文および関係書類は受け付けない．提出された学位（博士）論文には学位（博士）論文受領書を発行する.

2）提出物

提出するものは下記のとおりである.

（1）学位（博士）審査申請書（様式 7）	1 部
（2）学位（博士）論文	4 部（任意のファイル 4 冊に綴じること）
（3）論文目録（様式 8）－学位（博士）論文の中に綴じ込む－	4 部
（4）審査手続料（5 万円）の振込済証明書のコピー	1 部

※共著論文を学位論文として申請する場合は承諾書（様式 5），確認書（様式 6）を提出すること

※主論文および副論文が掲載予定の場合，掲載証明書を学位（博士）審査申請書に添付すること

※Original article であること，および，投稿規程並びに 2 名以上の査読システムをとっていることが証明できる書類を添付すること

5. 博士論文の綴じ方

学位（博士）論文執筆要領の項を参照のこと

6. 修正した学位（博士）論文の提出

論文審査，口頭試問および博士論文発表会の後，論文の修正の必要を認める場合，定められた期日までに看護学事務課に提出する．提出するものは下記のとおりとする.

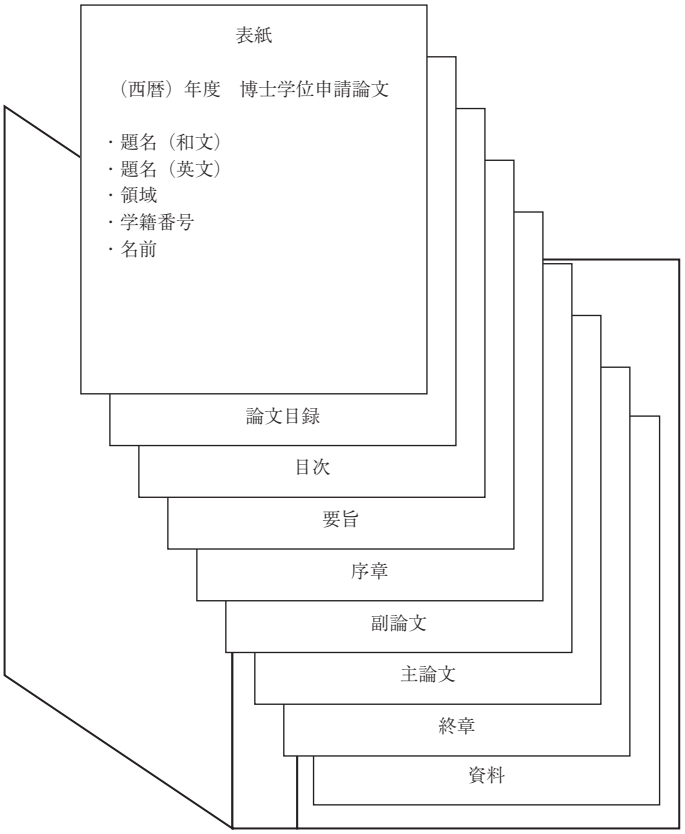
(1) 学位（博士）論文提出申請書（様式 9）　1 部

(2) 修正済みの博士論文　4 部（任意のファイル 4 冊に綴じること）

(3) 要旨（和文，様式は論文発表会に準ずる）　1 部（看護学事務課宛のメールアドレスにファイルを添付する）

Ⅸ．学位（博士）論文執筆要領

学位（博士）論文は，下記の要領を参考に作成する．



1. 論文全体の構成

・学位（博士）論文は，表紙，論文目録，目次，要旨，序章，副論文，主論文，終章で構成される．なお，学位（博士）論文を申請する折には，下記の要領で任意のファイルに綴じる．

・要旨，序章，終章は，主論文と副論文を踏まえて新たに文章を作成する．

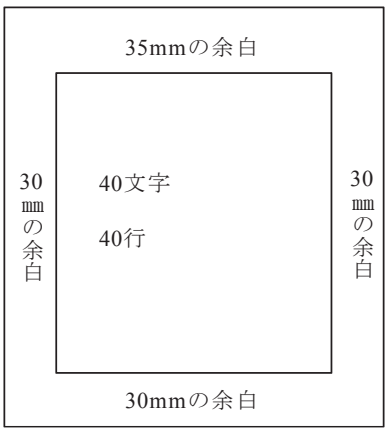
2. 論文の形式

・A4 版横書き 40 文字× 40 行，英文はダブルスペース（行と行の間にスペースが 1 行分入るように行間を空けること）とする．

・上余白は 35㎜，その他（左・右・下）の余白は 30㎜とする．

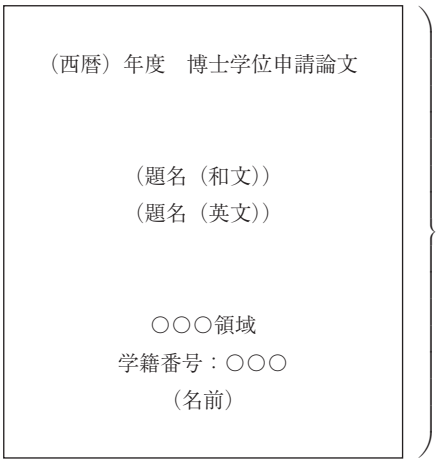
・文字の大きさは，論文全体にわたって，MS 明朝体の 10.5 ポイントを使用する．

・必ずページ数を中央下に挿入する．



3. 論文の表紙

・論文の表紙は下記のとおりとする.



表紙のポイントの大きさは MS 明朝体の 10.5 ポイントとする.
（　）内の名称は削除する.

・題名（英文）は，文頭および前置詞，冠詞，接続詞以外の単語の最初の文字を大文字とする.

4. 要旨

・学位（博士）論文の表紙，目次に続く頁に和文および英文で要旨を記載する .

・要旨の下に論文の内容を的確に表現しうるキーワードを，3 ～ 5 語記載する.

（例）キーワード：産後うつ，認知症，移植

Key words：postpartum depression，dementia，transplantation

・字数はキーワードを含め，和文は 2,000 ～ 3,000 字程度，英文はダブルスペースとし 800 ～ 1,000words とする.

5. 論文の内容

・論文の内容は，副論文，主論文ともに，原則として以下の事項の順に配列されるように作成する.

Ⅰ．緒言　あるいは　はじめに

Ⅱ．研究方法

Ⅲ．結果

Ⅳ．考察

Ⅴ．結論

謝辞

文献（引用文献）

図表

・頁は, 論文の全体にわたって, 通しの頁を記入する．序章を第 1 頁とし, 終章の最後を最終頁とする（「論文の構成」を参照，資料にページ数は不要）．記入は，－ 1 －，－ 2 －，－ n －のように記し，記入場所は下中央とする.

・図表および資料については，論文ごとに一括して，文献の後に配列する．なお，図表の挿入箇所は，原稿の右側余白に図表番号を朱書きする．但し，最終提出論文は，朱書きを削除すること.

・学位（博士）論文では，主論文に関する和文および英文要約が必要となる．要約の頁は主論文の表紙の次の頁（緒言の前の頁）に挿入する．和文要約の字数は 400 ～ 600 字程度とする．英文要約（250 ～

300words）は，原則として「Times New Roman」を用い，ダブルスペースで記載する．英文要約は，ネイティブまたは専門的知識のある人の校正を経たものでなければならない．和文要約と英文要約の両方の要約に続いて，論文の内容を的確に表現しうるキーワードを，日本語と英語で，それぞれ３～５語記載する．

6. 見出しと区分

・見出しは「MS ゴシック」体を用い，外国語・数字には「Times New Roman」を用いる．

・見出しと区分は，Ⅰ，1，1)，(1)，①の順序とする．

（例）（1）見出しが多い場合

Ⅰ.
A.
1.
a.
1)
(1)
①
(a)

（2）見出しが少ない場合

Ⅰ.
1.
1)
(1)
①

7. 図表

・表はひとつずつ A4 判用紙に配置し，最上段左端に，出現順に「表 1」のように通し番号を振り，そのあとに全角スペース分を空けてからタイトル名を簡潔に示す.

・表の罫線は必要な横罫線だけにとどめ，縦罫線はなるべく使用せず（横の罫線の太さは 0.5pt），縦罫線のかわりに十分な空白を置く．各列・行内の文字は左寄せとする.

・図はひとつずつ A4 版用紙に配置し，最下段左端に，出現順に「図 1」のように通し番号を振り，そのあとに全角スペース分空けてからタイトル名を簡潔に示す.

8. 文体ならびに句読点

・文章は簡潔でわかりやすく記述する．看護学は理系・文系にまたがるところがあるが，文体は「である調」を基本とする.

・和文において，外国語はカタカナとし，外国人名，日本語訳が定着していない学術用語などは原則として活字体の原綴で書く.

・和文中の句読点は「.（ピリオド)」と「,（コンマ)」を用い，数字とアルファベットは半角とする.

・論文にしばしば繰り返される語は略語を用いて差し支えないが，初出の時は完全な用語を用い，以下に略語を使用することを明記する.

・本文や図表中（文献は除く）で用いられる数字（「二者択一」や「一朝一夕」のような数量を表す意味で用いられているものではないものを除く）および欧文については，原則として半角文字を使用する.

・整数部分が 0 で理論的に 1 を超えることのない数値は，たとえば，相関係数 r やクロンバックの α 係数では「.82」のように小数点以下だけを表現し，縦に揃える場合は小数点の位置で揃える.

9. 引用形式

記載方法は下記に従うこと.（大阪医科薬科大学看護研究雑誌投稿規定より）

①本文中の文献表示方法

引用文献は，引用箇所に著者名（姓)，発行年次（西暦）を括弧表示する．著者が複数の場合，表示する著者名は 1 名のみとし，「他」（欧文文献の場合は「et al.」）をつけて略する．同一著者に同一発行年次の文献が複数ある場合は，発行年次の後に小文字のアルファベット（a，b，c…）を付して区別する.

②文献欄の記載方法

筆頭著者名（姓）のアルファベット順に列記する．共著者は 3 名まで表記し, それ以上の場合は「他」（欧文文献の場合は「et al.」）をつけて省略する．同一著者の文献が複数ある場合には，発行年次の早い順に記載する. 同一年次に同一著者による文献が複数ある場合には, 本文中の表示に添付した小文字のアルファベット順に並べる.

【雑誌掲載論文】

著者名（発行年次）: 表題名，掲載雑誌名，号もしくは巻（号)，最初のページ数 - 最後のページ数.

Author A, Author B (year): Title of article, Title of Journal, vol.(No.), pp-pp.

【単行本】

著者名（発行年次）: 書名（版数 初版は省略可)，出版社名，発行地.

Author A (year): Title of Book (edition), Publisher, Location.

著者名（発行年次）：論文の表題，編者名，書名（版数），ページ数，出版社名，発行地.

Author A (year): Title of article, Editor A, Editor B (eds.), Title of Book (edition), pp-pp, Publisher, Location.

【翻訳書】

原著者名（原書の発行年次）／訳者名（翻訳書の発行年次）：翻訳書の書名（版数），出版社名，発行地.

【ウェブページ】

著者名（発行年次）：ウェブページや記事のタイトル，ウェブサイト名，URL（参照年月日）.

Author A (year): Title of page or article, Website Name, URL (access date).

10. 資料

・資料は，終章のあとに挿入し，研究で使用した説明文書や同意書，質問紙，インタビューガイド等に関する資料を入れる.

・資料が多い場合は資料目次を作成し，どの研究で使用した資料であるかをわかりやすくする.

・副論文や主論文が英文の場合は，資料の最後に和文の付録をつける.

X．学位（博士）論文の審査

・学位（博士）論文を提出した学生は，看護学研究科教授会で決定された１名の主査と２名の副査による学位（博士）論文の審査ならびに口頭試問を受ける.

・学生は論文審査および口頭試問の終了後，主査および副査の意見，ならびに博士論文発表会（下記）での助言を踏まえ，修正の必要があると考えられる箇所を修正する.

XI．博士論文発表会と修正した論文の提出

1. 博士論文発表会

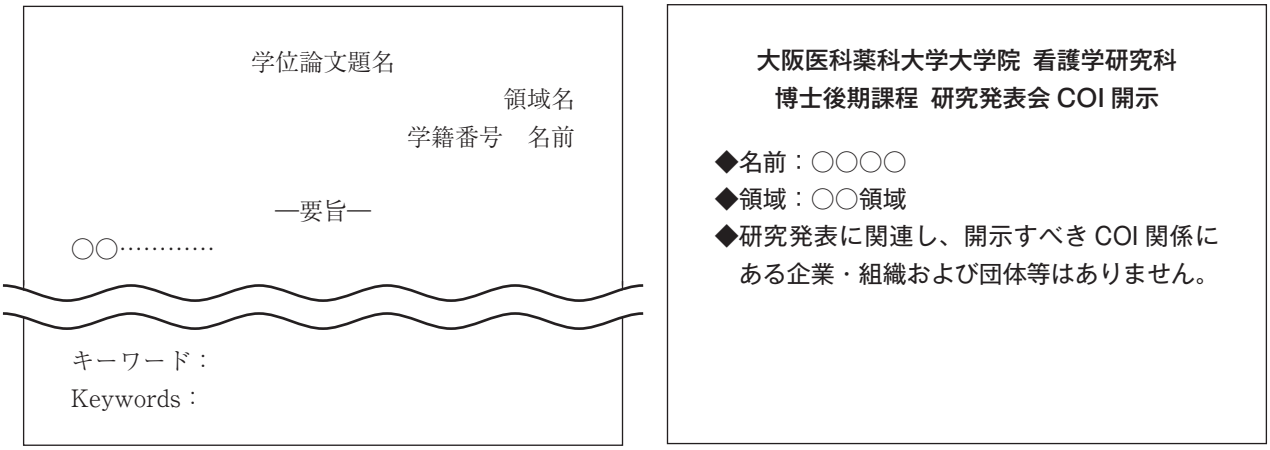
・博士論文発表会は，学生が論文の内容の吟味を深めることを目的として，修正した博士論文を提出するまでの期間内に行われる．開催日は看護学事務課から公示される.

・博士論文発表会では要旨等，資料を配布する.

・発表者が資料を作成する様式は，【博士後期】教育要項の「4. 要旨」に記載された様式に基づくこと（－要旨－の上１行あけ，学位論文題名（中央寄せ），領域名，学籍番号，名前（以上右寄せ）を記載する（以下の例参照）.

・スライド 1 枚目に利益相反（COI）に関する報告を提示すること（以下の例参照）

（例）



・詳細は別途，案内する．

・持ち時間は一人 40 分程度を目安とし，30 分程度の学生による発表の後，質疑応答・意見交換を行う．

・発表は原則としてパワーポイントを用いる．発表会の終了後に資料の回収はしない．

・博士論文発表会には，本学看護学部教員および看護学研究科の学生は参加できる．

2. 修正した博士論文の提出

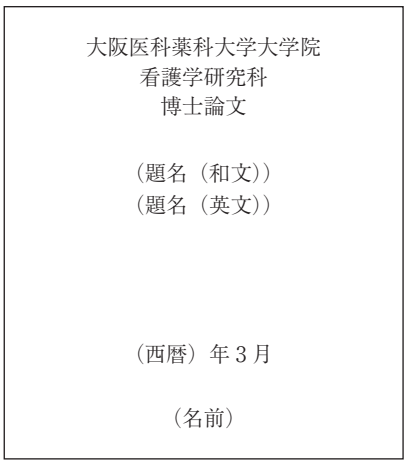
・学生は，博士論文発表会後に学位（博士）論文提出申請書（様式 9）1 部，修正した学位（博士）論文 4 部，要旨 1 部（和文，様式は論文発表会に準ずる，データを提出）を提出期限内に看護学事務課に提出する．

3. 学位（博士）論文の提出

別紙「博士論文の公表について」に従い，出版社等に確認の上，大阪医科薬科大学リポジトリ登録申請・取扱許諾書（様式 10）ならびに博士論文全文のデータを提出する．

提出する電子データは PDF 形式とし、暗号化・パスワードの設定・印刷制限などを行わず，PDF/A(ISO 19005) に準拠すること．

論文の表紙は下記のとおりとする。



※要約公表の場合、「大阪医科薬科大学大学院 看護学研究科 博士論文」の後ろに（要約）と記載すること。

やむを得ない事由により要約公表が承認された場合は，要約を提出する．ただし，博士論文の要約の公表が承認された場合においても，本学は論文の全文を求めに応じて閲覧に供する．要約に加え，博士論文（冊子）2 部（本学図書館，国立国会図書館）を提出すること．

Ⅻ．博士後期課程の修了

・博士後期課程の修了は，教授会において議決し，学長が決定する．

・博士後期課程の修了者には，「博士（看護学）」の学位が授与される．

様式 4

学位（博士）論文研究計画書申請書

年　月　日

看護学研究科長　様

研究課題名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

指導教員サイン

主指導教員	
副指導教員	
副指導教員	

上記の通り指導教員の許可を得ましたので，研究計画書を提出します。

学籍番号＿＿＿＿＿＿＿＿

名前（自筆）＿＿＿＿＿＿＿＿

看護学事務課
印

様式 5

承　諾　書

○年 ○月 ○日

大阪医科薬科大学長　様

所属　○　○　○　○　大学
共著者（共同研究者）
名前　○　○　○　○　㊞

（自署）

下記共著（共同研究）論文について、○　○　○　○さんが、学位（博士）論文として申請することを承諾します。

また、学位申請者が、学位（博士）論文をレポジトリ等の大阪医科薬科大学学術機関のデータベースでの論文の公開を許諾しようとする場合、共著者（共同研究者）としてそのことを許諾します。

なお、本論文を自らの学位（博士）論文として使用しないことも併せて承諾します。

記

1．共著（共同研究）論文の題目

学位（博士）論文の主論文の題目を記入してください。

2．上記の論文の掲載誌名・巻・号・頁・年

（掲載が決定しているが未発行の場合はその旨を記して下さい）

3．共著者（共同研究者）連絡先

連絡先（住所、電話番号、メールアドレス、所属機関）を可能な範囲で記入してください。

※ 共著者（共同研究者）氏名欄の署名は、必ず本人が自署・押印してください。
※ 共著者（共同研究者）が複数の場合、各共著者（共同研究者）について承諾書が必要となります。
※ 共著者（共同研究者）が遠隔地又は海外に在住している等にかかわらず承諾書の提出が必要です。

様式 6

確　認　書

共著論文

（主論文題名を記載し、その下に英文訳題を記載する。主論文が英文の場合はその下に和文訳題を記載する。）

上記の学位論文は、申請者＿＿＿＿＿＿の主働的研究によるものであり、申請者のみが学位論文として提出するものであることを確認します。

年　月　日

主指導（自筆）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿㊞

副指導（自筆）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿㊞

副指導（自筆）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿㊞

様式 7

学位（博士）審査申請書

年　月　日

大阪医科薬科大学大学院看護学研究科長　様

看護学専攻　　領域
学籍番号
名　前　　印

大阪医科薬科大学　学位規程第 4 条に基づき、博士論文の審査及び最終試験を受けたいので申請します。

記

博士論文　　4 部

主論文の掲載雑誌（掲載証明のあるものを含む）：

※申請書と共に審査手続料の振込済証明書のコピーを提出すること（学位規程施行細則参照）

指導教員サイン

主指導教員	
副指導教員	
副指導教員	

博士論文受領書

名　前（自筆）＿＿＿＿＿＿＿＿

看護学事務課
印

様式８（参考資料）

論 文 目 録

領域・分野名	氏 名

主論文

題目　邦文タイトル:
　　英文タイトル:

掲載（予定）雑誌: *著者名（西暦発行年）．掲載（予定）雑誌名．巻．号．頁-頁．*
#洋雑誌または和雑誌英文版は，英文での表記可．
#印刷中などで「頁-頁」が確定していない場合は，不記載可．但し，掲載証明を添付すること

副論文

題目　邦文タイトル:
　　英文タイトル:

掲載雑誌: *著者名（西暦発行年）．掲載雑誌名．巻．号．頁-頁．*
#洋雑誌または和雑誌英文版は，英文での表記可．

様式９

年　　月　　日

看護学研究科長　様

博士後期課程　学位（博士）論文提出申請書

題名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
（題名に修正があった場合は記載のこと）

指導教員サイン

主指導教員	

上記の通り指導教員の許可を得ましたので、学位（博士）論文の再提出をします。

学籍番号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

名前（自筆）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

看護学事務課 印

様式 10

大阪医科薬科大学リポジトリ登録申請・取扱許諾書
（看護学研究科・博士論文）

年　　月　　日

本部図書館長　様

申請者氏名（自署）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

論文題名（和文）	
論文題名（英文）	
キーワード（日本語）3～5 語	
（英語）日本語と同順	
連絡先等 修了後も連絡が取れる連絡先を記入してください	住所： 電話： 電子メール：
全文公表・要約公表の別	□ 全文公表 □ 要約公表 下記の理由により、論文の全文に代えて論文の要約の公表を申請します。 □ 出版済で、出版社等の制限があるため（出版機関名：　　） □ 著作権保護，個人情報保護，守秘義務等の理由のため □ 特許等の出願のため □ 立体形状による表現を含むため □ その他（具体的に：　　） ※要約の公表を希望する場合は、大学において承認を受ける必要があります。審査の上事由が認められれば、論文の要約の公表となります。論文の要約の公表が承認された場合においても、本学は論文全文を求めに応じて閲覧に供します。
公開日	□ 直ちに公開する □ 指定日に公開する（　　年　　月　　日）ただし学位授与後１年以内。
指導教員の確認	教員氏名（自署）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

本申請によって著作権のうち複製権と公衆送信権を許諾していただくことになります。これは電子ファイルをサーバー上に保存しネットワークを通じて送信可能な状態に置くことのみを許可するものであり、著作権を移譲するものではありません。

［事務記入欄］

学位番号		報告番号	
データ受領	年　月　日	公開年月日	年　月　日

出版または掲載状況

主論文

題　名			
著 者 名			
出版者名			
雑 誌 名			
巻号頁年			
共著者	□共著者なし　□全共著者から承諾済		
公表の可否	□可　□否	公表条件	

副論文

題　名			
著 者 名			
出版者名			
雑 誌 名			
巻号頁年			
共著者	□共著者なし　□全共著者から承諾済		
公表の可否	□可　□否	公表条件	

※投稿論文の著作権ポリシーを確認できる書類または当該箇所の写し等（契約書のコピーやWeb サイト上の規定、編集委員とのメールのやりとりのプリントアウト等）を添付してください。
なお、英文の場合は該当部分に下線を引き簡単な和訳を付してください。

学位論文審査評価表（博士課程用）

日付　　年　　月　　日

審査者

領域名（実践，療養生活，地域家族）
審査対象者

Ⅰ　学位論文の評価

ア．研究目的の合理性
　5　4　3　2　1　　特記事項

イ．研究の独創性及び新規性
　5　4　3　2　1　　特記事項

ウ．研究計画や研究方法の妥当性
　5　4　3　2　1　　特記事項

エ．結果の分析の厳密性や精度
　5　4　3　2　1　　特記事項

オ．得られたデータに基づく論理的展開
　5　4　3　2　1　　特記事項

カ．結果の発展性
　5　4　3　2　1　　特記事項

キ．研究成果の学術上及び応用面での意義
　5　4　3　2　1　　特記事項

Ⅱ　最終試験の評価

ア．研究課題の背景や意義についての十分な知識
　5　4　3　2　1　　特記事項

イ．研究進行における対象者への倫理的配慮の実施の確認
　5　4　3　2　1　　特記事項

ウ．研究結果について質疑への明晰な応答
　5　4　3　2　1　　特記事項

Ⅲ　総合評価

合格　不合格　保留　　特記事項

注意
・合格は全ての項目において「3」以上である。
・「不合格」「保留」とした際には、具体的に特記事項に記載する。
・主査と副査２名の合意により最終評価を行う。

共 通 事 項

看護学研究科教員一覧

職　名	氏　　名	E-mail
教　授	池西　悦子	e.ikenishi@ompu.ac.jp
教　授	草野　恵美子	emiko.kusano@ompu.ac.jp
教　授	小林　道太郎	michitaro.kobayashi@ompu.ac.jp
教　授	鈴木　久美	kumi.suzuki@ompu.ac.jp
教　授	鈴木　美佐	misa.suzuki@ompu.ac.jp
教　授	津田　泰宏	yasuhiro.tsuda@ompu.ac.jp
教　授	寺口　佐與子	sayoko.teraguchi@ompu.ac.jp
教　授	土手　友太郎	tomotaro.dote@ompu.ac.jp
教　授	飛田　伊都子	itoko.tobita@ompu.ac.jp
教　授	樋上　容子	yoko.higami@ompu.ac.jp
教　授	真継　和子	kazuko.matsugi@ompu.ac.jp
教　授	安田　稔人	toshito.yasuda@ompu.ac.jp
教　授	山岡　由実	yumi.yamaoka@ompu.ac.jp
准教授	伊藤　真理	mari.ito@ompu.ac.jp
准教授	大橋　尚弘	takahiro.ohashi@ompu.ac.jp
准教授	川北　敬美	toshimi.kawakita@ompu.ac.jp
准教授	谷水　名美	nami.tanimizu@ompu.ac.jp
准教授	近澤　幸	sachi.chikazawa@ompu.ac.jp
准教授	二宮　早苗	sanae.ninomiya@ompu.ac.jp
准教授	南口　陽子	yoko.minamiguchi@ompu.ac.jp
准教授	森　瞳子	toko.mori@ompu.ac.jp
講　師	杣木　佐知子	sachiko.somaki@ompu.ac.jp
講　師	中原　洋子	yoko.nakahara@ompu.ac.jp
講　師	原田　かおる	kaoru.harada@ompu.ac.jp
講　師	松枝　加奈子	kanako.matsueda@ompu.ac.jp
講　師	間中　麻衣子	maiko.manaka@ompu.ac.jp
講　師	山内　彩香	saika.yamauchi@ompu.ac.jp
講　師	山埜　ふみ恵	fumie.yamano@ompu.ac.jp
助　教	赤崎　芙美	fumi.akasaki@ompu.ac.jp
助　教	勝山　あづさ	azusa.katsuyama@ompu.ac.jp
助　教	倉橋　理香	rika.kurahashi@ompu.ac.jp
助　教	笹野　奈菜	nana.sasano@ompu.ac.jp
助　教	日髙　朋美	tomomi.hidaka@ompu.ac.jp

キャンパスマップ・各階平面図

本部 / 本部北 / 本部北西 / 本部西キャンパス拡大図

大学関連施設

本部キャンパス

U01 - 総合研究棟
U02 - 本館・図書館棟
U03 - 講義実習棟
U04 - 新講義実習棟
U05 - 実験動物センター
U06 - 第2研究館
U07 - 第3研究館
U08 - 管理棟
U12 - 東門守衛室
U13 - 歴史資料館
(旧別館/登録有形文化財)

P(駐車場マーク) -立体駐車場

本部北キャンパス

U21 - 看護学部棟
U22 - 看護学部研究棟
U23 - 講堂
U24 - 保育所
U25 - 学生会館

本部北西キャンパス

U31 - 校舎

北園第１キャンパス

U41 - LDセンター

病院関連施設

本部キャンパス

H01 - 病院I号館
H02 - 病院管理棟
H03 - 病院2号館
H04 - 病院外来棟
H05 - 病院3号館
H07 - 病院6号館
H08 - 病院7号館
H09 - 病院西管理棟
H10 - 病院本館(A棟)
H21 - 訪問看護ステーション
H22 - 関西ＢＮＣＴ共同医療センター
PETセンター

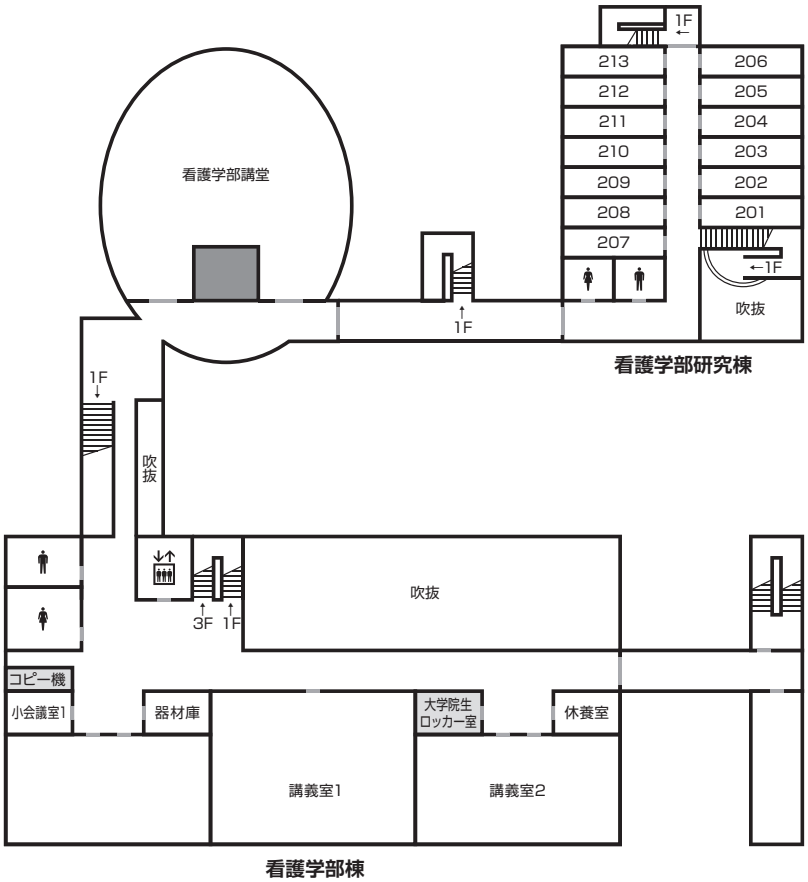
本部西キャンパス

H31 - 中央手術棟

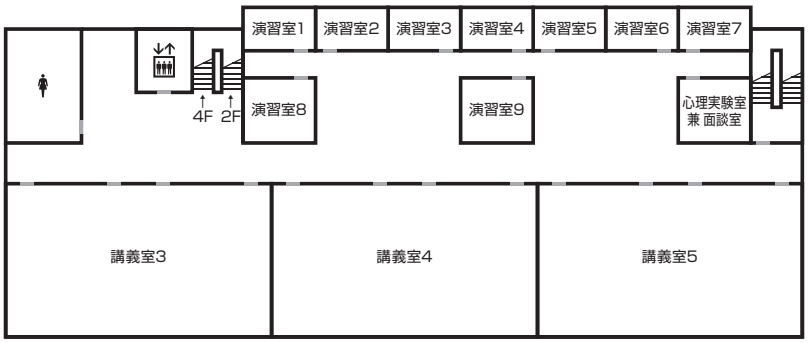
1階

駐車場
駐輪場
教員研究室 L101
多目的室1
大学院研究室1
教員研究室 L102
多目的室2
講堂入口
2F
113
112
111
110
109
108
107
106
105
104
101
←2F
エントランスホール
看護学部研究棟
学生ホール
中庭
大学院研究室2
学生ロビー
男子更衣室
女子更衣室(教職員用)
女子更衣室
男子更衣室(教職員用)
看護実践研究センター
キャリアサポートルーム
女子更衣室
中会議室
学部長室 研究科長室
事務室
看護学部棟

2階

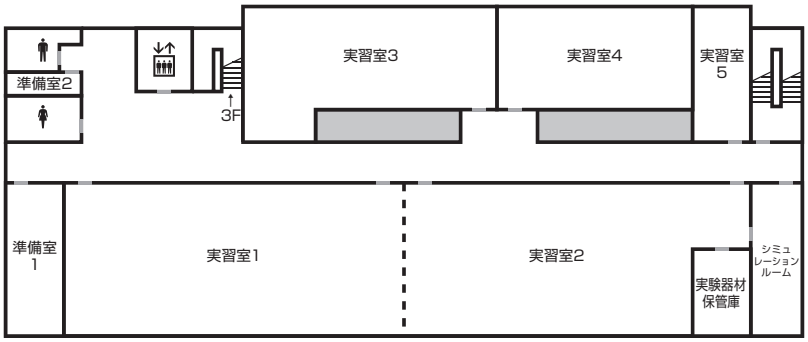

1F
213
212
211
210
209
208
207
206
205
204
203
202
201
←1F
吹抜
看護学部研究棟
看護学部講堂
吹抜
3F
1F
コピー機
小会議室1
器材庫
大学院生ロッカー室
休養室
講義室1
講義室2
看護学部棟

3階



看護学部棟

4階



看護学部棟

2025 年度　看護学研究科オフィスアワー一覧表

オフィスアワーとは

オフィスアワーとは，講義等に関する学生の質問・相談等に応じるための時間として，教員があらかじめ示す特定の時間帯（何曜日の何時から何時まで）を示す.

教員氏名	オフィスアワー		備考
	曜日	時間	
池西　悦子	土	12:00 ～ 13:00	
草野　恵美子	木	15:00 ～ 17:00	随時メールにて時間予約してください.
小林　道太郎	月	16:00 ～ 17:00	
鈴木　久美	金	18:00 ～ 20:00	
鈴木　美佐	水	17:00 ～ 19:00	随時メールにて時間予約してください.
津田　泰宏	火	12:00 ～ 13:00	
寺口　佐與子	火	12:30 ～ 14:00	
土手　友太郎	木・金	16:00 ～ 18:00	講義ごとに曜日が異なります．講義内容のページを参照してください.
飛田　伊都子	水	12:10 ～ 14:00	随時メールにて時間予約してください.
樋上　容子	木	15:00 ～ 17:00	随時メールにて時間予約してください.
真継　和子	火	16:00 ～ 20:00	
安田　稔人	火	12:00 ～ 13:00	
山岡　由実			随時メールにて時間予約してください .
大橋　尚弘	金	16:00 ～ 18:00	
川北　敬美	火	17:00 ～ 19:00	事前にメールにて連絡をしてください .
近澤　幸	別紙参照	別紙参照	講義ごとにオフィスアワーが異なります．講義内容のページを参照してください．メールにて時間予約してください.
二宮　早苗	木	17:00 ～ 19:00	
南口　陽子	金	15:00 ～ 17:00	
間中　麻衣子	金	15:00 ～ 17:00	随時メールにて時間予約してください.

学校法人大阪医科薬科大学× SDGs

2015 年 9 月、国連本部で「持続可能な開発サミット」が開かれ、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ（行動計画）」が採択されました。具体的には、「持続可能な開発（発展）目標（SDGs = Sustainable Development Goals）」として 17 の目標、169 のターゲットが設定され、日本を含むすべての国々は 2030 年までにこれらの目標を達成するものとされています。本法人もこのアジェンダに共感することから、SDGs の考え方を取り入れた社会貢献活動を推進していきます。（学校法人大阪医科薬科大学　SDGs 特設サイトの「行動指針」より）

シラバスに各授業科目で関係する SDGs17 の目標を記載しました。

皆さんの学修成果が SDGs 達成にどのように寄与するか、理解を深める一助になれば幸いです。

博士前期課程 開講科目一覧（SDGs との関連）

区分	授業科目	SDGs1	SDGs2	SDGs3	SDGs4	SDGs5	SDGs6	SDGs7	SDGs8	SDGs9	SDGs10	SDGs11	SDGs12	SDGs13	SDGs14	SDGs15	SDGs16	SDGs17
共通科目	看護倫理			○													○	○
	看護学研究方法論			○	○												○	
	看護現任教育論			○	○													
	看護理論			○	○					○							○	○
	看護管理学			○	○	○		○	○			○	○	○				
	コンサルテーション論			○														
	看護政策論			○	○				○									
	フィジカルアセスメント論			○														
	臨床薬理学			○														
	病態生理学			○														
	看護哲学			○		○					○							
	英語論文講読			○														
実践支援看護学領域	看護教育学特論Ⅰ			○	○													
	看護教育学特論Ⅱ			○	○													
	看護教育学演習			○	○													
	看護技術開発学特論Ⅰ			○	○								○					
	看護技術開発学特論Ⅱ			○	○								○					
	看護技術開発学演習Ⅰ			○	○								○					
	看護技術開発学演習Ⅱ			○	○													
療養生活支援看護学領域	移植･再生医療看護学特論Ⅰ			○														
	移植･再生医療看護学特論Ⅱ			○														
	移植･再生医療看護学演習			○	○													
	がん看護学特論Ⅰ			○														
	がん看護学特論Ⅱ			○														
	がん病態治療論			○														
	がん看護学援助論Ⅰ			○														
	がん看護学援助論Ⅱ			○														
	がん看護学演習Ⅰ			○														
	がん看護学演習Ⅱ			○														
	がん看護学実習Ⅰ			○														
	がん看護学実習Ⅱ			○														
	がん看護学実習Ⅲ			○														
	がん看護学実習Ⅳ			○														
	慢性看護学特論Ⅰ			○		○												
	慢性看護学特論Ⅱ			○														
	慢性看護アセスメント論			○		○												
	慢性看護援助論Ⅰ			○														
	慢性看護援助論Ⅱ			○														
	慢性看護学演習Ⅰ			○														
	慢性看護学演習Ⅱ			○	○													
	慢性看護学実習Ⅰ			○														
	慢性看護学実習Ⅱ			○														
	慢性看護学実習Ⅲ			○														
	精神看護学特論Ⅰ			○	○													
	精神看護学特論Ⅱ			○														
	精神看護学特論Ⅲ			○														
	精神看護アセスメント論			○														
	精神看護学援助論Ⅰ			○														
	精神看護学援助論Ⅱ			○														
	精神看護学治療論			○		○												
	精神看護学演習			○														
	精神看護学実習Ⅰ			○														
	精神看護学実習Ⅱ			○														
	精神看護学実習Ⅲ			○														
	老年看護学特論			○														
	老年看護アセスメント論			○														
	老年期病態治療論			○														
	老年看護援助論			○														
	老年看護サポートシステム論			○														
	老年看護学演習Ⅰ			○														
	老年看護学演習Ⅱ			○														
	老年看護学実習Ⅰ			○														
	老年看護学実習Ⅱ			○														
	老年看護学実習Ⅲ			○														
地域家族支援看護学領域	家族看護学特論			○														
	周産期看護論			○														
	母性看護学特論			○														
	ウィメンズヘルス看護論			○														
	周産期看護援助論Ⅰ			○														
	周産期看護援助論Ⅱ			○														
	周産期看護演習Ⅰ			○														
	周産期看護演習Ⅱ			○														
	小児看護学特論			○														
	小児と病気			○														
	発達障害看護論			○														
	小児看護アセスメント論			○														
	小児看護学演習			○														

区分	授業科目	SDGs1	SDGs2	SDGs3	SDGs4	SDGs5	SDGs6	SDGs7	SDGs8	SDGs9	SDGs10	SDGs11	SDGs12	SDGs13	SDGs14	SDGs15	SDGs16	SDGs17
地域家族支援看護学領域	小児看護学実習Ⅰ			○														
	小児看護学実習Ⅱ			○														
	小児看護学実習Ⅲ			○														
	地域母子保健論			○	○												○	
	地域看護学特論			○	○												○	
	地域ケアシステム特論			○	○												○	
	地域母子保健論			○	○												○	
	地域看護学演習			○	○												○	
	在宅看護学特論Ⅰ			○													○	○
	在宅看護学特論Ⅱ			○														○
	在宅看護学演習			○														
	ヘルスプロモーション論			○														○
	医療の質保証と安全管理			○					○									
	プライマリケア看護学特論Ⅰ			○													○	○
	プライマリケア看護学特論Ⅱ			○														
	プライマリケア看護学特論Ⅲ			○									○					
	プライマリケア看護学特論Ⅳ(小児)			○														
	プライマリケア看護学特論Ⅴ(成人)			○		○												
	プライマリケア看護学特論Ⅵ(老年)			○														○
	プライマリケア看護学特論Ⅶ(メンタルヘルス)			○														
	プライマリケア看護学演習Ⅰ			○									○					○
	プライマリケア看護学演習Ⅱ			○									○					
	プライマリケア看護学実習Ⅰ			○														○
	プライマリケア看護学実習Ⅱ			○	○													○
	プライマリケア看護学実習Ⅲ			○	○													
	プライマリケア看護学実習Ⅳ			○									○					○
特別研究	特別研究			○														
	課題研究			○														

博士後期課程 開講科目一覧（SDGs との関連）

区分		授業科目	SDGs1	SDGs2	SDGs3	SDGs4	SDGs5	SDGs6	SDGs7	SDGs8	SDGs9	SDGs10	SDGs11	SDGs12	SDGs13	SDGs14	SDGs15	SDGs16	SDGs17
基盤科目		看護科学研究論				○													
		看護学研究法応用論（保健統計）				○													
		看護学研究法応用論（実験法）			○														
		看護学教育開発論			○	○													
		英語論文演習			○	○												○	
		異文化看護論			○	○	○												
専門科目	実践支援看護学	実践支援看護学特論			○														
		実践支援看護学演習			○														
	療養生活支援看護学	療養生活支援看護学特論			○														
		療養生活支援看護学演習			○														
	地域家族支援看護学	地域家族支援看護学特論			○														
		地域家族支援看護学演習			○														
特別研究		特別研究			○														

文部科学省「職業実践力育成プログラム」（BP）における実践的な方法による授業一覧

区分	科目名	企業等と連携して行う授業	双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業
共通科目	看護倫理			○	
	看護学研究方法論			○	
	看護現任教育論			○	
	看護理論			○	
	看護教育学特論Ⅰ			○	
	看護教育学特論Ⅱ			○	
	看護管理学			○	
	コンサルテーション論			○	
	看護政策論			○	
	フィジカルアセスメント論			○	
	臨床薬理学			○	
	病態生理学			○	
	看護哲学				
	英語論文講読				
療養生活支援看護学領域	がん病態治療論			○	
	がん看護学特論Ⅰ			○	
	がん看護学特論Ⅱ			○	
	がん看護学援助論Ⅰ			○	
	がん看護学援助論Ⅱ			○	
	がん看護学演習Ⅰ			○	
	がん看護学演習Ⅱ			○	
	がん看護学実習Ⅰ		○	○	○
	がん看護学実習Ⅱ	○	○	○	○
	がん看護学実習Ⅲ	○	○	○	○
	がん看護学実習Ⅳ	○	○	○	○
	慢性看護学特論Ⅰ			○	
	慢性看護学特論Ⅱ			○	
	慢性看護アセスメント論			○	
	慢性看護援助論Ⅰ			○	
	慢性看護援助論Ⅱ			○	
	慢性看護学演習Ⅰ			○	
	慢性看護学演習Ⅱ			○	
	慢性看護学実習Ⅰ	○	○	○	○
	慢性看護学実習Ⅱ		○	○	○
	慢性看護学実習Ⅲ	○	○	○	○
	精神看護学特論Ⅰ			○	
	精神看護学特論Ⅱ			○	
	精神看護学特論Ⅲ			○	
	精神看護アセスメント論			○	
	精神看護援助論Ⅰ			○	
	精神看護援助論Ⅱ			○	
	精神看護学治療論			○	
	精神看護学演習			○	
	精神看護学実習Ⅰ	○	○	○	○
	精神看護学実習Ⅱ	○	○	○	○
	精神看護学実習Ⅲ	○	○	○	○
	老年看護学特論			○	
	老年看護アセスメント論			○	
	老年期病態治療論			○	
	老年看護援助論			○	
	老年看護サポートシステム論			○	
	老年看護学演習Ⅰ		○	○	○

区分	科目名	企業等と連携して行う授業	双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業
療養生活支援看護学領域	老年看護学演習Ⅱ		○	○	
	老年看護学実習Ⅰ	○	○	○	○
	老年看護学実習Ⅱ	○	○	○	○
	老年看護学実習Ⅲ		○	○	○
地域家族支援看護学領域	家族看護学特論			○	
	小児看護学特論			○	
	小児と病気			○	
	発達障害看護論			○	
	小児看護アセスメント論			○	
	小児看護学演習			○	
	小児看護学実習Ⅰ		○	○	○
	小児看護学実習Ⅱ	○	○	○	○
	小児看護学実習Ⅲ	○	○	○	○
	地域母子保健論			○	
	ヘルスプロモーション論			○	
	医療の質保証と安全管理			○	
	プライマリケア看護学特論Ⅰ			○	
	プライマリケア看護学特論Ⅱ			○	
	プライマリケア看護学特論Ⅲ			○	
	プライマリケア看護学特論Ⅳ(小児)			○	
	プライマリケア看護学特論Ⅴ(成人)			○	
	プライマリケア看護学特論Ⅵ(老年)			○	
	プライマリケア看護学特論Ⅶ(メンタルヘルス)			○	
	プライマリケア看護学演習Ⅰ			○	
	プライマリケア看護学演習Ⅱ			○	
	プライマリケア看護学実習Ⅰ	○	○	○	○
	プライマリケア看護学実習Ⅱ	○	○	○	○
	プライマリケア看護学実習Ⅲ	○	○	○	○
	プライマリケア看護学実習Ⅳ	○	○	○	○
特別研究	課題研究			○	

文部科学省「職業実践力育成プログラム」（BP）における
実務経験のある教員による授業科目一覧

区分	科目名	担当教員名
共通科目	看護倫理	真継　和子
		南口　陽子
	看護教育学特論Ⅰ	池西　悦子
		川北　敬美
		赤崎　茉美
	看護学研究方法論	二宮　早苗
		大橋　尚弘
		南口　陽子
	看護現任教育論	池西　悦子
		川北　敬美
		日髙　朋美
		中山　サツキ
	看護理論	鈴木　久美
	看護教育学特論Ⅱ	池西　悦子
		川北　敬美
	看護管理学	川北　敬美
		池西　悦子
		寺口　佐與子
		杣木　佐知子
		中山　サツキ
	コンサルテーション論	山岡　由実
		八尾　みどり
		市川　百香里
		原田　かおる
		勝原　裕美子
		新田　和子
	看護政策論	市村　尚子
	フィジカルアセスメント論	津田　泰宏
		安田　稔人
		寺口　佐與子
		谷水　名美
		大橋　尚弘
	臨床薬理学	津田　泰宏
		安田　稔人
		上田　育子
	病態生理学	津田　泰宏
		安田　稔人
		寺口　佐與子
		谷水　名美
		大橋　尚弘
療養生活支援看護学領域	がん病態治療論	鈴木　久美
		南口　陽子
		津田　泰宏
		廣瀬　善信
		藤阪　保仁
		岩本　充彦
		池永　昌之
		重岡　靖
		所　昭宏
	がん看護学特論Ⅰ	鈴木　久美
		山中　政子
		南口　陽子

区分	科目名	担当教員名
療養生活支援看護学領域	がん看護学特論Ⅱ	鈴木　久美
		長嶝　美奈子
		小山　富美子
		高見　陽子
		南口　陽子
	がん看護学援助論Ⅰ	鈴木　久美
		南口　陽子
		藤阪　保仁
		菅野　かおり
		畠山　明子
	がん看護学援助論Ⅱ	鈴木　久美
		南口　陽子
		二瓶　圭二
		藤本　美生
		橋口　周子
		戎谷　明日香
	がん看護学演習Ⅰ	鈴木　久美
		南口　陽子
	がん看護学演習Ⅱ	鈴木　久美
		南口　陽子
		上田　育子
		有田　由美
		野口　忍
	がん看護学実習Ⅰ	鈴木　久美
		南口　陽子
	がん看護学実習Ⅱ	鈴木　久美
		南口　陽子
	がん看護学実習Ⅲ	鈴木　久美
		南口　陽子
	がん看護学実習Ⅳ	鈴木　久美
		南口　陽子
	慢性看護学特論Ⅰ	飛田　伊都子
	慢性看護学特論Ⅱ	飛田　伊都子
		藤田　愛
		鳥嶋　雅子
		丹生　淳子
	慢性看護アセスメント論	飛田　伊都子
		仲村　直子
		本城　綾子
		丹生　淳子
	慢性看護援助論Ⅰ	飛田　伊都子
		中村　雅美
		伊波　早苗
	慢性看護援助論Ⅱ	飛田　伊都子
		仲村　直子
		丹生　淳子
	慢性看護学演習Ⅰ	飛田　伊都子
		荒若　繁樹
		西上　あゆみ

区分	科目名	担当教員名
療養生活支援看護学領域	慢性看護学演習Ⅱ	飛田　伊都子
	慢性看護学実習Ⅰ	飛田　伊都子
	慢性看護学実習Ⅱ	飛田　伊都子
	慢性看護学実習Ⅲ	飛田　伊都子
	精神看護学特論Ⅰ	山岡　由実
	精神看護学特論Ⅱ	山岡　由実
	精神看護学特論Ⅲ	山岡　由実
		新田　和子
	精神看護アセスメント論	山岡　由実
		金沢　徹文
		新田　和子
	精神看護援助論Ⅰ	山岡　由実
		澤村　律子
	精神看護援助論Ⅱ	山岡　由実
		木下　真也
		岩田　和彦
		岡部　英子
		本多　晶子
		新田　和子
	精神看護学治療論	山岡　由実
		金沢　徹文
		木下　真也
		新田　和子
	精神看護学演習	山岡　由実
		山内　彩香
		岩田　和彦
		岡部　英子
		藤澤　由里子
		新田　和子
	精神看護学実習Ⅰ	山岡　由実
		山内　彩香
	精神看護学実習Ⅱ	山岡　由実
		山内　彩香
	精神看護学実習Ⅲ	山岡　由実
		山内　彩香
	老年看護学特論	樋上　容子
		杣木　佐知子
		石原　昌代
		上野山　恵子
		関川　加奈子
	老年看護アセスメント論	樋上　容子
		杣木　佐知子
		上田　博司
		古谷　和紀
	老年期病態治療論	樋上　容子
		津田　泰宏
		神出　計
		上田　博司
	老年看護援助論	樋上　容子
		寺口　佐與子
		杣木　佐知子
		上野山　恵子
		上田　博司
		石原　昌代
	老年看護サポートシステム論	樋上　容子
		杣木　佐知子
		石原　昌代
	老年看護学演習Ⅰ	樋上　容子
		杣木　佐知子
		田辺　順子
		久保田　正和

区分	科目名	担当教員名
療養生活支援看護学領域	老年看護学演習Ⅱ	樋上　容子
		杣木　佐知子
		白井　はる奈
		関川　加奈子
	老年看護学実習Ⅰ	樋上　容子
		杣木　佐知子
	老年看護学実習Ⅱ	樋上　容子
		杣木　佐知子
	老年看護学実習Ⅲ	樋上　容子
		杣木　佐知子
地域家族支援看護学領域	家族看護学特論	真継　和子
		鈴木　美佐
		伊藤　真理
		倉橋　理香
		松本　修一
	小児看護学特論	鈴木　美佐
	小児と病気	鈴木　美佐
		芦田　明
	発達障害看護論	鈴木　美佐
		玉川　あゆみ
		中原　洋子
		橋倉　尚美
	小児看護アセスメント論	鈴木　美佐
		平山　五月
		市川　雅子
	小児看護学演習	鈴木　美佐
		平山　五月
		中山　美由紀
		石浦　光世
		赤松　志麻
		馬場　恵子
		水島　道代
		中島　真希
	小児看護学実習Ⅰ	鈴木　美佐
	小児看護学実習Ⅱ	鈴木　美佐
	小児看護学実習Ⅲ	鈴木　美佐
	地域母子保健論	中原　洋子
		廣金　和枝
	ヘルスプロモーション論	真継　和子
		寺口　佐與子
		鈴木　美佐
		山埜　ふみ恵
		中原　洋子
		上杉　裕子
		西原　望
	医療の質保証と安全管理	真継　和子
		飛田　伊都子
		寺井　美峰子
		松上　美由紀

区分	科目名	担当教員名
地域家族支援看護学領域	プライマリケア看護学特論Ⅰ	真継　和子
		寺口　佐與子
		大橋　尚弘
		橋本　スティーブン
		松本　陽子
		中村　泉美
		守屋　有紀子
	プライマリケア看護学特論Ⅱ	津田　泰宏
		安田　稔人
		金沢　徹文
		真継　和子
		寺口　佐與子
	プライマリケア看護学特論Ⅲ	津田　泰宏
		安田　稔人
		金沢　徹文
		新田　雅彦
		真継　和子
		寺口　佐與子
	プライマリケア看護学特論Ⅳ（小児）	橋倉　尚美
		水島　道代
		馬場　恵子
	プライマリケア看護学特論Ⅴ（成人）	寺口　佐與子
		伊波　早苗
		八尾　みどり
	プライマリケア看護学特論Ⅵ（老年）	真継　和子
		大橋　尚弘
		原田　かおる
		今戸　美奈子
		西　依見子
		丹生　淳子
	プライマリケア看護学特論Ⅶ（メンタルヘルス）	山岡　由実
		山内　彩香
		三井　督子
		松岡　純子
		丸本　典子
		小山　達也
		新田　和子

区分	科目名	担当教員名
地域家族支援看護学領域	プライマリケア看護学演習Ⅰ	真継　和子
		寺口　佐與子
		大橋　尚弘
		塗　隆志
	プライマリケア看護学演習Ⅱ	寺口　佐與子
		真継　和子
		大橋　尚弘
		津田　泰宏
		安田　稔人
		河口　美幸
		萩原　邦子
		中村　敏明
	プライマリケア看護学実習Ⅰ	真継　和子
		寺口　佐與子
		大橋　尚弘
	プライマリケア看護学実習Ⅱ	寺口　佐與子
		真継　和子
		大橋　尚弘
	プライマリケア看護学実習Ⅲ	寺口　佐與子
		真継　和子
		大橋　尚弘
	プライマリケア看護学実習Ⅳ	真継　和子
		寺口　佐與子
		伊藤　真理
		大橋　尚弘
特別研究	課題研究	鈴木　久美
		飛田　伊都子
		山岡　由実
		鈴木　美佐
		寺口　佐與子
		真継　和子
		南口　陽子
		樋上　容子
		伊藤　真理
		大橋　尚弘

長期履修制度

1．趣旨

職業を有している等の事情により，標準修業年限（博士前期課程２年，博士後期課程３年）での教育課程の履修が困難な学生を対象として，標準修業年限を超えて計画的に履修し，教育課程を修了することにより，学位を取得することができる制度です.

2．出願の認定

長期履修を出願することができる者は，入学試験に合格した者のうち次のいずれかに該当する者とします.

①病院，官公庁，企業等に正職員として在職している者（パートタイム勤務不可）

②育児，介護等により，標準修業年限で修了することが困難な者

③その他やむを得ない事情を有し，標準修業年限で修了することが困難な者

3．修業年限

長期履修の修業年限は，博士前期課程は３年とし，博士後期課程は４年とします.

4．申請時期・提出書類

博士前期課程：第１学年在籍時の２月　看護学研究科長が定める時期

博士後期課程：第２学年在籍時の２月　看護学研究科長が定める時期

※長期履修辞退についても同様

※入学時申請者を除く

5．許可

２月の看護学研究科教授会後に審議結果を通知します.

許可された者は，指導教員のもとで長期履修制度に基づき履修します.

6．学費

長期履修許可者の学費は，標準修業年限（博士前期課程２年，博士後期課程３年）分の額のみとなります.

詳細については大阪医科薬科大学　大学院看護学研究科長期履修規程を確認してください.

看護学研究科大学院研究費支出基準表

（大学院生への教育・研究指導に対する費用に限るものとする。）

事由	内容	学内・学外	限度額	看護学研究科大学院研究費	備考
研究用物件費	備品	学内		○	
	用品			○	
	消耗品			○	
備品等の維持管理費用	修繕費	学内		○	
	保守費			○	
図書	教育及び研究用図書	学内		○	1冊30,000円以上の場合は備品図書（図書館管理）
ゼロックス代	教育研究用資料の複写	学内		○	
謝金謝礼	特別講義・講演料・臨床試験被験者への謝金・謝礼	学外	謝金等の支払に関する規程に定める金額以下とする。	○	現金で謝金を支払う際に受領者本人の署名・捺印が必要。
	翻訳料		日本語⇒外国語1枚400字4,800円　外国語⇒日本語1枚300語2,600円　外国語⇒外国語1枚200語7,000円	○	個人に現金にて支払の場合は、「謝金伺」にて提出 品物を、個人宛に渡す場合は、「決裁伺（研究費）」にて提出
	校閲料		外国語1枚300語2,600円	○	
	学生等ボランティア料、研究協力者への謝金・謝礼		1日5,000円以下	○	学内を含む。臨床試験を伴わない場合。
研究出張旅費	学会出張旅費	学内・学外	学会出張旅費特例に定める額以内とする。	○	大学院生の出張旅費
	共同研究出張旅費			×	
	受託研究出張旅費			×	
	資料収集・研究調査等出張旅費			○	大学院生の出張旅費
学会	参加費	学内		○	大学院生の参加費および年会費
	施設会費			×	
	年会費			○	
	懇親会費			×	
外国研究出張旅費	長期外国出張旅費 航空賃及び滞在費	学内	海外出張旅費支給基準による。	○	大学院生の長期外国出張旅費 航空賃及び滞在費
	短期外国出張旅費 航空賃及び日当並びに宿泊料			○	大学院生の長期外国出張旅費 短期外国出張旅費　航空賃及び日当並びに宿泊料
国外研究者の招待費用	招待旅費	学外	招待研究者の外国に居住する地から本学及び本学から外国に居住する地までの運賃	×	
	滞在費（宿泊費・日当）		入国の日から帰国の日までの滞在費1日当り15,000円（消費税込）	×	
	講演謝金		謝金等の支払に関する規程に定める金額以下とする。	×	
	接遇費		昼食2,500円以下夕食10,000円以下（消費税込）	×	
学外研究者の接遇費	接遇費	学外	昼食2,500円以下夕食10,000円以下（消費税込）	×	
研究調査費用	資料費	学内・学外		○	
	委託費			○	
	謝金			○	

事由	内容	学内・学外	限度額	看護学研究科大学院研究費	備考
研究補助員人件費	給与	学内		×	
	賞与			×	
	退職金		退職金については、学校法人大阪医科大学退職金規程の範囲内とする。	×	
	所定福利費			×	
研究用会合費		学内	昼食 1,000 円以下夕食 2,000 円以下（消費税込） アルコールを伴う会合は不可	×	
研究・研修旅行費用		学内	一人当たり 5,000 円以下（消費税込）	×	
非常勤講師講義料及び交通費	診療協力謝金	学外		×	
	研究協力謝金			×	
賞金･助成金･学資金		学内		×	
教育研究環境整備のための改装費		学内		×	
論文掲載料補助		学内		○	
教室のホームページの立ち上げ費用及び更新費用		学内		×	
結婚祝	現金	学内・学外		×	
	電報			×	
	花			×	
	菓子・品物・他			×	
出産祝	現金	学内・学外		×	
	電報			×	
	花			×	
	菓子・品物・他			×	
お見舞	現金	学内・学外		×	
	電報			×	
	花			×	
	菓子・品物・他			×	
弔事	現金	学内・学外		×	
	電報			×	
	供花代			×	
	菓子・品物・他			×	
開業祝	現金	学内・学外		×	
	電報			×	
	花			×	
	菓子・品物・他			×	

事由	内容	学内・学外	限度額	看護学研究科大学院研究費	備考
就任祝	現金	学内		×	
	会費			×	
	電報			×	
	花			×	
	菓子・品物・他			×	
	現金	学外	20,000 円以下	×	
	会費		実費	×	
	電報		実費	×	
	花		10,000 円以下	×	
	菓子・品物・他		3,000 円以下	×	
渉外費	中元・歳暮　等	学内		×	
		学外		×	
	学会での懇親会費	学外		×	
学生厚生費	学生又は研修医との懇親会	学内	2,000 円以下	×	
	学生講義茶菓	学内		×	
	クラブ寄付	学内	20,000 円以下	×	
福利厚生費他	忘年会・歓送迎会・親睦旅行等	学内		×	
	昼食	学内		×	
	夕食	学内		×	
	二次会	学内		×	
	飲料水代　等	学内		×	
	医局常備食 等	学内		×	
	大学対抗野球大会参加費	学外		×	
消耗品　他	金封（慶事・弔事）・筆ペン	学内		×	
		学外		×	
	食器	学内		×	研究に使用するものは可
	個人名印鑑	学内		×	研究に使用するものは可
	家電（掃除機･家庭用冷蔵庫等）	学内		×	研究に使用するものは可
	フィルター類(掃除機･加湿器等)	学内		×	研究に使用するものは可
	調理器具(オーブンレンジ･ポット等)	学内		×	研究に使用するものは可
	消臭剤・お香、歯磨き粉、BGM 用 CD 等	学内		×	研究に使用するものは可
	教育､研究目的以外の図書､雑誌	学内		×	
交通費（タクシー代）	謝恩会等、会場への交通費	学内		×	
		学外		×	
	病院訪問等の交通費	学内	実費	×	
		学外		×	
	学会会場への交通費	学内	実費	×	
		学外		×	
学外実習	実習時の手土産代	学外	2,000 円以下	○	実習時に施設に対しての手土産代
	実習時の交通費 (学生・引率者)	学内	実費	○	学外実習届（または出席表等）の写しを添付すること 又、交通機関・利用区間を明記すること

事由	内容	学内・学外	限度額	看護学研究科大学院研究費	備考
その他	新築祝（相手が個人医院等）	学外		×	
	新築祝（相手が大学附属病院・連携病院等）	学外	30,000 円以下	×	
	叙勲・受賞等	学内		×	
		学外	20,000 円以下	×	
	手術後の食事代	学内	1,500 円以下	×	
	専門医・指導医等の資格取得費用	学内		×	
	給与等の補填	学内		×	